

The 40th Anniversary

北見テニス協会記念誌

2017
(平29)

40th

創立40周年記念誌発行、記念行事開催
新コートハウス完成(予定)

2015
(平27)

砂入り人工芝コート全面改修

2009
(平21)

休憩用カーポート設置

2007
(平19)

30th

創立30周年記念行事開催

2000
(平12)

第51回北海道都市対抗テニス大会(44都市、約800名)
北見市と網走市の共同開催

1998
(平10)

砂入り人工芝コート8面(軟式合計16面)完成
[新]夜間照明7面

1992
(平4)

15th

創立15周年記念誌発行

1984
(昭59)

硬式コート7面・夜間照明2面増設(計6面)

1979
(昭54)

硬式コート4面・夜間照明2面増設(計4面)

1978
(昭53)

コートハウス設置

1977
(昭52)

Love

北見テニス協会設立

硬式コート3面・夜間照明2面分設置



目 次

1	北見テニス協会創立40周年を記念して、祝辞とお礼	1
2	歴代会長及びご家族からの一言	6
3	北見テニス協会40年の歩み	11
3-1	協会創立から10年間の概要（昭和52年～昭和61年）	11
3-2	創立10年～20年の概要（昭和62年～平成8年）	13
3-3	創立20年～30年の概要（平成9年～平成18年）	15
3-4	創立30年～40年の概要（平成19年～平成29年）	18
4	北見テニス協会の会員動向と財務状況	20
4-1	会員の動向	20
4-2	協会の財務状況	21
5	テニスの思い出及びクラブ紹介	27
5-1	老いも若きもテニスを楽しむ	27
5-2	活動中のクラブ紹介	34
6	北見テニス協会歴代役員	43
6-1	歴代会長、副会長、理事、事務局長	43
6-2	歴代部門責任者	46
6-3	歴代事務局、企画部及び監事	48
7	北海道テニス協会等受賞者及び対外試合での優勝者	51
7-1	北海道テニス協会関係	51
7-2	北見市体育協会関係	51
7-3	対外試合での優勝者と北見市体育協会有功賞受賞者	52
8	協会創立当時のテニス環境の変化	55
8-1	テニスコート環境の変遷	55
8-2	テニス関連用具の変遷	58
8-3	テニススタイルの変遷	59
9	講習会やお楽しみ大会	62
9-1	各種講習会	62
9-2	会員交流行事	66
10	都市対抗テニス大会	69
10-1	北海道都市対抗テニス大会	69
10-2	道東都市対抗テニス大会・北北海道都市対抗テニス大会	71

1 1	北見テニス協会主催大会	73
1 1-1	春季北見選手権テニス大会	73
1 1-2	北見市杯から阿部スポーツ杯、春季北見ダブルス大会、 そしてスポーツピア杯へ	75
1 1-3	クマザキ杯（モーニングトーナメントを含む）から ヨネックステニストーナメントへ	77
1 1-4	ダンロップテニストーナメントから DUNLOP SRIXON テニストーナメントへ	81
1 1-5	茂藤杯から Nice Wing テニストーナメント及び JAS 杯、 そして会長杯へ	85
1 1-6	三菱ギャランテニストーナメントから 岡メモリアルトーナメントへ	88
1 1-7	秋季北見選手権（宮沢杯）	
1 1-8	市民大会	91
1 1-9	コン杯から北網圏室内テニス選手権へ	93
1 1-10	教育長杯を含めた混合ダブルス戦	97
1 1-11	ジュニア関連の大会	99
		100
1 2	女子連北海道北見地区の活動	
1 2-1	各種大会	109
1 2-2	主として親睦を目的とした大会	109
1 2-3	講習会の開催	117
		118
1 3	理事長経験者、記念行事実行委員からの一言	
1 3-1	理事長経験者	119
1 3-2	記念行事実行委員	119
		122
1 4	北見テニス協会会則及び申し合わせ	
1 4-1	会則	130
1 4-2	各部局主業務	130
1 4-3	北見テニス協会申し合わせ	132
		134
	編集後記	
		139

1. 北見テニス協会創立40周年を記念して、祝辞とお礼

創立40周年に感謝をこめて

北見テニス協会会長 常本 秀幸

北見に硬式のテニス協会を作ろうと活動を開始してから40年、北見テニス協会の充実と発展にかかわってきました一人として、これまでの歩みをこのような記念誌としてまとめられることになり、大変うれしく思っております。北見テニス協会の活動の拠点は東陵運動公園テニスコートであり、大変利便性の良い場所で、朝早くから多くの方が朝練に励み、日中は主婦の方、午後はジュニア層、そして夜はナイター照明を使って社会人などがプレーを楽しんでおり、良い汗と大きな笑いが絶えることがありません。テニスコートは市民の健康増進や交流の場として大いに活用されていると思っております。



第1回中学校団体戦での一コマ(中央が筆者)

北見テニス協会の40年の歩みについては、本文に詳細に記載されておりますので、そちらを見ていただきたいと思っております。その実績を見ますと、10万人都市のテニス協会としては優良組織ではないかと自負しております。ここまで成長できたのは、会員皆さんの努力と協力が第一であり、それに加えて、北見市や北見市教育委員会のスポーツ振興にける高い理念があつてのことです。北見市には、施設整備や利用形態などの点で種々ご配慮いただいております、改めて感謝申し上げます。また、北海道テニス協会や北見市体育協会からも、強化普及活動の面でご支援をいただいております感謝申し上げますと共に、引き続きご指導いただきたくお願い申し上げます。さらに、テニスでは先輩にあたります北見ソフトテニス連盟には、施設整備やコートの管理などで連携して活動いただくなど、お世話になっております。今後とも両協会の発展にご協力いただきたくお願い申し上げます。

北見テニス協会の役割はテニスの普及と地域のテニスレベルの向上が第一です。多くの方にテニスを楽しんでいただき、生涯スポーツとして、また、仲間づくりの場として活用いただければとも思っております。現在会員数は400人程度ですが、錦織圭選手の影響もあつてジュニア層の会員が増えてきているものの、一般の方が減少傾向にあります。スポーツ離れの影響が当協会にも現れており、改めて普及活動に力を入れなければとの思いでおります。

創立40周年記念で記念誌を発行する団体は少ないと思っております。協会では創立15周年で記念誌を作っていますので、それから四半世紀になり、記録と記憶の継続を考えると10年後の50周年での出版は難しくなるのではないかと意見もあり、編纂作業を開始いたしました。幸い、議案書や会報などが残されており、記憶を喚起しながら皆さんに多くの思い出話を寄せていただき、素晴らしい記念誌にまとめられたことに感謝しております。ご存知のように、テニスのカウントは60進法の名残で、ラブ、15、30、40(45は長いので40となった)と数えますが、偶然、協会の記念行事もこの年度に実施されております。この流れで行くと、次は60周年記念になるのでしょうか。テニスでは60で1ゲームが終わることになり、新たなゲームが始まります。北見テニス協会もテニスのカウントと同様、年輪を重ねながら未来に向かって歩んでもらいたいと願っております。

最後に、創立40周年記念誌にご寄稿いただいた皆様、記念誌編纂にご協力いただいた編集委員会の皆様、記念行事の実施にご尽力いただいた実行委員会の皆様に心より感謝申し上げます、お礼の結びとさせていただきます。

祝 辞

北見市
市長 辻 直孝

北見テニス協会が創立40周年を迎えられたことに心からお祝い申し上げます。

歴史と伝統を築いて来られた関係の皆様に対し深く敬意を表すとともに、その足跡を刻んだ記念誌が発行されることは、誠に意義深く思います。

貴協会は昭和52年1月に創立されて以来、皆様のテニス振興に対する熱意のもと、40年の長きにわたり本市のテニス分野を牽引され、テニスの着実な発展に多大なるご貢献をされてきました。

これもひとえに歴代会長・役員の方々をはじめ、関係の皆様
のテニスに対する深い理解と情熱の賜物であり、心から感謝申し上げますとともに、スポーツ振興を通して豊かな心と文化を育てるまちづくりを目指す本市といたしましても、大変心強く感じているところです。

また、貴協会はジュニアの活動にも力を注がれており、小中高生会員の増加及び講習会等による競技力の向上により、全道大会で優秀な成績を収められています。今後も引き続き精力的に取り組を進めていただき、本市出身のテニス選手が全道大会、全国大会、ひいてはオリンピック・パラリンピック競技大会などの国際的な舞台上、活躍されることにつながるよう大いに期待申し上げます。

結びになりますが、協会創立40周年記念事業のご成功、貴協会のますますのご発展、役員並びに会員の皆様のご健勝を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



創立40周年を祝して

北見市教育委員会
教育長 志賀 克司

北見テニス協会が創立40周年を迎えられたことに心からお祝い申し上げます。

また、併せて、「創立40周年記念誌」が発刊されますことに、関係の皆様に対し深く敬意を表する次第です。

貴協会は少子化が進む中、長きにわたり小中高生を含め、安定的に会員の確保に努められ、その充実した協会の運営は他の模範となるものであります。

そして、この度40周年の記念の年を迎えられたことは、歴代役員の皆様をはじめ関係の皆様にとって、お慶びはいかばかりかと拝察いたします。



さて、貴協会におかれましては、指導者の皆様による日々の熱心な講習等の指導により、小中高生の会員増加と競技力の向上も目ざましく、全道大会まで活躍する選手を輩出されていることは、誠に喜ばしい限りです。

また、テニスを通じ心と体の健康を促し、青少年の健全育成とスポーツ振興に寄与していただいていることに深く感謝申し上げます。

今後もスポーツを通じたまちづくりに、皆様のお力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、本記念事業を節目として、本市テニス競技のますますの普及・発展をご期待申し上げるとともに、北見テニス協会のさらなる飛躍を心からご祈念申し上げ、祝辞といたします。

創立40周年を祝して

公益財団法人北見市体育協会
会長 國分 純

北見テニス協会が、創立40周年の記念すべき年を迎えられましたことに対し、心からお喜び申し上げます。

貴協会の歴史と伝統を築いてこられた関係各位のご苦勞に対し、敬意を表しますとともに、その足跡を刻んだ記念誌が発行されますことは、誠に意義深く存じます。

また、貴協会には、北見市体育協会の中核の団体として、ご貢献いただき、その後も歴代の役員の方々に多大なご支援をいただき感謝を申し上げます。

そして、日々努力を続けられ、今日の輝かしい歴史を築いてこられたことは、ひとえに歴代の役員、会員の方々のテニスにかける情熱とたゆみない努力の賜であり、深く敬意を表す次第です。

近年では錦織選手等の日本人選手の活躍により、若年層をはじめ、テニスの競技人口も増えていると存じ上げております。

これを機に、幅広い年齢層の方々にテニスの素晴らしさ、楽しさを知ってもらい、さらに活動の輪を広げていただきたいと願っております。

当協会としても、今後さらに加盟団体との連携を図り、競技スポーツの向上及び生涯スポーツの振興に努めていきたいと思っておりますので、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、輝かしい歴史を有する北見テニス協会が、創立40周年を大きな節目として、その伝統と実績を継承しつつ、ますます発展されますよう祈念して、お祝いの言葉といたします。



創立40周年を祝して

北海道テニス協会
会長 長澤 茂嗣

北見テニス協会が創立40周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。昭和52年1月に創立されて以来、北見のみならず道東地域のテニス競技の普及・発展に情熱を注いでこられた歴代の会長をはじめ、役員、関係者の皆さんに対して心から敬意を表します。

北見テニス協会はテニスの普及・発展において、道東地域で中心的な役割を果たされるとともに、競技力の向上にも取り組まれ、北海道都市対抗では常に1部、2部で活躍されるなど、着実な実績を残されてきております。

創立当初はコートの確保などで、大変苦勞されたようですが、当時の宮澤会長がコートの照明設備を寄贈するなど、会員のテニスに対する情熱、また協会役員のご尽力により北見テニス協会が発展されてこられたとお伺いしております。

現在、日本テニス協会は、中学校体育連盟へのテニス競技の加盟推進、またテニス導入のTENNIS P&Sの普及活動に取り組んでいます。

北海道テニス協会も協会の大きなテーマとして中学校体育連盟へのテニス競技の加盟推進、またテニス導入のTENNIS P&Sの普及活動に取り組んでいます。

全道中学校団体戦、都市対抗など色々な場面でよく聞かれるのが、「ジュニアがいない、若い選手がいない。」との声です。中体連加盟により中学時代にテニスを体験する選手を増やすこと、また導入としてのTENNIS P&Sを普及させることがテニスの普及・発展に大いに役立つ事として、各加盟協会、各団体に働きかけをしています。

北見テニス協会は中体連加盟推進に関しては教育委員会との折衝、大会の開催、全道大会への選手派遣、TENNIS P&Sでは北海道テニス協会へ講師派遣要請をし、複数回の講習会を開催されるなど積極的な活動をされています。これらは、北見テニス協会様の創設以来一貫してテニス普及・発展へ取組まれていることの表れと思います、さらに積極的な活動に取り組まれ、全国都市対抗また全国中学校選手権への選手派遣を目指していただければと思います。

今後、北見テニス協会が道東地域のみならず、北海道のテニス普及・発展にご尽力いただきますことを期待すると共に、テニス普及・発展に尽くされた北見テニス協会の役員各位のご努力に対しまして、心より感謝申し上げます。

最後に、貴協会の今後ますますのご発展を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



2. 歴代会長及びご家族からの一言

北見テニス協会40周年にあたって

伊東秀雄（第3代目会長）の妻 定子

北見テニス協会創立40周年、おめでとうございます。元会長の妻として、夫と一緒に歩んだテニス人生を振り返ってみました。

<元会長 伊東秀雄 とテニス>

富良野高校にて畑をローラーで固め、軟式を始めたのがテニスとの出会いで、その後、北見北斗に転校し、全道大会決勝戦で敗れて悔しい思いをしたことが、テニスに対する姿勢の原動力となっていました。

昭和52年北見テニス協会設立を機に44歳で硬式に転向し、妻定子40歳を巻き込んで硬式テニスに生きがいを見出しました。

このころの得意な戦法は軟式流、後衛がロブで相手を揺さぶり、前衛が決めるパターンで、ボレー・スマッシュのうまい相手に当たると、揺さぶるつもりが逆に揺さぶられて疲れてしまい、負けるパターンがよくありました。



自宅テニスコートにて

<伊東秀雄と試合の思い出>

① 昭和55年旭川社会人大会 池端・伊東のペアで出場。

2回戦において、ファイナルセットのマッチポイントを取り、あと1ポイントで勝ち上がる状況だったのですが、例のごとくロブの応戦で「振り回し、振り回され」の展開となりました。

最後にコートサイド外から放った必死のショットの際に、足を取られて痙攣・転倒してしまい、試合中断となりました。ショットは相手コートに突き刺さるも、立ち上がることができず、結局は棄権となってしまったのでした。

「池端さん、北見の皆様のみならず、試合に参加している皆様に手当・治療をしていただいたことが、ありがたかった。」と、申しておりました。

② ダンロップ函館大沼大会

ミックスダブルスの試合で、ラケットを杖のようにして歩く、腰の曲がった白髪の老人が対戦相手でした。小刻みに足を動かし、ゆったりした動作で確実に返球し、「あららー？」と思っているうちに負けてしまいました。

経歴を訪ねると「国体27回出場」とのこと。ボールの着地点や相手の動きを読み、じわじわ詰め寄る力は、キャリアから出ているのだと脱帽しました。

<市営コート改修と秀雄の喜び>

平成9年～10年のことです。人工芝のコートに改修するにあたって、コート全面に照明設備を設置したかったのですが、予算が4面分しか無く「残りの3面はあきらめるか」という話でした。後日、再工事をするとなると、どうしても割高になってしまうことは避けられません。

秀雄会長は「自分が資金を提供しようか・・・」とも思いましたが、このような前例を作り、後々の

会長が負担に思っただけではないと考え、一時的に立て替え払いをすることで、全面照明が実現する運びとなりました。

照明設備は、夜の涼しい環境でテニスが楽しめることから、とても好評を得ていたことが、秀雄会長の喜びでした。

なお、立て替えた金額は、のちに全額返還されておりますが、会長として協会の財源や資金繰りも少し心配だったようです。

<定子のテニスは生涯スポーツ>

創立当時、定子にテニスの基本から戦法までを気長に教えていただいて、しかも一緒にペアを組んでくれたのが新井歌子さんです。おかげで、いつも上位入賞でした。

賞状を持って帰ると父や母も喜んでくれましたので、夫のみならず、私もすっかりテニスに魅了され、家族全員でテニスに取り組むようになったのです。

高齢になってからも「パンパース用意しておくから、安心してコートに来てね！」と会員の皆様が笑わせてくれます。

今でも「ラベンダークラブ」の皆様にお世話になっています。ストローク8本を目標にしている、「体力限界。もうダメ。」と白旗を揚げると途中交代してゲームを続けて下さるのです。おかげで、宣告を受けたこの体でテニス続けることができました。



お世話になったラベンダークラブの仲間と

<最後に>

私どもの永い人生のなかで、テニスと出会えたことは本当に幸せなことでした。楽しくテニスのお相手をして下さいました皆様方に深く感謝を申し上げまして、40周年記念誌の発刊のお祝いとお礼の言葉と致します。

皆さん、本当にありがとうございました。

伊東秀雄 H27. 2. 21 逝去

伊東定子 H29. 6. 30 逝去

この文章は、伊東定子が書き残した文章を伊東隆志が加筆・編集したものです。

追 悼

北見テニス協会の大切な方、伊東定子さんが平成29年6月30日、創立40周年記念の年に亡くなりました。協会設立時よりご主人の第3代伊東会長と共に、協会の発展を見守っていただき、今日の協会の基盤を作っていただきました。

大きな病気をされた後もコートにおいでになり、楽しそうにテニスをされており、また、優しい笑顔が忘れられません。

これまでの協会への多大な貢献に感謝いたしますと共に、心よりご冥福をお祈りいたします。

北見テニス協会会長 常本 秀幸



亡くなられる少し前の定子さん

第二の故郷 北見

高谷 俊光（第4代目会長）

北見テニス協会が創立40周年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。昭和59年札幌から初めて北見に転勤して以来33年間、札幌では想像もできなかった充実したテニス人生を過ごさせて頂いた者として、関係者各位に深甚の敬意と感謝を申し上げたいと思います。

遊びごとよろず引き受け人を自負していた私の最後の趣味が、42歳で始めたテニスでした。当時札幌でテニスをするには、北見テニス協会の年会費の数倍の会費を払って民間のコートを借りるか、市営コートの利用抽選のために毎月並ぶしか方法がありませんでした。そんな札幌のテニス環境で3年間体験してきた私でしたが、北見に来て、雪も解け待ちに待ったテニスシーズンの幕開け、恐る恐る東陵コートに足を運びました。すぐ一人の男性が「初めてですか?」、と声をかけてくださり協会入会の手続その他、事細かく説明してくれたばかりか、すぐメンバーを集めてダブルスの相手をしてくれたのです。気が付くと、その男性はコート内のメンバーのレベルに合わせ、ゲームの相手や組合せを決めてあげたりしているようでした。私は北見でのテニスの1日目で、メンバーのフレンドリーさに驚くほどの好印象を受けた記憶が残っています。30年も前のことなのでお名前もはっきりしませんが、確か竹井さんと記憶しております。お元気ならぜひお会いしたいものです。

私の仕事は時間が不規則だったため、テニスはほとんど早朝に楽しんでおりました。早朝メンバーは毎日同じ顔ぶれなので、一つのサークルのような感じで、日曜などはよく焼肉の話が持ち上がり、横尾歯科医院さんの駐車場をお借りして、焼肉パーティを楽しんだのも楽しい思い出です。

北見を離れがたくなったのは、テニス仲間のファミリーな雰囲気、暖かさが第一ですが、大都会にはない豊かな大自然も魅力でした。カッコウの鳴き声とともに始まる春の山菜取り、アサリ採り、秋のキノコ採り、冬の氷上ワカサギ釣り等々、北見の環境、風土に夫婦共々舞い上がってしまったのです。

実は、転勤4年目に本社への異動の内示があったのですが、転職覚悟で北見の関係会社に出向を願い出たところ、それが認められ、北見を夫婦の老後の地と決め、札幌の住宅を捨て、北見に住宅を建ててしまったのです。家内は50歳近くになって車の免許を取り、市の体育指導員となり市民の皆さんと水泳や軽スポーツを楽しむようになり、私も退職後、市のリーダバンクやダンスのインストラクターの資格を取り、家内共々北見での老後を楽しんでおります。

振り返りますと、北見転勤以降、定年までの15年間は私のテニス人生の全てが凝縮された年月でした。初めて出場した大沼での全道ダンロップ大会壮年の部では、岡宏先生にオンブにダッコでしたが3位になり、翌年は準優勝、また、毎年のように北海道都市対抗の北見代表として出場させていただいたこと等、札幌には考えられなかった楽しい思い出です。

また、転勤の前年、父を病気で亡くし、母一人を札幌に残してきたこともあり、母の様子を見に札幌に行く機会も増えました。大きな声では言えませんが、なぜかその時期が、毎日トーナメントや北海道ベテラン大会の時期と重なるようになってきたのです。これらの大会では自慢できる成績は挙げられませんでした。岡先生と組んでいただいて、3度チャレンジして勝てなかった当時全道壮年No.1の阿部・清田組(千歳)に、岡先生がお亡くなりになる前年の都市対抗戦で、常本現会長とのペアで勝利することができました。この大会では、北見市は1部8都市中、初めて3位になったことは



全道ダンロップ大会、岡先生と
(昭和60年、右が私です)

「テニスの思い出」

厚谷 郁夫（第5代目会長）

“北見テニス協会創立40周年”を迎えるにあたって、この機会に北見テニス協会の活動や取組を記念誌にまとめた、その一環として、歴代会長経験者の一人として「テニスへの思い」や「思い出」を寄稿するようにと、常本会長からのご指示がありました。

しかし、私はテニス協会での活躍はほとんどなく、会長をお引き受けするのは固辞したのですが、高谷第4代会長に説得され、当時長野（信州大学・監事）に滞在されていた常本現会長に引き継ぐための中継ぎ役として1期2年間、会長を引き受けることになりました。

このような事情からも分かるように、テニスプレーヤーとしてもテニス協会会長としても誇れる「思い出」はほとんどないのですが、私のささやかな「テニスの思い出」を綴ってみました。

私がテニスを始めたのは、工大同僚の岡さん、常本さん達が硬式テニスを学内で始め、その当時私も加えてもらったのが切っ掛けだったと思います。私は大学時代に軟式テニスを遊びで楽しんだ経験がありましたので何となく参加したのですが、その後、北見テニス協会が創設され（昭和52年）、発足当時から会員となり、73歳（平成25年）で退会しましたので会員歴は長い方だったと思います。

その間、「思い出」として誇れるのは、昭和55年、北見地区第3回ダンロップテニストーナメント、男子B級ダブルス戦で前田寛之さんと組んで優勝したことです。この大会が私にとって最高の思い出ですが、この時の優勝は前田さんの活躍によるもので、私は彼の足を引っ張るだけでしたので、彼がいかに頑張ったか、私のテニスの下手さを知っている方々には想像がつくと思います。それでも、前田さんはその後も私と組んでテニスをご続きください、思い出しては感謝しております。



若かりし頃の一コマ

その後、昭和58年2月、訓子府町硬式テニス協会主催、ホワイトカップ大会男子ダブルス戦で、岡宏さんが組んでくださり、常本さんの表現を借りれば「岡の七光り」で優勝しました。

テニス協会主催の大会で優勝カップを手にしたのは、上記2回のみで、しかも35年前のことであり、「テニスの思い出」と題してテニスについて語るのは気が引けるといふか、テニスについて語るのは負担にも感じ、お断りしたかったのですが、常本会長から要請されると断るわけにもいかず、筆を執った次第です。

日本でテニスと言えば昭和50年頃までは軟式テニスでしたが、平成になった頃から全国的に硬式テニスが盛んになりました。私の専門である分析化学の研究者が集まる日本分析化学会の時に、テニス同好者によるテニス大会が開催されるようになりました。日本分析化学会第42年会（広島大、平成5年）及び第44年会（北大、平成7年）において、誰と組んだか忘れましたが、2度優勝し、優勝カップを手に入れました。立派なカップで現在も本箱の上に飾ってあります。

その夜の懇親会ではビールの味は一段とおいしく感じ、研究分野が異なるため普段あまり話す機会がなかった人たちとも、テニスを通じていろいろ話し合う機会が増え、非常に楽しい「テニスの思い出」が生まれました。これは「テニスの効用」と言った方が良いのかもしれませんが、私にとって「テニスの効用」



分析化学会からの優勝カップ

と言えば、第一に健康維持、気分転換、テニスの後のビールの美味しさ、等々人生を楽しませてくれたことです。私はダブルスが主でしたので、こんな「テニスの効用」を楽しんでいた私と組んで下さった方々に、その分負担を多く掛けて申し訳なかったと改めてお詫びいたします。今さら詫びても遅いかと思いつつ、“ボケの一言”をお許しください。

現在の私にとって「テニスの思い出」は、テレビで錦織選手の活躍を見ながら酒を楽しみ、「テニス」は楽しかったなと思いつつ「思い出」になっています。

3. 北見テニス協会40年の歩み

北見市でテニスと言うと軟式テニスを指した時代が長く続いた。北見の軟式テニスは、大正時代から現在に至る90年以上の歴史があり、道内でもトップクラスの実績を重ねており、北見市では硬式テニスが普及する環境になかった。そのような状況であったが、北見工業大学が設立され、北見外から赴任して来た教職員の中に硬式テニス経験者が何人かいて、昭和40年代後半から同好会ができ、硬式テニスを楽しんでいた。一方、上常呂にある北海道糖業(株)(旧芝浦製糖)内にも、道外からの転勤者に硬式テニス経験者が数名いて、工場内のコートで活動していた。

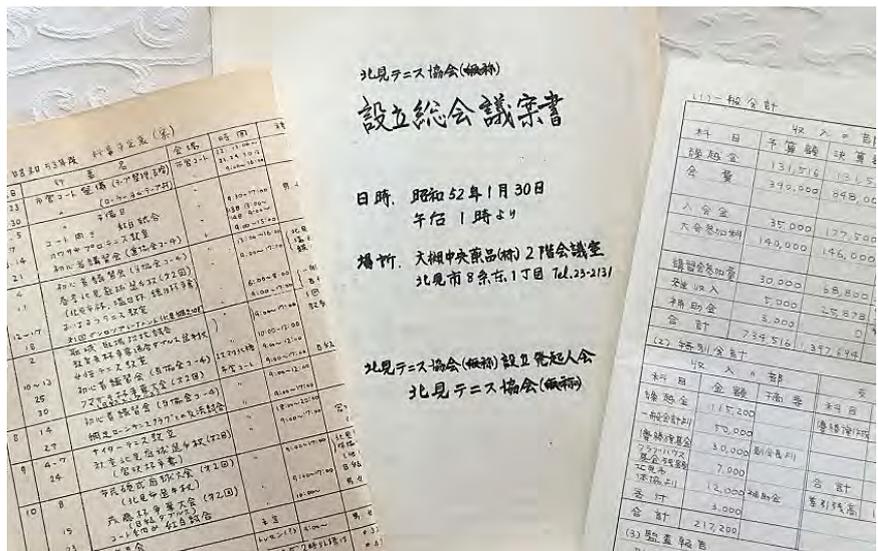
両者の関係者が顔を合わせる機会があり、テニス交流会の話が持ち上がり、昭和49年から両者の交流試合が始まっている。もっと多くの方に硬式テニスを楽しんでもらおうと、協会設立の話が出て行動を開始したが、その中心となったのが、初代事務局長の塩田衍氏と初代理事長の岡宏氏であった。昭和51年には北見テニス協会設立発起人会が発足し、北見市体育協会や軟式庭球協会と調整するなどして、昭和52年1月30日、宮澤郁夫先生を初代会長として、北見テニス協会が産声を上げた。

以来40年、多くの方々が協会の発展に尽力いただいたおかげで、着実に歴史を刻み今日を迎えている。その概要を以下にまとめているが、多くの方との出会有り、また、楽しいテニスの輪が広がっている。これを機会に、さらなる発展を祈念したい。

3-1 協会創立から10年間の概要(昭和52年~昭和61年)

<協会名> 協会の設立に当たって、協会の名称でも苦労があった。当時、軟式テニスが北見庭球協会となっていたこともあって、当協会は北見テニス協会として北見市体育協会に登録した。しかし、道協会から庭球協会とするように指導があり、軟式協会に名称の変更をお願いした。軟式協会に快諾いただき、他都市にならって硬式を北見庭球協会とし、軟式は北見軟式庭球協会となった。しかし、昭和56年に日本庭球協会が日本テニス協会となったことから、北見庭球協会も名称の変更が求められ、当初の北見テニス協会に戻っている。軟式協会には申し訳ないことをしてしまった。

<事務局業務> 当協会設立の立役者だった初代事務局長の塩田氏が、設立総会2か月後に心筋梗塞で帰らぬ人となった。協会としては大きな痛手ではあったが、常本秀幸氏が後を継いで創立初年度の活動を開始している。当時の資料が残っているが、ワープロもなく、議案書などは手書きで作られており、癖のある文字の議案書や大会日程など、当時がしのばれる。いわゆるゼロックスでのコピーが高額の時代で、青焼きというコピーや、大量の場合は大学の輪転機を借用し、自前で印刷していた。多くは手書きであったが、会則や会報などの正式文書は和文タイピストに依頼した。その後、簡易和文タイプライターが出てきたので、それを使って原稿を作ったこともある。調べてみると、昭和59年の議案書から手書きがなくなったので、このころからワープロ等を使ったのだろう。印刷も平成4年頃から外注印刷になっており、事務局の仕事も少し楽になっている。



手作りの議案書(中央は設立総会議案書)

<コート増設> 協会設立からの10年間で苦労したのはコートの確保であった。東陵運動公園のテニスコートは当時クレートコート6面しかなく、軟式が使っていて硬式が使うだけの面数がなかった。協会設立と同時に市にコートの拡充を陳情した結果、現在の場所に6面増設することが認められた。完成までは

北見工大や北海道糖業のコートを借りて講習会などを行った。現在の場所は当時屋外バレーボールコートだったが、バレーは屋内が主流になり使われていなかったため、早期に改修に取り組んでもらえた。6面増設されたが、軟式の会員数が多かったこともあり、我々が常時利用できるのは3面となった。会員が200人を超えていたため、待ち時間が長く、皆さんに迷惑をおかけした。当時は第2次テニスブームの効果で会員が急増しており、昭和58年には800人近くが登録している。

創立直前から10数年間の年表（昭和49年～昭和61年）

年号	トピックス	年号	トピックス
昭49年 昭51年	<ul style="list-style-type: none"> 北見工大と北糖の交流試合が始まる 北見テニス協会設立発起人会発足 	昭56年	<ul style="list-style-type: none"> 北見テニス協会に名称変更 全道都市対抗2部で優勝、1部に昇格 第1回道東都市対抗戦、網走で開催 加藤幸夫プロテニス教室開催
昭52年	<ul style="list-style-type: none"> 宮澤郁夫初代会長の下、北見テニス協会設立 コート6面の新設を市に要望、軟式9面、硬式3面でスタート 宮澤会長より夜間照明2面分が寄贈される 道協会による講習会開催 全道都市対抗に初参加 塩田初代事務局長逝去 	昭57年	<ul style="list-style-type: none"> ダンロップ全道大会女子伊藤・高木優勝 岡宏氏が島根国体に出場 道東都市対抗戦、北見で開催
昭53年	<ul style="list-style-type: none"> カワサキ専属北村元延テニス講習会 北見庭球協会に名称変更 コートハウス設置を市に要望し実現 	昭58年	<ul style="list-style-type: none"> 全道都市対抗1部で敗れ、2部降格 スポーツ指導員9人誕生
昭54年	<ul style="list-style-type: none"> コート4面が利用可能になる 協会費用で夜間照明2面増設、合計4面 九鬼潤プロによる講習会開催 蝶間林利男デ杯コーチテニス講習会 	昭59年	<ul style="list-style-type: none"> 軟式・硬式ともにコート7面への増設を市に要望し実現 ナイター設備を増設、硬式6面に配置 全道都市対抗2部で優勝、再び1部
昭55年	<ul style="list-style-type: none"> 朝日生命テニススクール開催 全道都市対抗戦が2部制になる 日本庭球協会公認指導員を2人取得 日本女子連北海道支部創設 	昭60年	<ul style="list-style-type: none"> 佐呂間町、紋別市に講習会講師派遣
		昭61年	<ul style="list-style-type: none"> 岡宏氏、45歳以上で全道ランキング1位 岡宏氏山梨県国体出場

協会設立当初より、使用可能なコート数が少ないことを気にされていた宮澤会長から、ナイター照明2面分の寄贈があった。管内初のナイターコートだったと思うが、これで会員も増えたようだ。また、昭和54年からは4面使えるようになったが、増加する会員にえられるだけの面数ではなかった。そこで軟式と共同でコート増設を市に要望した結果、昭和59年に軟式側に1面、硬式側にシングルスコートが1面増設された。上側7面の内1面は両協会共用ではあったが、これで6面使えるようになり、待ち時間がかなり改善されている。夜間照明も昭和54年に2面分、昭和59年にも2面分を自己資金で増設し合計6面が照明され、朝早くから夜間まで多くの方に楽しんでもらえるようになった。なお、シングルスコートは大会運営に支障があったことから、既存コートのコート間幅を少し狭くして、ダブルスコートへの改修をお願いし、昭和63年に完成している。



宮澤会長から市長へ照明塔の寄贈

＜普及活動＞ 組織の設立初期はどのような組織でも課題が多く、多忙な時期であり、当協会もコート整備やハウスの設置など市との交渉にかなり時間が取られた。また、初心者講習会も大変だった。

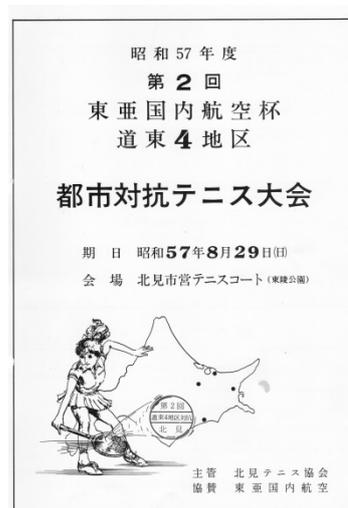
講習会開催と言っても、コートが少なく指導経験者がいない状況であった。急遽、道テニス協会に講師の派遣を依頼して講習会を開催してもらった。また、市内のスポーツ店などにプロ指導者の招へいをお願いし、九鬼選手（昭和56年、世界ランキング74位）など著名なプロ選手にも来てもらった。また、プロの指導者から講習方法の指導を受けるなどして、役員が中心となって、数多くの初心者講習会を開いている。これらの詳細については第9章を見てもらいたい。当時の日程表を見ると、おはようテニス教室、女性テニス教室、ナイターテニス教室、ジュニアテニス教室、初心者講習会、室内テニス教室などがあり、いずれの教室も参加者が多く、役員は球出しにでんてこ舞していた。役員の中には、朝の講習、夜の講習の他に大会のない日曜などにもサービス講習を開催しており、また、指導の希望があればコートに出向くなどして、家庭サービスを忘れてしまったような人もいたようだ。幸い、昭和55年に日本庭球協会の2級公認指導員が2人誕生し、その後も日本体育協会指導員なども増え、指導体制が充実し、近隣協会の講習会に講師を派遣できるまでになった。

＜強化活動＞ テニス協会としては、普及活動と併せて競技力の向上も必要であり、設立初年度から全道都市対抗に出場して競技力の底上げを図ってきた。その結果、協会設立4年目の昭和56年には1部に昇格している。また、中標津テニス協会にいた北見工大テニス部OBからの提案を受け、道東地域のテニスの普及・強化を目指して昭和56年から道東都市対抗戦を実施している。当初は4都市（釧路、網走、中標津、北見）であったが、現在は10都市以上の参加となっている。

この頃は当協会員の全道大会への個人参加も多く、旭川や札幌の大会に毎回数名の選手が遠征していた。そんな中で、昭和56年には、岡宏氏と伊藤信子さんが全道大会で優勝しており、お二人はその後何度も優勝している。また、岡氏は昭和57年島根国体に成年男子の北海道の代表となり、昭和61年には壮年の全道ランキングで1位になっている。このように、男子岡氏、女子伊藤さんの競技力の向上にけん引され、北見テニス協会の競技力も他都市に負けないまでになってきた。



九鬼プロによるテニス教室



道東都市対抗の北見初開催

3-2 創立10年～20年の概要(昭和62年～平成8年)

組織も10年経つと安定期に入るのだが、確かに昭和57年頃のテニスブームは沈静化し、会員数も400人程度で推移するようになる。しかしながら、思わぬ出来事が続いた創立10年後からの10年間であった。

＜訃報＞ 当協会創立時より、物心両面で協会を支えていただいていた宮澤会長から、5期10年間を機会に会長職をバトンタッチしたいとの申し出があった。宮澤会長には、設立時より多くのご苦労をおかけしたこともあり、申し出を尊重し、名誉会長として見守っていただくこととなった。昭和63年からの会長であるが、宮澤会長からの推薦もあり、岡氏に第2代会長をお願いし、快諾を得ることができた。これで、協会の競技力などが一段と向上すると期待していた矢先に、岡会長は長期の治療が必要であることがわかった。衝撃だったのは、岡会長と宮澤名誉会長が平成4年に相次いで病気で他界されたことである。協会の支柱を失ったのだが、これまで、ご夫妻で当協会の発展に尽力されていた伊東秀雄氏に第3代会長を引き受けていただき、理事長、事務局長はじめ役員が一丸となって、この難局を乗り越えている。

＜15周年記念誌発行＞ 平成3年に創立15周年を記念して記念誌を発刊することになり、伊藤陽司氏と常本氏が中心となって、冊子の編集に当たった。岡氏からは、他界される1か月前の平成3年12月、

病床から寄稿いただいている。また、宮澤名誉会長からも心温まる寄稿をいただいたが、このころから体調がすぐれなかったようだ。

記念誌表紙の表題は書道家の荒木岑翠さんに、中表紙には画歴のある油田優子さんをお願いして書いてもらった。また、岡会長を偲ぶ常本氏の詩が載せられた。記念誌は、多くの企業からの寄付もいただき、平成4年4月に完成し、千円で販売された。話題豊富な内容で評判が良かったが、写真の仕上がりが悪くこの点は不評だった。

<テニス環境> 創立10年以降の概要であるが、市内のテニス環境が一変した。平成5年にモイワスポーツワールドに砂入り人工芝コートが4面できた。また春光町の河川敷や豊地にもハードコートが作られ、無料で誰でも使えるなど、他都市に誇れるテニス環境となった。また、民間でコートを作りスクールを開設する人も出てきており、協会設立時を考えると隔世の感がある。普及活動の点で見ると、昭和63年時点で日本テニス協会2級公認指導員が5人、日本体育協会スポーツ指導員(テニス)が8人となり、普及活動を組織的にできるようになった。

また、北海道で開催された「はまなす国体」に向けた審判員養成があり、6人(岡、常本、時任、因、伊藤直、松田)が公認審判員として認定され、平成元年に行われた野幌での国体で公式審判員を経験している。基本はセルフジャッジでありスコアコールが中心だが、オーバーコールができるシステムだった。1人2~3試合の割り当てであったが、緊張の3日間であったが無事終了した。

<競技力の向上> 競技力の向上であるが、岡氏は病気が判明する直前まで大会に出て若手の育成に気をかけていたが、平成になったころから、岡氏と互角に戦える人材が出てきた。特に、皆川正広氏や長谷川智仁氏は、岡氏と優勝を争うようになり、また、全道大会でも優秀な成績を収めるようになった。女性陣も伊藤さんの指導の下、石川優美子さんや皆川縁さんなど数名の方が対外試合に出て優勝できるようになった。もちろん、壮年も岡氏の後をついで高谷氏、常本氏ががんばっており、これらの戦力で平成3年の全道都市対抗では参加40数都市中、3位という輝かしい結果を残している。

女子連についてであるが、道テニス協会の役員などが中心となって、昭和55年に日本女子テニス連盟北海道支部が設立された。北見では、当協会発足時より婦人部が設けられその後女子部となり、女性向けの講習会などを行っていたが、女子連からの呼びかけもあり、平成5年に石川地区長の下、北見地区が結成され、女子連の大会を実施するようになった。北見の女子連の戦績は常に全道でも上位に位置しており、転勤族の夫人の助っ人も多かったが、都市対抗等での北見の戦力アップに大きく貢献している。

〓 岡前会長を偲ぶ会開催 〓

4月18日、本年1月27日に亡くなられた岡前会長を偲び、協会としてのお別れの会を催しました。
ご遺族を始め、市長、教育長、体教会長等60名が出席し、遠くは稚内、旭川等からのなつかしい顔も見受けられました。
思い出話をしながら岡会長の人柄を偲び涙と笑いの中お別れをさせていただきました。



〓 岡メモリアル基金寄贈される 〓



岡先生の遺族より200万円と言う高額の寄付を受けております。
協会理事会で相談をし、協会特別会計から50万円を追加してその利子で岡メモリアルトーナメントの運営をする事にしました。

〓 15周年記念誌発行 〓

岡先生を偲ぶ会に引き続き、協会創立15周年記念パーティーを開催しました。協会創立のビデオ、15年間を振り返ってのスライド映写、また、色々な方々からの思い出話など時間を忘れた一時でした。また、この日15周年記念誌を発行しております。15年の歩、各種大会の記録、会員からの一言など写真を沢山入れ楽しく作られています。



平成4年7月の会報(岡氏偲ぶ会と15周年記念誌)

会報

北見テニス協会 No.37 '92.11.26
事務局 北見市三芳町5丁目5 湯浅整骨院内
Tel. 25-2772
コートハウス 61-2900

〓 宮沢名誉会長が逝去される 〓



北見テニス協会設立から12年間、協会発展のために会長としてご尽力いただいた末宮沢先生(67才)が、10月10日体育の日に亡くなられました。先生は協会設立時の施設の充実から会の円滑な運営等種々の面で協力され、協会発展の基礎を作られました。その中でも先生の開院15周年を記念して北見市に寄贈いただいた夜間照明は勤めを持った人達への普及のみならず競技力の向上に大きな効果をもたらした、協会としてまたない贈り物となりました。また、コートハウスの設置、コートの増設要望には率先して市との交渉に当たられ、現在のような施設ができております。さらに、宮沢氏の奇蹟、プロコーチの派遣等、協会の発展、充実に対する思いには頭の下がる思いいたします。このような功績に対し北海道テニス協会から功労賞、北見市体育協会30周年の折には功労賞もいただいております。協会設立から数年間は自分で勧誘した新人への球出しをしたり、お嬢さんの由紀さんと楽しい

テニスをしていました。肩を悪くされてからお嬢さんの応援等ベンチ入りしましたが、あの頃が思い出されます。協会員も入れ替わりが激しく、テニスを楽しんでいた当時の先生の変を知っている人は少なくなったと思います。ただ、協会の今日を作った方であり、今後とも続けられる宮沢杯を感謝の気持ちを示す大会としてさらに多くの会員の参加を希望いたします。

10月10日は「体育の日」、また百〇〇書いて「目の日」にもなっております。今年は体育の日が設定されてから始めての雨、我々にとっては涙雨となり忘れることのできない日となりました。

〓 宮沢家よりご寄付をいただく 〓

宮沢先生が亡くなられもうすぐ49日になりますが、ご遺族から協会にご寄付の申し出がありました。我々としては夜間照明等多大なご協力をいただいていただけに感謝しなければと思いましたが、先生のご遺志でもとのこと、今後の協会運営や宮沢杯等に大切に使用させていただくことにいたしました。

宮澤名誉会長の訃報(平成4年11月会報)

創立10年から20年の年表（昭和62年～平成8年）

年号	トピックス	年号	トピックス
昭62年	<ul style="list-style-type: none"> ・道東都市対抗戦、北見で開催 ・ダンロップ全道大会壮年で岡・常本優勝 	平4年	<ul style="list-style-type: none"> ・岡会長逝去 ・創立15周年記念誌発行と岡先生を偲ぶ会 ・宮澤名誉会長逝去 ・岡川恵美子プロテニスクリニック開催 ・伊東秀雄氏が会長に就任 ・宮澤家、岡家より協会に寄付をいただく
昭63年	<ul style="list-style-type: none"> ・全道都市対抗戦で1部4位になる ・宮澤氏から岡宏氏に会長が交代 ・コート改修に合わせナイター設備移設 ・日本テニス協会指導員5人誕生 ・日本体育協会指導員8人誕生 	平5年	<ul style="list-style-type: none"> ・道東都市対抗戦、北見で開催 ・全道都市対抗戦、2部降格 ・全天候テニスコート要望の署名活動 ・故宮澤氏、岡氏、体協功労者表彰 ・女子連北海道北見地区が発足 ・モイワワールドに人工芝コート4面完成
平元年	<ul style="list-style-type: none"> ・はまなす国体に審判員として6人派遣 ・網目の荒かったフェンスの改修 	平6年	<ul style="list-style-type: none"> ・全道都市対抗戦2部優勝、1部返り咲き ・日本女子テニス連盟の幹部が来北 《伊達公子プロ引退》
平2年	<ul style="list-style-type: none"> ・宮澤名誉会長、道協会の功労者表彰 ・ウインザーカップテニス大会に 元財務大臣中川昭一氏が参加 ・北海道テニス協会創立50周年記念式典 ・北見体育協会創立30周年記念式典 	平7年	<ul style="list-style-type: none"> ・市に人工芝コートの陳情 ・全道都市対抗戦1部残留ならず
平3年	<ul style="list-style-type: none"> ・元副会長、泉氏、鎌田氏逝去 ・全道都市対抗戦1部で過去最高の3位 	平8年	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンロップ道大会で皆川・坂本A級優勝 ・道東都市対抗戦、北見で開催

3-3 創立20年～30年の概要（平成9年～平成18年）

この10年間でのビックイベントといえば、平成10年に東陵運動公園のクレーコートが砂入り人工芝コートへリニューアル、同時に16面に増設されたこと、もう一つは、平成12年の第51回全道都市対抗テニス大会が北見で開催されたことではないだろうか。

＜人工芝コート＞ コートの人工芝化については、平成5年ころから署名活動を開始し、軟式協会とも連携して教育委員会や議会に要望を出すなど活動している。最大の課題は、軟式側、硬式側ともに7面から8面に増設することであった。困難な交渉であったが、現地調査なども行いながら、理事長の大島氏が中心となって実現にこぎつけた。特に硬式側の16番コートは変則になることから、市の担当部署は難色を示したが、全道規模の大会を考えると全体で16面のコートは必須条件であることを説明し、粘り強い意見交換を経て、軟式側、硬式側ともに8面の砂入り人工芝コートが完成している。



砂入り人工芝コート16面と照明7面

夜間照明については、市の予算は軟式、硬式側ともに4面分だった。現状より減少するため、協会として3面増設することになり、伊東会長に一時払いをお願いし、現在の7面照明を実現している。これまでは高いポールをフェンスの外に設置し、4本のポールから2面を照明していたが、ライトが目に入るといった苦情があり、新しいコートにはどのようなライト配置が良いか、業者の意見や他都市の例などを基に検討を重ねた。従来より設置費が高くなったが、コートごとにライトをつける方式が良いということにな

り、現在の配置となった。

コートのリニューアル・増設によって維持管理方法や使用料金が検討事項としてクローズアップした。市担当部署と繰り返し意見交換を行い、両協会が適正な使用料金を支払うとともに、日常の維持管理を行うことで委託費をもらう方式となった。この交渉には、主として当時の事務局長伊藤陽司氏が当たってくれた。その結果、年会費が少し高くなったが、待ち時間もなくコートが利用できている。

<全道都市対抗の開催> 北海道テニス協会では、全道都市対抗テニス大会を札幌市以外でも開催したいとの意向があり、北見市のコートが平成10年に16面に拡充されたことを知って当協会に打診があった。しかし、40都市以上が参加する大会であり、16面のコートでは運営が難しいことから辞退も考えた。道協会からは網走テニス協会と共同で開催することが提案され、両者で協議した結果、平成12年の第51回全道都市対抗テニス大会を北見市と網走市スポーツレーニングフィールドテニスコートで実施することになった。主催は道協会、主管は北見テニス協会と網走テニス協会としたが、60人にも及ぶ実働の役員を北見テニス協会に構成し、常本氏が実行委員長となって準備を開始している。北見市や網走市などの関係部署への協力依頼、大会支援のための寄付依頼、当日の運営体制や懇親会の余興（屯田太鼓）などについて、

役員打ち合わせやリハーサルを繰り返して開催にこぎつけている。参加都市は1部～4部まで各8都市、5部12都市の計44都市で、参加選手は約800人であった。北海道テニス協会からは多くの役員が前日から



全道都市対抗開会式と大会プログラム表紙

来北し、バックアップしてくれた。第1日目のブロックリーグは北見と網走のコートで実施し、2日目の順位決定戦は北見で実施している。雨模様の天候であったが、多くの方の協力で大きなトラブルもなく大会を終えることができ、北見テニス協会の運営力が評価された行事であった。

<広報活動> 協会では設立直後の昭和52年3月から会報を発行しており、会員に広く読まれていた。女子連からも平成12年に「WEATHERCOCK」という会報が発行された。編集長は文才のある鶴田直子さんで、イラストと少し辛口のコメントが面白かった。



女子連の会報（平成12年8月）

残念ながら事務局には9号までしかないが、この後を持っている人がいたら事務局に提供してもらいたい。なお、協会の会報は創立15周年記念誌で一部紹介されているが、事務局には22号（昭和59年7月発行）から56号（平成15年7月発行）までしか保存されていない。古い会報をお持ちの方は事務局に譲っていただければ幸いです。なお、平成16年4月から山田孝一事務局長が当協会ホームページを開設してくれており、会報に代わって最新の情報が提供されるようになった。



初代ホームページの表紙画面（平成16年4月、山田氏担当）

＜会長交代＞ 岡会長の後を引き継いでいただいた伊東会長から、就任10年を区切りで会長辞任の申し出があった。伊東会長には全道都市対抗テニス大会やコート改修・増設などの事業を推進していただいたが、ご意向に沿って辞任を受け入れた。役員会において後継者の推薦を求めたところ、高谷俊光氏にお願いすることが満場一致で決定し、本人にも快諾をいただき、第4代会長が決まった。

＜都市対抗の戦績＞ 協会の競技力がわかるのは、全道都市対抗や道東都市対抗での戦績になる。全道都市対抗では平成11年を最後に1部から遠ざかっている。特に、全道都市対抗では平成16年には4部での戦いになり、選手も緊張して臨んだようだ。その後、3部から2部を漂流しており、再び1部に上がる時を待ちたい思いである。道東都市対抗でも14年間続いた優勝が途切れ、平成18年に優勝しているものの準優勝が多い。なお、道東都市対抗テニス大会は参加都市が広がってきたことから、平成18年に北海道都市対抗テニス大会と名称を変更している。

創立20年から30年の年表（平成9年～平成18年）

年号	トピックス	年号	トピックス
平9年	<ul style="list-style-type: none"> ・砂入り人工芝コート16面へリニューアル開始 ・道東都市対抗15連覇ならず、釧路に惨敗 ・全道都市対抗2部優勝、再び1部 	平14年	<ul style="list-style-type: none"> ・伊東会長、体協功労賞受賞 ・全道都市対抗、3部に陥落
平10年	<ul style="list-style-type: none"> ・砂入り人工芝コート16面、リニューアル終了 ・自己資金でナイター3面増設、合計7面 ・賛助会員制度に24人登録 《松岡修造プロ引退》 	平15年	<ul style="list-style-type: none"> ・高谷俊光氏が会長に就任 ・女子連創立10周年記念で日本テニス協会姫井氏によるルール講習会 ・女子連10周年記念大会開催
平11年	<ul style="list-style-type: none"> ・全道都市対抗、残念ながら1部陥落 ・平12年全道都市対抗の北見開催決定 	平16年	<ul style="list-style-type: none"> ・山本育史プロの講習会 ・全道都市対抗、4部で優勝 ・台風でコート周辺の樹木が倒れる ・協会ホームページ開設 ・女子連伊藤慧子メモリアル大会開催
平12年	<ul style="list-style-type: none"> ・女子連情報紙 ”WEATHERCOCK” 発行 ・全道都市対抗、北見と網走会場で開催 ・道東都市対抗戦に帯広市初参加 	平17年	<ul style="list-style-type: none"> ・道東都市対抗戦を翌年度より北北海道都市対抗とすることになった
平13年	<ul style="list-style-type: none"> ・全道都市対抗、何とか2部残留 ・下込電気より、スピーカーの寄贈 	平18年	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道都市対抗戦で久々に優勝 ・全道都市対抗、3部で優勝 ・マナー・キッズテニス教室開催

＜ジュニアの活動＞ この10年間での特徴として、高校生会員の増加、小中学生向けの講習会の充実が挙げられる。北見管内の高校に硬式テニス部ができたのは、協会設立後数年たってからだったと思う。北斗高校、柏陽高校、藤女子高校で作られ、その後北見工業高校が加わっている。近郊の都市にも広がっており、置戸高校ではテニス歴のある教員の赴任を契機に活動が始まっている。そのほか、斜里高校、佐呂間高校が加わって、平成15年ころで150人近い高校生が加入している。

小中学生の講習会であるが、高谷会長の支援があったのと、捧直美氏のような熱心な指導者がいて受講希望者が増え、50人以上の子供がテニスを楽しんでいた。このころからジュニア用ラケットや空気圧の低い



ジュニアの講習会風景

ボールなども使われるようになり、Play & Stay というジュニア向けの指導方法が取り入れられるようになった。

3-4 創立30年～40年の概要（平成19年～平成29年）

＜創立周年事業＞ 最近の10年間であるが、創立30周年記念をどのようにするかから始まって、創立40周年事業をどうするかで終わることになる。30周年記念誌の発行の話もあったが、15周年記念誌が出ているので、記念誌は40周年か50周年に発行することになった。結局、資料の散逸を考えると40周年記念誌として残すことが良いということになり、常本氏を委員長に、これまでの理事長経験者を編集委員として編集作業が始まった。また、現在の事務局及び部門長は実行委員会委員として、実務的な作業を行うことになった。

30周年記念事業であるが、プロ選手の講習会と模範試合の開催ということで、4人の女子プロを招いて講習会を開催してもらった。講師は平木理化さん、岡川恵美子さんなど、日本のトップクラスの選手4人で、模範試合や、協会員相手の交流試合など多くの会員に楽しんでもらった。

4人の女子プロによる講習会開催案内

創立30年から40年の年表（平成19年～平成29年）

年号	トピックス	年号	トピックス
平19年	・創立30周年記念事業のプロテニス教室 (平木、岡川、吉田、宮内各女性プロ)	平25年	・常本秀幸氏が会長に就任 ・砂入り人工芝コート改修に関する協議 ・女子連創立20周年記念大会開催 ・女子連 WE LOVE SRIFXON 全道大会で優勝
平20年	・山本育史テニス講習会 ・福永二郎テニス講習会 ・全道都市対抗3部優勝、2部に昇格 《伊達公子プロ復帰》	平26年	・砂入り人工芝コート全面改修開始 ・北見地区中学校テニス団体戦を開始 《錦織圭プロ全米で準優勝》
平21年	・休憩用カーポート設置 ・山本育史テニス講習会 ・福永二郎テニス講習会 ・全道都市対抗2部敗退、3部に降格 ・道テニス協会創立70周年に会長参加 ・女子連8地区対抗戦で優勝 《杉山愛プロ引退》	平27年	・伊東元会長逝去 ・砂入り人工芝コート全面改修終了 ・長谷川洋一郎ジュニアテニス教室 ・伊東家より寄付
平22年	・小浦武志テニス講習会 ・全道高体連テニス大会、北見で開催	平28年	・コートハウス改築で、市に要望書提出 ・市の Jr アスリートチャレンジ事業参加 ・長谷川洋一郎テニス講習会 ・第33回北海道都市対抗戦開催
平23年	・厚谷郁夫氏が会長に就任 ・小浦武志テニス講習会 ・高谷前会長、体育協会功労賞受賞	平29年	・全道高体連テニス大会、北見で開催 ・北見市、北見市体育協会に寄付 ・第34回北海道都市対抗戦開催 ・創立40周年記念誌発行 ・創立40周年記念親睦大会開催 ・コートハウス改築
平24年	・全道都市対抗2部に昇格 ・小浦武志テニス講習会		

＜施設整備＞ コートや付帯設備の改修についても触れておきたい。ハウス前に休憩所として使っていたテントは、支柱等が弱いので平成21年に堅牢なカーポートを市の許可を得て設置し、市に寄贈する形をとった。コートであるが、人工芝になってから20年近くなり、水はけの悪いところや、バックライン付近が磨滅して危険な部分が増えてきており、改修の協議が始まった。国の補助事業で行うことになったが、全体の張り替えは認められないとのことであった。傷みの激しいところだけ改修との提案であったが、両協会と市とで何度も意見交換を行い、パッチワークのような改修をしないよう強く要望した。最終的には、



人工芝の全面張り替え工事中

市スポーツ課等から国の補助事業部門への説明が適切だったことから、フェンス内全体に近い張替が可能となった。さらに、コートハウスの改築を申請することになり、両協会と市の関連部門と協議を重ねた。当初、中央付近に一棟を建て、軟式、硬式で共用する案であったが、国の補助事業としては従来の2棟建てでないと難しいことがわかり、種々検討した結果、バリアフリーに対応したハウスとして、現在の倍近い面積のハウスが建つことになった。平成29年内には姿を見せることになるが、コート及びハウスの改修に積極的に取り組んでいただいた市のスポーツ課及び関連部署に感謝したい。

＜会長交代＞ 会長の交代であるが、高谷会長から継続年数や年齢もあって、当協会の会長を退任したいとの申し出があり、高谷氏から常本氏の推薦があった。しかし、常本氏が仕事の関係でしばらく北見を離れることになったため、急遽厚谷郁夫氏にお願いすることとなった。厚谷氏は突然のことで固辞されたが、常本氏が戻るまでのピンチヒッターなら、ということで第5代会長に就任された。会長職は2年間ではあったが、北北海道都市対抗の開催やプロコーチによる室内講習会などをバックアップされ、平成25年に長野県から戻った常本氏にバトンタッチをしている。

＜ジュニアの活動＞ この10年間での小中高生の増加と競技力の向上は目覚ましいものがある。小中学生（ジュニア）の指導は時間と根気のいる事業である。捧直美氏が中心となって基本的な流れを作り、中塚ひとみさんや和田喜代子さんに引き継がれ、現在は和田さんが中心となり、指導員を増やしながら組織的な活動を展開している。帯広や釧路で開催されるジュニアの大会に参加したり、当協会の高校生を含む大会に参加しているが、高校生を破って優勝する中学生も出てきている。また、日本テニス協会が目指している中体連の正式種目への加盟に北海道テニス協会と連携しながら活動しているが、加盟のためには実績を作る必要がある。北見でも教育委員会やオホーツク中体連の後援のもとで、北見地区中学校テニス団体戦が開催され、平成28年には男女とも全道大会に参加するまでになった。



北見地区中学校テニス団体戦参加者とスタッフ

高校生も急成長しており、全道大会でベスト8に入るような選手も出てきた。確かに、球のスピード、守備範囲の広さなど、北見テニス協会一般A級クラスを脅かす存在になっている。このような若手が北見に残ってテニスを続けてくれると良いのだが、ほとんどの若者が北見を離れるのは残念なことである。また、北見に残ってもテニスが続けない人が多いようだ。北見テニス協会の将来を考えると、どのようにして若者に入会してもらえるか考える必要があり、ぜひ皆さんからも知恵をお借りしたい。近くに若い人がいたら、テニスは生涯スポーツであり、仲間を増やす場でもあることを宣伝してもらいたい。

4. 北見テニス協会の会員動向と財務状況

4-1 会員の動向

＜テニスブーム＞ 世界のスポーツ人口を調べてみると、1位バスケット、2位サッカー、3位クリケット、4位テニスとなっている。日本ではウオーキング、ボウリング、水泳の順で、野球が10位、テニスは卓球の次で15位だそう（平成24年総務省）。テニスは軟式・硬式合わせての順位と思われるが、軟式260万人、硬式400万人、併せて約660万人（平成25年日本テニス協会）がテニスを楽しんでいる。スポーツを始めるきっかけは色々あると思うが、ブームに乗って始めた人もいると思う。第1次テニスブームは、現在の天皇陛下と美智子妃殿下が軽井沢のテニスコートで出会って結ばれたことがきっかけで起こったものだ。昭和34年頃の出来事で、北見テニス協会は設立されていなかったため、軟式テニス協会への加入者が増えたかもしれない。

第2次テニスブームは、当協会が設立される少し前の昭和50年に、沢松和子さんがウインブルドンの女子ダブルスで優勝したのがきっかけだそう。本協会の会員数もこのブームの影響もあって急増しているが、ブームの要因としては沢松効果だけでなく、女性でも打ち返せるラケットの進化も見逃せない。重くて、スイートスポットの狭いウッドから、軽くて反発性の良いカーボンに変わった時の驚きは今でも忘れられない。全国でテニス人口が急増し、特に軽井沢や山中湖畔では農地をつぶしてコートを作った時代である。北見テニス協会でも、グラフ（次頁）に示したように数年で会員は4倍に急増した。しかし、昭和58年の800人近くがピークで、その後は定着せず平成に入ってから400人程度で推移している。一般会員が減少傾向にある中、平成12年ころから「テニスの王子様」などの影響を受け、ジュニアが増え始めている。特に、この数年は錦織圭選手の活躍で、小中高生が多くなっているようだ。今が第3次のテニスブームかもしれないが、スポーツも多様化の時代を迎えているので、第2次ブームのような会員の急増は望めないであろう。

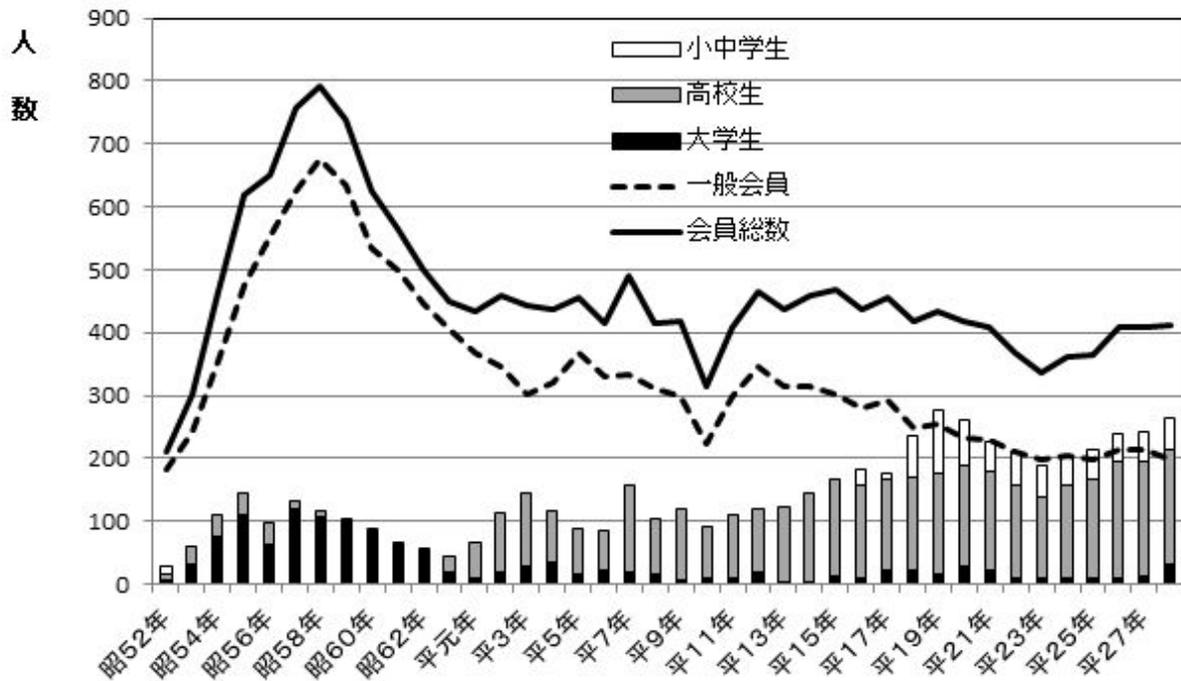


当時の皇太子様と美智子様
（昭和33年、軽井沢での
一コマ、昭和毎日より転用）

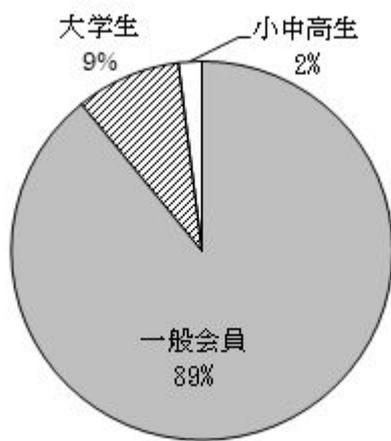
＜会員の構成＞ 会員の男女内訳を見てみると、協会設立間もない昭和53年には男性57.8%、女性42.2%と男性が多かった。会員がピークとなる昭和57年には、男性52.8%、女性47.2%と女性比率が増えており、このころは男子大学生が多かったため、一般会員の女性比率はもう少し高かったと思われる。ブームをけん引したのは女性だったようだ。一方、平成28年度の会員の男女比率は大学生、高校生を含めると男性55.8%、女性44.2%だが、一般だけだと男性53.8%、女性46.2%となっており、男性会員が減少傾向にあり、今後の課題になる。

創立10年目と40年目付近での会員種別比率を調べたのが次頁の図である。第2次ブームも終わった昭和62年ころの会員が450人程度であったが、一般会員が90%で、大学生が8%程度、小中高生は数人程度であった。平成26年を見ると、会員数は420人であるが、一般会員の比率が50%を切り、高校生会員が40%に迫っている。また、小中学生は、教室参加者の利便性を考え、ほとんどの小中学生を準会員としているが、その人数を含めると10%を超えている。小中学生の増加は、多くの方が指導にかかわってジュニア教室が充実してきたからであり、さらに増えることも予想される。小中高生の増加はうれしいことであるが、一般会員の減少が問題である。一般会員の平均年齢が高くなっており、若者の愛好者を増やさなければ会員は減少するのは明らかである。高校生が増えているものの、卒業後北見に残る人が少ないことと、残っても継続していないようであり、会員継続に向けた取り組みも考える必要がある。

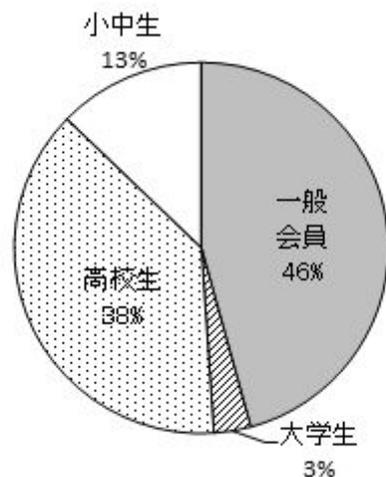
余談だが、会員ピーク時には、大学生が100人近く登録されていた。北見工大と北海学園北見大学にテニス部があり、活発に活動していた時代で、多くの大学生が大会に参加していた。現在は、大学生の登録は3%と少ないが、時々レベルの高い大学生が会員になっており、大学院に残ると都市対抗に出られるので、会長が大学院に残るよう説得している場面に出会ったことがある。



北見テニス協会40年間の会員状況



昭和62年頃（会員数450人程度）



平成26年頃（会員数420人程度）

協会設立後10年と40年での会員の構成変化

4-2 協会の財務状況

1) 一般会計

当協会の収入源は会費、大会参加費、講習会費であるが、大会参加費と講習会費は収支バランスを考えたしながら行事を実施してもらっているため、協会運営は主として会費で賄われている。会費の金額や区分などは、その時々々の施設整備費の備蓄や他都市の動向などを参考にして決めてきており、以下に示すように何度か改正されて現在に至っている。

設立当初の会費や入会金を見ると、昭和52～55年までは、団体と個人での違いや、日常使えるコートがある場合とない場合、家族会員、ジュニアの個人と団体など区分が多岐にわたっていた。表には代表的な区分を載せているが、事務手続きの簡便化のため団体での申し込みをお願いしており、その見返りとして団体割引を行ってきた。平成元年から、団体と個人が同額となっているが、この時期は団体には団体

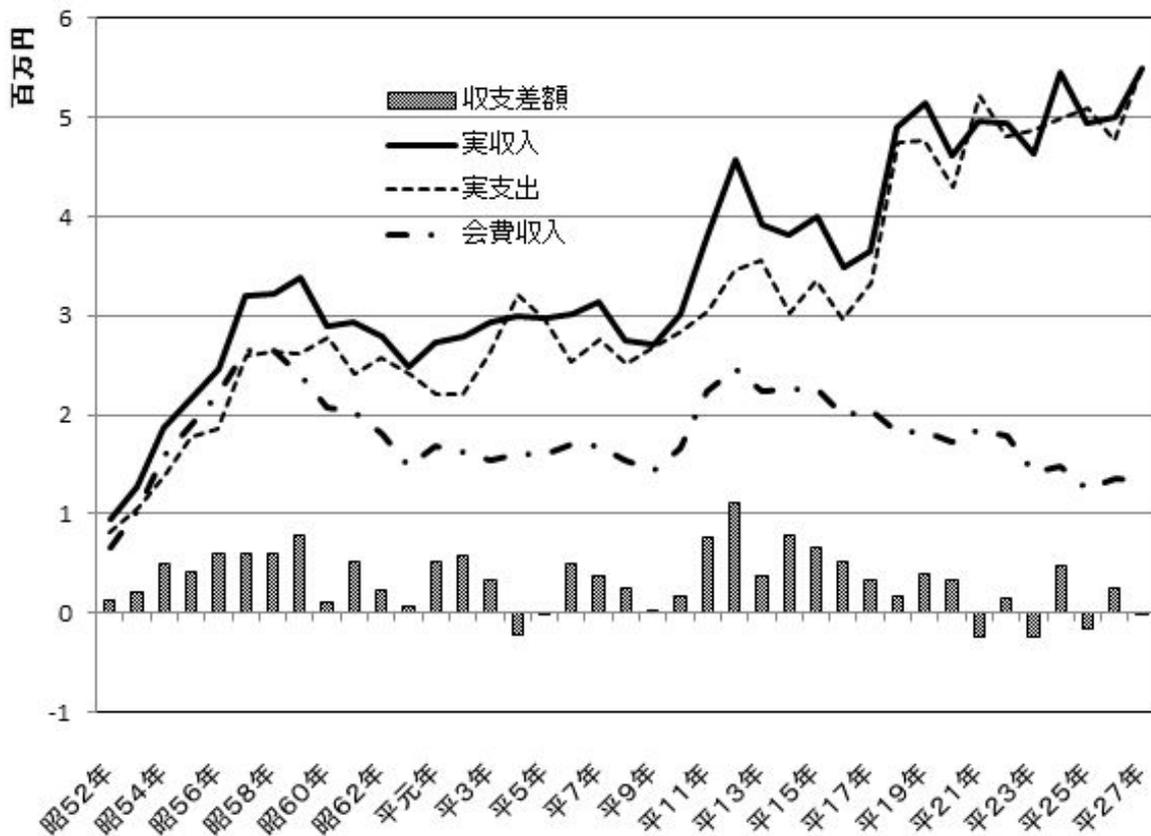
会員数に応じた補助金を出していた。

年会費4000円をベースに協会を運営してきたが、砂入り人工芝コートへの改修に伴って使用料金80万円を支払うことになったり、あるいは夜間照明機器を自己資金で3面増設したことなどから、平成10年に会費を値上げしている。また、平成10年から15年までは夜間照明設置時の借入金を早期に返済するため、賛助会員制度を設けており、20数人の方に1万円の会費で協力いただいた。

北見テニス協会入会金、会費の変遷

会 費	入 会 金					
	一般	団体	家族	大学	Jr	Jr 団
昭52年	4000	3500	2000	1500	1000	500
昭56年	4000	3000	2000	2000	1000	
平元年	4000	4000	2000	2000	1000	
平6年	4000	4000		2000	1000	
平7年	4500	4000		2000	1000	
平10年	6500	6000		2000	1500	
平25年	5000	5000		2000	1500	

協会創立時からの全体収支をまとめたのが下図である。議案書には繰越金を含めた額が収入として記載されているが、年度ごとの収支がわかるよう、ここではその年度の実収入と実支出で整理し、収支差額を棒グラフで示している。また、協会の実質的な運営費となる会費収入（入会金を含む）もプロットしている。全体の動向としては、総収入は増加しており、余剰金が出る年度が多いが、マイナスになっている年度も何度か見られる。



北見テニス協会40年間の収支状況

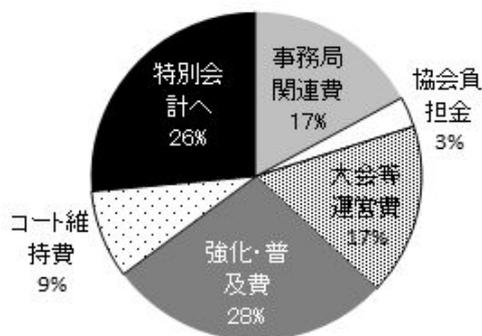
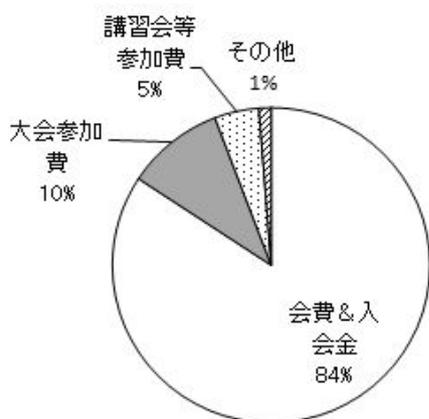
図を見ると、余剰金が多かった時期は2回あり、最初は会員数が急増した協会設立後の10年間くらいで、毎年数十万円のプラス決算となり、特別会計に繰り入れている。平成になってからは会員も定着し、収支

が拮抗していたが、コートが砂入り人工芝になった平成10年からは会費の値上げや賛助会員制度の効果もあって、再びプラス決算が続いた。その後、ジュニアの会員数は増えたものの、一般会員が減少していることから会費収入が漸減し、この10数年で100万円の減額となった。その結果、マイナス決算になる回数が増えており、また、平成25年に会費を1000円値下げしているため、厳しい決算になる可能性が高まっている。

以下の図及び表は、プラス決算となった創立初期の昭和54年の収支と、マイナス決算になった平成25年の収支の内訳を示している。

昭和54年では、収入の85%が会費等収入で、大会参加費や講習会収入はそれぞれ10%と5%程度と少ない。当時の大会参加費を調べてみると、シングルス大会400円、ダブルス大会600円と低く、また大会数も少なかったため収入も少なかった。設立当時は普及活動に重点を置いていたため、このような金額設定になったと思われるが、併せて、市内のスポーツ店などとの共催となった大会が多かったことから景品が豊富だったこともあって、十数万円の補助で大会運営ができていた。その後大会参加費は、昭和58年に改正されシングルス500円、ダブルス1000円に増額している。しかし、大会収支は赤字になることがあり、昭和63年からシングルス1000円、ダブルス2000円に改正し、現在に至っている。

なお、昭和54年の支出で強化普及費の割合が大きいが、これは、講習会の支出ではなく、都市対抗に参加するための旅費の一部を協会が負担したためである。一部補助はしているものの、都市対抗参加選手には物心両面で大きな負担をかけている。このような都市対抗補助やコート管理費、事務関係費を支出しても余剰金ができ、この年度は50万円（正確な残高は485894円となるが、繰越金で調整して50万円とした）を特別会計に繰り入れることができた。



昭和54年収入

会費&入会金	1579000
大会参加費	187000
講習会等参加費	85000
コート管理委託費	0
その他	23153
収入合計	1874153

昭和54年支出

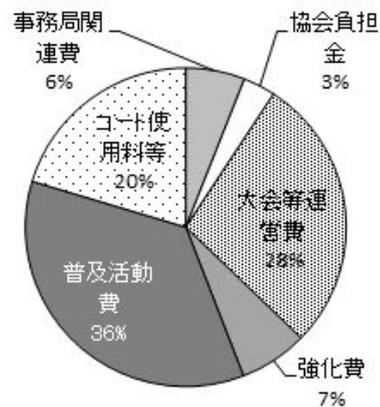
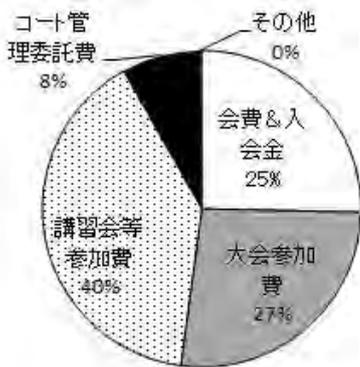
事務局関連費	322430
協会負担金	56900
大会等運営費	319000
強化・普及費	525829
コート維持費	164100
特別会計へ	500000
支出合計	1888259

昭和54年頃の協会の収支状況

一方、平成25年の収支を見ると総収入は昭和54年時の2.5倍に増大している。一方、会費等収入は30万円程度少なくなっている。収入が増えたのは大会参加費と講習会収入になるが、大会参加費は登録料が1000円/1人になり、また参加者総数が昭和54年ころは500数十人だったのが、平成25年には大会数も増えて、1100人近くに増大したためである。また、講習会参加者も昭和54年ころは延

べ人数で600人程度であったが、最近ジュニア教室が継続的に開催され、延べ人数で年間3000人を超えている。講習会参加費であるが、一般の方を対象とした講習会は、協会設立当初は無料とか300円程度であったが、現在は1000円～3000円を負担してもらっている。近年、ジュニア（小中学生）の指導を強化しているが、安全にかつ丁寧な指導のために、指導補助者を増やしている。これらの協力者に車代を支払うようにしたことから、受講者には毎月受講料を納入してもらっている。以上のような経緯があって、最近の大会参加費及び講習会参加費は増大している。なお、いずれの事業も支出がバランスするように運営してもらっている。

収入の部にコート管理委託費というのがあるが、昭和54年のクレーコート時代にはなかった項目である。クレーコート時代は、雪が解けるとコートの耕運、転圧、ラインテープの釘打ちなど協会がコート整備全般を行っており、その対価として協会のコート使用料を無料にもらっていた。砂入り人工芝コートになってからは、クレーコート時代のようなコート整備は不要となったことから、市にコート利用料を支払うことになった。4面を利用することを基本として使用料金が算定されており、現在は80万円となっている。一方、協会としては、春のコート周辺の整備、日常の管理、ハウスの清掃、コート納めの作業などを代行することとして、市から管理委託費を40万円支給してもらっている。結局、協会運営の基本財源である会費等収入が少なくなってくると、コート使用料などの固定的な費用とのバランスで、マイナス決算（平成25年は17万円程度のマイナス決算となった）になる。



平成25年収入

会費&入会金	1251500
大会参加費	1322500
講習会等参加費	1961850
コート管理委託費	400000
その他	3541
	4939391

平成25年支出

事務局関連費	304256
協会負担金	167000
大会等運営費	1430881
強化費	352400
普及活動費	1813311
コート使用料等	1039484
	5107332

平成25年頃の協会の収支状況

2) 特別会計

当協会の特別会計には2つの項目が含まれている。一つは、年度収支で余剰金が出た場合、あるいは寄付などがあつた場合に今後の施設整備などのために蓄えており、これらの資金を特別会計として取り扱っている。もう一つは、2代目会長の岡氏が亡くなられたとき、ご遺族から200万円の寄付をいただいた。協会発展のためにとの趣旨に答えるために、「岡メモリアルトーナメント」の開催基金として計上しており特別会計扱いとした。基金は岡家からの寄付金と協会の特別会計からの繰入金100万円の計300万円とし、預金して果実を副賞などの運営費の一部として利用することとなった。

岡メモリアルトーナメントは平成4年から開催されており、当初は利息が数万円あり独立して大会運営が可能であった。平成10年頃には利息は1万円以下になったため、一般会計から補てんして大会運営をするようになった。このような決算は煩雑なことから、平成23年から岡メモリアルトーナメントは、他の大会と同様に一般会計内で決算することになった。この結果、平成26年からの特別会計の収支は、岡基金も併せて取り扱うこととなった。



北見テニス協会特別会計の収支概要

特別会計のこれまでの収支であるが、図に示したように、数回の大きな支出があったものの、順調に増加しており、岡基金を含めると現在700万円近くの繰越金となっている。

収支の内訳は、おおよそ次のようになっている。収入については、前年度の繰越金が主なものであるが、その年度の寄付金や一般会計に余剰金があり、特別会計に繰り入れられた金額を含む。これまでの収入での特筆すべき事項として以下のようなことがあった。

- 昭和52年：宮澤会長から市にコート2面分の
 の夜間照明の寄贈
 - 平成 4年：岡会長ご遺族から200万円の寄付、
 宮澤会長ご遺族から10万円のお返し
 - 平成10年：伊東会長から200万円借入
 - 平成27年：伊東会長ご遺族から50万円の寄付
- 注：宮澤初代会長から夜間照明を寄付していただいたが、百数十万円の物品であり、寄付金収入と同等と考え、ここに記載した。



一方、支出の特筆すべき事項としては、以下の伊東家からの寄付に対する感謝状の贈呈のような事業がある。主として施設整備に利用されており、宮澤会長の夜間照明寄付を含めると800万円以上を市に寄贈したことになる。このように多額の余剰金が蓄積されたのは、コート利用料金が安価であ

ったことと、役員をはじめとし会員のボランティア精神によるもので、自己資金によって施設整備を進められたことを誇りに思うと同時に皆さんに感謝したい。

- 昭和53年 : ハウス設置のための署名498人と約7万円を市に寄付
- 昭和54年 : 夜間照明2面分寄贈(全体で4面になる)、約80万円
- 昭和59年 : 夜間照明2面分寄贈(全体で6面になる)、約210万円
- 昭和63年 : 夜間照明移設費用、約40万円
- 平成4年 : 15周年記念誌発行
- 平成10年 : 砂入り人工芝コートへの改修時に夜間照明3面分寄贈(全体で7面)、約350万円
- 平成16年 : 借入金の返済80万円
- 平成19年 : 創立30周年記念事業
- 平成21年 : 休憩用カーポート設置
- 平成29年 : 創立40周年を記念して、北見市と北見体育協会に合わせて150万円の寄付

なお、協会創立40周年記念と併せて、コートの改修、ハウスの増設を行っていただけたので、これらの事業への感謝をこめて、北見市と体育協会にスポーツ振興のための寄付を行った。



旧ナイター(高いポールから照明)



新ナイター(センターにもポール配置)

当協会が寄贈した新旧ナイター設備(冬季撮影)



北見市への寄付伝達の新聞報道
(平成29年6月9日、伝書鳩より)

5. テニスの思い出及びクラブ紹介

5-1 古いも若きもテニスを楽しむ

テニスとともに40年

伊藤 信子（監事）

創立40周年記念誌への寄稿を依頼され、書き始めたのが4月、余寒も薄らぎ、北国北見にもようやく春が訪れる時節です。当時を振り返ると、この時期は雪解けを気にしながら、測量・ローラかけやラインテープ張り等々、短期間でのコート整備の準備で忙しい時期でもありました。現在は、そのような天候を気にすることもなくオムニコートの良さを改めて実感しております。

私が北見テニス協会発足2年前に「えっ？これが硬式のテニスボール？」と手にしてから、土曜日の午後に職場でもある工大の先生方から球出しをして頂き、初めてラケットを手にした時から42年が過ぎました。原稿提出にあたり、15周年誌をパラパラと開いて見ると懐かしい顔 顔 顔。多分、掲載されていた写真の中で全員の名前を知っているのは、私と常本会長、あと数名？しかも、その私の記憶も危うくなり、最新の議案書で各大会入賞者一覧をみても、顔と名前の一致も難しくなりました。

少し過去の大会での思い出を記述したいと思います。

当時の道大会は参加人数が多く、勝ち上がると一日の試合数は3セットマッチが最大単復4試合になりました。3試合目の9セットに入ってから3時間超えの試合もありましたが、疲労感はありましたが足がつる事はありませんでした。長時間になると足を引きずり実力を発揮できなく、無念のリタイアを余儀なくされる選手も多かったのです。ランニングはしていましたが、特に食生活に気を使って制限していたわけでもなく、むしろケーキも食べ放題。過剰摂取（大食い？）でしたので遺伝？これは両親に感謝です。

また、ポイントの有る道大会の試合は5～7日間を要して、車のない私は列車か誰かの車に乗せて頂いて出場しておりました。しかも、同時に終わるとは限らず、帰りは重い荷物を担いで夜汽車に揺られて早朝に北見駅に着き、急いで着替えて職場に向かう事もありました。常本会長・岡元会長の車にはよく乗せて頂きました。ある時、札幌から試合終了直後に後部座席に乗せて頂き、途中旭川で夕食をとったのですが、あとは寝ていたようで北見に着いて起こされ“ずいぶん寝るねー”と笑われたのを記憶しております。

同じ大会に出場していた新井歌子さんとの思い出も一つ。旭川の大会で、私の準決勝が長引いてナイターになり、その夜に遅い食事をしようとする二人である店に入ってふと鏡に映ったのは、別人かと見間違ふほど灼けて黒光りをしている私の顔で



良くペアーを組んでもらった石川さん（右）と



遠征先で常本現会長と石野さん（右）

した。5月の紫外線は余りにも強く二人で大笑いした事を懐かしく思い出されます。新井さんは翌日応援してくれましたが、このように私は多くの方々から支えて頂きました。この機会に紙面をおかりして心より深謝申し上げます。

一応順風満帆で経過していたはずがつかずきました。45才で女性特有のリウマチを発症して、この病気は朝からこわばり、手首・足首・肩、とにかく関節が痛くて握力もなくなり、医者からは運動禁止令。しかし、不思議と深刻には考えず落ち込みもしませんでした。そんな最中、救世主が…今は亡き工大の高橋行雄先生が研究室の学生達に、昼休みや実験終了後に球出しをしているので、信子さんもリハビリと思って来ませんか？と声をかけて下さいました。それをきっかけとして再びコートに立ちました。その頃には少しはラケットを握れるまでにはなってはいましたが、ガットの真ん中に当たらないと激痛で中断、それでも休み休みながら先生は球出しをして下さいました。研究室の学生達とゲームを楽しむまでに徐々に快復して行きました。現在も低気圧の関係で朝から強い痛みの日もありますが、自分なりに調整の術も判り、そのへんは我が儘を許して下さいる寛大な方々と現在もコートに立たせて頂いております。

昨年、女子連の講習会に参加していた人と話をする機会があり同世代と知りました。新しい事柄に挑戦する前向きな姿勢には大変羨ましいやら驚きも。彼女には我々のお手本となるべく何時までも大いに楽しんで頂きたいと思っております。

現在はひと頃のテニスブームは落ち着いているようだが、北見協会の現状はジュニア育成にも力を注いでいるようです。近い将来は北見から大選手が出るかもしれません。やればやるほどテニスは奥行きがあり楽しいが難しいスポーツです。また、力強く多彩なボールを打つ人も多くなり、メディア&スポーツ店の戦略なのか、ウェアは機能性が高くデザインも斬新かつカラフルで、以前と比べようもなくコート上はたいそう華やかになりました。

私にテニスの楽しさと厳しさ、負けない戦術を根気よく指導して下さい、ご自身でも妥協は許さない勝負師でもあった、岡 元会長・高橋行雄先生には、悪性の憎き病魔に倒られました。復帰することを何よりも望んでおりましたが、かえすがえすも残念無念です。「相手より一打多く繋ぐと勝てる」とよく言われましたが、言葉の意味は理解出来たが実践になるととても難しいことでした。

試合で成績を残したい人、休日だけラケットを握っている皆さんも、頭脳を最大限活用して『錦織圭』のように上手い出来ないかも知れませんが、楽しんで長らえるのが一番と思っています。最後になりましたが北見テニス協会の益々のご躍進と、会員皆様のご健康を切望して筆をおくことにします。

記念誌発行に当たり、現在活躍している会員の方々の思い出話、あるいは団体の紹介をお願いしましたところ、多くの方から寄稿をいただき記念誌をまとめることができました。ご寄稿いただいた皆様に感謝いたしております。

記念誌は皆さんの原稿に沿って編集しておりますが、紙面の関係で、掲載の順番や写真の位置、大きさなどを変更させていただきました。また、表題や代表者名などの形式も統一させてもらっています。寄稿者の思いと異なる部分があるかもしれませんが、編集の事情にもご理解いただき、ご了解いただきたくお願い申し上げます。

編集長より

終わりよければ～

平山 光茂（初代広報担当理事）

やはりあのゲームのことから始めることにします。それは私の乏しいテニス歴の中での貴重な体験として記憶の奥底に根強く定着し、長い時を経た今でもつい昨日のこのように甦ってくるのです。

相手は函館のペア、昭和55年頃？「ダンロップテニストーナメント北海道決勝大会(大沼プリンスコート)」での壮年ダブルスの初戦でした。

北見テニス協会がスタートしてまだ日が浅く、選手層も薄かったため、私も3度ほどこの大会に参加しました。(15周年記念誌でも触れましたが、その時は悔しさをリベンジしたい一念だけでした。さらに時間が経過すると、その思いも微妙に変化しましたので、自省を含めてもう一度綴ってみます)

このコンビ、かなりの年配でもう還暦過ぎ？と見受けました。フォームも年寄りじみて覇気がなく、ウオームアップで打ち合った感触では打球に力もスピードもありません。

「この相手なら楽に勝てる。うまくいけばベスト4！」

ところが、ゲームが始まると私たちの自信は見事に覆されました。次々と放たれる想定外の打球にこちらは戸惑うばかりでなかなかポイントが取れないのです。サービスは鋭いスピンのかかり不規則にスライドします。やっとならした球はアングルをつけたボレーで決められてしまいます。力んで返したパスも、苦し紛れに上げたロブも相手の餌食になるばかり、その巧みなテクニックと絶妙なチームワークに圧倒され、2セット合わせて5ゲームしか奪えず、惨めな敗北感だけが残ったゲームでした。試合後しばらくは屈辱感だけが先走り、私は自他の力量の差を冷静に判断する余裕すら失っていました。

奇しくも翌年の初戦の相手がまた同じこのペア、私たちは「徹底して拾いまくるねばり戦法と深いロブ攻撃」で相手の疲労を待つ対策で臨みました。この作戦は部分的には有効で試合は接戦となりましたがやはり勝つことはできませんでした。

「あのペアと互角に戦いたい、そしていつかは勝って恩返しを！」

この悲願を達成するには、継続的な猛練習とゲーム感覚を磨くことが不可欠でした。けれども、私の職場と勤務地はそれらを叶える環境にはなく、また私の身体能力や技能はその時すでに限界で、それ以上のレベルアップなど無理なことはわかりきっていました。

その後は転勤の連続でテニスに親しむこともなく、いつしか夢は幻と化していました。

実は、あのペア(会見・佐々木組)は、若い時分から数々の卓越した戦績を残し、当時なお現役で活躍を続ける函館協会の指導的立場の方であると知り、さもあらんと納得しました。

この相手に2度も胸を借り、相手に応じた多彩なテクニックを巧妙に使い分ける「ダブルスの手本」を教授されたのです。味わった悔しさは実は何物にも代え難い教訓だったことを、愚かにもずっと後になって私は気づきました。

30年ものブランクを経て私がコートに戻った時はもう古希を過ぎていました。この年齢でテニスができるだろうか？少し走れば体の節々が悲鳴をあげ、サービスをすれば肩がピリッと痛みます。ボレーはネットレスマッシュは空振り(学生の頃は得意だったのに)、以前にできたことができなくなっていたのです。悲しいことですがこれが現実でした。止むを得ません。

発想を変えました。「目標は体力の維持と多くの仲間から若さと活力を吸収し、テニスの愉しさを倍増させる」、傘寿超えの老体には、筋力と技能の向上など望むべくもありません。けれども、「できないこと」と諦めることは人生の敗北です。私は「ミスショット」を減らし、「ナイスショット」を増やす努力を続けようと自分に言い聞かせています。これがテニスをこよなく愛する私流の美学であると信じているからです。(2017年6月30日 記)



K大農学部コートにて撮影・左端が私
(1955年2月)

～テニスで健康寿命～

長部こずえ(女子テニス連盟北見地区副地区長)

北見テニス協会創立40周年を心からお祝い申し上げます。この記念すべき節目を迎えられましたのは、常本会長をはじめ、現役員の皆様、歴代役員の皆様のご尽力のお陰と心より感謝し、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

私が協会にお世話になり始めたのは20数年前です。当初はラリーができる楽しさでコート走り回り、強い日差しの中、シミもシワも気にすることなくテニスに夢中になっていました。当時と比べると明らかにシミもシワも増え体力の衰えを感じていますが、細く長く続け現在に至っています。

テニスの楽しみ方は「する」「みる」「教える」「語る」「読む」など様々です。最近ほとんどコートでのプレーはしていないので、もっぱらコートの外で「語る」(お喋り)「みる」です。たまのプレーでは無駄な動きばかりで息切れしている私ですが、先輩や上級者の皆さんの無駄な動きのない素晴らしいプレーを見せていただくことも楽しみの一つです。

テニスはただ単に楽しいだけではなく、腰や心肺機能が鍛えられ、ボールに集中する行為が脳の活性化にとっても有効なこと、少人数でゲームができることなどたくさんの魅力があります。また、「日常生活が制限されることなく健康に過ごせる期間」の「健康寿命」なる言葉がよく聞かれるようになりましたが、先輩の皆さんのように幾つになってもテニスが続けられることは、長い健康寿命を期待できるのでしょうか。

私は、残念ながらコートでの花は咲きませんでしたが、口の動きは幾つになってもすこぶる調子が良く、健康寿命のためにコートの外で楽しいお喋りに花を咲かせているところです。今まで支えてくれた仲間のお陰で、女子連北見地区の理事では一番の古参となりお局の座を獲得したこともあり、諸先輩が築いてこられた女子連の組織を次世代に引き継いでいく思いを大切にしながら、口輪筋を鍛えて行きたいと思えます。会員数の減少など課題はありますが、全道でも高い評価をうけている北見地区独自の講習会から一人でも多くの方に女子連に入会していただき、テニス協会への入会に繋がることを期待しています。そして、技術の向上を目指す中で共にプレーする仲間達と楽しい時間を過ごし、長くテニスを続けて欲しいと願っています。

最後になりましたが、北見テニス協会の益々のご発展と、皆様のご活躍を祈念しましてお祝いの言葉と致します。



「全道大会優勝」～選手のおかげありがとう～ (平成25年9月、女子連ダンロップ大会)

テニスでできた人とのつながり

尾崎 哲子（施設部理事）

わたしが硬式テニスを始めたのは就職してからです。中学時代に軟式テニスをやっていたのですが、卒業してからは特に運動はしておらず、運動不足のため少しでもいいからなにか運動がしたいと思っていたものの、なかなか機会がありませんでした。そんな中、職場で同じ係の先輩が職場の硬式テニス部に所属していたことから、練習に誘っていただき、テニス部の雰囲気の良いさに誘われてそのまま入部することになりました。軟式テニスとは感覚も全く異なりなかなか馴れず、初めは初心者とはほぼ変わらない状態からのスタートでした。数年たった現在も上手とは言えませんが、それでも職場の方はみんな優しく接してくれて、下手なりに楽しみながら参加させていただいています。

テニスを始めて一番良かったと思うことは、人間関係に恵まれたこと、そして人間関係の輪が広がったことです。

初めは人見知りな性格もあり、部内でも同期がいなかったこともあり、打ち解けて話せる人がいないと感じていて、退部を考えたこともありました。また、大会に出てもほかの団体の方とは話したいという気持ちはありつつも、なかなか話しかけることができませんでした。

そんな中、部内の会計を任せられるようになってからは、先輩方と関わる機会が増え、数年経った今では気負わずに話ができるようになりました。また、他の団体の方とも、少しずつですが、名前を知ってくれて話ができる人が増えてきて、試合をすることの楽しみだけでなく、試合を通して人に会える楽しみも増えました。その中のほとんどはテニスをしていなかったら会うことができなかつたらう人たちですし、また、テニスを通じて知り合った方はみなさん気さくで優しい方ばかりで、テニスを始めて本当に良かったと会うたびに感じています。

以前テニスを通じて出会った方から聞いた話で、記憶に残っているものがあります。テニスの良さは、ラケット1本とテニスボール1個だけ持っていけば、誰とでも、どこでも気軽にできる、ということです。

その方は、道外など遠方に行くときには旅行道具と一緒に必ずラケットとボールを持っていき、時間があるときにその地域のテニスコートに行くそうです。そして、そこでテニスをしている見ず知らずの方に声をかけて一緒にテニスをしていくということでした。大抵の方は声をかければ、快く応じてくれるとのことで、今でもそこで出会った人から連絡が来ることもあるそうです。

さすがに知らない土地のテニスコートに行き、見ず知らずの人に一人で声をかけるのはハードルが高く、わたしにはまだまだ難しいですが、テニスを通じてそういった繋がりができることは、テニスをやっている身としては本当に嬉しく思います。

今はまだテニスが下手で、なかなか試合で勝つことができないので、少しでも上達して満足いく良い試合をできるようになることが現在の目標です。そして、テニスの楽しさをもっと知って、長くテニスが続けていけたらいいなと思っています。そして、テニスを通じて人間関係の輪をもっともっと広げていきたいです。また、これからテニスを始める人たちが、わたしと同じようにテニスの楽しさを感じてくれて、積極的に参加してくれればいいなと心から思っています。



市役所テニス
クラブの仲間

オホーツクブルーのもと汗を流した3年間

北見柏陽高校 女子硬式テニス部
主将 鏡 凧紗

北見テニス協会創立40周年おめでとうございます。

日々、東陵運動公園テニスコートを管理・運営して頂き、感謝申し上げます。テニス協会役員の皆様には、各種大会の開催・準備・運営をして頂き、私達は楽しくテニスをする事が出来ました。

柏陽女子硬式テニス部は、現在1年生7人、2年生11人、3年生15人、男子部員は、1年生4人、2年生7人、3年生15人、計59人で日々、部活動に励んでいます。

人数が多い分、限られた時間・コートでの活動はとても大変でしたが、一球一球集中し一人ひとりが「強くなりたい!」という気持ちと目標を持てば、必ずレベルアップに繋がると思います。

テニスは、技術だけではなく精神力も重要です。試合という本番で力を発揮するために練習を頑張るのは当然なのですが、その練習の成果を出せずに負けてしまうことも多々あります。例え負けたとしても内容によっては全力で戦うことによって悔しさよりも先に楽しかった!という気持ちになることもあります。後輩達には結果だけではなく、そういった楽しいテニスを心掛けて欲しいです。



2017年6月全道大会(北見開催)

私達3年生は、部活を引退しますが、テニスを通じて学んだことを活かし、これからも歩んでいきたいと思えます。

今までお世話になった顧問・副顧問・外部コーチ・北見テニス協会役員の皆様にお礼申し上げますと共に、私達を応援し支えて下さった皆様に感謝致します。また、北見テニス協会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



2017年5月高体連北見支部地区予選

今年の全道大会は、地元北見での開催ということもあり、団体・個人戦共に全道出場を果たすことが出来ました。また、多くの部員達は全道レベルのプレーを観ることが出来、この経験を糧に自分達の足りないものを見つけ日々の練習に励んでください。



2017年北見柏陽硬式テニス部3年 集合写真

北見でのテニスで得たもの

武田 陸（筑波大学 1年）

今年の春北斗高校を卒業して、筑波大学に進学しました武田陸です。僕が硬式テニスを始めたのは小学校 5 年夏ころだったと思います。それから、北斗高校を卒業するまでの 7 年間北見のテニスに関わる方々にはお世話になりました。この 7 年間の経験を経て僕が手に入れたものは 3 つあると考えています。

一つ目は硬式テニスのマナー・礼儀・ルールだと思います。ジュニアでテニスを始めたころに試合中のマナーや応援の仕方について口酸っぱく言われていました。例えば、カウント、ジャッジを相手に聞こえるように言うことや、明らかな相手のミスを喜ばないこと、試合中の応援はなるべく拍手をすることなどを学びました。僕は正直に言って、試合中のマナーが良いとは思っていませんが、今でも学んだことは身に付いていて、そのようなことがテニスで良い人間関係を作っていく上で大切なことだと考えています。そして、高校に入ってから、ルールや審判の仕方について杉本先生や渥美先生に厳しく叩き込まれました。そのようなご指導のおかげで、高体連・新人戦では全道大会のような舞台でも堂々と審判をすることができ、北見地区の審判のレベルの高さを他の地区に示すことができたと思っています。

二つ目は頭を使ってテニスをするということです。ジュニア時代には同年代でテニスをしていた人がほとんどいなかったため、高校生と試合をすることが多くありました。高校生の多くは強い球を打ち込んでくる人が多かったのですが、中学生の時の僕がまともに正面から打ち合っただけでは勝とうとしてうまくいかないことが多かったので、頭を使って試合をするように指導されました。自分からミスすることだけは避けて、緩急や打つコースなどの配球を意識して試合を進めていくことを重視するようになりました。そのようになるべく頭を使って試合を展開していこうとすることが高校生になってから、北見の A 級の大会や全道大会で自分より格上の相手と試合をするときに生かされました。その結果、高校在学中に A 級での優勝を果たすことができ、また、北海道ジュニアの道東予選でも準優勝して、北見地区で初めて北海道ジュニアの本戦に進むことができました。

三つ目はテニスを通じた知り合いです。ジュニア時代からたくさんの方に大変お世話になり、北見テニス協会の方や高校の先生方には特にお世話になりました。よくテニスコートであったときには声をかけていただいたり、大会のときにはお話をさせていただいたりしました。また、テニスを通して同年代の友達も多くなりました。高校のテニス部での仲間や北見のほかの高校のテニス部の人はもちろん、ほかの地域でテニスをやっている人と試合などを通じて繋がることができました。このような人間関係を築けたことはテニスを通じて得た僕の財産だと思っています。

現在、僕は「筑波大学テニス愛好会 FOREST」というテニスサークルに所属しています。全国の様々なところから様々な人が来ているためレベルが高く、刺激を受けながら、授業がない時間には楽しくテニスをしています。テニスを長くやっているために先輩方や同級生から早く名前を覚えていただくことができ、大学でもテニスを通じた仲間を作ることができています。そのようなときにテニスをやっていた本当によかったなと感じます。

最後になりますが、テニスを通じてお世話になった方々にはこの場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。なかなか北見に帰省することはできないと思いますが、帰省した時には試合に出て、顔を出したいと考えていますので、その時はよろしくお願ひします。



私（右）とペアの川谷君

5-2 活動中のクラブ紹介

「KYM」と私

代表 河合 みさ子

北見テニス協会 40 周年お祝い申し上げます。

「KYM」というサークルは 32 年前、当時の女子連(伊東さん、新井さん、小林さん等)の講習会に参加した転勤族の奥様方、そして信太さん、長さんたちと立ち上げました。サークル名の由来はメンバー全員の名前の頭文字(恵子の K、由美子の Y、みさ子の M 等)を取って名付けられました。

あの頃は協会の数も多く、使えるコートも限られていたため元北見テニス協会長伊東秀雄さん宅のコートで奥様の定子さんに教えていただいたり、北光 NTT のコートで石川優美子さんに指導を受けていました。そのほか先輩の皆様方にお世話になりながらテニスを楽しんできました。

「KYM」で初めて挑んだのは東急レディースという参加人数 128 人の大きな大会でした。私は長さんとペアを組みコンソレでしたが優勝しプレートを受け取りました。豪華な景品が出ることもこの大会の魅力でした。



当時のメンバーはほとんど北見を離れてしまったりテニスから遠ざかったり、残っているのは数人になりました。テニスの後、持ち寄った手作りのお菓子等をほおばりお喋りを楽しんだあの頃が懐かしく思い出されます。

さてその後 10 数年前からは「ホワイトリリー」と協力しながら夏場、冬場と通年活動しています。近年は名前の頭文字にこだわらず、テニス好きな同志を募って男女 15 人のメンバーに恵まれています。この中には協会の仕事に携わっている方、試合に出て活躍されている方、平日だけ、土日だけと様々なスタイルでテニスを満喫しています。

北見テニス協会の益々の繁栄を願っております。

(写真を一緒に撮れなかった方：阿部、伊藤、熊耳、小俣、山野、矢代、高橋さん)



初心者歓迎！ テニスチーム弾丸

代表 鹿内俊一郎

テニスチーム弾丸は 2006 年、初心者講習会に参加したメンバーが中心になって創立されました。その際に掲げた目的は「北見市に初心者テニスサークルを作ろう」でした。

すくなくならず北見市にテニスサークルはあったのですが、テニスを始めたばかりの初心者が仕事を終えて夜に活動するサークルはまだ少なかったのです。

ラリーも続かぬ初心者ばかり十数名で始まった弾丸も、人が人を呼んで 30 人、40 人と瞬間に膨れ上がり、北見市で最大級の登録人数を誇るテニスサークルになりました。

まだラリーが続かない初心者から飲み会要員から遠征マニアまで、これほど様々なレベルの人がいるサークルも珍しいでしょう。決して強くはありませんが、レベルに関係なく楽しいメンバーに恵まれて、テニスチーム弾丸はこれからも活動していきます！



ポリマーてどんな団体

代表 杉本嘉久(以下: X)

「ポリマー? 何? 車のコーティング剤?」とか、当初は聞かれたものです。(笑)

【ショージ】

Xが北見に来た10年前頃は、「パブリッカーズ」というチーム名でした。それは単に「公務員が多いから!」という理由でした。パブリッカーズは、「村上慎一」(以下: ショージ) がまとめていたチームです。誰よりもテニスを愛しているショージの元には、たくさんのテニス好きが集いました。そのテニス好きたちは、ショージのおかげでテニス仲間を増やし、テニスを楽しませてもらいました。ショージは、みなさんご存じのとおり、他市への異動後に病魔に冒され、残念ながら帰らぬ人となってしまいました。

【ポリマーへ】

パブリッカーズは、メンバーの変化に伴って公務員でない人も多くなってきました。最近高校の化学教師Xが代表をしていたので、Xの独断で化学用語への改名となりました。(※例えば、「モノマー」であるエチレンが「重合(擬人的に言うと、腕組みしていた人が手を広げて他人と繋がるようなこと)」をすると「ポリマー」であるポリエチレンになります。「ポリ」とは「たくさん」という意味です。)

ポリメン(ポリマーのメンバー)には、ショージの分までテニスを楽しんで、ショージに見られても恥ずかしくないように真剣に勝負をして、ショージのようにテニス仲間を大切にして、ショージのように明るく笑って、ショージのように・・・いや、もうちょっと少なめに美味しい酒を飲んでくれたら嬉しいです。ショージの人柄がたくさんのテニス好きたちを繋げてくれたように、長く北見にいる人から転勤族まで、プロから初心者まで、老若男女がポリメンを通じて繋がれば・・・。北見地方のテニス好きたちが「重合」することに、ポリマーの存在が役立っていきますよう。



オセロテニスクラブの紹介

代表 横田 和雄

オセロテニスクラブは、北見市で活動するテニスクラブです。

シーズン中は、早朝メインで活動しています。会員随時募集中!!

初級者・中級者が朝の5時ころから毎日集まって楽しくテニスをしています。

そんなテニス好きが集まるクラブですので、これからテニスを始めたい方、

テニスを通じて仲間を作りたい方、大歓迎ですので気軽に声をかけてください。



ファイターズ

代表 岡田 洋子

私のテニスデビューは女子連テニス講習会の受講でした。

私のようにラケットを全く握った事のない人、遊びでやっていた人、学生時代に多少経験のある人、そんなメンバー10名程度に女子連のコーチが基礎からわかりやすく丁寧に教えてくださいました。

週に一度の講習でしたが回を重ねて行くうちに面白さが増し、誰とはなしに週2から3回、16番コート借りて集まるようになりました。練習の後にはランチをしたり、メンバーのお家に寄ったりと、テニス以外にも楽しみが多くありました。当時のメンバーには幼稚園や小学校低学年のお子さんが出て、夏休みになるとテニスコートの周りを走って遊ぶ子供たちの姿があり、懐かしく思い出されます。

その子供たちも、中学生や高校生と成長しましたが子育てしながらのテニスは大変なことだったのではないのでしょうか。始めて数年は団体名もなかったのですが、メンバーにぴったりの「ルーキーズ」と命名しました。数年後テニス技術は別として経験年数から似合わなくなったので、「ミンティア」と改名しました。毎年転勤の時期には悲しい別れがありました。メンバーは入れ替わりを繰り返しましたが、テニスを通じて沢山の人の関わることができました。このことは大袈裟に聞こえるかもしれませんが私の人生を彩り豊かにしてくれたように思えます。

テニス協会40周年記念の今年、新たなメンバーを迎え「ファイターズ」と改名し、更にステップアップを目指す事としました。練習は週に2回程度メンバーは今のところ6名です。

ファイト!「ファイターズ」よろしく「ファイターズ」!

キュート

代表 井上 まゆみ(執筆 井上 聡巳)

キュートの紹介をします。2000年頃できたらしいのですが、できた当時は“cute”な女性だけのグループだったと思われま。現在は年数も経ちましたし、むさ苦しい男性陣も加わっておりますので、適正なグループ名かどうかは、みなさんのご判断にお任せします。

メンバー紹介をします。加入順です。

宮澤つばみ：言わずと知れた、泣く子も黙る、女子連のボスです。黒豹の様にしなやかでパワフルなテニスで相手を圧倒します。見かけでも圧倒します。

長部こずえ：女子連のNo.2です。得意技はヒザカクンです。プロ級なので、皆さんもお気をつけ下さい。

井上まゆみ：キュートの代表で女子連のもう一人のNo.2です。癒し系の外見ですが、実は一番怖いのではないかと噂が流れています。とりあえず、彼女のスマッシュは体に向かってくるのでとても怖いです。

井上聡巳：井上まゆみの“旦那さん”です。ちょっとテニスしては、怪我してテニスコートから消え去ります。

野嶋寿之：物静かなキュートの詩人ですが、宮澤さんと打ち合う時は闘志がむき出しになります。

長谷川一美：長身から強力なフォアハンドを打ち込めます。テニスとcuteな声のギャップも魅力です。

菊池一浩：パワーテニスが得意なキュートの中で、珍しいテクニシャンです。相手を嘲笑う様なドロップショットや、流れる様な口攻撃が得意です。試合を全て記録していて、墓場まで持っていきたいそうです。

植松美保：キュートの若手です。若いのに昭和の時代に詳しく、大きな声で、どこにいてもわかります。腕相撲も得意です。求む、挑戦者!

プタシンスキ由紀子：純粋な日本人です。今年加入した新人さんです。“プタさん”と呼ばれています。濁音にしないでくださいね。



クリーン

代表 小野 弓子

サークルを結成して15年くらい経ちましたかね！
コートでテニスを楽しむ主婦仲間です。試合に参戦しながらレベルアップをはかってきました。
今は健康第一！！テニスを楽しんでいます。

高橋

健康とテニスの好きな人達が集まったサークル、楽しく活動しています。

小野

以前は積極的に試合に参加し、レベルアップを目標に活動している主婦中心のサークルでした。シミそばかすもなんのその、さらに日焼けしてごまかそうなんて....！！そんな感じでした。最近はコミュニケーションを楽しみながら人の輪、健康の輪を広げています。

三浦



私のテニスのスタートは「クリーン」でした。特にダブルスの経験がなく、どこに立っていれば良いのか?! わからない私を指導して下さった皆様に感謝申し上げます。

和田

ワッフル

代表 藤原 彰子

- 始まり ～ 10数年前 テニス初心者が集まって作ったサークル
- メンバー～ 転勤者が多く、入れ替わりで初期メンバーの生き残りは1人、40代から60代までの女性が健康な老後を過ごすことを目標に活動
- 成長期 ～ 経験者の指導や講習会に参加して腕を磨く。目指すはウィンブルドン(もちろん観戦)
- 円熟期 ～ 学生時代の部活動を彷彿させるほど、炎天下はもちろん雨が降っても雪がちらついてもテニスコートへ。家族優先のため平日昼間週に3回程度
- 現在 ～ メンバー全員が揃うのは週1回くらい。基礎から学んだはずなのにいつの間にか独自のテニススタイルを見出し、笑いを求めるテニスに変貌。1日2セットが限界、3セット目はラケットが杖に...
- モットー～ 勝負より笑いにこだわる、セルフジャッジは公明正大、無理せず体力的に週1、2回がベスト、楽しくテニス、アフターランチはもっと楽しく。上級者を敬い新人さんと仲良く...お茶会、ランチ、イベント(Xmas、バレンタイン)等テニス以外の活動日多数
- 40代メンバー～ 一回り以上の諸先輩を見て、10年後の自分のテニスをしている姿が想像できず、肉体的自信喪失中
- 50代メンバー～ サークル内で奇跡の出会い、ソウルメイトを発見。コートで出会う前から数々の共通爆笑ネタを所持していた。
- 60代メンバー～ 48歳と60歳はオバサンとおばあさんだけど、70歳と82歳になればどっちも同じおばあさんと呟きながら若いフリしてサークルにしがみ中

若き日のテニスの思い出

グランドスラム代表 竹江 仁博

北見テニス協会創立 40 周年おめでとうございます。

グランドスラム(G S)も結成から 35 年、当時は第二次テニスブームで、ジミーコナーズ、ジョンマッケンロー、ピヨンボルグなどなどの名プレイヤーが巷をにぎわしていましたね。とくにジミーコナーズは私と同じ生年月日で（それがどうしたと言われそうですが）今でもウィルソンの T2000 だけは持っています。因みに第一次テニスブームは今上天皇と美智子妃殿下下の軽井沢でのテニスデートでしたね。



さて、私自身、いつ頃テニス協会に入会したか記憶が定かではありませんが、鮮明な記憶として故伊東会計ご夫妻のご自宅に隣接された夜間照明が施されたハードコートでプレイさせて頂いたとき、初対面の方がフォアハンドでボールを打った反動で、ラケットのスロート部でご自身の額を強打してしまい心配で近寄ると、アレヨアレヨという間にとても大きなタンコブを作ってしまった。とても痛そうでしたが、お別れした後あまりにも見事なタンコブだったので堪え切れず笑ってしまった不謹慎な私ですが、そのタンコブの彼がそれ以来のお付き合いとなる現理事長の湯浅健司氏で、G S が今でも存続しているのも彼のお陰で、最低人数の 6 名を切りそうになると、どこからとなく人狩りをしてきてくれます。

G S の結成当初は、協会員としても新米で、夜間、満員のテニスコートに割り込むこともできず、外のベンチに座ってウジウジしているとよく声をかけてくれたのが、現理事長夫人の湯浅（旧姓 柏原）幹子さんでした。彼女の紹介で多くの協会の方とも顔見知りとなって相手をしてもらえるようになりました。

G S が大所帯になってきた時は、コートを占領するのも心苦しく、休日は皆で近隣のテニスコートを探し歩いて練習したり、温泉旅館で一泊して大盛り上がり、次の日は二日酔いでテニスをして、冬は体育館を借りて毎週練習したり、スキーに行ったり、テニスを通して知り合った仲間ととても楽しい日々を過ごさせてもらいました。

G S も 35 年もたつと結成当初のメンバーは 2、3 名となってしまいましたが、これからは若いプレイヤー達が盛り上げてくれることを信じています。

コートに集まる仲間たち

北見市役所テニス部代表 横山 周平

北見テニス協会創立 40 周年、誠におめでとうございます。

我々北見市役所テニス部は、協会幹部の部長以下 20 数名、上級者から初級者、お年を召した方、大人になったばかりの方、男前な女性から高い声が出てしまう男性、一生懸命練習している方、たまにしか来ないので全然ラケットに球が当たらない方まで、バラエティに富んだメンバーで構成されているグループです。

社会人になって初めてテニスをする部員も多く、正直に申し上げますと毎日練習することも少ないため、年数ばかりが経過して、上達には程遠い状況です。

では一体何が楽しくてコートに来るのでしょうか？ いつもは決まらないサーブやショットがマグレでもビシッと決まった時のあの快感、思った場所へ打ち返す事が出来たあの喜び、それが忘れられず、テニスを続けている部員も少なくないのです。

そして、いつの間にか仲間が増えたことも大事な、最も大事なテニスで得られる財産であり、プレーする以外でも練習後にちょっとご飯を食べに行ったり、スポーツ店に靴やラケットを散々品定めして結局買わなかったり、部員のテニスウェアトータルコーディネートを試してみたりすることも練習よりも楽しかつ

たりするかもしれません。

また、大会に遠征した際には北見のメンバーのみならず、他市のテニス関係者と酒を酌み交わし、部員の結婚披露宴では祝福と称し裸踊りを繰り広げ、およそテニスとは無縁の無駄とも思える時間でさえ、仲間と過ごす時間はかけがえのないものです。

これも全てテニスというスポーツがなければ出会えることもなかった仲間であり、仕事や私用で長くテニスから離れていても、ちょっと声を掛けられただけで、コートへと足が向いてしまう程テニスには不思議な力があります。

東陵公園テニスコートが我々の本拠地であり、集まれる場所があるから楽しくプレーすることができています。たとえ上手ではなくとも、ある程度のルールや基本を覚えさえすればプレーには支障もなく、大事なことは今日も練習している仲間がいると思えることなのです。

そんなことを思える仲間が我々部員のみならず、もっともっと増えるといいなとも思います。テニスは決して1人ではできないのです。

他に代わりがない大切なテニスというスポーツをこれからも続けていくために、東陵公園テニスコートが今と変わりなく存在し続けてくれることが部員一同の願いです。

最後になりますが、テニス協会の皆様、日々の運営や管理、大変お疲れ様です。皆様方のお蔭で我々テニス部員も気持ちよく楽しく、時には激しくプレーすることができることに改めて感謝申し上げます。

北見テニス協会創立40周年という節目の年を迎え、今後10年20年と存続して頂けることを願い、お祝いの言葉にとさせていただきます。

北見工業大学ローンテニス部

平成29年度部長 池田 周生

私たちローンテニス部は現在部員40名で構成されており、主に火曜日・木曜日・土曜日の週3日で活動しています。活動場所としては主に北見工業大学のテニスコートで活動していますが、北見市テニス協会に登録している部員は、近くにある東陵運動公園のテニスコートも使用させていただき練習を行っています。部の活動目標としては、テニスを楽しむことはもちろん、毎年行われている大学王座決定戦で1つでも多く勝てるように個々の技術発展を目標としています。特徴としては、学年の上下関係なくみんなが仲良く活動しているところです！



北海道置戸高等学校テニス部

顧問 杉本嘉久

【置戸高校のテニスコート】

高校の敷地内に2面もある。しかし、土が死んでいる。何をしても土が固まらないので、今は放置状態。その結果、草がボーボー生えている。「へえ〜！こっってテニスコートだったんだあ！」と生徒談。残念っ！

【置戸町のテニスコート】

ナイター照明代を含め町民は無料！しかし、隣接する山の斜面から雪解け水が流れ続けているとのことで、春になってもオープンするのは6月の中旬頃。当然、高体連支部大会には間に合わない。残念っ！

【置戸町ファミリースポーツセンター】

町外の方がアリーナを使用するのが難しく、町民が板床の練習をしたい時には重宝する。しかし、昨年度は改修工事をしていたので、ひと冬ず〜っと使えなかった。う〜ん、残念っ！

【置戸高校テニス部】

この10年、テニスを一生懸命にする先生が顧問をしている。しかし、現在の部員は3年生が2人だけで、6月からは活動休止。来年度からは無くなるんじゃないかな……。まことに残念っ！



平成28年高体連支部大会にて

残念過ぎる「置戸高校テニス部」ですが、多くの方に支えられてこれまで活動することができました。生徒達には、ほとんどラケットを買わせたことがありません。北見テニス協会の会員の方にお古のラケットを多数いただいて、それを使わせていただきました。大会等の際にはよく声を掛けていただき、また相手もしてもらいました。本当にありがとうございました。たくさんの愛情をいただいて、それぞれ3年間の活動をさせていただいた置高テニス部卒業の「介護福祉士」たちは、みな明るく元気に全道各地で頑張っています。将来、置戸高校テニス部が復活した際には、また変わらぬご支援をよろしくお願いします。

北海道北見北斗高等学校女子テニス部

顧問 日向 真樹



現在、北斗高校女子テニス部は3年生7名、2年生11名、1年生12名の総勢30名で活動しています。高校からテニスを始める生徒が大半ですが、近年は小中学生の時から北見テニス協会にて技術を磨いてきたテニス経験者が増えてきており、仲間同士切磋琢磨して練習する中で着実に実力を付けてきています。高校の部活動を支えてくださっているテニス協会様をはじめ関係者の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。

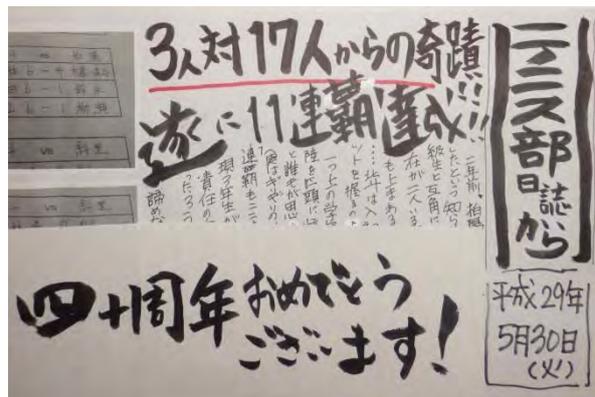
＜平成28年度部長 安原 千尋＞ 新1年生が入部し、合計30名で日々の練習に励んでいます。練習中は部員一人一人が声を出し、集中した空気の中、顧問の先生方の熱いご指導のもと活動しています。練習のメニューは自分たちで考え、常によりよい練習ができないか模索しています。

このように私たちが日頃の部活動や試合等で、気持ちよくコートを使わせて頂けるのはテニス協会の方々をはじめ、支えてくれる周りの人のおかげです。この感謝を忘れず、北見地区のテニス競技の発展に少しでも貢献できるよう今後もテニスに関わっていきたいと思えます。

＜平成29年度部長 河端 紗知＞ 今年6月に、7年ぶりに北見市東陵運動公園のテニスコートで全道大会が行われました。そこで北見北斗高校が当番校として大会運営に携わる機会がありました。自分たちが大会を運営する側にまわることで、自分たちが楽しくテニスをしている裏には常に支えてくれている人がいるということを再認識することができました。また普段なかなか見ることのできない全国レベルの選手のプレーを見て、個々に新たな目標を見つけることができ、本当に良い経験と刺激になりました。

この大会を終えて、経験豊富な三年生の先輩方が引退し、私たちは新体制となって活動を始めました。これからより良いチームをつかっていくために、テニスを楽しむことはもちろん、今回の全道大会で学んだ、私たちが支えてくださる人々への感謝と、レベルの違いを目の当たりにして感じた衝撃をいつまでも忘れることなく大切にしていけることが重要だと思います。また一人一人が集中し、メリハリのある雰囲気を作っていくことが肝心だと考えています。そうすることでお互いにモチベーションを維持することができるし、よりテニスのプレーの向上も図れると思います。そういった雰囲気を作るためにも、みんなで強い信頼関係を築いて励まし合い、お互いの気持ちを考えて意見を出し合えるように心掛けたいです。部長、副部長を中心としながら、部員全体が協力しあった部活を作り上げていきたいです。今後とも北見北斗高等学校女子硬式テニス部へのご指導、ご声援をよろしくお願いします。

＜北海道北見北斗高等学校男子テニス部＞



北見テニス協会 登録団体一覧

一般会員・大学生の団体

	クラブ名称	会員数	代表者名
1	KYM	15	長 由美子
2	ファイターズ	6	岡田 洋子
3	グランドスラム	15	竹江 仁博
4	ラベンダー	17	乳井 英治
5	ワッフル	6	藤原 彰子
6	ラビット	4	小関 治子
7	市役所	18	福田 哲也
8	クラッシュ	10	捧 直美
9	キュート	8	井上 まゆみ
10	クリーン	5	小野 弓子
11	E T C	8	長谷川 智
12	オセロ	12	横田 和雄
13	弾丸	22	鹿内 俊一郎
14	ポリマー	26	杉本 嘉久
大学生	北見工大	17	池田 周生

高校生の団体及びジュニア団体

	高校名	会員数	顧問教員・責任者
1	北見工業高校	12	洞 防人
2	佐呂間高校	7	奥山 輝久
3	斜里高校	5	小田切 薫
4	置戸高校	2	杉本 嘉久
5	北見北斗高校	65	渥美 浩二 日向 真樹
6	北見柏陽高校	63	竹腰 信介 鴻上 康宏
7	北見商科高等専修学校	11	山崎 裕之
8	藤女子高校	2	増子 昌元
J r	北見BGジュニア	65	和田 喜代子



創立40周年記念クラブ対抗戦参加者一同（平成29年7月23日）

6. 北見テニス協会歴代役員

6-1 歴代会長、副会長、理事、事務局長

会長をはじめとした主要役員を一覧にしたが、多くの方がかかわって創立40周年を迎えている。役員皆さんの横顔も紹介したいところであるが、紙面の関係で会長だけとしたことにご理解をいただきたい。

<初代 宮澤郁夫氏> 当協会の創立に当たって、大学、北糖、市役所、市内有志で発起人会（岡、塩田、常本、斉木、小沢、横山、伊東、公平）を発足し、規定などを定めた。初代会長を誰にするか意見交換があり、発起人会の中からとの提言もあったが、初代会長は協会の今後を左右することから、北見市体育協会会長の白川久成氏（白川整形外科院長）に適任者の推薦をお願いした。早々に宮澤郁夫氏（宮澤眼科医）が推薦され、岡宏氏が中心となって2度、3度と自宅にお伺いした。当初は固辞されていたが、岡氏らの熱意に動かされ初代会長を引き受けていただいた。

オホーツク圏には眼科医が少なく、遠くから来られる患者さんも多く多忙を極めていた。また、病院の新築などが重なり、大変な時期にもかかわらず、会長を引き受けていただけたことに感謝している。会長就任後は、趣味のゴルフの回数を減らし、積極的に協会の行事に参加いただくとともに、休日には本人及び家族もテニスを始められた。時々、長女の由紀子さんの球出しをされている姿を拝見している。宮澤会長のテニスの向上はそこそこだったが、由紀子さんはどんどん強くなり、高校時代に当協会の大会で優勝や準優勝を経験している。

また、会長は会員拡充にも積極的で、特に、病院関係者や飲食関係者の女性に声をかけていただき、かなりの方に入会してもらった。ただし、その方々の指導は当時の理事長や事務局長の役割になっており、うら若き女性の個人指導を喜んでやっていたのか、戸惑っていたのか聞きたいものである。

会長は、協会設立時よりコート面数の少ないことを気にされていて、夜間も使えるよう照明塔を2面分設置され、市に寄贈された。コート不足に悩んでいた協会としても大きなプレゼントをいただいたと言える。5期10年間で会長を終え、昭和63年から名誉会長をお願いしていたが、平成2年ころから体調を崩され、残念ながら平成4年に帰らぬ人となった。なお、宮澤名誉会長の長男夫人は、現在協会副会長をされ、女子連北海道支部北見地区長として活躍いただいております、親子2代で協会の発展に貢献してもらっている。

<2代目 岡宏氏> 宮澤会長が10年間の節目で引退されることになり、岡氏が昭和63年に会長に就任している。当協会設立以来、協会運営面での基礎を築かれ、また、競技力においては北見に岡ありと言われる方であった。日常は北見工大教員として教育研究に励んでいたが、土日になると講習会講師として、協会大会の選手としてまた大会運営者として、さらには対外試合への遠征など、まさにテニス中心の生活を送られていた。もともとは柔道とか登山をされていた方で、その体力は鉄人28号といわれるほどであった。その鉄人ぶりの一例であるが、斜里岳登山で高山病にかかった話がある。高々1500mの山で高山病はないと思われるだろうが、実は走って登ったため、高度順応が追いつかなかったとのことだ。この類の話はいろいろあるが、スポーツ万能選手であり、向上心が強く、あつという間に北海道の壮年部門のチャンピオンになり、国体選手としても活躍された。ただ失敗談もある。昭和59年の函館開催の第35回全道

全日本選手権での雄姿

都市対抗では、2部で戦ったが、2日目は1位、2位決定戦に進むことになった。相手が深川と決まって



宮澤会長から寺前市長に寄付目録



安心し、盛大に前夜祭をやってしまった。監督の岡氏をはじめ多くの選手が二日酔いの状態になり、この気の緩みに鉄拳が下り、1部昇格を逃してしまった。それ以来、1日目のレセプションでのお酒には気を付けるようになったそうだ。

岡氏は普及活動にも取り組まれ、昭和55年には日本テニス協会の2級指導員を常本氏とともに取得し、講習会でも中心的な役割を担っていた。また、昭和63年には公認審判員の資格を取り、平成元年に行われた「はまなす国体」の公式審判員も経験されている。しかし、その年の暮れに病巣が見つかり、最先端の治療を受けられたが残念ながら回復には至らず、平成4年に他界された。ご遺族から多額の寄付をいただいております、本来なら協会からお礼すべきところであっただけに感謝に耐えない。

＜3代目 伊東秀雄氏＞ 岡会長の急逝を受け、この難局を引き受けていただいたのが伊東秀雄氏である。伊東会計事務所の所長として多忙な方であったが、快諾いただけた。当協会設立時の発起人でもあり、その後、事務局長や副会長もお願いしている。なお、会長には定子夫人という心強い助っ人がいらっやして、まさに会長秘書として事務的事項を引き受けていただいた。



中川代議士と試合中の伊東会長

伊東会長は軟式テニスをされていて、すばらしい戦績を残されていたが、当協会ができてからは硬式テニスに夢中になられ、軟式テニスは忘れたと言っていた。会長は軟式時代に後衛を得意としており、そのプレースタイルは硬式になっても貫き、全道大会や都市対抗でも結果を残している。実は、事務所職員の福利厚生の一環として、自宅にコート1面を作られた。職員向けと言いながら、一番はご夫妻の福利厚生だったのではなかったかと推察している。このコート、大会で市のコートが使えない土日などには役員打ち合わせを理由に、おやつや飲み物のサービス付きでテニスを楽しませてもらった。

伊東会長には、平成10年にコートが16面になった時もお世話になった。コート改修時に市が設置する夜間照明は軟式、硬式各々4面だけとなり、これまでの面数を確保できないことがわかった。そこで、3面分を協会負担で設置し市に寄贈することになったが、使える資産が少なかった。その際、伊東会長から無利子、無期限での資金の申し出があり、7面に照明を配置することができた。

北見テニス協会歴代会長、副会長、理事長、事務局長

	会長	副会長			理事長	事務局長
昭52年	初代 宮澤 郁夫	鎌田 正甫	大野 武雄	泉 近	岡 宏	塩田 衍
昭54年	宮澤 郁夫	鎌田 正甫	大野 武雄	泉 近	岡 宏	伊東 秀雄
昭56年	宮澤 郁夫	鎌田 正甫	大野 武雄	泉 近	岡 宏	大島 俊之
昭58年	宮澤 郁夫	鎌田 正甫	大野 武雄	伊東 秀雄	岡 宏	常本 秀幸
昭60年	宮澤 郁夫	鎌田 正甫		伊東 秀雄	岡 宏	鈴木 輝之
昭62年	宮澤 郁夫	鎌田 正甫	岡 宏	伊東 秀雄	常本 秀幸	伊藤 陽司
平元年	2代 岡 宏	伊東 秀雄			常本 秀幸	湯浅 健司
平3年	岡 宏	時任 重興	高谷 俊光	伊東 秀雄	常本 秀幸	湯浅 健司
平4年	3代 伊東 秀雄	時任 重興	高谷 俊光		常本 秀幸	湯浅 健司
平5年	伊東 秀雄	時任 重興	高谷 俊光	常本 秀幸	大島 俊之	伊藤 直人
平9年	伊東 秀雄	大島 俊之	常本 秀幸		高谷 俊光	伊藤 陽司
平13年	伊東 秀雄	大島 俊之	常本 秀幸		高谷 俊光	山口 茂利
平14年	伊東 秀雄	大島 俊之	常本 秀幸		高谷 俊光	山田 孝一
平15年	4代 高谷 俊光	大島 俊之	常本 秀幸		伊藤 陽司	山田 孝一
平21年	高谷 俊光	大島 俊之			山田 孝一	山田 孝一
平23年	5代 厚谷 郁夫	大島 俊之			山田 孝一	山田 孝一
平25年	6代 常本 秀幸	大島 俊之	高谷 俊光	伊藤 陽司	湯浅 健司	伊藤 直人
平27年	常本 秀幸	阿部 正孝	高谷 俊光		湯浅 健司	伊藤 直人
平29年	常本 秀幸	阿部 正孝	高谷 俊光	宮澤つぼみ	湯浅 健司	福田 哲也

伊東会長ご夫妻には、協会設立時より多くの仲間に入会を勧誘していただき、楽しいテニスの輪を広げていただいた。当時の方々は現在70～80歳近くになったが、今も数名の方がテニスを継続されており、テニスが生涯スポーツであることを証明してくれている。残念ながら伊東会長は体調を崩され、平成27年に他界されたが、数々のご支援に感謝したい。さらに、ご遺族から協会に多額のご寄付と自宅コートで使っていたネットも寄贈していただいたことに、紙面を借りお礼を申し上げたい。

<4代目 高谷俊光氏> 高谷俊光氏は、昭和59年に転勤で札幌から北見に来られ方である。札幌の(株)クワザワ時代は、会社の野球部の主力選手だったそう。社内にテニス愛好者が増え、ある時、付き合いのつもりでラケットを握ったが、その面白さに夢中になったようだ。内緒だが、若い女性のスコート姿にも魅かれたようでもある。テニスのスタートは42歳と遅かったが、抜群の運動神経で、あっという間に上達し、北見に赴任された間もない朝の大会で優勝している。その後、当協会壮年のトップとなって、都市対抗や対外試合でも多くの結果を残している。高谷氏も2代目岡会長と同様スポーツ万能選手で、野球のほかにもバレーボール、卓球、バスケット、ゴルフといずれも大会に出られる実力を持っていた方である。また、社交ダンスや軽スポーツの指導員の資格を有しており、今もこれらの活動を続けている。

会長の引継ぎであるが、伊東会長が10年の節目に退任されたため、会員からの信望の高い高谷氏にお願いすることになった。平成19年の創立30周年記念では、プロ選手による講習会を実施され、多くの方に参加してもらったが、講師の接待や当日の運営など物心両面でご苦労いただいた。

また、ジュニアや女子連などの活動を支援されており、小中学生へのスクールが定着したのも高谷会長の尽力によるものである。女子連関係では、平成21年の女子連の北海道8地区親睦大会に同行されているが、北見市は試合での優勝ばかりでなく、夜の都市対抗余興の部でも優勝している。この時、選手に出し物のダンスの指導をされたのも高谷会長であった。

また、高谷会長が施設担当だった時、スコアボードを16面分用意することになった。市販のものは高価でまた使いづらかったので購入はあきらめた。高谷会長は、知人の職人に教えてもらいながら現在使っているスコアボードを手作りされ、協会に寄贈された。作りが良かったので40年近く問題なく利用できている。なお、スコアカードの文字版は現在ジュニアの指導をされている山崎隆司氏が作ったそう。

会長退任後、早朝テニスや冬季の室内テニスを楽しまれている。体力の衰えもあって長時間は無理だと話されているが、長くテニスが続けてもらいたいものだ。



ダンロップ全道大会で岡氏とペアで戦う

<5代目 厚谷郁夫氏> 高谷会長から在任期間が長くなったのと、75歳を機会に退任したいとの申し出があり、常本氏に後継者の打診をしたようだ。ところが、常本氏が北見を数年離れることになり、急遽お願いしたのが厚谷郁夫氏である。

厚谷氏は北見工大時代からテニスを続けられており、当協会の大会でも活躍され、ダンロップの全道大会にも出場されている。特に若手キラーで、粘り強いテニスと時々繰り出す左手でのボールさばきに翻弄され、負けて落ち込んだ対戦相手が何人かいたようだ。

平成23年に会長をお願いしたが、北見工大の学長を退任された後、オホーツク財団の理事長をなさっており、そ



ダンロップ全道大会で活躍（前列中央）

のほかにも北見文化連盟の会長やオクトーバーフェスティバルを実施している日独協会の会長などで多忙な中で、常本氏が戻るまでの期間なら、ということで引き受けていただいた。

会長時代には北北海道都市対抗があり、その運営を統括してもらったほか、プロの講習会開催の支援もされている。土曜日など時間を見つけてコートに来られており、話題豊富な方でテニスより話に花が咲いていることもあった。ここ2～3年は、心臓に負担がかかることと、視力の低下もあってテニスをされなくなったようだ。今は定期的に散歩をされるなど健康管理には気を使われている。最近は囲碁を楽しまれているそうだが、勝負強い方なので、ここでも若手キラーになっているのではないだろうか。

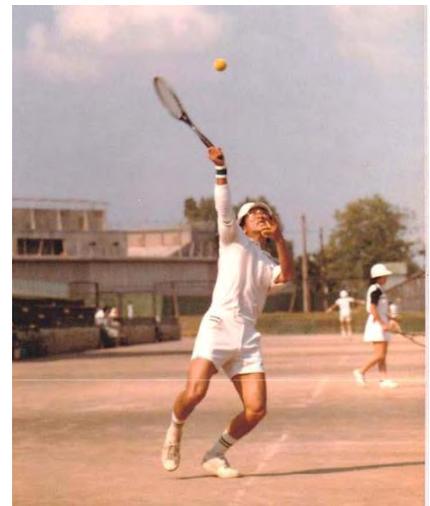
<6代目 常本秀幸氏> 協会設立発起人会の中で、今もテニスを続けているのは常本氏だけになった。自動車会社の技術者から北見工大の先生に転身した。当時としては珍しい転職であった。昭和49年に大学に赴任したが、仲間がいなかったので、仲間作りに翌年からテニス同好会に加入したそうだ。33歳でのテニスデビューになるが、テニスに夢中になり、一時は早朝テニスで汗を流し、昼休みは大学でテニスを楽しみ、夕方にコートで球出しをしていたようだ。噂によると、幼稚園に行っていた長男が父親の仕事を尋ねられた時に「体育の先生」と答えたとか。それ以来、ジャージでの出勤を止め、ネクタイをして大学に行くようになったと言っていた。

2代目会長岡氏とともに、テニス漬けの日々だったようだ。壮年になってから岡氏とペアを組む機会が増え、北海道毎日トーナメント選手権大会、ダンロップトーナメント北海道決勝大会、北北海道テニス選手権大会などで優勝を重ねている。本人は、「親の七光り」ではないが「岡の七光り」だと言っている。

当協会設立時より、岡氏と二人三脚で協会をけん引してきた一人であり、協会の状況にも詳しいことから、4代目会長の高谷氏から後任者として推薦されていた。ところが、北見工大退任後、長野県の信州大学から声がかかり、2年間の予定で出向くことになった。結局1期2年のつもりが、居心地が良かったこともあったのか2期4年間となり、平成24年に北見に戻ってこられた。

常本氏が帰北した1年後の役員改選に合わせて、厚谷氏からの推薦で、6代目会長に就任している。厚谷氏と常本氏は不思議な縁があり、大学でも厚谷氏の役職を常本氏が引き継ぐことが何度かあり、テニス協会の会長も同様な結果となった。常本会長は、創立40周年記念とコートやコートハウスの改修、改築を進めることを目標にしたいと総会でも話をされていたが、運よく、国の補助事業でコートが改修され、コートハウスも改築されることになった。まさに、創立40周年記念のビックなプレゼントになった。

本人は腰や肩を痛め、その上視力も衰え、思ったようなテニスができないと嘆いているが、長くテニスを続けられるよう願っている。



常本氏全盛期のコート

6-2 歴代部門責任者

当協会の役員組織は、現在、会長、副会長、理事長、監事、部門理事と部門幹事、顧問で構成されている。これまでの役員全てを記載することになると、ページ数が相当数増えるので、ここでは歴代部門責任者のみ一覧表にまとめた。

部門構成であるが、現在は6部門であるが、当初、事務局の他に総務部、会計部を置いた。その後、昭和55年に規定を改正し、総務部と会計部の業務は事務局内で担当することとした。したがって、これら2部門は以下の部門一覧表には記載せず、事務局の方に載せている。

<競技部> 協会部局の中で負担が大きいのが競技部である。設立当初の大会数は8大会程度であったが、現在は13大会に増えている。



競技運営中のハウス内

競技部には、参加募集から始まり、シードの決定、組合せ抽選、ドロー表の作成、オーダーオブプレーの作成、スポンサーへの連絡、副賞や楯の購入、大会当日の運営、賞状作成、ポイントの付与、結果の公表などの煩雑な業務を担当してもらっている。大会当日は、天候を気にしながら早朝から集まってもらい、ネットの張替から始まり、大会終了後の後片付けまでお願いしている。幸い、平成27年度からジュニアの大会は高体連の方々に運営してもらっており、また、競技部の申合せも整理されてきたので、多くの方に競技運営を経験してもらいたいと思っている。

北見テニス協会歴代部門責任者

	競技部	強化部	普及部	施設部	少年婦人部	ジュニア関連	
昭52年	常本秀幸	斉木四郎	池端治雄	公平光行	本間恒行		
昭53年	鶴原幹也	佐々木皓几		公平光行	婦人部 本間恒行	学生部 内藤明夫	
昭54年	鈴木輝之	佐々木皓几		田中俊幸			
昭55年	鈴木輝之	池端治雄		田中俊幸			
昭56年	鈴木輝之	池端治雄		水元尚也			
昭58年	鈴木輝之	池端治雄	大島俊之	阿部正孝			
昭60年	常本秀幸	池端治雄	時任重興	阿部正孝	女性担当 伊東定子		
昭61年	常本秀幸	因 芳広	時任重興	阿部正孝	伊東定子		
昭62年	湯浅健司	皆川正広	因 芳広	高谷俊光	伊東定子		
平元年	皆川正広	伊藤陽司	因 芳広	高谷俊光	伊東定子	ジュニア担当 時任重興	
平3年	因 芳広	小俣雅嗣	土田雅人	平田茂	新井歌子	小林恒雄	
平5年	伊藤信子	湯浅健司	土田雅人	信太寿雄	女子部 石川優美子	小林恒雄	
平6年	伊藤信子	湯浅健司	皆川正広	信太寿雄	石川優美子	小林恒雄	
平7年	長谷川智仁	皆川正広	山崎隆司	信太寿雄	山野郁恵	ジュニア部 坂本 一	ベテラン部 高谷俊光
平8年	長谷川智仁	皆川正広	山崎隆司	信太寿雄	山野郁恵	坂本 一	高谷俊光
平9年	福田哲也	長谷川智仁	皆川正広	信太寿雄	山野郁恵	坂本 一	常本秀幸
平10年	福田哲也	長谷川智仁	皆川正広	信太寿雄	高橋真由美	坂本 一	常本秀幸
平11年	海野 容	永山 誠	竹江仁博	平田 茂	女子連/女子部 高橋真由美	坂本 一	山野 擴
平12年	海野 容	高谷俊光	竹江仁博	阿部正孝	宮田雅代	坂本 一	山野 擴
平13年	海野 容	湯浅健司	福田哲也	阿部正孝	宮田雅代	佐藤辰美	山田孝一
平14年	百武欣二	湯浅健司	福田哲也	阿部正孝	宮田雅代	浅野善博	山田孝一
平15年	永山 誠	福田哲也	古米圭介	阿部正孝	宮田雅代	浅野善博	
平16年	永山 誠	福田哲也	古米圭介	阿部正孝	宮田雅代	菅 英之	
平17年	徳田 奨	福田哲也		阿部正孝	宮澤つぼみ	菅 英之	
平18年	脇 伸一	福田哲也		阿部正孝	宮澤つぼみ	佐藤靖尚	
平19年	尾藤清光	福田哲也	伊藤陽司	阿部正孝	宮澤つぼみ	佐藤靖尚	
平20年	尾藤清光	福田哲也	佐藤振一郎	阿部正孝	宮澤つぼみ	渥美 浩	
平21年	永山 誠	村上慎一		阿部正孝	宮澤つぼみ		
平23年	熊谷淳史	福田哲也		阿部正孝	宮澤つぼみ		
平25年	宮澤つぼみ	中塚ひとみ		福田哲也	宮澤つぼみ		
平27年	宮澤つぼみ	和田喜代子		福田哲也	宮澤つぼみ	ジュニア担当 竹腰信介	
平29年	脇 伸一	和田喜代子		横山周平	宮澤つぼみ	竹腰信介	

＜強化・普及部＞ 強化部と普及部に関しては、合体したり分離したりしているが、強化部は対外試合のための強化練習などが中心となり、普及部には講習会の企画運営を担当してもらっている。その年度の役員の人選なども影響して、分離したり一体化したりしている面もあるが、強化責任者と普及責任者を置くのが良いようである。

講習会は一般向け、女性向け、ジュニア向けなど多く開催されており、詳細は協会行事のところに示している。最近ではジュニアへの指導が充実した反面、一般向けの講習会への参加者が減少しており、会員増強のための活動も検討する必要がある。

＜施設部＞ 施設部は年度当初のコート整備とコート納めが主業務になるが、適正なコート利用を啓発したり、日常のコート管理にも気を配ってもらっている。クレートコート時代には、春の一大行事であるコート整備を仕切ってもらっていた。また、施設部には、冬季の練習場の確保や冬季練習日のシーズン券の管理などをお願いしている。施設部は、コートの改修やコートハウスの改築などの関係もあり、最近では市役所の方に責任者を担当してもらっている。



冬季利用券の発行

＜女子部・女子連＞ 協会設立時にはジュニアや女性に対する部門として、少年婦人部という古風な名前の部門があった。翌年、婦人部と学生部に分かれたが、両方とも1年間だけの部門となった。その後、昭和60年に、強化・普及部内に女子担当が置かれ、平成5年に女子部として独立している。この年度に、女子連北海道支部北見地区が結成されている。女子連とテニス協会は別組織だったことから、協会の議案書では女子部となっていたが、平成11年から女子部・女子連と明記されるようになり、女子連の行事記録も議案書に記載されるようになった。

＜学生部＞ 協会設立時は、大学生と高校生を意識して学生部が設けられた。しかし、大学生は学内コートで活動することから、短期間で廃部となった。ただ、昭和58年から平成12年まで、大学生の代表を競技部理事に任命し、大会運営をバックアップしてもらっていた。

＜ジュニア関係＞ ジュニア部門であるが、高校生と小中学生への対応がその時々で変化している。平成元年に強化・普及部内にジュニア担当が置かれたが、主として小中学生の指導を想定していた。しかし、高校での部活が盛んになり、平成7年には高校生への支援を主眼にジュニア部が誕生したようだ。平成21年にジュニア部はなくなったが、高校生の活動が盛んになっており、平成27年には競技部内にジュニア担当理事を置いて、ジュニア関係の大会運営をお願いしている。一方、強化・普及部の中では、小中学生を対象とした教室を精力的に実施しており、ここ数年は部門責任者にジュニア担当を兼任してもらっている。



ジュニアの講習会風景

＜ベテラン部＞ ベテラン部が平成7年に作られた。年配者で早朝テニスをする方とか団塊世代の方に、テニスを通して交流の輪を広げてもらうことを目指したと思われる。10年近い活動でその役目を終え、平成15年に部はなくなった。

なお、平成15年から事務局から独立して企画部が置かれているが、業務内容としては事務局との関連が深いので、次の事務局の行事担当・企画部のところに記載した。

以上のように、40年の歴史の中で、その時代や人材に併せて組織構成が変更されているが、次項の事務局担当者を含め人選を見ると、長期にわたって同じ方に継続してもらっており、次の時代を見据えた人材配置が求められるところである。

6-3 歴代事務局、企画部及び監事

＜事務局長＞ 事務局長は副理事長も兼ね、協会行事全般を支援するとともに、北見市体協や軟式協会と

の調整などを担当する。ただし、以下のような業務は事務局内の担当理事が実行する場合も多い。

<庶務担当> 協会設立時に設けられた総務部及び改正後の事務局内庶務担当は、主として総会や理事会のための資料作成や日程調整を行う。各部門からのデータをまとめ、原稿作成から印刷手配、さらには資料郵送などの業務をお願いしている。なお、昭和62年から平成3年まで担当がいなかったが、事務局長が兼務していた時代である。

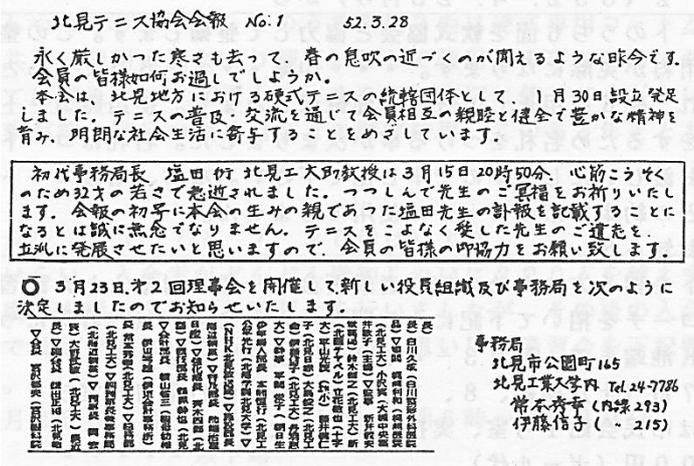
<会計担当> 当初あった会計部も規定改正で事務局内の会計担当となった。一般会計と特別会計の収支を担っており、年度当初に各部局に予算案に応じた資金を配分し、年度末に調整する。臨時的支出などがある場合は、理事長等と相談して対応している。また、最近は、冬季室内利用者の使用料の集金もお願いしている。当協会は、一般会計の収支規模が700万円と大きく、特別会計も700万円近い余剰金を有しており、資金規模の大きな任意団体である。会計担当には、これらの資金を細部にわたり管理してもらっており、3月末の決算までご苦労をかけている。

<会報・広報担当> 協会の状況を会員に知らせる活動は、設立時は会報という形で行っていた。No. 1 (昭和52年3月28日付け)は岡理事長の手書きであったが、協会の現況をわかりやすくまとめて報告されている。その後事務局に会報担当を置き発信してもらったが、イラストが入った会報は面白く、広く読まれていた。

協会設立当初は会報の発行回数も多かったが、その後は年に1~2回となった。30年近く続き、60号近くまで発行されている。なお、会報担当を置いたり置かなかったりしているが、置かれなかったときは理事長や事務局長が兼務して発信していた。会報が発行されなくなったのは平成16年以降になると思うが、代わりに当時の山田事務局長がホームページを開設してくれたので、情報が広く配信されるようになった。現在は野嶋氏がホームページを管理しており、大会の案内や結果、講習会の案内、理事会や総会の議事内容なども配信するようになった。

<会員担当> 設立時には会員200人程度であったが、数年で800人まで増加した。当時の会員担当は大変だったと思う。入会者には、団体に加入することをお願いし、団体代表に会費をまとめてもらい、入金を確認したのち、会員証を発行した。協会設立当初は、会員と非会員の区別と仲間作りもあって、会員には名札を付けてもらった。会員担当には名札の手配なども行ってもらったが、この方式は長続きしなかった。

名札に代わって、昭和62年からはステッカーを発行し、常時持ち歩くものにつけてもらうことにした。この方式も利用されなくなったが、会費納入の確認や納入時期の早期化、また、会員外の無断利用を避けるためなどから、平成27年から会員カードを発行することになった。会員カードのデザインや発行は事務局長と会員担当にお願いした。



岡理事長直筆の会報No. 1の一部抜粋



最新のホームページ(平成25年から野嶋氏管理)



旧会員ステッカーと現在の会員証
(左：油田さん、右：伊藤直人氏デザイン)

＜行事担当・企画部＞ 行事担当・企画部であるが、平成15年までは事務局内の行事担当者がコート開きや忘年会の開催を担当していた。平成16年に企画部として独立し、多くの行事を実施してもらっている。近年、クラブ対抗戦、お楽しみテニス大会やテニスの日の大会などへの参加者が増えており、特に焼肉パーティー付きだった時代のクラブ対抗戦は人気行事で、120人近い参加があり、担当者は8面での大会運営に苦労していた。

＜監事＞ 監事の表記は、本来なら会長、副会長と同様の役員として並べるところであるが、紙面の都合でこのようになったことをお詫びしたい。監事には、会計監査をお願いしているが、当然のことながら協会運営全般についても意見を求めているので、経験豊かな方が人選されている。中でも初代監事の小澤氏（大槻理化学株式会社社長）はテニス協会設立時からの支援者で、初回総会の会場を提供いただいたり、職員数名に入会を勧めてもらい、幹事として雑務を引き受けていただいたこともあった。残念ながら、本人は体調を崩されテニスをされなかったが、このような方の支援があって協会が成り立っている。



平成28年のクラブ対抗参加選手

＜顧問＞ 協会では顧問を置いており、これまでの会長、監事、理事長経験者などで、北見在住の存命者をお願いしている。設立時には白川氏と梶浦氏をお願いしていたが、現在は小澤 實氏、荒瀬 晃氏、厚谷郁夫氏、伊藤陽司氏、伊東秀子氏、山野 擴氏、下込宗晴氏の7人をお願いしている。

また、これまで協会設立や運営に尽力いただいた方で、他界された方を会友として総会議案書に記載していた。しかし、会則にないこともあり、平成26年から廃止している。

北見テニス協会歴代事務局責任者及び監事一覧

年度	事務局責任者					監事	
	総務部	会計部	会報・広報	会員担当	行事担当・企画部		
昭52年	伊東秀雄	横山省三				新井義夫	小澤 實
昭54年	伊東定子	内藤明夫	平山光茂			新井義夫	小澤 實
昭56年	伊東定子	新井歌子	平山光茂	田中俊幸	常本秀幸	新井義夫	小澤 實
昭58年	伊東定子	伊藤陽司	君野一郎	新井歌子	田中俊幸	新井義夫	小澤 實
昭60年	湯浅健司	伊藤陽司		大島俊之		新井義夫	小澤 實
昭61年	湯浅健司	伊藤陽司		大島俊之		荒瀬 晃	小澤 實
昭62年		阿部正孝		鈴木輝之		荒瀬 晃	小澤 實
平元年		伊藤直人		大島俊之		荒瀬 晃	小澤 實
平3年		伊藤直人		百武欣二	鈴木輝之	飛沢宏哉	伊東定子
平5年	伊藤陽司	長谷川智仁		鈴木輝之		飛沢宏哉	伊東定子
平7年	伊藤陽司	竹江仁博		鈴木輝之		飛沢宏哉	伊東定子
平9年	三原一美	伊藤直人		鈴木輝之		飛沢宏哉	伊東定子
平10年	三原一美	伊藤直人		鈴木輝之		森 訓保	伊東定子
平11年	阿部正孝	伊藤直人		鈴木輝之	湯浅健司	森 訓保	伊東定子
平13年	熊耳 浩	伊藤直人	伊藤慧子	鈴木輝之	竹江仁博	森 訓保	伊東定子
平14年	熊耳 浩	伊藤直人	伊藤慧子	鈴木輝之	堀尾恵美子	森 訓保	伊東定子
平15年	伊藤信子	伊藤直人		鈴木輝之	田中省詞	森 訓保	下込宗晴
平16年	伊藤信子	伊藤直人		鈴木輝之	企画部	森 訓保	下込宗晴
平17年	熊耳 浩	伊藤直人	山田孝一	鈴木輝之	捧 直美	森 訓保	下込宗晴
平19年	熊耳 浩	伊藤直人	横田和雄	鈴木輝之	捧 直美	山野 擴	下込宗晴
平21年	熊耳 浩	伊藤直人	横田和雄	山口茂利	捧 直美	山野 擴	下込宗晴
平23年	横田和雄	伊藤直人		高橋真由美	捧 直美	山野 擴	下込宗晴
平25年	井上まゆみ	長由美子	野嶋寿之	仲西厚子	湯川寛志	岸 敏一	伊藤信子
平27年	井上まゆみ	長由美子	野嶋寿之	長由美子	湯川寛志	岸 敏一	伊藤信子
平28年	井上まゆみ	長由美子	野嶋寿之	長由美子	佐藤勇治	岸 敏一	伊藤信子
平29年	井上まゆみ	長由美子	野嶋寿之	長由美子	高橋真由美	岸 敏一	伊藤信子

7. 北海道テニス協会等受賞者及び対外試合での優勝者

北見テニス協会の発展にご尽力いただいた方は多数になるが、特に功績があった方については北海道テニス協会あるいは北見市体育協会に推薦し、功労賞などの表彰を受けている。また、対外試合で優秀な成績を収めた方々も北見市体育協会に推薦し、有功賞の表彰を受けている。

7-1 北海道テニス協会関係

北海道テニス協会の表彰規定では、北海道や地域のテニス普及に貢献されてきた方に功労賞を、全国レベルの競技で優秀な成績を収めた選手に競技者賞が与えられるようになっている。そのほかに、創立記念などの際に特別表彰を行っているが、本協会ではこれまで以下の方が功労賞表彰されている。

平成 2年 北海道テニス協会設立 50周年記念 功労者賞 宮澤 郁夫
平成 6年 北海道テニス協会 功労賞 岡 宏
平成 14年 北海道テニス協会 功労賞 伊東 秀雄

7-2 北見市体育協会関係

北見市体育協会の表彰規定は何度か改正されているようであるが、古くは、功労賞、功績賞、有功賞、奨励賞となっていた。近年の規定では、功労賞、有功賞、奨励賞となっており、功労賞は北見市の体育・スポーツの普及発展等に貢献し、その功績が顕著な方に与えられる。また、全国、全道大会で優秀な成績を残した方には有功賞が与えられる。特に全国大会での成績優秀者には優秀賞が与えられている。なお、以前の功績賞は優秀賞に準ずるかと思われる。奨励賞はジュニアの大会で実績を上げたジュニアに与えられている。現在、当協会功労賞、功績賞を受けられた方は以下のとおりである。

平成 2年 北見市体育協会設立 30周年記念 功労者賞
宮澤 郁夫、岡 宏、鎌田 正甫、伊東 秀雄
平成 5年 北見市体育協会 功労賞 宮澤 郁夫
北見市体育協会 功績賞 岡 宏
平成 14年 北見市体育協会 功労賞 伊東 秀雄
平成 23年 北見市体育協会 功労賞 高谷 俊光



北見市体育協会功労賞とメダル
(高谷俊光氏から借用)



伊東秀雄氏北見市体育協会功労賞授賞式

7-3 対外試合での優勝者と北見市体育協会有功賞受賞者

北海道テニス協会が主催あるいは共催する大会は、一般とベテラン及び団体戦を含めると23大会あり、札幌を中心に、千歳、旭川、帯広、釧路などで開催されている。ジュニアに関しては15試合で、札幌が中心となるが、旭川や帯広でも開催されている。

以前は、これらの大会への申し込みは当協会の事務局経由で行っており、対外試合出場者がわかっていたが、最近ではネットでの申し込みとなっており、事務局では大会出場者や試合結果が把握できていない。以下に全道大会優勝者を一覧表にまとめている。ただし、事務局として把握できた範囲であり、記載漏れの可能性もあるがご理解いただきたい。

一覧表を見ると、近年、全道大会での優勝者が少なくなっており、対外試合への参加を促進し、競技力の向上を図る必要がある。

なお、全道大会での優勝者は、当協会から北見市体育協会に有功賞候補者として申請をすることができるが、この申請も年度によっては行われていないことがあったようである。当協会の有功賞の実績を見ると、岡宏氏の9回を筆頭に、伊藤信子さん、石川優美子さん、皆川正広氏の5回が際立っている。なお、優勝回数では岡氏の29回が断トツで、次いで長谷川智仁氏の14回、皆川正広氏、石川優美子さんの10回となっている。蛇足であるが、北見市体育協会の有功賞では賞状とメダルがもらえるが、残念ながら複数回受賞してもメダルは一度だけだったと記憶している。



北見市体育協会有功賞
(伊藤信子さんより借用)

全道大会での優勝者及び北見市体育協会有功賞受賞者

年度	氏名	大会名	体育協会有功賞
昭56年	岡 宏	第11回北海道室内テニス選手権大会壮年S	岡 宏 伊藤 信子
	岡 宏	第11回北海道社会人テニス大会男子S	
	伊藤 信子	同上 女子S	
昭57年	岡・平野	第2回北海道社会人室内Dテニス大会壮年D	岡 宏
	岡・平野	第11回北海道毎日テニス選手権大会壮年男子D	
	岡・平野	第42回北海道テニス選手権大会壮年D	
	岡 宏	第12回北海道室内テニス選手権大会壮年S	
	岡 宏	第37回国体テニス道予選成年男子2部S	
	伊藤・高木 伊藤・石川	第4回ダンロップテニストーナメント北海道決勝大会女子D 第12回北海道社会人テニス大会女子D	
昭58年	石川・小山田	第3回北海道社会人室内Dテニス大会女子D	岡 宏 伊藤 信子
	石川優美子	第13回北海道室内テニス選手権大会女子S	
	岡 宏 表 明子	同上 壮年S 第34回北海道B級テニス大会女子S	
昭59年	信太・下田	北海道ジュニアテニス選手権大会女子U14D	岡 宏 信太 寿子
昭60年	岡 宏	第14回北海道毎日テニス選手権大会男子45歳以上S	岡 宏 信太 寿子 伊藤 直人 皆川 正広
	岡 宏	第40回国体テニス道予選成年男子2部S	
	信太 寿子	第9回ヤマハカップ北海道ジュニア大会女子U16S	
	伊藤(直)・皆川 伊藤(直)・皆川	第36回北海道B級テニス大会男子D 第7回ダンロップテニストーナメント北海道決勝大会B級男子D	
昭61年	岡 宏	第1回北海道室内テニス選手権大会男子45歳以上S	岡 宏 伊藤 信子
	岡 宏	第2回北海道テニス選手権大会男子45歳以上S	

	伊藤 信子 伊藤(直)・皆川	同 上 女子 40 歳以上 S 第 2 回北海道知事杯テニストーナメント男子 D	伊藤 直人 皆川 正広
昭 62 年	岡 宏 岡 宏 岡 宏 岡 宏 伊藤 信子 岡・渡辺 岡・常本 岡・常本 岡・常本	第 2 回北北海道室内テニス選手権大会 45 歳以上 S 第 17 回北北海道室内テニス選手権大会男子 45 歳以上 S 第 3 回北北海道テニス選手権大会男子 45 歳以上 S 第 47 回北海道テニス選手権大会男子 50 歳以上 S 第 16 回北海道毎日テニス選手権大会女子 40 歳以上 S 第 17 回北海道室内テニス選手権大会男子 45 歳以上 D 第 16 回北海道毎日テニス選手権大会男子 45 歳以上 D 第 3 回北北海道テニス選手権大会男子 45 歳以上 D 第 9 回ダンロップテニストーナメント北海道決勝大会壮年 D	岡 宏 伊藤 信子 常本 秀幸
昭 63 年	岡 宏 岡 宏 岡 宏 岡・中川 井嶋千恵子 井嶋・菅野 五十田順子 五十田・矢後	第 3 回北北海道室内テニス選手権大会 45 歳以上 S 第 18 回北北海道室内テニス選手権大会男子 45 歳以上 S 第 4 回北北海道テニス選手権大会男子 45 歳以上 S 第 3 回北北海道室内テニス選手権大会 45 歳以上 D 第 4 回北北海道テニス選手権大会女子 S 同 上 女子 D 同 上 女子 40 歳以上 S 同 上 女子 40 歳以上 D	岡 宏
平元年	岡・中川 岡・渡辺 岡・常本 岡・工藤 岡・工藤 伊藤・石川	第 4 回北北海道室内テニス選手権大会 50 歳以上 D 第 19 回北海道室内テニス選手権大会男子 45 歳以上 D 第 18 回北海道毎日テニス選手権大会男子 45 歳以上 D 第 27 回北海道テニストーナメント男子 45 歳以上 D 第 49 回北海道テニス選手権大会男子 45 歳以上 D 同 上 女子 40 歳以上 D	岡 宏 伊藤 信子 常本 秀幸 石川優美子
平 2 年	石川優美子 石川・高木	第 20 回北海道室内テニス選手権大会女子 40 歳以上 S 朝日レディース北海道予選	
平 3 年	皆川・山下 石川優美子	第 13 回ダンロップテニストーナメント北海道決勝大会男子 D 第 29 回北海道テニストーナメント女子 40 歳以上 S	石川優美子
平 4 年	皆川 正広 皆川・不明 石川優美子	第 21 回北海道毎日テニス選手権大会男子 35 歳以上 S 第 45 回北海道ベテランテニス選手権男子 35 歳以上 D 第 21 回北海道毎日テニス選手権大会女子 40 歳以上 S	石川優美子
平 5 年	石川優美子 皆川・石川	第 46 回北海道ベテランテニス選手権女子 40 歳以上 S 同 上 男子 35 歳以上 D	石川優美子 皆川 正広
平 6 年	石川優美子 日下・西条	第 23 回北海道毎日テニス選手権大会女子 40 歳以上 S 第 45 回北海道 B 級テニス大会男子 D	石川優美子
平 7 年	長谷川・徳丸	第 11 回北北海道室内テニス選手権大会男子 D	
平 8 年	長谷川・広瀬	第 12 回北北海道室内テニス選手権大会男子 D	
平 9 年	長谷川・鮭川 長谷川・小林	第 13 回北北海道室内テニス選手権大会男子 D 道東テニストーナメント男子 D	
平 11 年	石川優美子	第 28 回北海道毎日テニス選手権大会女子 45 歳以上 S	
平 13 年	石川・小田	第 26 回札幌テニス選手権女子 50 歳以上 D	
平 14 年	長谷川智仁 三原 一美 高橋・松浦 寒河江詩乃	第 31 回北海道毎日テニス選手権大会男子 35 歳以上 S 第 18 回北北海道テニス選手権大会女子 40 歳以上 S 支部長杯 B 級レディース&桑名杯レディーステニス道大会 D 旭川オープン秋季大会女子 U12S	長谷川智仁 三原 一美 高橋真由美 松浦 恵子

平 15 年	長谷川智仁 長谷川一美	第 33 回北海道室内テニス選手権大会男子 35 歳以上 S 第 18 回北海道インドアテニストーナメント女子 40 歳以上 S	長谷川智仁 長谷川一美
平 16 年	荒井・岩原 長谷川智仁 長谷川智仁	第 10 回道東オープンテニストーナメント女子 45 歳以上 D 第 20 回北北海道テニス選手権男子 35 歳以上 S 第 33 回北海道毎日テニス選手権大会男子 35 歳以上 S	長谷川智仁 荒井 雅代
平 17 年	荒井 雅代	第 11 回道東オープンテニストーナメント女子 45 歳以上 S	荒井 雅代
平 18 年	長谷川智仁 長谷川・荒井 長谷川・坂田 皆川・北川 皆川 正広	第 22 回北北海道テニス選手権男子 40 歳以上 S 同 上 女子 45 歳以上 D 第 31 回札幌テニス選手権男子 40 歳以上 D 第 45 回北海道テニストーナメント男子 50 歳以上 D 第 12 回帯広の森オープンテニストーナメント 男子 50 歳以上 S	長谷川智仁 長谷川一美 荒井 雅代 皆川 正広
平 19 年	長谷川一美 長谷川・寺坂 村上 慎一	第 22 回北海道インドアテニストーナメント女子 45 歳以上 S 第 13 回帯広の森オープンテニストーナメント 女子 45 歳以上 D 第 23 回北北海道テニス選手権男子 35 歳以上 S	
平 20 年	村上 慎一 村上・前田 皆川・佐藤 長谷川・徳丸	第 23 回北海道インドアテニストーナメント男子 35 歳以上 S 第 61 回北海道ベテラン選手権男子 35 歳以上 D 同 上 男子 50 歳以上 D 第 14 回帯広の森オープンテニストーナメント 男子 40 歳以上 D	村上 慎一 皆川 正広
平 21 年	村上 慎一 村上・八木沢	第 24 回北海道インドアテニストーナメント男子 35 歳以上 S 第 25 回北北海道テニス選手権大会男子 35 歳以上 D	
平 22 年	村上・山原 長谷川・徳丸	第 25 回北海道インドアテニストーナメント男子 35 歳以上 D 同 上 男子 45 歳以上 D	
平 23 年	村上・佐藤 長谷川・徳丸	第 64 回北海道ベテラン選手権男子 35 歳以上 D 同 上 男子 40 歳以上 D	
平 25 年	長谷川智仁	第 28 回北海道インドアテニストーナメント男子 45 歳以上 S	



ダンロップ全道大会B級男子優勝
(昭和60年 伊藤・皆川組)



第18回北海道毎日テニス選手権
45歳以上男子ダブルスの優勝カップ
(平成元年 岡・常本組)

8. 協会創立当時からのテニス環境の変化

8-1 テニスコート環境の変遷

北見市のスポーツ施設整備は、近年目を見張る勢いで進められている。カーリング場、陸上競技場、武道館、温水プール、スケートリンク、そしてテニスコート及びコートハウスの全面改修などである。その他、市内の体育館、ゴルフ場、あるいはスキー場の数や利便性を考えると、北見市のスポーツ環境は、他都市に誇れる優れたものと言える。

テニス環境については、平成27～28年度の砂入り人工芝コートの全面張替、平成29年度にコートハウスの改築が行われている。唯一、観覧席が整備できなかったものの、素晴らしい施設になった。昭和52年にコートを整備してもらって以来、市のスポーツ課や軟式協会とも連携しながら、コート環境の整備に取り組んできたが、その概要と併せて、コートの特徴などについてまとめてみた。

1) テニスコート環境の変遷

コート整備の変遷については、第3章で説明したので、ここでは事項だけを一覧表(次頁)にした。設立当初は利用できるコートが少なく苦労したが、北見市や軟式協会のご理解もあって全体で16面、ナイター設備の整ったテニスコートとなり、多くの市民がテニスを楽しめるように整備された。

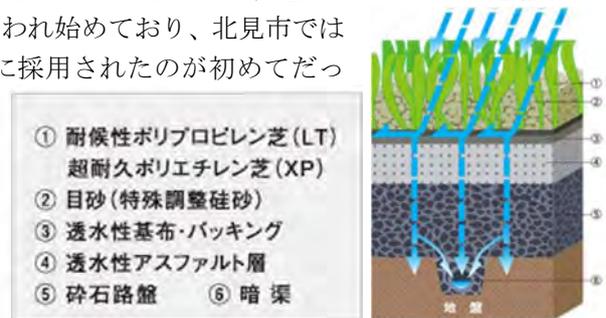
<砂入り人工芝コート> 現在利用しているコートは砂入り人工芝コート、通称オムニコートと言われているサーフェスである。日本では昭和60年頃から使われ始めており、北見市では平成5年にモイワスポーツワールドのテニスコートに採用されたのが初めてだったと思う。

東陵運動公園には平成10年に導入されたが、その後多くの市町村で採用されており、今ではテニスコートの主流になっている。このように砂入り人工芝コートが多くなったのは、クレールコートの維持管理が難しくなったことも大きい。また、軟式と共用ができる点も見逃せない。雨の多い日本では、クレールコートだと雨の場合中断することが多いが、人工芝コートは少々の雨なら試合が継続できるのも利点の一つである。このようなことから、砂入り人工芝コートは軟式の盛んな日本での採用が拡大した。一方、外国ではニュージーランドなど一部で使われている程度である。また、国際的に活躍する選手育成を考えると、ボールスピードの遅い人工芝コートは適切でなく、国内の主要大会はハードコートで行われている。

<ハードコート> 世界的にはコンクリートの上にコーティングしたハードコートが主流で、全米オープン、全豪オープンなど多くのビッグ大会がハードコートを利用している。ハードコートも表面のコーティング材によってスピードやはね方が変わり、国際大会が行われる日本の有明コートは、ソフトなハードコートと言われている。

<グラスコート> もちろん、グラスコートでのウィンブルドン大会、クレール(アンツーカー)コートでの全仏オープンと、歴史のあるコートでの大会もある。コートサーフェスごとに、そのコートを得意とする選手がいて試合を面白くしている。今後もこれらのコートでの試合が継続されるであろうが、全米、全豪もグラスコートの時代や特殊なクレールコート(グリーンクレール)の時代があったそうなので断定はできない。日本では佐賀県にグラスコートがあり、ウィンブルドン九州大会が実施されている。維持管理が大変で、冬のある北海道では芝生コートは無理であろう。グラスコートで一度は打ってみたいが、そんな願望もあったのか、北見テニス協会の英語表示は「Kitami Lawn Tennis Association」とグラスコートを意識したものになった。

もちろんグラスコートを作るつもりはなかったが、人工芝コート



オムニコートの構造(住友ゴムHPより)



ウィンブルドンセンターコート
(Wikipediaより)

が完成したので、KLTA の表示でも良かったのかと思っている。

<コートの特徴> 各コートの特徴であるが、球の速さはグラスコートが最も速く、次にハードコート、クレーコートの順になり、砂の量にもよるが、人工芝コートが一番遅いようだ。体への負担は、ハードコートが大きく、人工芝、芝生、クレーの順番だと思うが、コートにあったシューズの着用で幾分緩和できる。ボールの摩耗については、ハードコートが最も早く摩耗し、クレーコートが次で、人工芝コートが一番長持ちしている。また、クレーコートはボールが汚れて見えづらくなるが、人工芝コートはボールの汚れずらい点でもすぐれていて、初心者をはじめ、多くの方がテニスを楽しむのに適していると言える。

北見市内のコートであるが、モイワスポーツワールドと東陵運動公園は砂入り人工芝コートになっている。一方、中学、高校のコートはまだクレーコートがほとんどである。市内には河川敷にハードコートがあったが、平成28年の台風で使えない状態になっている。ハードコートは、その他、民間で3面、北見工大に2面あり、球の速いコートで練習をしたい場合は申請すれば利用が可能である。なお、冬期間は屋内コートがないため、道立体育館や市立体育館を中心にフローリングコートで練習や試合が行われている。体育館の場合、明るさやスピードに慣れるのが大変であるが、テニスに開放してもらっていてありがたい。



コート3面が取れる室内体育館

テニスコート及び付帯設備の改修経緯

年 度	コート環境の整備内容
昭52年	・バレーコートを改修しクレーコート6面を増設、軟式と硬式で3面づつ利用
昭53年	・夜間照明2面、会長より市に寄贈
昭54年	・コートハウスの設置
昭59年	・壁打ちボードを設置
昭63年	・硬式の会員数増加で4面の利用が可能となる
平元年	・夜間照明を2面増設し（全体で4面）市に寄贈
平9年	・軟式側コート7面に拡張、併せて硬式側もダブルス6面に加えシングルス1面増設、1面だけが軟式との共同利用となる
平21年	・夜間照明をさらに2面増設し（全体で6面）市に寄贈
平27年	・シングルスコート1面をダブルスコートに改修、併せて照明ポールの移設
平29年	・フェンスを全面改修
	・クレーコートから砂入り人工芝コートにリニューアル、併せて軟式側、硬式側ともに8面に増設、当協会管理コートも8面となる
	・新タイプの夜間照明3面増設し（全体で7面）市に寄贈
	・休憩のためのカーポートを設置し市に寄贈
	・砂入り人工芝コートの全面張り替え
	・コートハウス増床改築

2) クレーコートとその整備

<クレーコート> 当協会では昭和52年から平成10年までの23年間クレーコートを利用していた。大変だったクレーコートの整備についても少し触れておきたい。

クレーコートは、通常その色からイエロークレーとも呼ばれているようだが、北見の場合、イエローよりグレーに近かった気がする。世界的に多いクレーコートはアンツーカーで、レッドクレーと言われている。アンツーカーはレンガを粉にした土で、透水性が良いことから雨にも強く、雨の多いフランスで利用され世界に広がった。その流れで、今でも全仏オープンがアンツーカーコートでの大会となっている。北海道にも札幌の中島コートにアンツーカーコートがあるが、乾燥するとひび割れが入るなど管理が難しいと聞いた。また、時々土の補充が必要となり、高額であり負担も大きいようだ。さらに、乾燥していると

靴や靴下が汚れるなどの欠点もあり、全国的にも使用しているところは少ない。

平成9年まで使っていた東陵運動公園のクレークートは、コートの基盤層は砂利が混じった火山灰で、上層部は黒土に火山灰を混ぜて粘着力を高めた作りになっていて、水はけのよいコートだった。しかしながら、春のコート整備には大変な労力を費やした。

<コート of 整地> 春のコート整備では皆さんに2回参加してもらっている。1回目は4月の雪解けを待ってラインテープを剥がし、冬期間に凍上で浮き出た小石を拾う作業である。テープと釘を一緒に抜くのだが、土を起こさないように気を使って抜いていた。毎年結構な小石が出てくるが、小石だけかと思ったら、大きな石が出てきてびっくりすることもあった。石拾いが終わると、役員が中心となってコート面の整地を行う。コート整備の先輩である軟式からは、毎年コートを起こしてから整地するよう言われた。これが大変な作業で、耕運機を借りてきて起し、レイキやトンボと称するものを使って平らにするのだがうまくいかず苦労した。しかもネットライン



ラインテープ剥がし(ネットより)

<コート of 転圧> コートの転圧は、利用コートが3面の時代は手引きのローラーで何度か往復して仕上げた。管理面数が増えてからは会員だった水元建設から大型のロードローラーを借り、岡氏、常本氏、伊藤(陽)氏などが運転して転圧していた。特殊車両の免許を持っていたのだろうか、事故がなくて良かったと思っている。転圧もタイミングが重要で、土が乾燥していると締りが悪く、湿りすぎだとローラーに土が付着するので、表面状態の良い日を狙って、朝早くとか夕方にローラーをかけていた。



転圧用のロードローラー(ネットより)

<コート面 of 測量> 転圧が終わると2回目の皆さんの出番になる。「軍手と金槌を持参」と書いているのだが、手ぶらの人も結構いて、協会でも10人分くらいの金槌を用意していた。役員の一部の方には早朝からラインテープ位置の測量を行ってもらった。巻き尺を使ってバックラインの位置などを決めるのだが、2~3年は安定せず、バックラインの位置がコート間でずれていてやり直したこともあった。その後、測量の専門家が重要なポイントをトランシットという測定器で決め、あとは巻き尺を使って位置決めをし、正確で真っ直ぐなライン貼りができるようになった。

<テープ of 釘打ち> 次はラインテープの釘打である。沢山の高校生が参加してくれるのだが、新人が多く、釘の間隔とか、千鳥打ちがわからなかったり、釘を斜めに打ち込むためにラインにゆがみが出たりと、あとの修正に苦労もした。毎年、テープと白釘は市が提供してくれたが、釘が不足して急遽市販の釘を買ってきたこともあった。釘打ちには100人近い会員が集まり、7面を3時間近くで完成できた。これが終わるとまた役員の出番である。表土の飛散と土の結合力を維持するために塩化カルシュームを散布する。1コートに8袋くらい撒いたと思う。土の水分が少ない時は塩化カルシュームを撒いた後に水を散布し、融解を速めたこともあった。このような作業の後、表面にまんべんなく砂をまいて完成である。



ラインテープ釘打ち風景(ネットより)

春の作業はこれで終わるのだが、夏場には乾燥するために散水してから使うことも多かった。当初、コート内に散水栓がなかったので、ハウスから長いパイプを使って散水していた。数年後、コート内に散水栓を付けてもらい便利になったのを記憶している。また、秋口になるとラインテープが切れてしまうこと

ろがあるために補修も行っている。雨が多い場合には、雨上がり後に手引きのローラーかけも必要だった。とにかく、クレートコートは維持管理に苦労もあった。反面、コート整備を通して、会員の一体感もあり良き時代だったかもしれない。

8-2 テニス関連用具の変遷

1) ラケット

北見テニス協会が発足した昭和52年頃、テニスラケットは木製で、現在のラケットと比べるとガット面は小さく、重く、初心者や力の弱い女性にはスイートスポットに当てること自体難しかったように思う。ラケットはこの40年間で劇的に進化したテニス用具であるが、その変遷を振り返ってみたい。

テニスの歴史は古く紀元前のエジプトまで遡るらしいが、11～12世紀のフランス修道院で貴族が手のひらや手袋を使って玉の打ち合いを楽しむ(ジュドポーム)時代を経て、1873年にイギリスのウォルター・ウイングフィールド大佐によってローンテニスと名付けられた。この時代に、コートや用具、ルール等を統一した近代テニスが確立された。

1877年にはウィンブルドンテニス大会が開催されており、ラケットは木製フレームにガットが張っており、現在のように芝生の上で競技が行われたようだ。ラケットの大きさや長さのルールにも変遷がある。現在はハンドルを含め全長で73.7cmを超えない、全幅で31.7cmを超えない、ストリング面は全長で39.4cmを超えない、全幅で29.2cmを超えない、ということになっておりその条件の中で各メーカーが特徴を出すために日々競い合っている。

<フレーム素材と軽量化> ラケットフレームの素材は第2次世界大戦前までは木を曲げて作っていた。そのため強度も足りず、ボールの飛びが悪く、打球も現在のようなスピンをかけて打つことはなく、フラットに当てて打ち出し、徐々に失速して入るような状況だったのではと推測される。第2次大戦後は合板の技術が進歩し、ラケットの耐久性アップだけでなく、ボールの飛びも飛躍的に上がったことは容易に想像がつく。その後、昭和42年頃にスチール製、アルミ製が登場し昭和49年頃に炭素繊維を用いた複合素材のラケットが初登場することになる。北見テニス協会が設立された昭和52年頃の主流は合板製で、ダンロップ・マクスプライ・フォート、ウイルソン・ジャッククレーマーオートグラフ、スタン・スミス、といったラケットを懐かしいと感じる方もいるのではないだろうか。

広く普及していた合板ラケットから複合材料ラケットへの切り替わりはあっという間であった。協会設立後数年の間にバトミントン型の合板フレームからY字型の複合材料フレームとなり、その後も改良が重ねられ、衝撃の少ないラケットやスイートスポットの広いラケットが300g程度で作られるようになった。複合素材による軽量化で非力な人でもテニスを楽しめるようになったのはありがたいことである。

<ラケットの大きさ> 昭和51年、プリンス社より革新的なラケットが発売された。ストリング面が110平方インチのアルミ素材テニスラケット「クラシック」である、当時70平方インチの合板製ラケットが主流の中、キワモノ扱いをうけ初心者向けとされていたラケットではあったが、昭和53年に、当時16歳の少女パム・シュライバー選手が使用して、全米でいきなり準優勝したことで一躍脚光を浴びることになる。その後もナブラチロフ選手と組んだダブルスでは無敵といえる強さを示すことになる。日本ではデカラケと言われ、プリンス・グラフィイト等のデカラケは一世を風靡し、ラケット形態変化のきっかけとなった。昭和60年頃、



初期のテニス風景

出典：IPA「教育用画像素材集サイト」



ラケットの変遷

北見でもプリンスのデカラケを見かけるようになった。中には120平方インチの超デカラケを使っている人もいた。この頃、多くのプレーヤーは90平方インチほどのグラフィイト系の薄ラケを使用していたと記憶している。超デカラケの見慣れない大きさに、まるでうちわのようだと言われたものだが、現在超デカラケの愛用者はほとんど見かけず、100平方インチ前後のラケットを使う人が圧倒的に多いようである。

＜ラケットの厚さ＞ 昭和62年ウイルソン社より発売されたウイルソンプロファイル（95平方インチと110平方インチ）は、ラケットフレームの幅が35～41ミリもあり、フレーム強度が高く反発力に優れ、飛びすぎるぐらいであった。このラケットも奇異な目で見られたが、後に中厚、厚ラケの流れのもとになるラケットでこれも革新的変化と言えよう。現在では25ミリ前後が主流で、薄ラケを使っているプレーヤーの方が少数派になった。

＜ガット＞ ガットとは腸を意味する英語だが、テニスでは羊の腸（シープ）や牛の腸をより合わせた天然素材のストリング（一般的にナチュラルガット）を意味する。ナチュラルガットは食いつき感が良くシャープに弾くのと、張った後の状態が長続きするという特性がある。総じて価格が高く切れやすく、また、雨に弱く不均一等々の弱点があった。現在では様々な加工技術で耐久性を増し、多少の湿気や雨に濡れたぐらいでは切れづらいう優れたものになっているようだ。現在多く使われているのはナイロン、ポリエステル等の非天然素材からつくられている物で、比較的安価で均一性や耐久性に優れており一般プレーヤーに愛用されている。耐久性という面ではポリエステル素材がすぐれていて、一般的な週末プレーヤーでは数か月も切れなくなってきたが、反発性などを考えると早めに張り替えた方が良さそうだ。

2) その他の用具

近代テニスの進化はラケットだけではなく、ボールやコートサーフェス、シューズ、ウェア等の変化も大いに寄与している。このうちのボールとシューズについても触れておきたい。

＜ボール＞ テニス創成期のボールは、布切れを巻いて球状にしたものだったが、その後皮のボールに羊の毛や羽、もみ殻、金属、あるいは人の髪の毛を詰めて使われた。19世紀後半からゴムの表面にフェルトを巻き付けた現在のスタイルになったそうだ。ボールの色は長い間白色であったが、1970年の全豪からボールの色が白から黄色に変わり、白を基調としたウェアやシューズ（練習でも）でなければならぬウインブルドンでも、1986年を最後に黄色いボールになり現在に至っている。これは黄色が白より視覚認識に優れるだけでなく、カラーテレビの普及でテレビ映りが良かったためといわれている。余談だが、日本で硬式テニスが広がりづらかったのはボールが高価だったためとも言われている。確かに協会発足当時、ラメンが250円程度だった時代に、ボール2個で600円は高かった。幸い、所得倍増時代で、ボールの価格は変わらないが、給料が上がって相対的に安くなった。その後、海外生産などによって安価にできるようになり、2個で600円程度は維持されている。さらに、メーカー間競争や製造方法の工夫により2個で300円台でも十分な性能を持ったボールが作られている。

＜テニスシューズ＞ テニスシューズはスニーカーから派生した靴のようだ。スニーカーの語源は英語の「Sneak」（忍び寄る）で、柔らかい素材でできており、音もなく「忍び寄る」ことのできる靴のイメージがあった。この忍び寄るとの表現を嫌った良識ある「オトナ」？はこれを「テニスシューズ」と呼んだ・・・と wikipedia にあるが、実際にはどうだったのか疑わしい気もする。20世紀初頭の話であるが、いずれにしても当時では他の革靴等と比べテニスをするうえで最適なものであったろう。現在ではそれぞれのコートサーフェスに合わせてグリップ性はもとより、衝撃吸収性や足を守る機能もあり進化を続けている。テニスシューズも以前は白を基調としていたが、近年カラフルになり、デザインを競っているようにも思えるが、選ぶ楽しみが増えたのでありがたいことではある。

8-3 テニススタイルの変遷

北見テニス協会が発足した1970年代前半に活躍した選手達と言えば、ローズウォール、ニューカム、アッシュ、スタン・スミス等である。いわゆるきれいなフォームで優雅さの残る時代だったように思う。1970年代後半からは両手打ちバックハンドのコナーズ、少し遅れて同じく両手打ちバックハンドのボルグと、両手打ちバックハンドの時代がやってきた。1980年頃からマッケンローが現れ、3強時代が

来るが、この頃からスピン系の打法が主流になったのではないと思う。その後、多くの選手が両手打ちバックハンドとなる中、片手打ちバックハンドのフェデラーが2004年頃から237週もの間ランキング1位を続けた実績もあり、片手打ちでも戦えることを示している。とは言え、若いプレーヤーのバックハンドは両手打ちが大多数である。

1) フォアハンドストローク

合板技術が進歩し、ウッドラケットの剛性が上がり、ボールがより飛ぶようになった1970年代は、ビッグサーバーが多くなり、一時期サービスだけでポイントが決まっていたように記憶している。フォアのストロークはフラットか多少スピンのかかったドライブが主であったが、スライスも多く使われていた。ユーチューブ等で当時有名選手の映像を見ると、フォアのグリップはほとんどの選手がイースタングリップのように見える。フォーム的には後ろから前へのスイングが主なので、ボールを運ぶといったイメージが強い。1970年代後半から80年前半はコナーズ、ボルグ、マッケンローなどが活躍したが、特に、ボルグは大きくラケットを回す「ループスイング」が特徴で、スピン量の多いストロークを打ち、当時としては新しいスタイルの選手が登場したと言える。好敵手となったサウスポーのマッケンローは基本的にサーブ・アンド・ボレー主体の選手であり、フォアのストロークはフラットドライブ系で、全てにおいてタッチの良さを感じさせる選手であった。コナーズもサウスポーだが、ベースラインからあまり下がらずにアグレッシブなテニスをするタイプでフォアのストロークはやはりフラットドライブ系であった。

昭和60年頃になると北見でもウッドラケットから炭素系素材のラケットが流行りだし、デカラケを愛用するプレーヤーも出てきた。この頃講習会ではまだ「フォアのグリップはイースタン、ラケットは振り回すのではなく後ろから前へ運ぶように打ち、バックのグリップはコンチネンタルで、とにかく当てて返すように」と習っていたように思う。多分この講習会でもそういった教え方だったのだろうが、今にして思えば時代を感じる。

その後ラケットはさらに進化し、プロ選手ではボールが飛びすぎるようになったため、強い回転をかけてコントロールするようになった。進化したラケットは球離れが早くボールが当たったからの操作は不可能となっていたので、「ラケットの面に乗せて運ぶように」という言葉もすでに消えて行った。1990年代から2000年代のアガシ、クーリエなどの選手はセミウエスタンやフルウエスタングリップで、体の回転を利用したストロークはスピンの効き、ボールスピードが格段に速く、一発のストロークでエースを決めることも多くなった。また、パッシングショットの確率も高くなったので、サーブ・アンド・ボレースタイルからグラウンドストローク主体の攻撃的な試合内容になった。この結果、サーブ・アンド・ボレーの聖地のように言われていたウインブルドンでさえ、長いラリーの応酬が多くなり、芝生の上げ方がマッケンロー、サンブラスの時代とはずいぶん変わってきているように思う。このような変化はアマチュアプレーヤーにも影響が顕著であり、若い世代のストロークは強烈なスピンのかかった速いボールを打っている。ラケットの進化と反比例して体が老化して行く場合、なかなかその恩恵にあずかれず少々残念ではある。



昭和時代と平成時代のフォアハンドの違い
(モデルは当協会永山氏)

2) バックハンドストローク

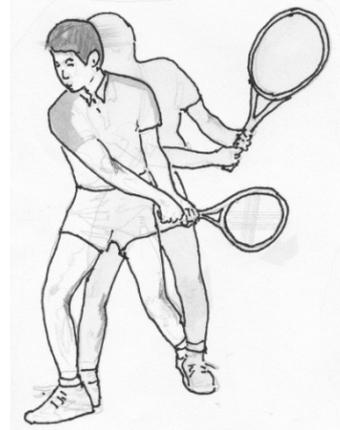
ストロークのもう一つの大きな変化はバックハンドの主流が両手打ちになったことであろう。1970年頃のバックハンドストロークは殆ど片手打ちで、スライスが主体であり、アプローチショットにも多く使われていた。相手のネットプレーに対しては、スライス以外に時々フラットかドライブのパス、または



片手打ちバックハンドの例
(モデルは当協会湯浅氏)

体も以前はあったと聞くが、最近では成長しても両手打ちバックハンドのままという選手が圧倒的に多い。技術的には利き手主導、非利き手主導、肘を曲げて、或いは伸ばしてと様々だが、現在では腕の間に五角形を保って打つことが主流となっているように思う。もちろんシングルハンドでもフェデラーやワウリンカといった素晴らしいバックハンドストロークを打つ選手もいるが、今や少数派になった感がある。

ロブを使うというのが当時のテニススタイルである。現在では、両手打ちでドライブボールのラリーが続くが、ペースを変えるためにアンダースピン量の多い(サイドスピンもかなりかける)スライスを打つこともある。ただし、アプローチショットとしてのスライスは少なくなった。なぜならスライスは滞空時間が長い、つまりスピードが遅いわけで(昔はネットに詰める時間が稼げると言われたが・・)追いつかれてパッシングショットの餌食となってしまう。現在のバックハンドストロークは両手打ちによって早くてスピンのかかった強いパスが打てるようになった。子供のころからテニスを始める場合、重いラケットで片手バックハンドを打つことは難しく、必然的に両手で振ることになるだろう。



両手打ちのバックハンド

3) サービスとボレー

サービスの変化もラケットの進化と共に大きく変わった部分だ。ビッグサーバーが増えた1970年代、残念ながら日本人で良いサーブを打っている選手はいなかったようである。1980年代においてもサーブは腕(肘)を伸ばして高い打点で打つようにと教えられたように思う。ストロークにも共通するが、腕を伸ばすと曲げて打つのでは非常に大きな差が出る。腕を伸ばしきって打つサーブでは肩の後ろから前への可動範囲と肘の伸展が主になり、パワーはあまり期待できない。それに対して腕を曲げて打つ場合は、肘が両肩の延長線上からあまり上がらず、それ故に回旋(捻り)が主体となってスイングされ、ラケットの軌道は大きくパワーにあふれ、スピン量も多いボールを打つことができる。その結果、ビッグサーバーと言われる選手のボールスピードは男子で230 km/h、女子で200 km/hを超えており、サービスだけでゲームを取ることもある。このように回旋動作を多く使いファーストサーブ、セカンドサーブともに同じだけのパワーで打ち、回転を変え、コースを変え、スピードを変えることでサービスゲームを組み立てている。



ひじを使ったサーブ
(モデルは当協会宮澤さん)

シングルス試合においては、サービスやストロークで有利な展開をつくり、苦しい状況で返球された相手のボールを最後に仕留めに行くのがボレーである。80年代までのようなスライスのアプローチショットを打って前に出ていき深いボレーを打ち、時にはダイビングまでしてボレーを決めるなどというのは最近あまり見かけなくなってきた。ボレーの技術もラケットの進化で、早いボールに対し体の前で合わせるだけ(ドライブボレーも増えてきた)というシーンが多くなったのだ。

以上述べたように、ラケットは、素材や形状等の進化で打球のスピードアップが図られ、しかも軽量になったため非力な女性や子供でもスイングスピードが上がり、早くてスピンのかかったボールが打てるようになった。フォームも「後ろから前へ運ぶ」時代から「捻りと捻り返しという回転あるいは回旋運動」へと変わり、ラケットの進化は新しい技術や戦略を生み出し、テニスそのものの質を大きく変えてきたといえる。

9. 講習会やお楽しみ大会

9-1 各種講習会

1) 協会指導員による講習会

北見テニス協会を設立し、多くの方に協会員になってもらったが、テニスを生涯スポーツとして長く続けてもらうことが重要である。そのためには初心者への指導ばかりでなく、中級程度の人への講習も欠かせない。と言いながら、協会設立当初は役員の中に講習会を実施できるような経験者がいなかった。そのため、北海道テニス協会の方々に初心者講習会をお願いするとともに、講習方法についても指導してもらい、普及活動がスタートした。当協会のひよこ講師による講習会ではあったが、おはようテニス教室、ナイターテニス教室、女性テニス教室、室内テニス教室、ジュニアテニス教室など、熱心に指導してもらった。その当時の受講者の方が今もテニスを継続されているのはうれしいことである。

<指導者養成> 講習会での指導には多くの方に協力いただいた。やはり一定の技術力とテニスに関する知識が必要であり、指導員資格の取得を奨励した。最初に資格を取得したのは岡氏と常本氏で、昭和55年に取得している。取得のための講習と試験は札幌で行われ、延べ4～5日を要し、実技と筆記試験を受け日本テニス協会指導員2級の資格を得ている。2人に続いて、昭和62年には因芳広氏、伊藤直人氏、昭和63年に時任重興氏が取得している。また、日本体育協会にもテニスの公認指導員制度があり、この資格試験が昭和58年に北見市で実施され、時任重興氏、大島俊之氏、伊藤陽司氏、藤池保夫氏、池端治雄氏、元村勲幸氏、新井歌子さん、伊東定子さん、小川政子さんが取得した。平成7年頃に指導員資格制度の見直しがあり、普及・育成に重点を置いた公認指導員の認定は日本体育協会が行うことになった。上記以外の人で資格を取得した方、転勤してきた方で指導経験のある方々にも指導に取り組んでももらった。なお、指導員資格は有効期間が4年間であり、更新には札幌などに出向き一定の実績を積むことが必要なことから、継続している人は少ないのが現状である。



当時のスポーツ指導員の登録証

<一般向け講習会> 初級・中級向けの講習会としては、おはようテニス教室、ナイターテニス教室、そして冬期に行われる室内テニス教室がある。なお、女性テニス教室については、女子連の活動の中で触れることにする。

協会設立当初、おはようテニス教室は人気があり、早朝にもかかわらずコートハウス付近に黒山の人だかりができていて驚いた記憶がある。記録に残る中で一番受講者が多かったのが昭和57年で、延べ80人も参加している。早朝6時から7時30分までの講習を連続6回で実施しており、1日130人以上の受講者が集まったことになる。これらの受講者を数名のコーチで指導するのだが、コート1面に30人近くが入り、まさにすし詰め教室であった。できるだけ均一な指導ができるよう、指導方針やその日のメニューをコーチに事前に渡して実施していた。クラス分けはしているものの、個人差が大きいのでコーチは苦勞したと思う。また、受講者も球に触る機会が少なく満足感が低かったのではないだろうか。おはようテニス教室はその後も多く受講者があったが、平成10年ころから受講者が10人程度のこともあり、平成18年には受講申し込みがなかったこともあって、現在中止している。

ナイターテニス教室も人気があった。当初は年1回の開催であったが、ナイター設備が6面に増設された昭和59年から年2回開催している。この頃が受講者の多い時期で、延べ700人程度が受講しており、19時から21時までコートは賑やかであった。最近では受講者が少なくなっており、年1回の開催となり、受講者が10人程度のこともある。19時のスタートなので、コーチも受講者も職場から直行する人も多いと思うが、職場でのストレスが発散でき、また一汗かいた後のビールも楽しめたのではないかな。

室内テニス教室は道立体育館を使って行っている。屋外とは異なり、床面ではボールが速いので初心者には難しい条件である。北見市には網走や釧路のような室内コートがないものの、市立体育館や道立体育

館がテニスに開放されており、講習会の開催や冬季の練習に利用できる。室内テニス教室も年2回開催した時期もあったが、最近受講者も少ないことから年1回になっているが、冬場の運動不足の解消には良い機会になっているのではないかと。

<ジュニア向け講習会> 記録を見るとジュニア向けの講習会は昭和56年から始まっている。当時は小学生が中心で、2日間程度の講習会であった。受講者の親から継続的に指導してほしいとの要望もあり、希望者を集めて指導していたこともあるが、中学生になると他の部活を始めるため継続できないことを経験している。そのようなこともあって、平成になってからしばらくはジュニア講習会は開催されなかった。ジュニア育成の課題はテニスの面白さを知り、継続してもらうことにあり、平成17年ころから「Tennis Play & Stay」システムが導入されている。この指導法は、子供の成長に合わせ、ラケットの大きさやボールの硬さ、ネットの高さを変更し、早い段階から試合を経験できるようにしたものである。平成18年ころから本協会でも捧氏がこの方式での指導を始めており、それ以降、小中学生への講習会が継続されるようになった。

数年前からは、小中学生の受講者を初中級、上級、育成クラスに分け、女子連の協力も得て年間を通して指導する体制をとってもらっている。受講者の延べ人数は年間3000人を超えており、そのような努力が実って、北見ばかりでなく他都市の大会で勝ち上がる選手も増えてきた。

北見の現状を見ると、小学生と高校生のテニス人口が増えてきたが、中学生が増えない。その理由は中学校にテニス部がないため、協会としては、テニスを中体連の正式種目に認定してもらい、部活動と同等の扱いになることを目指している。そのため、北海道テニス協会の活動に呼応し、北見地区中学校テニス団体戦を北見市教育委員会やオホーツク地区中体連の後援を得て進めている。幸い、平成27年から札幌で開催される全道中学校テニス団体戦大会に参加できるようになった。また、平成28年の北見地区大会では、市内の東陵、南、北中学校と遠方の斜里中学校からも参加があった。さらに多くの中学校でテニス愛好者が増えることを願っている。

平成28年度から始まった北見市教育委員会主催の「Jr アスリートチャレンジアカデミー」事業にも参加し、70人近い小学生にテニスの楽しさを体験してもらった。フィジカルトレーニングとテクニカルトレーニングの詳細なプログラムを作って、2日間指導してもらった。指導方法や指導者の配置など、教育委員会からも高い評価を得た取り組みであった。



Jr アスリート講習の一コマ

2) プロ選手や外部指導員による講習会

協会の発展は会員の熱意がまず第一であるが、それを支援してくれる周囲の環境も重要である。北見市や北見市体育協会の支援もあったが、市内のスポーツ店の協力も大きかった。4つの市内スポーツ店（茂藤スポーツ、クマザキスポーツ、コンスポーツ、阿部スポーツ）との共催大会が開催されているが、さらに、スポーツ店の支援を受け有名選手やプロの指導者による講習会が多く開催されている。そのほかにも、朝日生命とか東急デパートがプロ選手や指導者を招いてくれており、まとめてみるとこの40年間で延べ50人以上の方々に講習会を開催してもらっている。

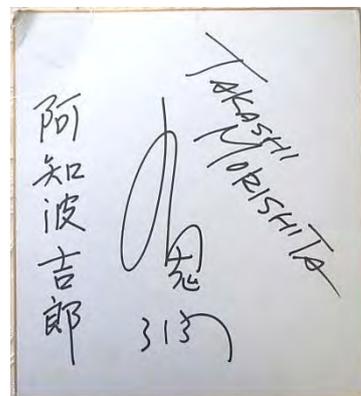
<道テニス協会後援講習会> 協会設立初年度と翌年は、北海道庭球協会（当時の名称）から強化指導部や役員の方に来てもらい講習会を開催している。初年度は市のコートが使えなかったため、北見工大のコートで実施したが、4日間の講習会に5人の指導者（葛岡、渡辺、八木、本田、芹沢）を交代で派遣してもらった。翌年は強化指導部長の小山先生（当時、北大の法学部長）と北海道女子チャンピオンの沢田さんが来ている。これらの方々は、北海道テニス協会の運営上の重鎮でもあり、その後もテニス指導者の資格審査や、審判員の資格審査などでお世話になった。北見に来られる場合、道協会から旅費の支援があったが、ボランティア精神で指導に当たってもらっており、道協会役員の普及活動にかける思いが伝わった。

<カワサキ後援講習会> 昭和53年来北した北村プロは、カワサキラケットの専属で、(株)茂藤スポーツが呼んでくれたように記憶している。カワサキは軟式ラケットで有名であったが、いち早くグラフィイト系の硬式用ラケットを開発している。グラフィイトルーラーというラケットで、この宣伝も兼ねて講

習会が開かれた。

＜ダンロップ後援講習会＞ ダンロップと美津濃の講習会は(株)クマザキスポーツの支援を得て実施している。ダンロップに派遣してもらった蝶間林氏は横浜国大の先生で、日本デビスカップチームのトレーナーもされていた。北見の食べ物や川湯付近の温泉に魅かれたのか、3度も来ていただいた。蝶間林氏は現在も横浜で「テニス Labo」を運営されており、また、「科学の目で見たテニスレッスン」などの著書もあり、最新のテニス指導方法を実践されている。

＜美津濃後援講習会＞ 美津濃(株)がラケットの宣伝のため、全国で講習会を開催していることがわかり、クマザキスポーツにコーチ派遣を依頼した。なんと、世界ランカーの九鬼氏が来ることになりびっくりした。昭和55年に全日本で優勝、翌年ATPに参戦し、ATPランキング74位になっている。まさに現役バリバリの世界ランカーに指導してもらえることと、知名度の高さから多くの受講者で盛り上がった。記憶に残る一言を今でも記憶している。「テニスの打法は8の字を描くのが基本である」と教えていたことである。当時、北見テニス協会では、ストロークの基本はラケットを早く引いて打ち出すようにと教えていたので戸惑った。すぐには九鬼方式に移行できなかったが、最近の若い人のストロークを見ると九鬼氏の打法に近いかもしれない。九鬼氏も2度来北されている。昭和20



九鬼氏と同行者のサイン

年生まれであるが、現在もジュエ・インドアスクールの校長としてジュニア等の指導をされている。九鬼氏の後、美津濃専属の加藤プロや古橋プロが継続して来北している。古橋プロは昭和55年の全日本テニス選手権女子の優勝者であり、加藤プロは昭和52年のデ杯選手と、そうそうたるメンバーであった。

＜朝日生命後援講習会＞ 朝日生命テニススクールは、スポーツで健康な体を作ることを支援する事業として、各地でテニススクールを開催していた。要は、病気もせず元気でいてくれることが保険会社にとってもメリットが大きいということのようだ。普通、遠方まで指導に来てくれるのは1～2人であるが、なんと5人ものスタッフに指導してもらった。その一人である内山氏は昭和55年の全日本の男子ランキングのトップであり、川口氏や鷺田氏もランキング10位以内の選手であった。当協会会員の中に朝日生命勤務の方がいて、このような豪華なメンバーによる講習会の機会を作ってもらったと思うが、事前の宣伝も功を奏し、120人もの受講者が楽しく指導を受けていた。



朝日生命テニス教室

＜ウインザーテニス後援講習会＞ 昭和60年頃の北海道テニス協会副会長は衆議院議員の中川昭一氏であった。東大時代からテニスをされており、国会議員をしながら暇を見つけては議員仲間や皇族の方などもテニスをされていたそうだ。選挙区は十勝なのでオホーツク圏は票田ではないが、新宿の大手スポーツ店であるウインザーテニス(株)との共催での親睦大会と講習会を開催してもらった。講習会講師は全日本のランカーであった田辺兄弟で、中川氏に同行してきて指導してくれた。平成2年から数回開催したのだが大会記録は残っていない。雨で大会ができなかったが、北見工大の体育館を借りて交流試合をしたこともあった。また、前日雨が激しかったので、あきらめて飲みすぎた中川氏であったが、翌日のコート整備に驚きながら親睦試合を楽しんでいた。懇親会を開催したこともある。ここでは普段聞けないようなオフレコに近い政治や皇室の裏話もされており、豪華景品よりその方が思い出深い。中川氏は、財務大臣や農林水産大臣なども歴任され、将来の総理候補でもあったようだが、残念ながら、平成21年に心筋梗塞で帰らぬ人となった。



前列左3人目が中川氏、4、5人目が田辺兄弟

＜NTT後援講習会＞ 北海道にはテニスの実業団チームが何社かあるが、NTT北海道が活躍していた。会社が社会貢献事業としてコーチの派遣を行っていることがわかり、札幌に転勤した当協会員を通して講習会の開催をお願いした。ナイターでの講習会や女性向けの講習会を2回開催してもらった。

＜東急デパート後援講習会＞ 北見唯一のデパートである東急デパートが平成4年に開店10周年を迎え、それを記念して東急レディーステニス大会を開催してくれることになった。道内で3か所目になるが、それに合わせてテニスクリニックも計画してもらった。講師は岡川恵美子さんで、昭和57年、平成2年に全日本テニス選手権で優勝しており、ATPツアーにも参戦しているトッププレーヤーであった。全日本Jr監督の松原さんも同行されており、2人に指導してもらった。この大会に合わせて岡川プロは3度足を運んでくれており、暑い東京を離れられるので楽しみにしていたようだ。また、当協会30周年記念の講習会にも来てもらったので、都合4回の来北になり、最も多く北見に来られたプロ選手である。

＜自主開催講習会＞ 平成13年から網走テニス協会が賞金の付いたオホーツクオープンテニス大会を開催することになり、日本のトップクラスの選手が参加していた。その一人に平成3年、4年の全日本選手権覇者の山本氏がいた。網走協会から山本氏との講習会開催の打診があり、平成16年に北見でも実現している。さらに、平成20、21年にも来てもらっているが、ジュニアの指導で活躍している福永氏を同行されており、ジュニアや一般を対象に熱心に指導されていた。

北見に大手のスポーツ店が進出してきたため、地元のスポーツ店はその影響を受け、プロ選手による講習会の後援が難しくなった。そんな状況であったが、平成19年に当協会が創立30周年を迎えるので、その記念事業の一つとしてプロ選手による講習会を企画した。これまでのつながりの強い岡川プロにお願いして4人の方に来てもらっている。岡川さんをはじめとして、皆さん日本のランキング上位の方で、4大大会にも参戦した選手である。特に平木理化さんは平成9年の全仏混合ダブルスで優勝するなど、ダブルスのトッププレーヤーである。基本的な講習の他、4人による模範試合や受講者との交流試合なども行ってもらった。

網走・北見テニス協会「山本育史プロのテニス教室」

網走テニス協会と北見テニス協会では、7月4日(金)・5日(土)の2日間北見は5日のあ、網走スポーツ・トレーニングフィールド(網走市畔心)と東陵運動公園の両会場で山本育史プロのテニス教室を開催したい。ま初級者から上級者まで参加者を募集中です。

山本プロは'91(92)全日本選手権を2連覇した後'91・'95までデビスカップ日本代表として、松岡修造選手とともに日本チームを支えた一人でもあります。

網走でのテニス教室は4日(金)午後1時30分～3時と5日(土)午後2時30分～4時の2回(北見では5日(土)午前9時～正午の1回)行われ、初心者から上級者に分かれて、直接山本育史プロから指導してもらえます。

参加ご希望の方は、網走は当日直接会場での受付、北見は事前にコートハウスの申込書に記入受付となります。参加料は無料ですが、網走で参加する場合はコート使用料3700円が必要です。

プロの指導を直接受けあめつたに無い機会なので、ぜひプロのテニスレッスンに参加してみたいかと思いますが、お問い合わせ

網走テニス協会
(協会の事務局は分庁内)
TEL.0152-43-8450(昼間)

北見テニス協会
TEL.090-6447-7700(携帯)

山本育史プロの講習会



左から吉田、岡川、宮内、平木プロ

＜体育協会等との共催講習会＞ 当協会主催の室内講習会は協会指導員が毎年行っているが、プロの指導者をお願いしたことがなかった。北見市体育協会が講師を招いての講習会を支援していることがわかり、著名な指導者である小浦武志氏にお願いをして冬季の室内講習会を企画した。小浦氏は伊達公子さんをジュニア時代から育てた方として有名であり、また、キッズテニスの発案者でもある。幸い、3年間続けて補助事業に採択してもらい、高校生の上級者に対する練習方法の指導とか、指導者層のコーチング方法などについて指導を受けた。

最近の講習会であるが、平成27年12月に道立体育館をテニスの日として1日開放してくるようになった。急なことであったが、強化普及部と検討し、ジュニア講習会を開催することにした。早速、北海道テニス協会にコーチの推薦をお願いしたところ、北広島市で「テニスPOTA」を運営されている長谷川洋一郎氏の推薦があった。長谷川氏は大学時代はインカレでも活躍した方であるが、北海道に戻ってジュ

ニア等の指導に取り組んでいる。当日は、小中学生の部と高校生の部に分けて指導いただいたが、北海道メディカル・スポーツ専門学校の講師の方を同行され、コート3面を使ってフィジカル面とテクニカル面の指導をユーモアを交えながら、しかし厳しく教えていただいた。受講者の好感度も高かったことから、平成28年の北見市体育協会の補助事業に申請し、砂入り人工芝コート改修記念テニス教室として採択してもらった。前日は一部の方に指導方法の基礎を教えてもらい、翌日の球出しなどの補助に当たってもらった。当日は北見入りした北海道メディカル・スポーツ専門学校の講師と学生数名がきめ細かなフィジカルトレーニングを実施し、7面を使っての指導は見事であり、満足度も高かったと思う。



長谷川洋一郎氏による練習方法の指導

当協会の講習会に来北されたプロの選手など

年度	外部からの講師氏名
昭52年	道テニス協会指導者による講習会（葛岡、渡辺、八木、本田、芹沢）
昭53年	北村元延プロ講習会（カワサキ）、道テニス協会講習会（小山昇、沢田久美子）
昭54年	蝶間林利男（デ杯コーチ）ダンロップテニス教室、九鬼潤プロ講習会（美津濃）
昭55年	朝日生命テニススクール（内山悦男、細野明角、川口晶、横澤重信、鷺田則之）
昭56年	加藤幸雄プロ講習会（美津濃）、蝶間林利男（デ杯コーチ）ダンロップテニス教室
昭57年	九鬼潤プロ講習会（美津濃）
昭59年	蝶間林利男（デ杯コーチ）、熊本昌宏（ダンロップテニス）
昭62年	古橋富美子、加藤幸夫（美津濃）プロテニス教室
昭63年	加藤幸夫プロ講習会（美津濃）
平2年	田辺清、正兄弟によるプロテニス教室
平3年	田辺清、正兄弟によるプロテニス教室
平4年	高木氏（NTT）、小原氏（NTT）のナイターテニス講習会 岡川恵美子プロ（東急）、松原慶子（全日本Jr監督）テニス教室
平5年	辻氏（NTT）、宮尾氏（名古屋）のナイターテニス講習会
平7年	岡川恵美子、野村勉（東急）プロテニス教室
平8年	岡川恵美子、野村勉（東急）プロテニス教室
平10年	東急レディーステニス教室
平15年	ルール講習会（JTA 姫井義也）
平16年	山本育史（ダイワ精工）講習会
平18年	田辺、溝口プロによるマナーキッズテニス教室
平19年	30周年記念プロテニス講習会（平木理化、岡川恵美子、吉田友佳、宮内美澄）
平20年	山本育史（プリンス）講習会、福永二郎（アメアスポーツ）講習会
平21年	山本育史（プリンス）講習会、福永二郎（アメアスポーツ）講習会
平22年	小浦武志テニス講習会
平23年	小浦武志テニス講習会
平24年	小浦武志テニス講習会
平27年	長谷川洋一郎ジュニアテニス講習会
平28年	長谷川洋一郎テニス講習会

9-2 会員交流行事

テニスコートで汗を流しているのは、健康のためとか仲間との交流を深めるためといった方が多いと思うが、やはり試合を通して一球一打に歓喜するためでもある。初心者とか体力に自信がなくなった人など、ポイントの対象となる公式の試合に出るのにためらいがある人でも、気楽に参加できるよう企画したのが

お楽しみテニス大会やクラブ対抗戦である。

1) お楽しみテニス大会

協会が設立された翌年からコート開き、コート納めと併せて、親睦を兼ねた紅白戦が行われていた。抽選で紅組と白組に分かれ、主将はペアやオーダーを考えて対戦に臨み、勝敗数で勝組を決める。勝組には賞品が当たったと思うが定かではない。紅白戦の夜には懇親会を行って交流を深めていた時期もあった。

お楽しみ大会となったのは平成7年からで、女子連がやっていた「お楽しみ女性テニス大会」を見習って、紅白戦とは別に夏と秋に行っていた。当初は個人戦で、Bクラス及びCクラス、壮年、混合のダブルスで一般大会と同様に優勝者を決めていた。もっと幅広く参加してもらえるようにするために、平成16年頃から夏はチーム戦に変更している。なお、秋は混合ダブルス戦を実施していた時期もあったが、夏と同様の形になったのは10年前くらいからのようだ。

現在は、春のコート開きに併せて行われる「テニスフェスティバル&お楽しみ大会」が最初である。この大会には会員外も参加ができ、しかも入会する場合は入会金が無料となる特典付きである。毎年数10名が参加しているが、簡単な講習会を行った後に、初級、中級、上級にクラスを分けてチーム戦を行っている。クラスは自己申告を尊重し、男女関係なしのダブルスの対抗戦となる。参加費無料で、豪華(?)賞品もあたるので参加者も多いようだ。平成28年のこの催しでは、砂入り人工芝コート全面改修を記念して、札幌からプロの指導者である長谷川洋一郎氏を招き、フィジカルトレーニングやテニスの基本的練習方法を学んだり、試合での戦略などについて指導してもらった。

秋のお楽しみ大会は「テニスの日記念お楽しみテニス大会」になる。平成10年に日本テニス協会がテニスの普及のために設けた記念日で、9月23日の秋分の日に全国のテニス協会でも普及活動を行うことになった。当協会もその趣旨に賛同してお楽しみ大会を開催している。混合ダブルス戦を行ったときもあったが、現在はチーム戦になっている。チームメンバーは当日発表され、老若男女入り乱れたペアでのチーム戦であり、名前も知らない者同士がペアを組むなど、良い親睦の機会になっている。もちろん、お弁当も用意されており、全員に賞品が当たる。

最後のお楽しみ大会はコート納めの前週に行われる「紅白・納会テニス大会」である。個人で申し込みができ、先のテニスの記念日と同様、にわかチームを作りじゃんけんでペアを決めるなど、まさに親睦のための大会と言える。順位は決めるが、優勝したチームが良い賞品をもらえる訳ではなく、選択の優先権があるだけなので、賞品袋を開けるまで勝負が続く。11月3日の休日に開催することが多いが、なんと、平成28年は午後から雪になり、当協会初の雪中テニス大会となった。コートも真っ白になったが、ボールも白く見え、雪合戦のようだった。北見の初雪の時期としては異例の早さであるが、その後に降った雪が30cmを超えており、まさに異常な大雪だった。



◆日時	平成29年5月3日(水)午前9:00~正午 受付 午前8:30~8:50までに済ませて下さい。 ※悪天候時は中止になります。
◆場所	北見市東陵運動公園硬式テニスコート (北見市東陵前27)
◆参加対象	テニス協会員、会員外、高校生(1年生のみ) 硬式テニスを始めてみたい方や、テニス仲間を探している方。 ※幼児、小学生、中学生、高校2・3年生の方は参加できませんのでご了承下さい。
◆持ち物	テニスラケット(貸し出し用あります) 運動靴、運動に適した服装。
◆申し込み	当日会場にて受け付けします。
◆その他	北見テニス協会会員募集! 年会費5,000円 ※当日入会の方は入会金1,000円免除!の特典があります。 開催中の事故、怪我等につきましても一切の責任を負い兼ねますのでご了承下さい。
◆問合せ先	北見テニス協会企画部 高橋 (090-5228-1437)



テニスフェスティバルの募集と指導風景(2017.5.3)



雪の中の紅白・納会試合

2) クラブ対抗戦

協会が設立された年から職域・職場対抗戦が開催されている。当時副会長であった鎌田氏（北見塗装社長）、大野氏（北見工大教授）、泉氏（北糖所長）の3氏から優勝旗の寄贈を受け、優勝旗争奪戦としてスタートした。しかし、職場・職域と限定すると参加にためらいのあるチームもあり、昭和59年からはクラブ対抗戦となり、主として団体登録したグループでチームを作って参加している。平成6年くらいまでは議案書に記録が残っており、北見工大チームとグランドスラムチームの優勝回数が際立っていた。しかし、このころからスポンサー付きの大会が増え、日程に余裕がなくなったためか平成8、9年には開催されていない。

平成10年のテニスの日に再開され現在も継続しているが、今では当協会行事の中で最も参加者の多い交流大会となっている。そのきっかけは、お昼に焼肉パーティーをするようになってからではないかと思う。公園内は火気厳禁なので、温水プール裏の温水パネルの隙間を利用して10数チーム、100人近い仲間が焼肉を突っついてた。煙が舞いあがり、笑い声の絶えない楽しい時間であった。平成27年に温水プールの取り壊しによって焼肉ができなくなったが、参加チームは減ることがなく、優勝チームに与えられるビールなどを目標して激しい応援合戦が繰り広げられている。



初期のクラブ対抗戦パンフ



焼肉パーティーで一段と盛り上がる

温水プールの取り壊しによって焼肉ができなくなったが、参加チームは減ることがなく、優勝チームに与えられるビールなどを目標して激しい応援合戦が繰り広げられている。

3) 忘年会

もう一つの会員交流の場は忘年会である。協会設立時は参加者も多く、ホテルで実施したり、ボーリング大会の後に رفتりしたこともあった。テニスコートでは利用時間帯が違ってたり、大会に出ることがない人なども忘年会に参加していて、いろいろな人と交流できる機会になっている。ただ、職場などの忘年会を優先するため、参加者が少なくなっているのは残念なことである。担当者がいろいろ工夫してくれており、ビンゴゲームやくじ引き、あるいはじゃんけん大会などで皆さんに素敵なプレゼントを用意してくれている。ぜひ、多くの方に参加してもらいたい。



平成28年忘年会と豪華賞品

10. 都市対抗テニス大会

当協会が選手団を編成して派遣している対外試合には、北海道都市対抗テニス大会と道東都市対抗（後に北北海道都市対抗と改称）テニス大会がある。これらの大会の概要を以下にまとめてみた。

10-1 北海道都市対抗テニス大会

北海道都市対抗テニス大会へは、当協会が設立された昭和52年に札幌市で開催された第28回大会から出場している。この頃の大会はAクラス男子チーム、Bクラス男子チーム、女子チームで参加できる制度で、北見市はBクラス男子チーム（男子ダブルス3ペア：斉木、佐々木、岡、常本、伊東、鶴原）のみで出場した。戦績は小樽市・留萌市・北見市の3都市からなるブロックリーグ戦で留萌市には3勝したものの、小樽市には競り負け、ブロック2位となって決勝リーグに駒を進めることはできなかった。しかし、昭和52年1月末に設立総会を終えたばかりで、コート条件なども整っていない中、5月末の大会へ選手団を派遣し、しっかりと戦績を残していることは驚くばかりである。昭和53年の第29回大会は函館市での開催で、遠距離であったためであろうか欠場しているが、第30回以降の大会へは継続して選手団を派遣している。

<1部都市への挑戦> 大会参加都市が増えたことから、昭和55年の第31回大会からは1部都市と2部都市に分かれての対戦となった。また、1部最下位都市と2部優勝都市が翌年入れ替わるという方式になった。この第31回大会では2部に出場した北見市は室蘭市に次いで2位であったが、事前の北海道協会の説明が不明瞭で混乱があった。我々は2部上位2都市が1部下位2都市と入れ替わるものと理解していて、翌年は1部昇格と大喜びした。しかし、1部-2部の入れ替えは1都市のみという通知があり、北海道協会とずいぶん熱いやり取りをした。結局1部への昇格は叶わず昭和56年の第32回大会は2部出場となった。しかし、第32回大会では前年の悔しい思いが力となって2部優勝を果たし、昭和57年の第33回大会では1部で出場できた。その後、惜しくも2部降格となってもすぐに1部へ返り咲く状況を14年間続け、エスカレーター都市と言われたこともあったが、それだけにエピソードも多い。岡会長の紹介のところでも触れたが、翌日の対戦相手を甘く見て、前夜祭で飲みすぎ1部昇格を逃した第35回函館大会、また、帯広での第37回大会ではオーダーミスにより、ブロック最下位になり1部残留は難しいと思われた。ところが、翌日の最下位決定戦で強豪小樽市を破って、土俵際から1部残留を決めた。

40回の参加の中での最高順位は全道3位である。平成3年の第42回大会では岡氏が病気治療中で戦力的に厳しかと思ったが、ブロックでは旭川に負け2位となったものの、順位決定戦では千歳に勝ち3位



地獄と天国を経験した昭和61年帯広大会



全道第3位となった平成3年の大会

となった。一方、最も厳しかったのは第55回旭川大会である。4部に降格してしまい1部を目指した挑戦が始まった。会報58号に監督福田氏が顛末記を載せているが、留萌との決勝戦を4対1で快勝し、胸をなでおろしたようだ。このように大会では一喜一憂を経験しているが、レセプションになると、北見はいつもブレイクして会場を盛り上げていた。

1部の対戦は一般男子ダブルス4ペア、45歳以上男子ダブルス1ペア、一般女子ダブルス2ペアで勝ち抜く必要があり、選手層が十分ではない状況にありながらも、全道レベルの大会で上位の戦績を残す選手

を数多く擁する道央の都市と互角に戦っていたと評価できよう。なお、現在の1部対戦は、一般男子2ペア、一般女子2ペア、45歳以上男子1ペア、45歳以上女子1ペア、55歳以上男子1ペアとなっており、高齢化に対応したチーム編成となるが、北見に有利かどうか一度挑戦したいものだ。

23日曜日、優勝決定戦において、留萌市と対戦し、4-1で快勝し、4部優勝を果たすことができました。数年前までは、1部・2部で出場していたことを考えると4部優勝で喜んでいる訳にはいきませんが、今年の最低限の義務は果たしてきたかなというのが実感です。



至らない監督ではありましたが、今回の優勝は、選手の皆様それぞれのがんばりと北見市の固い団結及び降雨によるゲーム縮小という運も味方していたかもしれません。今後、来年(帯広市)での2部昇格を新たな目標として強化練習や若手の育成などを図っていきたいと思います。最後になりましたが、大会に送り出してくれました協会役員に皆様や強化練習で協力いただいた協会の皆さん、及び旭川まで応援に駆けつけてくれた方々に厚くお礼申し上げますと共に深く感謝申し上げます、大会結果報告といたします。

選手みんな、ほんとお疲れ様でした。
(強化部 福田 哲也)



4部での厳しい戦いが会報に載る

<派遣選手層> 協会設立当初より、北海道都市対抗大会への派遣選手になることは憧れであった。これらの人は技術力・競技力が優れ、協会内の大会で常に上位の戦績を残していることだけではなく、シーズン初めのコート造成、シーズン中の大会運営や講習会などにも快く応じてくれた方でもあった。当時は講習会への参加者が早朝、ナイターを問わず50～100人の規模で、3～4面のコートを使用しての講習会を開催していた。ボール出しなどには派遣選手が総出で、ボランティアで担っていた。派遣選手は対戦や強化練習を通じて得た技術やちょっとしたコツを伝えようと一生懸命であったし、受講者もそれらを会得しようと熱心で、協会全体として「会員の良い関係」が底流にあったように思われる。

平成11年の第50回大会では残念ながら1部最下位となり、翌年の大会以降2部や3部での出場が続いている。これにはさまざまな要因が挙げられようが、派遣選手確保という面では①転勤してきた選手に頼ることが大で、転入時には戦力アップもあるが、数年後の転出による戦力ダウンが不可避である、②転勤してきた選手も4月に移動してきて5月下旬に休暇を取っての出場が難しい、③大会日程が市内小学校の運動会と重なっている、などがある。昨今はどの都市も、とくに地方の市町村にあっては協会会員の減少、協会運営の弱体化、選手の高齢化などで出場が困難になってきているようであるが、当協会にあっては出場のメリットを今一度確認し合い、1部での対戦へと飛躍できるよう期待している。

<全道大会の開催> 北海道都市対抗テニス大会については出場だけでなく、「3-3 創立20年～30年の概要」でも記しているように、平成12年の第51回大会の北見市・網走市開催が思い起こされる。前年の第50回大会時に選手団とともに視察員も派遣して大会運営方法を確認したり、逆に北見へ北海道協会から役員やレフェリーに来ていただいて細部(例えば、ネットの下に隙間ができないようにセンターストラップを留めるなども)を打ち合わせしたりしながら準備をし、北見市と網走市の両コートでの大会であることから60人を超える実働役員を当協会の会員の方々に担っていただいて開催を支えてもらった。参加都市4都市、参加選手は約800人となり、5月26日:代表者会議(道立北見体育センター1階講堂)、5月27日:1部～3部ブロックリーグ戦(北見市東陵運動公園テニスコート)、4部・5部ブロックリーグ戦(網走市スポーツトレーニングフィールドテニスコート)、開会式・懇親会(オホーツクピアファクトリー)、5月28日:順位決定戦(北見市東陵運動公園テニスコート)、閉会式をやり遂げた。この大会成功は、

懇親会ではいつも元気いっぱい



前日のキャプテン会議(中央宮野さん)



北見の応援風景(お揃いのユニフォームで)

集う会員と協会の運営体制が全道でもトップクラスであることを示していると言っても過言ではないと今でも思っている。また、この時の大会プログラムには会員の愛犬も応援している微笑ましいページ（掲載は有料だった）も設けられ、これは後の他都市の大会でも取り入れられたように記憶している。

10-2 道東都市対抗テニス大会・北北海道都市対抗テニス大会

＜参加都市の拡大＞ 網走市では北見市よりも早く、開発局などへの転勤者を中心に網走テニス協会が活動しており、昭和50年頃、北見工業大学や北海道糖業㈱の方々に交流試合の申し入れや大会へのお誘いがあった。それらが昭和52年1月の北見での協会創立の契機となったが、この交流試合の輪を広げ、昭和56年7月12日、北見市、網走市、釧路市そして中標津町の代表選手が網走市に集って第1回道東都市対抗（道東4都市対抗と称していた）テニス大会が開催された。昭和62年の第6回大会から紋別市が加わって5都市対抗となり、開催地も5都市の持ち回りとなったが、紋別だと釧路圏からの移動が大変なので、結局、北見、網走、釧路でローテーションすることになった。

オホーツク圏においても硬式テニス協会の設立が進み、道東都市対抗テニス大会への参加希望も増え、斜里町、美幌町、小清水町、遠軽町、女満別町（大空町）、別海町、根室市、佐呂間町、弟子屈町など近隣市町の協会が参加するようになった。さらに、十勝地区からの参加希望もあり、運営上の都合もあって、平成18年の第23回大会からは北北海道都市対抗テニス大会と改称し、最近では11の都市・チームの対戦となっている。なお、平成15年の20回大会は北見で開催したが、夜の懇親会も開催しており、遠くの市町村の方は一泊されたようだ。

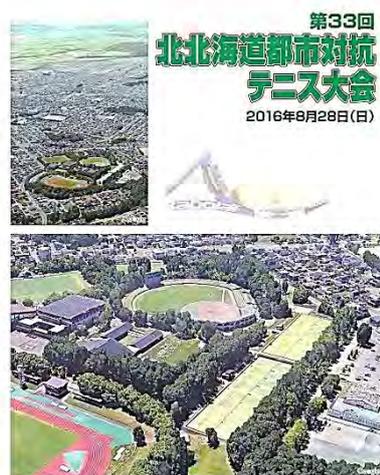
＜対戦成績＞ この大会の戦績は第1回大会から平成8年の第14回大会まで北見Aチームが連続優勝を記録している。しかし、北海道都市対抗テニス大会でも1部から2部へ降格となり、その中での対戦成績も厳しい状況になっており、また、残念ながらこの大会でも優勝から遠ざかるようになった。北海道都市対抗テニス大会への出場も含めて、協会の若手強化について派遣選手の意見も聞きながら再検討する必要があるようだ。

＜試合形式など＞ 本大会は、当初男子4ペア、女子3ペアでの対戦だったため、小さな都市では選手がそろわないことから他都市に助っ人をお願いすることがあった。現在は男子3ペア、女子2ペアの対戦となったが、都市間の懇親の機会でもあり、今でも選手資格には柔軟な対応をしている。大会要項を見ると、大学生は認めていないが、地区協会会員と関連のある方は認めている。また、平成4年の第10回大会からは選手の強化育成もあって1都市2チームの出場も可能としたり、平成16年から平成22年までは、1部と2部にクラス分けしたこともある。現在は、開催都市は2チーム登録できるようにしているが、2部制については意見が分かれていて採用していない。

それにしても雨に見舞われる大会で、これまで雨で3回中止となっており、雨の中で試合をしたことも何度かあった。平成24年の北見での大会では、美幌と北見の決勝戦は雨の中で行われ、雨のためか、助っ人が強すぎたのか、美幌に負けて準優勝であった。平成28年、29年は北見開催であったが、平成28年も雨で一時的に中断している。当番都市の大会運営委員の方は、朝の5時の時点で実施か中止の連絡をしなければならないので、毎年天気予報と睨めっこしながら頭を痛めることが多い。



円陣を組む平成28年チーム



（会場）北見市東陸運動公園テニスコート
（主催）北見テニス協会
（後援）北見市 北見市教育委員会 北見市体育協会

平成28年プログラム
（伊藤直人氏デザイン）

全道都市対抗、北北海道都市対抗での戦績一覧

北海道都市対抗テニス大会

回数	年度	開催都市	1部	2部	3部	4部
第28回	昭52年	札幌		2位		
第29回	昭53年	函館	欠場			
第30回	昭54年	小樽		3位		
第31回	昭55年	帯広		2位		
第32回	昭56年	旭川		優勝		
第33回	昭57年	札幌	6位			
第34回	昭58年	千歳	8位			
第35回	昭59年	函館		2位		
第36回	昭60年	小樽		優勝		
第37回	昭61年	帯広	7位			
第38回	昭62年	旭川	7位			
第39回	昭63年	江別	4位			
第40回	平元年	旭川	4位			
第41回	平2年	江別	7位			
第42回	平3年	江別	3位			
第43回	平4年	江別	6位			
第44回	平5年	旭川	8位			
第45回	平6年	江別		優勝		
第46回	平7年	江別	8位			
第47回	平8年	江別		3位		
第48回	平9年	旭川		5位		
第49回	平10年	苫小牧		優勝		
第50回	平11年	江別	8位			
第51回	平12年	北見		3位		
第52回	平13年	帯広		4位		
第53回	平14年	札幌		7位		
第54回	平15年	札幌			7位	
第55回	平16年	旭川				優勝
第56回	平17年	帯広			6位	
第57回	平18年	札幌			優勝	
第58回	平19年	札幌		8位		
第59回	平20年	札幌			優勝	
第60回	平21年	札幌		8位		
第61回	平22年	札幌			3位	
第62回	平23年	帯広			2位	
第63回	平24年	旭川		6位		
第64回	平25年	江別		7位		
第65回	平26年	江別		4位		
第66回	平27年	旭川		6位		
第67回	平28年	江別		5位		

道東都市対抗及び北北海道都市対抗テニス大会

回数	年度	主管都市	北見A	北見B	都市数
第1回	昭56年	網走	優勝		4
第2回	昭57年	北見	優勝		4
	昭58年	雨天中止			
第3回	昭59年	釧路	優勝		4
第4回	昭60年	中標津	優勝		4
第5回	昭61年	網走	優勝		4
第6回	昭62年	北見	優勝		5
第7回	昭63年	釧路	優勝		5
第8回	平元年	紋別	優勝		5
	平2年	雨天中止			
第9回	平3年	中標津	優勝		5
第10回	平4年	網走	優勝	4位	8
第11回	平5年	北見	優勝		9
第12回	平6年	釧路	優勝		9
第13回	平7年	網走	優勝	3位	8
第14回	平8年	北見	優勝	7位	10
第15回	平9年	釧路	2位		9
	平10年	雨天中止			
第16回	平11年	網走	2位		
第17回	平12年	北見	2位		13
第18回	平13年	釧路	9位	10位	14
第19回	平14年	網走	5位	3位	14
第20回	平15年	北見	2位	7位	14
第21回	平16年	釧路	2位		8
第22回	平17年	網走	4位		9
第23回	平18年	北見	優勝		9
第24回	平19年	釧路	2位		12
第25回	平20年	網走	優勝		7
第26回	平21年	北見	2位		7
第27回	平22年	釧路	2位		7
第28回	平23年	網走	2位		9
第29回	平24年	北見	2位		11
第30回	平25年	釧路	4位		11
第31回	平26年	網走	3位		11
第32回	平27年	釧路	2位		11
第33回	平28年	北見	2位	6位	11



平成12年全道大会 山田専務の音頭で乾杯



平成29年全道大会、2部で準優勝のメンバー

1 1. 北見テニス協会主催大会

1 1-1 春季北見選手権テニス大会

長い冬が終わりテニスシーズンの到来を告げる春一番の大会である。第1回目と2回目は春季北見庭球選手権として、塩田杯(男女S)、鎌田杯(壮年S)、北見市杯(男女D)が同時に開催されている。参加者が多かったため、第3回大会からは北見市杯(男女D)を別日程で開催するようになった。

当初塩田杯は一般男女シングルスだけであったが、平成21年からはB級男女シングルスが加わった。鎌田杯も当初は参加者も多かったが、最近では大会が不成立になることがある。男子に加え、女子のベテランにも枠を広げているので、参加者が増えることを願っている。雨天での中止が一度あるが、40回続いている協会の主要な大会である。

塩田杯、鎌田杯と個人の名前の付いた大会であり、お二人について簡単に紹介したい。北見工大の教員であった塩田衍氏は、北見工大赴任間もなく、学内にテニス同好会を作り、その仲間を中心に北見テニス協会を設立するために奔走された。まさに、協会設立の立役者であり、北海道糖業の協力も得、軟式との調整などを進め、昭和52年1月には設立総会を開催し、協会を誕生させてくれた。残念ながら、その直後の3月に心筋梗塞を患い32歳の若さで他界された。その功績に報いるため、ご家族の了解を得て大会名に残すこととした。

鎌田正甫氏であるが、若いころに硬式テニスをされた経験があり、北見市に硬式テニス協会ができることを熱望していた一人である。北見塗装(株)を経営されており、会社の入り口には北見ローンテニス協会と書いた看板があったと聞いている。協会設立に向け、会員拡大や印刷関連のお世話をボランティアで請け負っていただいた。当時で70歳を超えていたかと思うが、最長老でしかも影の協会設立者でもあり、敬意を表して壮年の大会に名前を残した。

市営テニスコート完成記念

第1回 春季北見選手権大会



昭和52年6月13日

北見テニス協会

第1回春季選手権大会のパンフ

春季北見選手権(塩田杯、鎌田杯)戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	昭52年	一般男子	小林 久人	常本 秀幸	岡 宏	32
		一般女子	伊藤 信子	森谷久美子	河合 貞子	16
		壮年	泉 近	鎌田 正甫	本間 恒行	7
第2回	昭53年	一般男子	岡 宏	常本 秀幸	森 雅夫	45
		一般女子	伊藤 信子	新井 歌子	伊東 定子	17
		壮年	伊東 秀雄	平山 光茂	本間 恒行	8
第3回	昭54年	一般男子	岡 宏	常本 秀幸	伊東 秀雄	56
		一般女子	伊藤 信子	新井 歌子	宮澤由紀子	20
		壮年	平山 光茂	荒瀬 晃	大野 武敏	8
第4回	昭55年	一般男子	岡 宏	鶴原 幹也	前田 寛之	56
		一般女子	伊藤 信子	新井 歌子	内藤 郁子	12
		壮年	伊東 秀雄	荒瀬 晃	泉 近	6
第5回	昭56年	一般男子	岡 宏	枝川 滋	常本 秀幸	43
		一般女子	伊藤 信子	平野 容子	寺前 信子	18
		壮年	伊東 秀雄	新井 義夫	加藤	3
第6回	昭57年	一般男子	岡 宏	常本 秀幸	藤池 保夫	40
		一般女子	伊藤 信子	高木 厚子	伊東 定子	18
		壮年	鎌田 正甫	加藤		2
第7回	昭58年	一般男子	岡 宏	池端 治雄	常本 秀幸	58
		一般女子	伊藤 信子	小山田博子	伊東 定子	19
		壮年	新井 義夫	鎌田 正甫		2
第8回	昭59年	一般男子	常本 秀幸	尾花 仁康	岡 宏	50
		一般女子	伊藤 信子	石川優美子	荒瀬 拓代	22

第9回	昭60年	一般男子	岡 宏	源 和雄	長谷川智仁	39
		一般女子	森 幸子	信太 寿子	加藤 幸子	14
第10回	昭61年	一般男子	長谷川智仁	皆川 正広	岡 宏	32
		一般女子	信田 寿子	金一きみ子	山野 郁恵	15
		壮年	高谷 俊光	伊東 秀雄	厚谷 郁夫	4
第11回	昭62年	一般男子	長谷川智仁	皆川 正広	岡 宏	24
		一般女子	信太 寿子	矢俊八重子	五十田順子	16
第12回	昭63年	一般男子	長谷川智仁	十田 雅人	岡 宏	23
		一般女子	皆川 縁	山野 郁恵	高橋 香織	8
第13回	平元年	一般男子	渡辺 次彦	町田 求	伊藤 直人	25
		一般女子	五十田順子	山野 郁恵	新里 順子	16
第14回	平2年	一般男子	皆川 正広	長谷川智仁	十田 雅人	34
		一般女子	山野 郁恵	長谷川香織	下田 幸江	14
第15回	平3年	一般男子	皆川 正広	長谷川智仁	十田 雅人	31
		一般女子	皆川 縁	柴崎紀美子	山野 郁恵	16
第16回	平4年	一般男子	皆川 正広	十田 雅人	湯浅 健司	27
		一般女子	皆川 縁	山野 郁恵	下田 幸江	17
		壮年	田崎 純	信太 寿雄	宮下 忠	4
第17回	平5年	一般男子	十田 雅人	湯浅 健司	高谷 俊光	17
		一般女子	山野 郁恵	皆川 縁	三原 一美	16
第18回	平6年	一般男子	坂本 一	皆川 正広	中野誠二郎	42
		一般女子	三原 一美	皆川 縁	山野 郁恵	22
第19回	平7年	一般男子	皆川 正広	長谷川智仁	柴野 貴聡	16
		一般女子	長 由美子	三原 一美	山野 郁恵	7
第20回	平8年	雨天中止				
第21回	平9年	一般男子	永山 誠	脇 伸一	高谷 俊光	9
第22回	平10年	一般男子	脇 伸一	永山 誠	望月 剛	17
		一般女子	三原 一美	芳形 可奈	宮田 雅代	12
第23回	平11年	一般男子	長谷川智仁	永山 誠	湯浅 健司	8
		一般女子	三原 一美	芳形 可奈	高橋真由美	14
		壮年	高谷 俊光	川森 勉	山田 孝一	6
第24回	平12年	一般男子	江間 修	皆川 正広	林 吾朗	14
		一般女子	高橋真由美	松浦 綾乃	鶴田 直子	18
第25回	平13年	一般男子	永嶋 秀樹	林 吾朗	永山 誠	19
		一般女子	三原 一美	中川美奈子	渋谷由紀子	12
		壮年	伊藤 陽司	山田 孝一	山口 茂利	4
		4.5歳女子	高橋真由美	幡鎌満里子	矢代 千春	4
第26回	平14年	一般男子	永山 誠	北野 宏幸	伊藤 陽司	17
		一般女子	三原 一美	高橋真由美	永山 恭子	15
第27回	平15年	一般男子	永山 誠	中島 鉄男	宮城 雅章	17
		一般女子	岩原 裕美	脇 優子	和田喜代子	11
第28回	平16年	一般男子	山原 光広	内田 雅人	妹尾 一誠	14
		一般女子	脇 優子	木谷二三代	堀尾恵美子	7
第29回	平17年	一般男子	長谷川智仁	宮城 雅章	藤木 敏也	32
		一般女子	長谷川一美	永山 恭子	脇 優子	7
第30回	平18年	一般男子	長谷川智仁	脇 伸一	亀山 大貴	22
		一般女子	長谷川一美	永山 恭子	植松 美保	7
第31回	平19年	一般男子	村上 慎一	長谷川智仁	皆川 正広	24
		一般女子	村上 香	長谷川一美	堀尾恵美子	10
第32回	平20年	一般男子	村上 慎一	長谷川智仁	山原 光広	17
		一般女子	長谷川一美	鈴木 結華	下司 知世	8
		壮年	山田 孝一	尾藤 清光	前田 寛人	3
第33回	平21年	一般男子	村上 慎一	杉本 嘉久	徳田 奨	5
		B級男子	福島 直宏	斎藤 英彰	宮澤 航太	7
		壮年	宮城 雅章	北野 宏幸	小林 隆	3
第34回	平22年	一般男子	村上 慎一	長谷川智仁	杉本 嘉久	9
		B級男子	山田 孝一	上地 直昭	福島 直宏	9
		B級女子	脇 優子	渡辺 総	松井 知佳	3
第35回	平23年	一般女子	長谷川一美	脇 優子	越田 菜月	3
		B級男子	平井 久文	上地 直昭	内田 雅人	7
		壮年	児玉 忠司	山田 孝一	斎藤 勇	3
第36回	平24年	一般男子	玉井 啓博	長谷川智仁	日下部 隆	13

		一般女子	長谷川一美	平野 晴菜		3
		B級男子	高橋 克己	松井 太	能谷 淳史	6
		B級女子	高橋 和	早坂 絵		4
		壮年	山田 孝一	児玉 忠司		4
第 37 回	平 25 年	一般男子	平野 拓馬	日下部 隆	竹口 尚孝	29
		一般女子	狩野 繁子	島宮 佳苗	樋口いづみ	5
		B級男子	菊地 亮	佐々木諒太	丸山 幸輝	16
		B級女子	安原 千尋	福士 陽子	赤澤 佑衣	5
		壮年	北野 宏幸			3
第 38 回	平 26 年	A級男子	平野 拓馬	柴田 大輔	藤井 満	27
		A級女子	樋口いづみ	狩野 繁子	三國谷真弓	6
		B級男子	徳岡 秀樹	澤野 勝三	高橋 皓也	15
第 39 回	平 27 年	A級男子	川浪 諒	武田 陸	関澤 佑介	17
		A級女子	小川 椎菜	青山 美幸	安原 千尋	5
		B級男子	後藤 範夫	島 一凱	児玉 忠司	13
		B級女子	鏡 凧紗	堰代 夏海		4
		ベテラン男子	杉本 嘉久	山田 孝一		4
第 40 回	平 28 年	A級男子	藤井 満	大石 将己	関澤 佑介	26
		A級女子	岡本 真理子	三國谷 真弓	久原 美那	5
		B級男子	前田 敏貴	山田 孝一	長澤 拓哉	13

11-2 北見市杯から阿部スポーツ杯、春季北見ダブルス大会、そしてスポーツピア杯へ

協会創立時に北見市より北見市杯を寄贈いただき、北見市杯争奪ダブルス大会の名称でこの大会はスタートし、11回まで続いた。寄贈していただいたカップはなくなったが、レプリカが残っていた。

その後、昭和63年に阿部スポーツ(株)からスポンサーの申し出があり、管内からの参加が可能な阿部スポーツ杯争奪ダブルス大会となった。

阿部スポーツ(株)は網走に本店があって、スポーツ全般を扱っている会社であった。北見店ではテニスにかなりのスペースを割り、普及にも取り組んでいただいた。当初は、現在駐車場になっているナップス付近にあったが、その後三輪町に移転、一時期、市内で一番大きなスポーツ店だったと思う。社員の中にもテニスの上手な人がいて、用具の選定でも適切なアドバイスをしてくれた。大きな優勝カップも寄贈いただき、優勝者にはレプリカが与えられた。

しかし、本州資本のスポーツ店が新店から勢いがなくなり、平成18年でスポンサーを下りられたので、その後、この大会は協会単独開催の春季北見ダブルス選手権として40周年を迎えている。なお、平成20年までは一般の男女ダブルスだけであったが、平成21年からB級男女ダブルスも加わり、参加者数も増え、平成24年の大会では136人が参加している。

この大会は名前が変わる大会である。現在東陵運動公園を管理している(株)スポーツピアからスポンサーの申し出があり、平成29年の40周年を記念して第1回スポーツピア杯ダブルス選手権大会として開催している。



北見ダブルス大会の
優勝レプリカ



阿部スポーツ杯のパンフレットと優勝カップ
(モデルは宮澤さんと脇氏)



北見市杯争奪ダブルス大会戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	昭52年	一般男子	岡・常本	小林・鶴原	岩原・角谷	34
		一般女子	森谷・伊藤	河合・和田	浦田・山崎	16
第2回	昭53年	一般男子	岡・森谷	池端・田中	常本・鈴木	52
		一般女子	伊東・新井	平山・小林	伊藤・宮沢	18
第3回	昭54年	一般男子	岡・千葉	大島・森谷	常本・小畑	56
		一般女子	伊藤・宮沢	新井・内藤	伊東・小林	20
第4回	昭55年	一般男子	岡・常本	鈴木・小畑	枝川・小幡	56
		一般女子	伊藤・田中	新井・伊藤	小林・内藤	16
第5回	昭56年	一般男子	岡・常本	枝川・小幡	池端・田中	54
		一般女子	伊藤・田中	新井・伊東	小山田・石川	22
第6回	昭57年	一般男子	岡・常本	大野・新田	奥屋・山内	50
		一般女子	小山田・石川	伊東・小林千	新井・内藤	16
第7回	昭58年	一般男子	岡・常本	池端・藤池	桂川・関村	36
		一般女子	小山田・石川	新井・伊東	小沢・菅原	18
第8回	昭59年	一般男子	岡・常本	池端・伊藤陽	源・町田	46
		一般女子	伊藤・石川	伊東・新井	小林・宮浦	26
第9回	昭60年	一般男子	池端・伊藤陽	岡・常本	源・町田	26
		一般女子	伊藤・石川	金一・森	小林・加藤	20
第10回	昭61年	一般男子	皆川・伊藤直	岡・常本	大島・伊藤陽	32
		一般女子	伊藤・石川	皆川・信太	新里・小林	22
第11回	昭62年	一般男子	岡・常本	湯浅・十田	岩橋・町田	24
		一般女子	石川・皆川	菅原・矢後	山野・五十田	14

阿部スポーツ杯争奪ダブルス大会戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	昭63年	一般男子	皆川・長谷川	湯浅・渡辺	岩橋・十田	40
		一般女子	石川・伊藤	皆川・高橋	五十田・山野	18
第2回	平元年	一般男子	町田・長谷川	皆川・渡辺	伊藤陽・岩橋	44
		一般女子	石川・五十田	皆川・長谷川	山野・樋口	28
第3回	平2年	一般男子	皆川・長谷川	湯浅・十田	菊池・岩原	34
		一般女子	石川・伊藤	五十田・柴崎	下田・山野	28
第4回	平3年	一般男子	湯浅・十田	皆川・平井	長谷川・町田	52
		一般女子	石川・伊藤	姫田・樋口	下田・山野	34
第5回	平4年	一般男子	湯浅・十田	町田・長谷川	中野・山田	42
		一般女子	石川・伊藤	山野・皆川	下田・姫田	30
第6回	平5年	一般男子	皆川・中野	十田・湯浅	長谷川・町田	30
		一般女子	石川・皆川	柴崎・渡辺	三原・五十田	20
第7回	平6年	一般男子	皆川・坂本	十田・湯浅	伊藤直・平田	38
		一般女子	石川・皆川	山野・渡部	三原・岩原	24
第8回	平7年	一般男子	湯浅・坂本	平田・伊藤直	永山・脇	36
		一般女子	山野・渡辺	石川・皆川	三原・長谷川	26
第9回	平8年	一般男子	皆川・坂本	湯浅・海野	山本・良知	22
		一般女子	山野・渡辺	皆川・石川	小野・高橋	16
第10回	平9年	一般男子	望月・前田	伊藤・海野	大島・伊藤	48
		一般女子	山野・渡辺	長・信太	古田・大桜	68
第11回	平10年	一般男子	皆川・坂本	長谷川・脇	伊藤・佐藤	64
		一般女子	石川・皆川	山野・渡辺	三原・佐藤	56
第12回	平11年	一般男子	坂本・福田	海野・津田	湯浅・伊藤	56
		一般女子	山野・渡辺	高橋・幡鎌	石川・岩原	60
第13回	平12年	一般男子	坂本・皆川	湯浅・伊藤	林・菊地	44
		一般女子	石川・皆川	山野・渡辺	高橋・幡鎌	44
第14回	平13年	一般男子	長谷川・海野	皆川・山本	菊地・林	32
		一般女子	三原・渋谷	高橋・岩原	荒井・菊谷	38
第15回	平14年	一般男子	皆川・山本	伊藤陽・田中	永山・脇	44
		一般女子	荒井・菊谷	渋谷・中川	高橋・松浦	26
第16回	平15年	一般男子	山本・鈴木	百々・伊藤	永山・脇	56
		一般女子	荒井・中川	高橋・古田	長谷川・渋谷	28
第17回	平16年	一般男子	永山・脇	北野・山原	今野・城崎	44
		一般女子	荒井・菊谷	中川・山野	長谷川・長橋	24

第18回	平17年	一般男子	北野・山原	今野・妹尾	永山・脇	80
		一般女子	荒井・和田	永山・北野	山野・渡辺	34

春季北見ダブルス選手権戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	平18年	一般男子	永山・郷久	福田・脇	北野・北原	42
		一般女子	荒井・山野	高橋・岩原	北野・中川	24
第2回	平19年	一般男子	田中・千代延	皆川・村上	仲原・荒木	34
		一般女子	和田・荒井	高橋・岩原	渡辺・佐藤	34
第3回	平20年	一般男子	村上・杉本	山原・奥野	脇・長谷川	38
		一般女子	山口・荒井	渡辺・長谷川	工藤・山地	36
第4回	平21年	一般男子	工藤・藤井	北野・山原	脇・長谷川	22
		一般女子	玉田・長谷川	工藤・岡本	宮澤・井上	18
		B級男子	横田・熊谷	佐藤・斉藤	前田・前田	8
		B級女子	佐川・篠木	橋本・大沢	吉田・森谷	14
第5回	平22年	一般男子	村上・山原	永山・脇	杉本・藤井	34
		一般女子	長谷川・樋口	宮澤・井上	高橋・小野	22
		B級男子	宮澤・堀内	林・鹿内	井上・越智	18
第6回	平23年	B級女子	成田・船橋	井上・松山	二神・平山	10
		一般男子	杉本・藤井	長谷川・脇	湯浅・寺田	36
		一般女子	高橋・小野	宮澤・井上	長谷川・樋口	34
第7回	平24年	B級男子	山田・伊藤	徳田・樋口	山田・小室	32
		B級女子	渡辺・白井	佐々木・鈴木	野口・上野	10
		一般男子	竹中・中郡	長谷川・脇	杉本・湯浅	48
		一般女子	太見・小川	長谷川・宮澤	樋口・井上	32
第8回	平25年	B級男子	湯川・山野辺	竹腰・渥美	熊谷・福島	32
		B級女子	松井・高橋	竹次・馬場	川口・野村	24
		一般男子	玉井・平野	脇・秋元	杉本・柴田	30
第9回	平26年	一般女子	安達・岡本	井上・宮澤	嶋宮・浅倉	30
		B級男子	熊谷・曾根	松井・萩山	前田・河野	32
		B級女子	中村・舟山	佐々木・鶴見	後藤・宍戸	12
		A級男子	杉本・柴田	菊地・脇	秋元・竹中	38
第10回	平27年	A級女子	和田・菊地	安達・岡本	宮澤・長谷川	32
		B級男子	野嶋・井上	江上・高橋	上野・吉田	32
		B級女子	樋口・山崎	鹿中・元氏	笠井・古山	32
		A級男子	長谷川・脇	杉本・秋元	武田・石澤	42
第11回	平28年	A級女子	岡本・秋元	和田・菊地	樋口・宮澤	28
		B級男子	森田・本間	児玉・高橋	大関・橋本	32
		B級女子	片山・板野	川瀧・七條	榎井・竹次	32
		A級男子	武田・川谷	坂・山岸	関澤・大谷	26
第11回	平28年	A級女子	和田・菊地	宮澤・長谷川	古瀬・岡本	18
		B級男子	鈴木・柳瀬	小林・武田	笹淵・北村	32
		B級女子	伊藤・水野	小坂・佐藤	黒川・宮浦	32

11-3 クマザキ杯（モーニングトーナメントを含む）からヨネックステニストーナメントへ

クマザキスポーツ(株)は古いスポーツ店で、テニス協会設立時から協会事業の充実に協力いただいた。

北見は軟式・硬式ともに早朝テニスの盛んなところで、朝早くから多くの人が汗を流している。協会を設立した昭和52年に早朝組の中でモーニングトーナメント開催の要望があった。モチベーションを上げるためにスポンサー付きの大会にしたいとのことで、会員にクマザキスポーツの方がおり、会社に掛け合ってもらった。親睦大会ではあったが、クマザキ杯の名前を付け、第1回はモーニングトーナメントとして開催している。親睦大会としては破格のカップと賞品がもたらえた。

しかし、B級シングルス大会がなかったことから、第2回目からは他の大会と同様に日曜日に開催する公式の大会となった。最初のモーニングトーナメントは一時中止したが、普及活動のために早朝B級男女シングルスとして昭和57年に復活している。しかし、1か月にも及ぶ大会の管理も大変な上、スポンサーが付いていないこともあって、昭和61年の第6回で途切れている。当時の戦績が残っているのでここに記載しておく。



第1回早朝クマザキ杯（優勝は池端氏）



第2回からB級シングルスクマザキ杯に



第3回から一般男女にも種目を広げてもらい、さらに昭和58年からはジュニアの大会も加わり、大きな大会になっていた。なお、ジュニアの戦績についてはジュニアのところにもまとめたので、そちらを見てもらいたい。このように、協会の主要な大会であったが、大型スポーツ店の進出によって市内スポーツ店は打撃を受けており、この大会のスポンサーはクマザキスポーツからヨネックス(株)に変更となり、ヨネックステニストーナメントとして継続している。

B級モーニングトーナメント戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位
第1回	昭57年	B級男子	伊藤 陽司	楓 稔也	阿部 正孝
		B級女子	佐久間妙子	荒瀬 拓代	小沢悠紀子
第2回	昭58年	B級男子	源 利雄	伊藤 直人	
		B級女子	加藤 幸子	小林フミ子	
第3回	昭59年	B級男子	高谷 俊光	伊藤 直人	
		B級女子	森 幸子	行沢 清美	
第4回	昭60年	B級男子	土田 雅人	高谷 俊光	佐伯 篤
		B級女子	菅原美智子	小林フミ子	古賀実紀子

クマザキ杯トーナメント戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	昭52年	一般男子	池端 治雄	森 雅夫	伊東 秀雄	15
		一般女子	伊東 定子	宮沢由紀子	早川いと子	不明
第2回	昭53年	B級男子	千葉 展義	石坂 孜	大島 俊之	31
		B級女子	小林千恵子	寺前 信子	梅村 朋子	10
第3回	昭54年	一般男子	岡 宏	千葉 展義	鶴原 幹也	10
		一般女子	伊藤 信子	小林千恵子	宮沢由紀子	6
		B級男子	平山 光茂	村上 憲儀	小畑 芳弘	31
		B級女子	田中 町子	宮下	柏木 誠子	12
第4回	昭55年	一般男子	枝川 滋	常本 秀幸	岡 宏	12
		一般女子	伊藤 信子	新井 歌子	伊東 定子	9
		B級男子	藤池 保夫	前河 克廣	西 理	50
第5回	昭56年	B級女子	小山田博子	石川優美子	宮浦まゆみ	17
		一般男子	岡 宏	常本 秀幸	平山 光茂	10
		一般女子	伊藤 信子	新井 歌子	石川優美子	9
		B級男子	山内 浩	河合 義秋	楓 稔也	34
第6回	昭57年	B級女子	平井 久枝	鈴木	金上 由紀	19
		一般男子	岡 宏	藤池 保夫	奥屋 滋	13
		一般女子	伊藤 信子	小山田博子	高木 厚子	35
第7回	昭58年	B級男子	元村 勲幸	楓 稔也	橘井 寛	8
		B級女子	小沢悠紀子	下田 聡子	菅原 優子	23
第7回	昭58年	一般男子	岡 宏	常本 秀幸	藤池 保夫	15

		一般女子	伊藤 信子	石川優美子	新井 歌子	8
		B級男子	橋井 寛	佐伯 宏	伊藤 好二	41
		B級女子	吉田真美子	渡辺 緑子	菅原 優子	19
第 8 回	昭 59 年	一般男子	常本 秀幸	藤池 保夫	岡 宏	14
		一般女子	伊藤 信子	石川優美子	信太 寿子	7
		B級男子	長谷川智仁	尾方 光	荒 徹	44
		B級女子	木村 政子	金一きみ子	加藤 幸子	22
第 9 回	昭 60 年	一般男子	岡 宏	長谷川智仁	皆川 正広	13
		一般女子	森 幸子	信太 寿子	金一きみ子	5
		B級男子	久保 宏司	十田 雅人	岩橋 良穂	25
		B級女子	石山 克子	皆川 縁	中川美奈子	21
第 10 回	昭 61 年	一般男子	皆川 正広	岡 宏	長谷川智仁	12
		一般女子	皆川 縁	信太 寿子	加藤 幸子	5
		B級男子	高谷 俊光	湯浅 健司	十田 雅人	36
		B級女子	山野 郁恵	水元 朋子	菅原美知子	26
第 11 回	昭 62 年	一般男子	皆川 正広	十田 雅人	湯浅 健司	14
		一般女子	皆川 縁	信太 寿子	矢後八重子	10
		B級男子	富樫 広三	平田 修	平田 茂	35
		B級女子	高橋 香織	水元 朋子	新里 順子	18
第 12 回	昭 63 年	一般男子	皆川 正広	長谷川智仁	湯浅 健司	9
		一般女子	五十田順子	柴崎紀美子	皆川 縁	5
		B級男子	津川 昭夫	佐藤 敬介	百武 欣二	26
		B級女子	水元 朋子	小林フミ子	新里 順子	20
第 13 回	平元年	一般男子	皆川 正広	長谷川智仁	十田 雅人	17
		一般女子	皆川 縁	長谷川香織	山野 郁恵	7
		B級男子	根津 隆次	植松 寛喜	阿部 正孝	26
		B級女子	加藤 暁子	山口 節子	出村 澄子	13
第 14 回	平 2 年	一般男子	長谷川智仁	湯浅 健司	伊藤 陽司	14
		一般女子	皆川 縁	五十田順子	姫田 典子	21
		B級男子	伊藤 高夫	当麻 勝	大塚 治樹	32
		一般男子	山下 幸志	湯浅 健司	町田 求	7
第 15 回	平 3 年	一般女子	下田 幸江	山野 郁恵	信太 恵子	20
		B級男子	多賀 茂雄	阿部 恭也	信太 寿雄	42
		一般男子	湯浅 健司	十田 雅人	山田 哲也	15
		一般女子	皆川 縁	下田 幸江	山野 郁恵	16
第 16 回	平 4 年	B級男子	信太 寿雄	瀬野 栄一	藤田 敦司	26
		一般男子	皆川 正広	高谷 俊光	十田 雅人	13
		一般女子	皆川 縁	信太 恵子	長 由美子	22
		B級男子	西條 聡	藤森 宗智	松井 啓治	25
第 17 回	平 5 年	一般男子	皆川 正広	湯浅 健司	西條 聡	16
		一般女子	長 由美子	皆川 縁	三原 一美	26
		B級男子	松井 啓治	湯川 寛志	瀬野 栄一	22
		B級女子	松井 啓治	湯川 寛志	瀬野 栄一	22

ヨネックステニストーナメント戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3 位	参加者数
第 1 回	平 7 年	一般男子	皆川 正広	湯浅 健司	平田 茂	13
		一般女子	長 由美子	皆川 縁		4
		B級男子	武藤 直人	朝倉 淳	竹江 仁博	13
		B級女子	宮田 雅代	油田 優子	河合みさ子	12
第 2 回	平 8 年	一般男子	皆川 正広	坂本 一	海野 容	16
		一般女子	三原 一美	長 由美子	小野寺笑子	7
		B級男子	山口 茂利	横尾 秀幸	竹江 仁博	8
		B級女子	石川 波江	横尾 裕子	本田 佳子	9
第 3 回	平 9 年	一般男子	坂本 一	海野 容	山田 雅照	9
		一般女子	三原 一美	長 由美子	山口 節子	5
		B級男子	菊地 亮	高谷 俊光	時任 重興	14
		B級女子	高桑 陽子	松浦 綾乃	油田 優子	13
第 4 回	平 10 年	一般男子	皆川 正広	海野 容	望月 剛	12
		一般女子	三原 一美	山野 郁恵	高桑 陽子	10
		B級男子	高谷 俊光	尾籾 清光	山田 孝一	6
		B級女子	鶴田 直子	月岡 陽子	中村 典子	9

第5回	平11年	一般男子	長谷川智仁	海野 容	林 吾朗	15
		一般女子	三原 一美	芳形 可奈	高橋真由美	11
		B級男子	三輪 大樹	牧村匠太郎	山田 孝一	20
		B級女子	赤井 和恵	油田 優子	河合みさ子	9
第6回	平12年	一般男子	長谷川智仁	皆川 正広	海野 容	16
		一般女子	岩原 裕美	荒井 雅代	三原 一美	14
		B級男子	児玉 忠司	宮城 雅章	徳田 奨	22
		B級女子	渋谷由紀子	堀尾恵美子	水谷二三代	20
第7回	平13年	一般男子	長谷川智仁	海野 容	湯浅 健司	10
		一般女子	三原 一美	高橋真由美	中川美奈子	10
		B級男子	北野 宏幸	佐藤 康司	中島 鉄男	15
		B級女子	野宮 優子	浜岡 直美	児玉 雅美	7
第8回	平14年	一般男子	坂田(別海)	永山 誠	永嶋 秀樹	14
		一般女子	野口(根室)	高橋真由美	岩原 裕美	8
		B級男子	宮城 雅章	山原 光広	大場 清毅	15
		B級女子	松浦 恵子	永山 恭子	湯浅(留辺)	16
第9回	平15年	一般男子	坂田 宏	永山 誠	脇 伸一	14
		一般女子	野口由美子	岩原 裕美	狩野 繁子	7
		B級男子	山下 貴宏	佐々木 拓	中島 鉄男	16
		B級女子	古米 暁美	堀尾恵美子	湯浅 留美	13
第10回	平16年	一般男子	坂田 宏	北野 宏幸	鶴羽 裕樹	16
		一般女子	荒井 雅代	岩原 裕美	和田喜代子	8
		B級男子	山田 孝一	竹腰 信介	澤野 勝三	14
		B級女子	北野 弥生	木谷二三代	浜岡 直美	4
第11回	平17年	一般男子	藤木 敏也	山原 光広	佐藤 智孝	24
		一般女子	岩原 裕美	野口由美子	脇 優子	6
		B級男子	山口 茂利	中原 誉	尾籐 清光	11
		B級女子	下司 知世	渡辺 友香	中本 智代	8
第12回	平18年	一般男子	坂田 宏	佐藤振一郎	藤木 敏也	28
		一般女子	野口由美子	岩原 裕美	田嶋 澄子	12
		B級男子	竹腰 信介	釜谷 誠一	長谷川 智	6
		B級女子	林 輝美	野々村こずえ	清水 友香	7
第13回	平19年	一般男子	千代延敏彦	鶴羽 裕樹	永山 誠	22
		一般女子	長谷川一美	岩原 裕美	浅倉千鶴子	18
		B級男子	前田 寛人	釜谷 誠一	横田 和雄	6
		B級女子	堀尾恵美子	増田 朋子	渡辺 総	6
第14回	平20年	一般男子	坂田 宏	永山 誠	佐藤振一郎	17
		一般女子	玉田かおり	下司 知世	長谷川一美	8
		B級男子	樋口 裕二	藤原 真悟	佐藤 勇治	8
		B級女子	脇 優子	増田 朋子	高久 直美	9
第15回	平21年	一般男子	鶴羽 祐樹	杉本 嘉久	北野 宏幸	29
		一般女子	樋口いずみ	東坂 桃江	玉田かおり	5
		B級男子	佐藤 勇治	斉藤 英彰	福島 直宏	5
第16回	平22年	一般男子	村上 慎一	長谷川智仁	永山 誠	16
		一般女子	佐々木 綾	長谷川一美	嶋宮 佳苗	8
		B級男子	井上 聡巳	平井 久文	山田 孝一	10
第17回	平23年	一般男子	長谷川智仁	永山 誠	中村 友則	9
		一般女子	長谷川一美	樋口いずみ	川上かおり	11
		B級男子	山田 孝一	竹腰 信介	湯川 寛	6
第18回	平24年	一般男子	柴田 大輔	平野 拓馬	長谷川智仁	20
		一般女子	長谷川一美	平野 晴菜	樋口いずみ	7
		B級男子	森谷 英樹	松井 太	熊谷 淳史	10
		B級女子	高橋 和	早坂 総		4
第19回	平25年	一般男子	玉井 啓博	吉田 剛	藤井 満	23
		一般女子	秋元 知世	中島 和代	樋口いずみ	6
		B級男子	井上 聡巳	曾根 栄二	熊谷 淳史	6
第20回	平26年	A級男子	吉田 剛	平野 拓馬	永山 誠	30
		A級女子	安達千佳子	池田とし子	岡本真理子	8
		B級男子	佐々木良一	熊谷 淳史	澤野 勝三	11

		B級女子	鹿内 浄子	杉川 裕美		4
第 21 回	平 27 年	A級男子	寺井 淳	川浪 諒	関澤 佑介	22
		A級女子	秋元 知世	小川詩絵里	石垣美加子	9
		B級男子	本間 匠	徳田 奨	山田 孝一	12
第 22 回	平 28 年	A級男子	川浪 諒	佐々木龍之慎	吉田 ・ 関澤	30
		A級女子	岡本真理子	石川沙央季	菊地 ・ 樋口	6
		B級男子	山田 孝一	長沢 拓哉		5

11-4 ダンロップテニストーナメントから DUNLOP SRIXON テニストーナメントへ

当協会主催の大会の中で、北海道大会への出場権がかかった唯一の大会である。全道10か所で予選大会があり、各種目の代表は函館、ニセコあるいは北広島のプリンス系ホテルに招待され、優勝すると全国大会に出られる。昭和53年からオホーツク地区の予選会を開催している。全国大会への夢もあり、多くの参加者がある。北海道地区決勝戦の種目は、一般男子、一般女子、B級男子、壮年であったが、オホーツク地区では当初壮年の大会は行っていない。また、大会優勝者が原則として代表となるのだが、都合がつかない場合は北見テニス協会の推薦者で良いことになっている。大会は個人戦と団体戦があるため、派遣選手は壮年を含め、勝てる選手を選考した時代もあった。最近では優勝選手を主に選考している。本協会からは次の4種目で全道大会の優勝者が出ており、全国大会に出場している。

昭和57年 一般女子 伊藤信子、高木厚子
 昭和60年 B級男子 伊藤直人、皆川正広
 昭和62年 壮年 岡 宏、常本秀幸
 平成 3年 一般男子 皆川正広、山下幸志



ダンロップトーナメントのパンフとトロフィー 全道大会第3位のメンバー（昭和60年）

当初はダンロップテニストーナメントの呼称であったが、ダンロップがSRIXONと合併したことから平成26年からDUNLOP SRIXON テニストーナメントとなった。なお、北海道決勝大会の種目は当初の4種目に平成12年からベテラン女子が加わり5種目になった。当協会では参加者の拡大を図るために、これに併せてB級女子、男女Cクラスを設けている。この内、男女Cクラスはジュニアが参加できる種目であり、Cクラスの戦績はジュニアの項にまとめた。

DUNLOP SRIXON テニストーナメント戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	昭53年	一般男子	池端・森	佐々木・菊	岡・鈴木	20
		一般女子	伊藤・小野	伊東・新井	内藤・小林	20
		B級男子	松井・田中	村上・喜多	吉田・月岡	36
第2回	昭54年	一般男子	岡・常本	伊東・平山	鶴原・佐々木	20
		一般女子	伊東・伊藤	新井・内藤	安岡・西沢	22
		B級男子	新田・大野	福島・西	宮浦・阿部	58

第3回	昭55年	一般男子	岡・常本	鈴木・大島	佐々木・柄目	18
		一般女子	新井・内藤	松永・戸梶	小林・寺前	30
		B級男子	厚谷・前田	宮浦・阿部	北見・関村	72
第4回	昭56年	一般男子	岡・森谷	鈴木・大島	新田・大野	18
		一般女子	伊藤・石川	新井・伊東	松永・戸梶	24
		B級男子	山内・奥屋	小幡・大原	関村・北見	46
第5回	昭57年	一般男子	岡・常本	奥屋・山内	小西・宮中	16
		一般女子	伊藤・高木	石川・小山田	新井・内藤	38
		B級男子	鈴木・町田	佐藤・金田	橘井・東前	52
第6回	昭58年	一般男子	岡・常本	小西・宮中	池端・伊藤	18
		一般女子	伊藤・石川	戸梶・柴田	大隈・富岡	32
		B級男子	時任・源	沢田・伊藤	下川原・渡辺	36
第7回	昭59年	一般男子	岡・常本	小西・宮中	菊地・今野	20
		一般女子	伊藤・石川	水野・石山	金一・木村	23
		B級男子	岩橋・長谷川	工藤・小畑	伊藤好・百武	44
壯年	伊東・時任	大原・信太		6		
第8回	昭60年	一般男子	岡・常本	荒・長谷川	源・町田	16
		一般女子	伊藤・石川	森・金一	小林千・加藤	38
		B級男子	皆川・伊藤直	高谷・湯浅	清原・平田	34
第9回	昭61年	一般男子	岡・常本	皆川・伊藤直	町田・長谷川	18
		一般女子	伊藤・石川	金一・信太	皆川・柴崎	46
		B級男子	湯浅・岩橋	岩原・金野	十田・植田	54
第10回	昭62年	一般男子	長谷川・富樫	皆川・伊藤直	高谷・町田	24
		一般女子	石川・伊藤	山野・五十田	金一・皆川	56
		B級男子	波多野・恩田	根津・服部	平田・清原	48
		壯年	常本・信太	岡・時任	高谷・荒瀬	8
第11回	昭63年	一般男子	皆川・長谷川	岡・常本	町田・伊藤直	22
		一般女子	伊藤・石川	皆川・高橋	磯田・柴崎	48
		B級男子	伊藤・沢田	甲谷・波多野	百武・小俣	48
		壯年	岡・宮下	高谷・伊東	佐々木・信太	8
第12回	平元年	一般男子	皆川・長谷川	湯浅・十田	岡・平田	16
		一般女子	高木・石野	長谷川・伊東	山野・樋口	36
		B級男子	千葉・中村	信太・植松	今村・下河原	28
		壯年	岡・常本	信太・佐々木	時任・島	8
第13回	平2年	一般男子	坂本・権沢	湯浅・十田	皆川・長谷川	20
		一般女子	石川・伊東	五十田・山野	三原・長谷川	40
		B級男子	福田・大塚	永山・小林	佐藤・因	24
		壯年	高谷・常本	鈴木・森	伊東・宮下	8
第14回	平3年	一般男子	皆川・山下	湯浅・権沢	十田・菊池	26
		一般女子	石川・皆川	樋口・岡本	下田・山野	36
		B級男子	山田・金田	緒方・森	中野・岡田	32
		壯年	高谷・常本	伊東・信太	田中・清	8
第15回	平4年	一般男子	権沢・千葉	町田・長谷川	山田・中野	24
		一般女子	石川・皆川	下田・山野	柴崎・渡辺	38
		B級男子	坂井・二階堂	吉田・下河原	柴野・高坂	26
		壯年	高谷・常本	田中・清	飛澤・厚谷	8
第16回	平5年	一般男子	皆川・長谷川	湯浅・十田	町田・中野	14
		一般女子	石川・三原	柴崎・渡辺	信太・長	34
		B級男子	服部・田中	松井・山野	辰田・山田	18
		壯年	高谷・大島	常本・厚谷	信太・田崎	8
第17回	平6年	一般男子	町田・長谷川	千葉・坂本	皆川・中野	20
		一般女子	石川・皆川	山野・渡部	岩原・三原	42
		B級男子	竹江・山崎	梅本・瀬野	伊東純・高橋	22
		壯年	高谷・大島	常本・松井	飛澤・鈴木	6
第18回	平7年	一般男子	日下・長谷川	皆川・湯浅	平田・伊藤直	18
		一般女子	山野・渡辺	松原・石川	長・信太	36
		B級男子	山田・辰田	西成・常本	斉藤・山口	18
第19回	平8年	一般男子	皆川・坂本	長谷川・脇	伊藤・佐藤	18
		一般女子	山野・渡辺	石川・三原	佐藤・山口	16
		B級男子	尾籾・小林	山田・長谷川	紺野・小野	14
		B級女子	桜井・佐々木	鈴木・棚村	月岡・笠井	26
		壯年	田中・波多野	信太・斉藤	伊藤・高谷	10

第20回	平9年	一般男子	千葉・石川	永山・脇	皆川・大島	16
		一般女子	石川・皆川	長・早坂	高橋・小野	56
		B級男子	尾藤・斉藤	佐藤・山口	渡辺・宮脇	40
		壮年	波多野・田中	宮中・菊池	常本・高谷	16
第21回	平10年	一般男子	皆川・坂本	永山・林	長谷川・海野	48
		一般女子	石川・三原	高橋・幡鎌	山野・渡辺	80
		B級男子	山田・尾藤	森本・佐野	渡辺・高橋	28
		壮年	大島・伊藤	常本・高谷	波多野・田中	16
第22回	平11年	一般男子	皆川・坂本	永山・海野	林・菊池	28
		一般女子	山野・渡辺	皆川・石川	芳形・荒井	44
		B級男子	斉藤・高谷	山本・三輪	前田・山野	56
		B級女子	中村・河合	湯浅・小林	木谷・北野	32
		C級女子	藤田・増田	仲西・国分	塚田・左	20
		壮年	菊池・金田	游佐・林	伊藤・大島	20
第23回	平12年	一般男子	長谷川・津田	坂本・皆川	永山・脇	32
		一般女子	石川・皆川	岩原・古田	渋谷・荒井	40
		B級男子	北野・飯塚	山田・高橋	佐藤・山本	60
		B級女子	矢代・大滝	藤田・増田	菅原・河合	56
		C級女子	菊地・佐藤	島澤・甲賀	石山・永嶋	32
		壮年	伊藤・湯浅	宮城・菊地	中島・游佐	44
		45歳女子	山野・渡辺	桜井・相原	前田・桜岡	16
第24回	平13年	一般男子	百々・山本	長谷川・海野	伊藤・菊地	28
		一般女子	新井・中川	幡鎌・鶴田	三原・渋谷	28
		B級男子	鈴木・海谷	高橋・川盛	高谷・渡辺	24
		B級女子	宮澤・福井	酒井・橋川	岸・河合	28
		壮年	伊藤・皆川	宮城・中島	斉藤・森本	6
		ベテラン女子	石川・菊谷	古田・小坂	高橋・小野	6
第25回	平14年	一般男子	伊藤・皆川	百々・山本	脇・大滝	16
		一般女子	高橋・松浦	荒井・中川	北川・皆川	26
		B級男子	高谷・森本	高橋・川森	下崎・伊藤	32
		B級女子	河合・宮澤	木谷・北野	湯浅・小林	14
		ベテラン女子	石川・菊谷	矢代・宮田	早坂・山口	10
第26回	平15年	一般男子	長谷川・今井	永山・脇	山本・下崎	18
		一般女子	長谷川・川岸	高橋・岩原	荒井・中川	20
		B級男子	田中・大場	高橋・川森	竹腰・菊池	40
		B級女子	松田・湯浅	信太・矢代	木谷・小林	10
		C級男子	池下・伊藤	森・渡辺	宮澤・成田	16
		C級女子	藤池・浦澤	松田・奥田	影川・横関	12
		壮年	皆川・伊藤	宮城・中島	山田・阿部	8
		45歳女子	石川・北川	滝川・田島	渡辺・山野	8
第27回	平16年	一般男子	長谷川・山原	永山・脇	酒井・佐藤	12
		一般女子	長谷川・中川	高橋・岩原	小野・朝倉	14
		B級男子	徳田・小野	北野・蛭谷	神保・宇田川	18
		B級女子	武田・宮澤	宮田・信太	小林・河合	8
		C級男子	渡辺・伊藤	宮澤・森	森・橋本	50
		C級女子	佐々木・大野	熊谷・森本	藤池・浦澤	30
		壮年	皆川・宮城	長谷川・山田	中島・森	10
		45歳女子	山野・菊谷			2
第28回	平17年	一般男子	長谷川・脇	永山・郷久	佐藤・藤木	14
		一般女子	高橋・岩原	荒井・佐藤	中川・永山	10
		B級男子	澤野・中原	西出・加藤	藤原・高久	8
		B級女子	武田・井上	浜岡・渡邊		4
		C級男子	福家・寺西	渡辺・瀬越	後藤・吉田	38
		C級女子	松重・野々村	大野・岩本	小林・細川	22
		壮年	北野・千葉	宮城・田中	高橋・川森	12
45歳女子	北野・小野	河合・矢代	小林・桜井	8		
第29回	平18年	一般男子	鶴羽・奥野	山原・脇	永山・郷久	22
		一般女子	高橋・佐藤	北野・中川	荒井・宮澤	14
		B級男子	澤野・古賀	山田・尾藤	小田・鹿内	12
		B級女子	泉・宮田	浜岡・渡邊	松重・野々村	10
		C級男子	竹中・後藤	西谷内・福本	米沢・高間	28
		C級女子	木下・霧山	本田・長屋	和田・段城	12

		壮年	皆川・佐藤	山口・川森	中島・高橋	8
		45歳女子	北川・菊谷	岩原・吉田	浅倉・石井	6
第30回	平19年	一般男子	村上・奥野	脇・鶴羽	佐藤・藤木	12
		一般女子	和田・荒井	岩原・佐藤	長谷川・村上	16
		B級男子	脇坂・越後屋	古賀・恋塚	山田・佐藤	16
		B級女子	増田・下司	仲西・長部	大野・杉本	14
		C級男子	宮澤・本間	小林・加藤	菊池・鳴島	42
		C級女子	青木・林	名知・渡辺	横山・佐藤	20
		壮年	皆川・湯浅	尾籐・川森	高橋・中島	12
		45歳女子	山野・渡辺	佐藤・藤木		4
第31回	平20年	一般男子	山原・奥野	村上・永山	長谷川・城崎	22
		一般女子	玉田・長谷川	宮澤・和田	工藤・山地	20
		B級男子	尾籐・山田	横田・斉藤	後藤・増田	18
		B級女子	清水・高久	中川・吉田	桐山・木下	6
		C級男子	平・橋本	蝦名・長谷川	菊池・氏家	46
		C級女子	池・太見	大沢・橋本	佐川・篠木	20
		壮年	皆川・北野	佐藤・湯浅	森・川森	10
		45歳女子	荒井・渡辺	岩原・古田	高橋・小野	6
第32回	平21年	一般男子	鶴羽・奥野	村上・工藤	長谷川・津田	24
		一般女子	井上・宮澤	長谷川・浅倉	工藤・岡本	16
		B級男子	中原・坂	佐竹・古賀	井上・森本	18
		B級女子	狩野・及川	木下・桐山	中川・吉田	10
		C級男子	宮澤・井上	石黒・田村	高間・池田	46
		C級女子	古屋・太見	篠木・吉田	米村・小暮	28
		壮年	皆川・湯浅	山田・宮城		4
		45歳女子	吉田・渡辺			2
第33回	平22年	一般男子	杉本・藤井	長谷川・津田	村上・山原	20
		一般女子	樋口・井上	長谷川・宮澤	泉・中西	12
		B級男子	塚原・梶山	平井・森岡	川森・長谷川	22
		B級女子	桐山・狩野	大野・林	脇・奥田	10
		C級男子	堀内・高橋	宮澤・林	中村・井上	56
		C級女子	新田・飯田	佐々木・太見	武山・大西	30
		壮年	福田・湯浅	高井・尾藤	高橋・内山	6
		45歳女子	高橋・小野			2
第34回	平23年	一般男子	玉井・平野	永山・脇	中村・檜垣	16
		一般女子	宮澤・井上	佐藤・小野	高橋・小野	12
		B級男子	樋口・徳田	熊谷・佐藤	佐竹・千葉	22
		B級女子	鈴木・高島	大野・林	川崎・山下	12
		C級男子	松澤・小松	佐々木・藤崎	谷・大森	58
		C級女子	太見・小川	梶野・碓井	山田・奥山	34
		壮年	宮城・西尾	山田・伊藤	酒井・志賀	6
		45歳女子	泉・浅倉	狩野・桐山		4
第35回	平24年	一般男子	奥野・柴田	藤井・杉本	脇・永山	24
		一般女子	樋口・和田	横山・鹿野	泉・中西	14
		B級男子	平井・高橋	石垣・伊藤	高橋・川森	22
		B級女子	松井・高橋	大野・松本	山下・秋元	10
		C級男子	竹口・為国	佐藤・原田	筈井・服部	56
		C級女子	服部・木村	馬場・末松	佐藤・白崎	42
		壮年	長谷川・鮭川	古賀・宮城		6
		45歳女子	長谷川・浅倉	小野・高橋		6
第36回	平25年	一般男子	玉井・長谷川	秋元・平井	杉本・安達	14
		一般女子	安達・岡本	秋元・和田	宮澤・井上	12
		B級男子	清水・内田	高橋・川森	野嶋・井上	16
		B級女子	松本・大野			4
		C級男子	丸山・平山	上野・前田	佐々木・吉田	64
		C級女子	福土・今野	木村・長谷川	舟山・中村	50
		ベテラン男子	伊藤・菊地			6
		ベテラン女子	菊地・長谷川	小野・高橋		8
第37回	平26年	A級男子	竹中・奥野	柴田・安達	平野・川浪	14
		A級女子	安達・樋口	長谷川・岡本	佐藤・菊地	14
		B級男子	脇坂・佐々木	志賀・幸崎	井上・野嶋	26
		B級女子	鹿内・仲野	斉藤・秋元		10

		C級男子	武田・梟	石澤・十井	小林・坂東	34
		C級女子	野村・梅津	元氏・小川	佐藤・石井	44
		ベテラン男子	長谷川・鮭川	西尾・杉本		6
		ベテラン女子	小野・高橋			2
第 38 回	平 27 年	A級男子	秋元・平井	鶴羽・奥野	関澤・竹中	16
		A級女子	岡本・秋元	宮澤・井上		10
		B級男子	徳田・樋口	宮城・古賀	阿部・小暮	16
		B級女子	菅原・中村	藤原・森田		10
		C級男子	武田・坂東	下川原・横関	能田・佐藤	56
		C級女子	小川・山下	安原・榊井	魚橋・吉永	50
		ベテラン男子	湯浅・杉本	山田・森		10
		ベテラン女子	和田・菊地			4
第 39 回	平 28 年	A級男子	関澤・大谷	田中・鶴羽	脇・清水	12
		A級女子	和田・岡本	山岸・樋口	井上・長	12
		B級男子	志賀・伊藤	宮城・古賀	阿部・吉田	12
		B級女子	斉藤・川崎	三上・森田	狩野・桐山	12
		C級男子	小林・武田	北村・焔山	茂木・小坂	48
		C級女子	安原・角田	長谷川・飛澤	鏡・齋藤	56
		ベテラン男子	伊藤直・菊地	森・北野	湯浅・山岸	10
		ベテラン女子	菊地・佐藤	宮澤・長谷川		4

11-5 茂藤杯から Nice Wing テニストーナメント及び JAS 杯、そして会長杯へ

＜茂藤杯＞ テニス協会設立に向け、スポーツ店の支援を得るために市内のスポーツ店を回った。茂藤スポーツ店は山下通りにありあまり目立たないところだったので、期待はしていなかった。特に野球に力を入れていたスポーツ店でテニスのスポンサーは難しいかと思った。ところが予想に反し、社長が二つ返事で大会スポンサーを引き受けてくれた。B級のダブルスの大会がなかったので、この大会を支援してもらった。さらに、カワサキラケットの専属プロの講習会も計画してもらえた。また、北見にはガット張り機がないことを話していたら、早速導入され、会員は無料で利用できた。社長は先見の目があったのか、各スポーツ店でテニス用品を扱うようになり、競争が激しくなってきたことから、10回の大会を機会にスポンサーを降りられた。幸い、JAS 杯が始まっており、B級ダブルスの大会が継続できることから、新たな大会は開催しないことにした。その後、他のスポーツ店が閉店する中、野球中心に戻った茂藤スポーツ店は現在も残っている。



第1回茂藤杯パンフレット

茂藤杯テニス大会戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数	
第1回	昭52年	B級男子	林・加藤	千葉・松田	小畑・道端	渡辺・石原	12
		B級女子	新井・平山	内藤・和田	小沢・寺前		6
第2回	昭53年	B級男子	大野・石坂	森谷・小畑	阿部・安藤	村上・吉田	42
		B級女子	浦田・寺前	内藤・太田	坂田・山田	田口・和田	12
第3回	昭54年	B級男子	佐々木・大島	新井・道端	小畑・楓	吉川・鈴木	44
		B級女子	安岡・西沢	板垣・和田	鈴木・石松	西・平野	28
第4回	昭55年	B級男子	宮浦・阿部	山田・前川	鈴木・河合		48
		B級女子	宮浦・定久	桜田・吉野	石川・小沢		12
第5回	昭56年	B級男子	東前・鈴木	信太・大原	鈴木・河合		30
		B級女子	石川・落合	小沢・海野	菅原・菅原		20
第6回	昭57年	B級男子	橘井・町田	伊藤・佐々木	松田・笹木		32
		B級女子	小沢・菅原	渡辺・海野	加藤・高木		12
第7回	昭58年	B級男子	関村・桂川	田中・鴨井	樋口・藤井		30
		B級女子	加藤・柴崎	熊谷・吉田	小林・新里		14
第8回	昭59年	B級男子	久保・荒	沢田・伊藤	時任・清原		50

		B級女子	姫田・森	柴崎・金一	古賀・行沢		24
第9回	昭60年	B級男子	岩橋・久保	高谷・伊藤	沢田・伊藤		30
		B級女子	皆川・小野寺	柴崎・小林	荒木・五十田		32
第10回	昭61年	B級男子	湯浅・十田	高谷・植田	小俣・百武		46
		B級女子	山野・古賀	小林・内田	中川・加藤		40

<JAS杯> 昭和50年頃に女満別空港から東京に行く場合、小さなプロペラ飛行機で札幌経由となっていた。昭和57年からは直行便が飛ぶようになり、東亜国内航空（TDA、後に日本エアシステム、そしてJALになる）は、これを記念して管内のテニス大会を支援してくれることとなった。昭和57年は道東都市対抗戦を盛り上げてもらうために、優勝カップ（TDA杯）を寄贈してもらった。翌年には個人戦にも協賛してくれることになり、Nice Wing テニストーナメントとして一般及びB級男女ダブルスの大会がスタートした。この大会の魅力は、優勝すると副賞として東京往復航空券がもらえることである。準優勝は札幌便往復か東京便往復の半額割引だったと思うが、参加者の目つきが違った。特にB級への参加者が多く、100人を超えることもあり、全体では140人近い参加者で熱戦が繰り広げられた。

旧女満別空港はジェット化のために使用が終了し、昭和60年から新しい空港でジェット機が飛ぶようになり、利用客も多くなった。昭和63年には社名が東亜国内航空から日本エアシステムに変更になり、大会名もJAS テニストーナメントとなっている。会社の勢いもあって、女満別から全国に移動できるなど期待も大きかったが、その後の不況の影響で搭乗率が低迷し、経費削減の影響で平成5年からB級種目がなくなったのは残念だった。さらに、業績の低迷が続き平成16年に日本航空（JAL）と合併している。日本航空にも大会継続を要望したが受け入れてもらえなかった。TDAの時代からJASの時代に何人か支店長が変わったが、赴任された方々に種々配慮をいただき、20回以上大会を継続できたことに感謝申し上げたい。特に矢後さんが支店長の時代には、ご夫婦にお世話になった。



第1回JAS杯パンフ



昭和59年B級男子優勝の湯浅・伊藤組と優勝カップ



Nice Wing テニストーナメント及びJAS杯戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	昭58年	一般男子	岡・常本	小西・宮中	岩原・尾崎	24
		一般女子	伊藤・石川	伊東・新井	大隅・富岡	16
		B級男子	鈴木・河合	沢田・伊藤	晴山・伊藤	48
		B級女子	菅野・信太	柴瀬・小野寺	小林・水野	44
第2回	昭59年	一般男子	岡・常本	池端・伊藤	源・長谷川	22
		一般女子	伊藤・石川	伊東・新井	菅野・信太	12
		B級男子	湯浅・伊藤	小幡・工藤	沢田・伊藤	56
第3回	昭60年	B級女子	加藤・森	姫田・金一	柴崎・小林	46
		一般男子	荒・長谷川	岡・常本	皆川・伊藤	18
		一般女子	伊藤・石川	森・姫田	金一・信太	8
第4回	昭61年	B級男子	高谷・湯浅	時任・伊藤	吉田・平田	42
		B級女子	菅原・汁	皆川・古沢	吉田・渡辺	46
		一般男子	岡・伊藤	皆川・伊藤	菊池・宮中	16
		一般女子	伊藤・石川	皆川・山野	金一・信太	8

		B級男子	岩橋・十田	根津・服部	百武・小俣	60
		B級女子	加藤・中川	渡辺・吉田	古沢・高橋	50
第5回	昭62年	一般男子	皆川・長谷川	岡・常本	町田・菅野	18
		一般女子	伊藤・石川	皆川・金一	中川・加藤	14
		B級男子	二階堂・松田	平田・古尾谷	根津・服部	48
		B級女子	中川・加藤	小林・菅野	工藤・竹内	28
		一般男子	皆川・長谷川	湯浅・十田	岩橋・町田	16
第6回	昭63年	一般女子	伊藤・石川	皆川・高橋	柴崎・五十田	12
		B級男子	松田・原田	寺尾・田原	根津・服部	56
		B級女子	三原・藤田	岡本・玉木	小林・新里	36
		一般男子	皆川・長谷川	十田・菊池	湯浅・町田	20
		一般女子	石川・皆川	山野・樋口	長谷川・加藤	14
第7回	平元年	B級男子	千葉・波多野	阿部・佐藤	宇草・多智	28
		B級女子	下田・岡本	出村・伊藤	前田・田代	26
		一般男子	湯浅・十田	皆川・坂本	菊池・岩原	20
		一般女子	石川・皆川	長谷川・三原	岡本・新藤	14
第8回	平2年	B級男子	大塚・寺尾	宇草・多智	福田・佐藤	28
		B級女子	岩原・古田	前田・桜岡	小坂・田代	24
		一般男子	皆川・湯浅	十田・山下	伊藤・伊藤	12
		一般女子	伊藤・石川	皆川・山野	長谷川・三原	14
第9回	平3年	B級男子	伊藤・平松	田中・清	中野・日下	62
		B級女子	前田・桜岡	小坂・寺本	岸・田中	34
		一般男子	十田・湯浅	町田・長谷川	大島・伊藤陽	20
		一般女子	石川・伊藤	皆川・山野	柴崎・下田	18
第10回	平4年	B級男子	山本・渡辺	金田・日下	五十嵐・隅田	30
		B級女子	高橋・甲谷	岸・田中	田嶋・滝川	20
		一般男子	皆川・町田	長谷川・中野	十田・湯浅	30
第11回	平5年	一般女子	山野・渡辺	石川・皆川	三原・岩原	48
		一般男子	湯浅・皆川	常本・大島	日下・金田	22
第12回	平6年	一般女子	石川・皆川	山野・渡辺	信太・長	28
		一般男子	湯浅・皆川	脇・柴野	日下・辰田	26
第13回	平7年	一般女子	長・皆川	石川・三原	福安・長谷川	30
		一般男子	皆川・坂本	伊藤・佐藤	山本・百々	20
第14回	平8年	一般女子	山野・渡辺	石川・皆川	佐藤・三原	32
		一般男子	伊藤・佐藤	平田・永山	阿部・高谷	30
第15回	平9年	一般女子	佐藤・三原	石川・皆川	山野・岩原	34
		一般男子	永山・脇	皆川・坂本	千葉・石川	44
第16回	平10年	一般女子	皆川・石川	岩原・小野	山野・芳形	36
		一般男子	湯浅・江間	長谷川・海野	皆川・伊藤	22
第17回	平11年	一般女子	山野・渡辺	渡辺・清原	高橋・幡鎌	34
		一般男子	坂本・山本	皆川・伊藤	江間・脇	28
第18回	平12年	一般女子	山野・渡辺	石川・皆川	三原・渋谷	46
		一般男子	百々・山本	長谷川・海野	伊藤陽・湯浅	26
第19回	平13年	一般女子	高橋・岩原	三原・渋谷	石川・皆川	32
		一般男子	永山・脇	古米・福田	伊藤陽・湯浅	26
第20回	平14年	一般女子	松浦・高橋	古田・佐藤	荒井・岩原	18
		一般男子	長谷川・脇	山下・山原	今野・内山	32
第21回	平15年	一般女子	長谷川・長橋	高橋・岩原	荒井・中川	26

＜会長杯テニス大会＞ JAS杯は終了したが、協会としては夏のダブルスの大会を残したいことから、会長杯テニス大会として継続している。また、平成21年からはB級男女ダブルスも加え現在に至っている。この大会の目玉は副賞のメロンであり、会員の関係者の農家の方から特別に分けてもらい、優勝すると大きなメロンが4～5個入った重たい箱が渡される。

会長杯テニス大会戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	平16年	一般男子	北野・山原	阿部・細田	中島・森	48
		一般女子	高橋・妹尾	中川・長谷川	宮澤・福井	16
第2回	平17年	一般男子	菊池・脇	古米・福田	菊地・藤木・森・藤原	40
		一般女子	長谷川・中川	清信・佐藤	宮澤・小野・北野・永山	16

第3回	平18年	一般男子	藤木・佐藤	永山・徳田	佐藤・湯浅、川森・尾藤	30
		一般女子	朝倉・山野	高橋・佐藤	北野・中川	24
第4回	平19年	一般男子	大塚・内田	藤木・佐藤	永山・城崎、湯浅・三田村	56
		一般女子	村上・大塚	岩原・佐藤	長谷川・渡辺、山地・工藤	38
第5回	平20年	一般男子	永山・城崎	山地・工藤	湯浅・徳田、横尾・長谷川	24
		一般女子	工藤・山地	長谷川・佐藤	宮澤・植松、荒井・岩原	24
第6回	平21年	一般男子	工藤・藤井	永山・徳田	新村・継	22
		一般女子	荒井・宮澤	工藤・長谷川	小野・高橋	14
		B級男子	横田・八幡	長谷川・横尾	斎藤・熊谷	8
第7回	平22年	一般男子	杉本・藤井	太田・寺林	坂・小野	18
		一般女子	長谷川・宮澤	佐藤・遠藤	高橋・小野	20
		B級男子	鹿内・林	長谷川・横尾	島津・上地	18
		B級女子	川上・白井	足利・中川	松井・高橋	6
第8回	平23年	一般男子	檜垣・林	杉本・藤井	秋元・中村	16
		一般女子	長谷川・樋口	宮澤・井上	太見・小川	14
		B級男子	山田・伊藤	佐藤・福島	長谷川・斎藤	18
		B級女子	山田・奥山	野口・上野	川口・原口	6
第9回	平24年	一般男子	平野・玉井	杉本・安達	佐藤・原田	20
		一般女子	長谷川・宮澤	小野・高橋	安達・川内	10
		B級男子	曾根・竹腰	森木・萩山	熊谷・福島	32
		B級女子	居内・服部	早坂・白井		6
第10回	平25年	一般男子	玉井・長谷川	下崎・藤井	脇・秋元	32
		一般女子	宮澤・和田	長谷川・菊地	狩野・朝倉	10
		B級男子	川谷・武田	曾根・熊谷	尾藤・川森	32
		B級女子	佐々木・久光	鏡・安原	片山・板野	24
第11回	平26年	A級男子	長谷川・平野	長谷川・山原	脇・内田	34
		A級女子	長谷川・菊地	狩野・川上	宮澤・長	20
		B級男子	松井・森谷	尾藤・川森	佐藤・熊谷	32
		B級女子	小川・秋元	鹿内・角	鏡・長谷川	32
第12回	平27年	A級男子	関澤・川浪	永山・脇	杉本・藤井	28
		A級女子	井上・長	太見・小川	朝倉・小野	16
		B級男子	小田切・熊田	児玉・坂本	竹腰・鈴木	32
		B級女子	佐藤・森田	伊藤・水野	高橋・土田	14
第13回	平28年	A級男子	関澤・大谷	鹿内・広澤	武田・埴山	18
		A級女子	安達・桑原	宮澤・和田		8
		B級男子	高橋・川森	湯浅・徳田	阿部・吉田、山田・後藤	32
		B級女子	鏡・齋藤	狩野・桐山	七山・菊地、勝山・高橋	26

11-6 三菱ギャランテニストーナメントから岡メモリアルトーナメントへ

<三菱ギャラントーナメント> 北見の自動車販売店がテニスのスポンサーになってくれるのとここで、少し驚いた。最近では、テニスとかゴルフの商品に車がもらえるのは珍しくないが、当時、地方のテニス大会に自動車会社が協賛してくれるのはあまり聞いたことがない。このきっかけは、三菱自動車がスポンサーで北海道オープンテニス選手権を開催したことである。それに合わせて北見三菱自動車販売(株)が北見での大会に共催してくれることとなった。当時の販売店社長は学生時代にテニスをやっていた方で、いち早く共催の提案をされたのだと思う。大会の種目とか大会案内範囲などを協議した結果、一般男女シングルスでオホーツク管内に案内を出すこととなった。参加者も多く、賞品も豪華であり、定着すると思っていた。残念ながら関連会社の経営が行き詰ってしまい、平成3年の第7回大会で幕を閉じた。そんな折に、岡メモリアルトーナメントの開催が持ち上がり、三菱ギャランテニストーナメントの種目を引き継ぐことになった。



第1回三菱杯のポスター

三菱ギャランテニスストーナメント戦績表

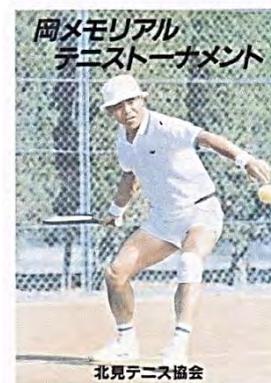
回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	昭60年	一般男子	長谷川智仁	岡 宏	荒 徹	47
		一般女子	森 幸子	信太 寿子	加藤 幸子	27
第2回	昭61年	一般男子	工藤 哲也	長谷川智仁	宮中 義昭	69
		一般女子	信太 寿子	渡辺けい子	菅原美智子	31
第3回	昭62年	一般男子	長谷川智仁	皆川 正広	工藤 哲也	71
		一般女子	中川 朝子	皆川 縁	五十田順子	34
第4回	昭63年	一般男子	皆川 正広	長谷川智仁	岡 宏	51
		一般女子	皆川 縁	柴崎紀美子	五十田順子	22
第5回	平元年	一般男子	皆川 正広	岡 宏	土田 雅人	38
		一般女子	山野 郁恵	下田 幸江	水元 朋子	21
第6回	平2年	一般男子	皆川 正広	長谷川智仁	権沢 篤史	52
		一般女子	皆川 縁	山野 郁恵	下田 幸江	25
第7回	平3年	一般男子	皆川 正広	山下 幸志	土田 雅人	58
		一般女子	下田 幸江	山野 郁恵	岩原 裕美	32

＜岡メモリアルトーナメント＞ 岡メモリアルトーナメントの岡氏であるが、協会設立時の発起人代表として、北見市や道テニス協会あるいは軟式テニスとの調整に奔走され、現在の協会の基礎を作られた方である。また、競技力の向上、普及活動においても当協会の第一人者として活動されており、国体に2度出場しており、日本テニス協会2級公認指導員の資格も有していた。昭和62年から会長として協会の発展に尽力されていたが、悪性の病巣が見つかり、残念ながら平成4年1月、帰らぬ人となった。まさに北見テニス協会の井戸を掘ってくれた方であり、そのご苦労と貢献に感謝するために名前を付した大会を設けた。大会開催の話が進む中、岡家から協会に寄付の申し出があり、200万円という多額の寄付をいただいた。種々検討した結果、協会からも補てんし、300万円を基金として大会運営を行うことになった。

第25回岡メモリアルテニスストーナメント

岡 宏：

1936年生まれ、北見テニス協会を設立するとともに、理事長、会長として底辺拡大、競技力向上に努力する。当人は全道大会のみならず、全日本、国体、北海道・東北定期戦等で活躍する。1992年1月27日、56歳の若さで病気には勝てず他界する。本人の功績を讃え北見テニス協会として本大会を企画したところ、遺族より200万円の基金が寄贈される。



岡メモリアルテニスストーナメントで毎回配布されるパンフレット

当時、当協会の大会は協会員か北見市民が対象であった。この大会は、岡氏の功績を皆さんで共有するとともに、多くの方との交流の機会とするため、オホーツク圏外の協会にも案内を出して開催している。他協会からの参加者は多くはなかったが、趣旨に賛同してくれ何度も参加してくれた方もいる。当初は70～100人の参加者であったが、最近では20～30人に減少しており、岡氏もさびしがっているのではないかと。

また、岡氏はジュニア育成にも力を入れていたこともあり、岡氏の活躍を知ってもらうため、平成15年からジュニアの種目を増やしている。こちらは参加者が多く、今後も増えると思われる。岡氏に続く人材が現れることを期待している。なお、ジュニアの戦績一覧は、ジュニア部門のところにまとめてある。

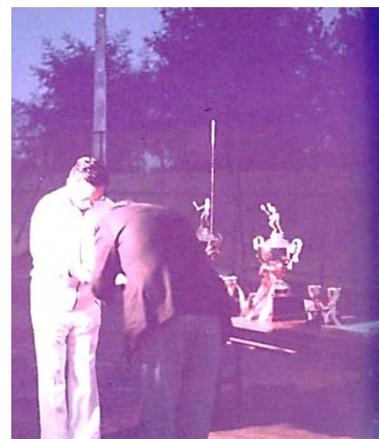
岡メモリアルトーナメント戦績表

回数	年度	種 目	優 勝	準優勝	3 位	参加者数
第 1 回	平 4 年	一般男子	長谷川智仁	権沢 篤	皆川 正広	87
		一般女子	下田 幸江	山野 郁恵	柴崎紀美子	25
		壮年	高谷 俊光	常本 秀幸	時任 重興	7
第 2 回	平 5 年	一般男子	長谷川智仁	土田 雅人	永山 誠	33
		一般女子	山野 郁恵	長 由美子	岩原 裕美	24
		壮年	服部 昌男	高谷 俊光	厚谷 郁夫	4
第 3 回	平 6 年	一般男子	皆川 正広	長谷川智仁	西條 聡	33
		一般女子	三原 一美	山野 郁恵	長 由美子	30
		壮年	高谷 俊光	松井 啓治	大島 俊之	6
第 4 回	平 7 年	一般男子	徳丸 博之	広瀬 智充	長谷川智仁	43
		一般女子	長 由美子	信太 恵子	岩原 裕美	23
		壮年	波多野三郎	服部 昌男		9
第 5 回	平 8 年	一般男子	山田 賢	広瀬 智充	長谷川智仁	42
		一般女子	長 由美子	三原 一美	山野 郁恵	25
		壮年	常本 秀幸	高谷 俊光		5
第 6 回	平 9 年	一般男子	長谷川智仁	皆川 正広	湯浅 健司	44
		一般女子	長 由美子	三田村 恵	三原 一美	14
		壮年	高谷 俊光	常本 秀幸	厚谷 郁夫	5
第 7 回	平 10 年	一般男子	長谷川智仁	海野 容	永山 誠	32
		一般女子	山野 郁恵	高橋真由美	芳形 可奈	19
		壮年	伊藤 陽司	常本 秀幸	川森 勉	5
第 8 回	平 11 年	一般男子	長谷川智仁	菊地 亮	林 吾朗	19
		一般女子	芳形 可奈	三原 一美	高橋真由美	24
		壮年	高谷 俊光	伊藤 陽司	常本 秀幸	9
第 9 回	平 12 年	一般男子	長谷川智仁	坂本 一	江間 修	41
		一般女子	飯塚 明美	山野 郁恵	荒井 雅代	30
		壮年	土田 雅人	高谷 俊光	伊東 秀雄	11
第 10 回	平 13 年	一般男子	長谷川智仁	江間 修	永嶋 秀樹	38
		一般女子	三原 一美	高橋真由美	岩原 裕美	21
		壮年	宮城 雅章	遊佐喜美雄	山田、五十嵐	10
第 11 回	平 14 年	一般男子	長谷川智仁	永嶋 秀樹	永山、山原	39
		一般女子	三原 一美	岩原 裕美	高橋、永嶋	18
		壮年	宮城 雅章	遊佐喜美雄	山田、五十嵐	10
第 12 回	平 15 年	一般男子	長谷川智仁	坂田 宏	永山 誠	27
		一般女子	長谷川一美	永嶋 美保	遊佐満里子	15
		壮年	宮城 雅章	遊佐喜美雄	北野 宏幸	5
第 13 回	平 16 年	一般男子	土田 光	津田 宏重	長谷川智仁	22
		一般女子	和田喜代子	岩原 裕美	野口由美子	16
		壮年	土田 雅人	宮城 雅章	北野 宏幸	7
		45歳女子	荒井 雅代	北野 弥生	福井 峰子	4
第 14 回	平 17 年	一般男子	長谷川智仁	永嶋 秀樹	脇 伸一	24
		一般女子	和田喜代子	長谷川一美	野口由美子	18
		壮年	宮城 雅章	森 一也	山田 孝一	11
第 15 回	平 18 年	一般男子	坂田 宏	藤本 邦晃	秋元 宏太	21
		一般女子	岩原 裕美	野口由美子	朝倉千鶴子	13
		壮年	皆川 正広	北野 宏幸	山口 茂利	8
第 16 回	平 19 年	一般男子	村上 慎一	永山 誠	坂田 宏	39
		一般女子	村上 香	岩原 裕美	朝倉千鶴子	12
		壮年	皆川 正広	宮城 雅章	北野 宏幸	8
第 17 回	平 20 年	一般男子	長谷川智仁	村上 慎一	津田 広重	25
		一般女子	玉田かおり	脇 優子	下司 知世	12
		壮年	佐藤振一郎	湯浅 健司	山田 孝一	7
第 18 回	平 21 年	一般男子	津田 広重	村上 慎一	杉本 嘉久	32
		一般女子	青山 美幸	佐々木 綾	玉田 かおり	12
		壮年	皆川 正広	北野 宏幸	山田 孝一	4
第 19 回	平 22 年	一般男子	寺林 勇紀	村上 慎一	日下部 隆	25
		一般女子	佐々木 綾	長谷川一美	脇 優子	12
		壮年	長谷川智仁			4
第 20 回	平 23 年	一般男子	平野 拓馬	日下部 隆	樋口 裕二	11
		一般女子	長谷川一美	樋口いづみ	三国谷真弓	3
		壮年	長谷川智仁	児玉 忠司	伴 謙司	10

第21回	平24年	一般男子	柴田 大輔	玉井 啓博	秋元 宏太	24
		一般女子	秋元 知世	長谷川一美	平野 晴菜	9
		壮年	長谷川智仁	林 吾朗		4
第22回	平25年	一般男子	玉井 啓博	平野 拓馬	藤井 満	24
		一般女子	秋元 知世	長谷川一美		3
第23回	平26年	一般男子	平野 拓馬	長谷川 聡	川村 真十	21
		一般女子	岡本真理子	安達千佳子	小川詩絵里	8
		ベテラン男子	長谷川智仁	菊地 亮		6
第24回	平27年	一般男子	秋元 宏太	藤井 満	徳丸 博之	16
		一般女子	秋元 知世	菊地 直美	古瀬 真結	8
		ベテラン男子	菊地 亮	児玉 忠司	杉本 嘉久	6
第25回	平28年	一般男子	佐藤 力	関澤 佑介	井上 直樹	13
		一般女子	桑原真理子	菊地 直美	古瀬 真結	5
		ベテラン男子	杉元 嘉久	北野 宏幸		3

11-7 秋季北見選手権（宮沢杯）

宮澤郁夫氏については、先の当協会設立時からの10年（第3章-1）や会長紹介（第6章）のところで述べられている。初代会長を引き受けていただいた宮澤氏には協会発展の礎を作ってもらった。また、宮沢眼科医院開院15周年を記念して夜間照明の寄贈もいただいている。設立間もない協会の運営がスムーズにいくようにいつも気を使ってもらっており、協会としては感謝の気持ちを長く伝えるために、昭和52年から宮沢杯争奪テニス大会を開催している。大会には特大の優勝カップを寄贈いただきいた。



初回大会パンフと優勝カップ（夜間照明寄贈式で披露）

なお、当初は一般男女のダブルスであったが、B級ダブルス大会の茂藤杯やJAS杯がなくなったことから、平成7年からB級ダブルスの種目を追加して実施している。

秋季北見選手権（宮沢杯）戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	昭52年	一般男子	岡・常本	加藤・河田	大島・森谷	16
		一般女子	伊藤・森谷	伊東・新井	小沢・宮沢	8
第2回	昭53年	一般男子	岡・常本	大野・石坂	池端・元村	48
		一般女子	伊藤・宮沢	伊東・新井	内藤・小林	18
第3回	昭54年	一般男子	岡・小畑	鈴木・大島	鶴原・佐々木	36
		一般女子	伊藤・田中	新井・内藤	小林・寺前	16
第4回	昭55年	一般男子	岡・常本	鈴木・大島	枝川・小幡	52
		一般女子	伊藤・田中	新井・内藤	寺前・平野	20
第5回	昭56年	一般男子	岡・常本	奥谷・山内	大野・新田	36
		一般女子	伊藤・平居	小山田・石川	平野・小林	24
第6回	昭57年	一般男子	岡・常本	大野・関村	藤池・吉野	46
		一般女子	伊藤・高木	小山田・石川	伊東・小林	36
第7回	昭58年	一般男子	岡・常本	因・楓	池端・伊藤	50
		一般女子	伊藤・石川	荒瀬・信太	小林・定久	22
第8回	昭59年	一般男子	岡・常本	源・橘井	鈴木・大島	44
		一般女子	伊藤・石川	森・姫田	小林・荒瀬	32
第9回	昭60年	一般男子	岡・常本	皆川・伊藤	荒・長谷川	28
		一般女子	金一・信太	伊藤・石川	皆川・姫田	24
第10回	昭61年	一般男子	長谷川・町田	岡・鈴木	湯浅・土田	36
		一般女子	伊藤・石川	金一・信太	柴崎・菅原	28
第11回	昭62年	一般男子	岡・大島	土田・町田	長谷川・岩橋	16

		一般女子	伊藤・石川	五十田・山野	柴崎・市山	22
第12回	昭63年	一般男子	土田・伊藤	湯浅・町田	岡・常本	20
		一般女子	石川・伊藤	水元・山野	柴崎・五十田	12
第13回	平元年	一般男子	湯浅・土田	長谷川・松田	岡・常本	20
		一般女子	伊藤・長谷川	下田・山野	五十田・伊藤	20
第14回	平2年	一般男子	湯浅・土田	長谷川・平田	松田・町田	26
		一般女子	皆川・伊藤	長谷川・三原	下田・五十田	20
第15回	平3年	一般男子	湯浅・土田	中野・大塚	長谷川・町田	22
		一般女子	皆川・伊藤	石川・下田	柴崎・新藤	24
第16回	平4年	一般男子	町田・長谷川	根津・平田	日下・金田	28
		一般女子	皆川・伊藤	下田・石川	新藤・柴崎	32
第17回	平5年	一般男子	長谷川・皆川	平田・因	伊藤直・坂本	26
		一般女子	皆川・山野	石川・三原	高橋・小野	30
第18回	平6年	一般男子	長谷川・町田	平田・伊藤	日下・西條	26
		一般女子	皆川・石川	山野・三原	山口・早坂	24
第19回	平7年	一般男子	皆川・高谷	平田・伊藤直		10
		一般女子	山野・加藤	信太・長		10
		B級男子	尾藤・川森	横尾・長谷川	妻沼・志村	24
		B級女子	河合・湯浅	本田・矢代	富田・荒井	18
第20回	平8年	一般男子	永山・坂本	脇・林	長谷川・山田	16
		一般女子	山野・佐藤	小野寺・三原	小野・高橋	8
		B級男子	時任・尾藤	佐藤・山口	小林・奥村	10
		B級女子	高桑・荒井	河合・本田	湯浅・油田	10
第21回	平9年	一般男子	長谷川・山田	平田・湯浅	皆川・海野	24
		一般女子	石川・皆川	佐藤・三原	長・早坂	28
		B級男子	高谷・山野	斉藤・川森	尾藤・長谷川	32
		B級女子	本田・油田	福浦・板垣	中村・西尾	24
第22回	平10年	一般男子	長谷川・海野	伊藤・脇	湯浅・菊池	32
		一般女子	幡鎌・高橋	山野・鶴田	早坂・荒井	24
		B級男子	稲葉・尾藤	奥津・牧村	山田・斉藤	52
		B級女子	庄田・河合	土田・赤井	油田・本田	28
第23回	平11年	一般男子	湯浅・坂本	長谷川・林	永山・永嶋	20
		一般女子	三原・芳形	荒井・菊谷	高橋・幡鎌	24
		B級男子	佐野・高谷	山田・長谷川	川森・斉藤	28
		B級女子	菅原・堀尾	庄田・三浦	矢代・月岡	32
第24回	平12年	一般男子	長谷川・脇	江間・海野	皆川・坂本	24
		一般女子	山野・菊谷	荒井・三原	高橋・芳形	28
		B級男子	斉藤・高谷	高橋・川森	仲野・徳田	24
		B級女子	藤田・増田	庄田・石山	矢代・石山	40
第25回	平13年	一般男子	長谷川・北野	海野・中島	伊藤陽・田中	18
		一般女子	荒井・中川	三原・松浦	高橋・小野	22
		B級男子	佐藤・徳田	山田・瀧口	竹江・高谷	18
		B級女子	永山・油田	湯浅・松田	児玉・堀尾	12
第26回	平14年	一般男子	伊藤直・永山	伊藤陽・湯浅	長谷川・大滝	12
		一般女子	三原・長橋	荒井・渋谷	児玉・永嶋	16
		B級男子	山原・山下	山田・川森	佐藤・大場	32
		B級女子	矢代・信太	小林・山崎	林・松岡	8
第27回	平15年	一般男子	今野・山原	中島・脇	田中・大場	22
		一般女子	高橋・岩原	松浦・和田	長谷川・川岸	18
		B級男子	水谷・内田	高橋・川森	澤野・中原	36
		B級女子	木谷・小林	北野・堀尾	菅野・武田	32
第28回	平16年	一般男子	長谷川・脇	山原・藤原	永山・徳田	16
		一般女子	荒井・長谷川	高橋・小野	松浦・脇	12
		B級男子	三品・立石	菊谷・小笠原	澤野・中原	42
		B級女子	小林・木谷	矢代・信太	大野・岩本	20
第29回	平17年	一般男子	脇・伊藤	佐藤・秋元	三品・仲原	20
		一般女子	高橋・中川	荒井・脇	斉藤・下司	6
		B級男子	竹腰・菊地	高間・後藤	長谷川・尾藤	18
		B級女子	河合・矢代	小林・溝井	斉藤・菅原	18

第30回	平18年	一般男子	北野・山原	湯浅・田村	脇・藤原	20
		一般女子	高橋・高橋	宮澤・武田	永山・堀尾	6
		B級女子	松浦・矢代	野々村・長部	松重・仲西	10
第31回	平19年	一般男子	村上・山原	皆川・藤木	佐藤・城崎	14
		一般女子	村上・長谷川	高橋・高橋	山野・植松	12
		B級男子	藤原・吉田	福島・佐藤	長谷川・横尾	18
第32回	平20年	B級女子	青木・杉本	名知・渡辺	渡辺・須藤	10
		一般男子	村上・杉本	長谷川・津田	佐藤・城崎	26
		B級男子	佐藤・福島	長谷川・小林	竹江・熊谷	12
第33回	平21年	一般男子	村上・杉本	永山・脇	長谷川・津田	12
		一般女子	長谷川・永山	高橋・森本	成田・成田	12
		B級男子	鹿内・林	土屋・青木	斉藤・佐藤	20
第34回	平22年	一般男子	中郡・竹中	湯浅・杉本	村上・脇	14
		一般女子	和田・樋口	宮澤・井上	高橋・小野	6
		B級男子	堀内・高橋	樋口・松井	熊谷・佐藤	32
第35回	平23年	B級女子	太見・佐々木	飯田・雨池	奥山・山田	12
		一般男子	檜垣・平野	湯浅・杉本	小松・佐々木	12
		一般女子	宮澤・和田	長谷川・樋口	高橋・小野	8
第36回	平24年	B級男子	島津・清水	山田・海鉾	服部・笠井	28
		B級女子	奥山・山田	上野・野口	新田・川口	12
		一般男子	山田・関	長谷川・鮭川	玉井・平野	36
第37回	平25年	一般女子	小野・佐藤	樋口・福嶋	嶋宮・滝川	18
		B級男子	湯川・山野辺	熊谷・長谷川	川森・山口	22
		B級女子	竹次・白崎	山下・中村		8
第38回	平26年	一般男子	平野・玉井	長谷川・川浪	杉本・藤井	16
		一般女子	長谷川・菊地	井上・宮澤		8
		B級男子	奥村・加藤	井上・野嶋	松井・萩山	16
第39回	平27年	B級女子	櫻井・赤澤			6
		A級男子	長谷川・松村	脇・菊地	杉本・秋元	12
		A級女子	菊地・長谷川	宮澤・長	安達・池田	10
第40回	平28年	B級男子	松井・林	野嶋・井上	佐藤・熊谷	18
		B級女子	小川・太見	角・安藤	鹿内・仲野	10
		A級男子	関澤・川浪	杉本・藤井	安達・本田	32
第39回	平27年	A級女子	安達・稲村	宮澤・井上	長・樋口	26
		B級男子	児玉・高橋	赤澤・小口	阿部・長沢	26
		B級女子	竹次・中野	山川・佐藤	高橋・土田	14
第40回	平28年	A級男子	関澤・大谷	大石・佐藤	湯浅・菊地	44
		A級女子	井上・樋口	長谷川・古瀬	宮澤・長	28
		B級男子	高橋・川森	阿部・吉田	佐藤・熊谷	64
		B級女子	土田・森田	鹿内・川辺	角田・森下	32

11-8 市民大会

市民大会は体育の日に合わせて実施しており、市民であれば参加費無料で楽しんでもらえる。昭和50年代は、北見市体育協会が実施する総合開会式に全員出席してから大会を開始していたが、大会の進行が遅れるため、最近は関係者のみ総合開会式に出てもらい、大会進行を優先させている。また、競技種目が増えているため1日では終わらず、体育の日の前後の休日を利用して実施している。



初回大会パンフレットと北見市寄贈のトロフィー（モデルは脇氏）

当初の種目は一般男女、壮年シングルス及び混合ダブルスの4種目であったが、もっと多くの市民に参加してもらえるよう昭和57年から種目を増やし、B級男女、C級男女、大学生、ジュニア男女シングルスまで広げた時期がある。しかし、一般の参加者が少ないため、成人の種目は平成21年からダブルスの大会に変更している。同じころ、ジュニアの大会も年齢制のダブルスの大会となった。

以下に戦績を示しているが、混合ダブルスはその他の混合ダブルス大会と併せてこの章の後半に記載している。また、ジュニアについても、ジュニアの部門にまとめて表示した。

市民大会戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	昭52年	一般男子	岡 宏	小林 久人	鈴木 輝之	28
		一般女子	伊藤 信子	宮沢由紀子	内藤 郁子	20
		壮年	伊東 秀雄	泉 沂	鎌田 正甫	8
第2回	昭53年	一般男子	常本 秀幸	伊東 秀雄	高屋敷 勝美	41
		一般女子	伊藤 信子	伊東 定子	新井 歌子	14
		壮年	平山 光茂	鎌田 正甫	本間 恒行	6
第3回	昭54年	一般男子	岡 宏	常本 秀幸	池端 治雄	46
		一般女子	伊藤 信子	新井 歌子	小林 千恵子	18
第4回	昭55年	一般男子	岡 宏	枝川 滋	大島 俊之	45
		一般女子	伊藤 信子	新井 歌子	内藤 郁子	24
第5回	昭56年	一般男子	岡 宏	大野 進	橘井 寛	34
		一般女子	伊藤 信子	石川 優美子	小山田 博子	20
第6回	昭57年	一般男子	岡 宏	池端 治雄	大野 進	15
		B級男子	伊藤 陽司	阿部 正孝	小沢 達吉	15
		C級男子	伊藤 圭一	高橋 忠男		3
		一般女子	伊藤 信子	小山田 博子	石川 優美子	7
		B級女子	荒瀬 拓代	信太 寿子	小林フミ子	18
		C級女子	金一 キミ子	高屋敷小百合	五十田 順子	15
		壮年	伊東 秀雄	鎌田 正甫	加藤	4
		大学生	鈴木 正宏	関村 徹		3
第7回	昭58年	一般男子	岡 宏	藤池 保夫	大島 俊之	12
		B級男子	源 和雄	百武 欣二	小林 恒雄	22
		C級男子	佐川 滋	浦 忠昭	竹井	8
		一般女子	荒瀬 拓代	伊東 定子	定久 政子	5
		B級女子	信太 寿子	宮田 雅代	古賀 実紀子	20
		C級女子	小池 静	国田 節子	山野 郁恵	18
		壮年	伊東 秀雄	時任 重興		4
		大学生	桂川 廣昭	等師 貴文	久保 宏司	4
第8回	昭59年	一般男子	岡 宏	藤池 保夫	長谷川智仁	13
		B級男子	因 芳広	伊藤 直人	品田 篤志	31
		C級男子	小俣 雅嗣	竹松 健治	坂田 寿	8
		一般女子	伊藤 信子	石川 優美子	信太 寿子	6
		B級女子	姫田 典子	金一 キミ子	森 幸子	28
		C級女子	田村 記代	吉田 留美子	小池 裕美	9
		壮年	伊東 秀雄	時任 重興	藤井 一男	6
		大学生	田沢 佐敏	吉田 孝志	宮崎 伸二	12
第9回	昭60年	一般男子	長谷川智仁	岡 宏	源 和雄	12
		B級男子	皆川 正広	伊藤 直人	十田 雅人	35
		C級男子	五十田勝司	山崎 隆司	加藤 安男	14
		B級女子	皆川 縁	柴崎 紀美子	菅原 美和子	21
		C級女子	十田 ちえみ	高橋 香織	石橋 由美	11
		壮年	高谷 俊光	伊東 秀雄	北川 博規	4
		大学生	村上 和喜	吉田 孝志	神田 明	4
第10回	昭61年	一般男子	長谷川 智仁	皆川 正広	伊藤 直人	8
		B級男子	湯浅 健司	阿部 正孝	十田 雅人	31
		C級男子	北川 博規	山添	島尻 靖	35
		一般女子	金一 キミ子	柴崎 紀美子	山野 郁恵	6
		B級女子	矢後 八重子	及川 縁子	小林 フミ子	19
		C級女子	竹口 節子	泊谷 和枝	岡部 真理子	9
第11回	昭62年	一般男子	皆川 正広	十田 雅人	湯浅 健司	12
		B級男子	平田 茂	小林 恒雄	小俣 雅嗣	37

		C級男子	鰻目 淑範	津川 昭夫	大上 学	30
		一般女子	高橋 香織	金一 キミ子	山野 郁恵	8
		B級女子	中川 美奈子	小林 フミ子	水元 朋子	18
		C級女子	松井 由美	河合 みさ子	工藤 ルミ子	14
		大学生	平田 修	吉田 孝志	西田 史明	15
第12回	昭63年	一般男子	皆川 正広	岡 宏	十田 雅人	24
		B級男子	時任 重興	小俣 雅嗣	阿部 正孝	39
		C級男子	遠藤 健一	石井 徹	松浦 豊武	16
		一般女子	高橋 香織	山野 郁恵	皆川 縁	6
		B級女子	新里 順子	藤田 敏枝	三原 一美	26
		C級女子	川村 晴美	横尾 裕子	友沢 啓子	17
第13回	平元年	一般男子	皆川 正広	長谷川智仁	岡 宏	18
		B級男子	浦 忠昭	小林 恒雄	植松 寛喜	54
		C級男子	上杉 晃弘	鐘水 博	西塚 秀明	24
		一般女子	長谷川 香織	山野 郁恵	三原 一美	9
		B級女子	下田 幸江	早坂 亜矢子	真藤 恵子	34
C級女子	長 由美子	筈井 雅代	飯田 美保子	12		
第14回	平2年	一般男子	皆川 正広	十田 雅人	町田 求	20
		B級男子	小林 恒雄	大塚 治樹	平松 雅宏	26
		C級男子	横尾 秀幸	上野 光雄	姫田 浩二	10
		一般女子	下田 幸江	山野 郁恵	加藤 恵美	8
		B級女子	信太 恵子	長 由美子	荒木 佳子	23
		C級女子	田中 勝子	阿部 百合子	古家 恵	6
		壮年	時任 重興	伊東 秀雄	山野 擴	4
第15回	平3年	一般男子	皆川 正広	十田 雅人	山田 哲也	20
		B級男子	平松 雅宏	上杉 晃弘	瀬野 栄一	22
		C級男子	斉藤 久男	山崎 譲	館下 則敏	14
		一般女子	下田 幸江	皆川 縁	山野 郁恵	9
		B級女子	落合 薫	山口 節子	六角 梅子	16
		C級女子	十田 照子	下込 清子		3
		壮年	田崎 純	時任 重興	伊東 秀雄	4
第16回	平4年	一般男子	十田 雅人	平田 茂	町田 求	20
		B級男子	上杉 晃弘	竹江 仁博	井戸 清隆	16
		一般女子	三原 一美	下田 幸江	新藤 梢	11
		B級女子	田中 勝子	長 由美子	山口 節子	15
		C級女子	清野 かおり	長谷川ひとみ	館下 幸子	7
第17回	平5年	一般男子	皆川 正広	十田 雅人	長谷川智仁	22
		B級男子	海野 容	伊藤 純一	五十嵐 清	20
		C級男子	豊福 峰幸	飯野 貴志	桜井 洋一	5
		一般女子	皆川 縁	山野 郁恵	長 由美子	7
		B級女子	松原 ひろみ	河合 みさ子	油田 優子	13
		壮年	田崎 純	時任 重興	伊東 秀雄	4
第18回	平6年	一般男子	皆川 正広	長谷川智仁	中野 誠二郎	17
		B級男子	伊藤 純一	湯川 寛志	山口 茂利	13
		C級男子	紺野 陽一	奥村 実	古川 洋一	11
		一般女子	長 由美子	皆川 縁	三原 一美	8
		B級女子	小野寺 笑子	芳形 可奈	宮田 雅代	23
		壮年	松井 啓治	時任 重興	伊東 秀雄	3
第19回	平7年	一般男子	皆川 正広	長谷川智仁	海野 容	12
		B級男子	竹下 克法	山口 茂利	奥村 英一	24
		C級男子	佐野 憲之	下間 康弘	三宅 直哉	8
		一般女子	山野 郁恵	三原 一美		5
		B級女子	芳形 可奈	横尾 裕子	油田 優子	13
		C級女子	堀尾 恵美子	板垣 恵美子	橋本 尚枝	7
第20回	平8年	一般男子	皆川 正広	脇 伸一	高谷 俊光	7
		B級男子	湯川 寛志	時任 重興	尾藤 清光	21
		C級男子	森本 典雄	筈井 昭宏	林 健太郎	4
		一般女子	三原 一美	長 由美子	芳形 可奈	8
		B級女子	荒井 雅代	三浦 節子	板垣 恵美子	16
		C級女子	國分 明子	寒風沢 保子	松原 修子	15
第21回	平9年	一般男子	長谷川智仁	平田 茂	海野 容	13
		B級男子	六戸 努	稲葉 健	斉藤 勇	19

		一般女子	長 由美子	芳形 可奈	松浦 綾乃	6
		B級女子	板垣 恵美子	油田 優子	中村 典子	12
第22回	平10年	一般男子	長谷川智仁	坂本 一	皆川 正広	16
		B級男子	稲葉 健	尾藤 清光	横尾 秀幸	18
		C級男子	高橋	細川		3
		一般女子	幡鎌 満里子	荒井 雅代	芳形 可奈	7
		B級女子	和田 喜代子	赤井 和恵	矢代 千春	10
		C級女子	國分 明子	藤田	田村 あおい	11
		壮年	時任 重興	伊東 秀雄	岩田	3
第23回	平11年	一般男子	林 吾朗	高谷 俊光	伊藤 陽司	6
		B級男子	盛 高志	山田 孝一	小野 哲	15
		一般女子	高橋 真由美	幡鎌 満里子	信太 恵子	7
		B級女子	河合 みさ子	矢代 千春	横尾 裕子	12
		C級女子	武田 智恵	三塚 美幸	武田 美智子	12
第24回	平12年	一般男子	長谷川智仁	江間 修	海野 容	11
		B級男子	小野 哲	森本 典雄	山田 孝一	16
		一般女子	高橋 真由美	三原 一美	松浦 綾乃	10
		B級女子	永嶋 美保	藤田 暁美	菅原 恭子	18
		C級女子	林 輝美	浜岡 直美	田中 麻紀子	10
		45歳男子	常本 秀幸	伊藤 陽司	斎藤 勇	5
		一般男子	長谷川智仁	永嶋 秀樹	永山 誠	8
第25回	平13年	B級男子	徳田 奨	竹腰 信介	瀧口 昌宏	12
		一般女子	三原 一美	松浦 綾乃	永嶋 美保	8
		B級女子	児玉 正美	永山 恭子	木谷 二三代	20
		C級女子	山本 一美	松重 敦子	佐々木 敦子	4
		壮年	伊藤 陽司	山口 茂利	高谷 俊光	5
		一般男子	古米 圭亮	湯川 寛志	徳田 奨	4
第26回	平14年	B級男子	山田 孝一	西條 晃司	山本 誠	14
		一般女子	永嶋 美保	三浦 節子	宮田 雅代	4
		B級女子	永山 恭子	堀尾 恵美子	松田 恵実	15
		一般男子	永山 誠	脇 伸一	山崎 祐弥	10
第27回	平15年	B級男子	長橋 俊明	山本 誠	井上 聡巳	8
		一般女子	長谷川 一美	脇 優子	児玉 正美	3
		B級女子	堀尾 恵美子	阿部 和子	福井 峰子	8
		壮年	山口 茂利	斎藤 勇	山田 孝一	5
		一般男子	脇 伸一	宮城 雅章	越智 陽介	12
第28回	平16年	B級男子	大井 博昭	佐々木 良一	竹腰 信介	5
		C級男子	多賀 学	藤原 真吾	旭岡 義和	4
		一般女子	脇 優子	堀尾 恵美子	武田 美智子	3
		B級女子	三浦 節子	渡邊 友香	林 輝美	5
		C級女子	大野 ひとみ	多賀 崇子	吉井 京子	4
		一般男子	藤木 敏也	郷久 晴郎	永山 誠	22
第29回	平17年	B級男子	井上 聡巳	尾藤 清光	渥美 浩二	8
		C級男子	和田 哲治	佐藤 勇治	小田 良太	4
		一般女子	永山 恭子	下司 知世	脇 優子	3
		B級女子	井上 まゆみ	浅野 優	林 輝美	6
		一般男子	長谷川 智仁	皆川 正広	荒木 達也	14
第30回	平18年	B級男子	南 知弥	宮澤 雄太	六車 研哉	26
		C級男子	横田 和雄	林 涼平	古川 百紀	12
		一般女子	長谷川 一美	下司 知世	安尾 ほたる	3
		B級女子	清水 友香	増田 朋子	浜岡 直美	7
		一般男子	藤木 敏也	山田 孝一	山下 貴弘	7
第31回	平19年	B級男子	中村 孝論	横田 和雄	佐藤 勇治	15
		45歳女子	井上 まゆみ	宮澤 つぼみ	松重 敦子	5
第32回	平20年	一般男子	杉本 嘉久	山原 光広	平 大輔	12
		B級男子	小林 隆	蝦名 奨矢	石田 勤	16
		B級女子	奥田 沙耶歌	清水 友香	渡辺 総	5
		壮年男子	湯浅 健司	北野 宏幸	山田 孝一	5
第33回	平21年	B級男子	斎藤・高橋	佐藤・森	川森・長谷川	16
第34回	平22年	一般男子	湯浅・杉本	林・鹿内		4
		B級男子	阿部・山田	森木・上地	佐藤・熊谷	16
第35回	平23年	一般男子	平野・玉井	檜垣・林	湯浅・杉本	12

第36回	平24年	B級男子	清水・内田	佐藤・能谷	山野辺・長谷川	8
		一般男子	平野・玉井	林・鹿内	清水・内田	10
		B級男子	竹腰・曽根	能谷・福島		8
		一般女子	菊地・長谷川	高橋・宮澤		6
第37回	平25年	一般男子	平野・玉井	伊藤・菊地	柴田・安達	16
		B級男子	斎藤・瀬野	佐藤・長谷川	井上・南波	12
		一般女子	安達・秋元	宮澤・菊地		8
		B級女子	藤田・佐藤	松井・鹿内		8
第38回	平26年	A級男子	柴田・竹中	秋元・平野	金田・川浪	16
		B級男子	佐藤・能谷	高橋・川森	奥村・瀬野	10
		A級女子	安達・岡本	川上・宮澤	長谷川・井上	10
		B級女子	秋元・小川	佐藤・角		8
第39回	平27年	A級男子	長谷川・脇	関澤・川浪	金田・桑原	14
		B級男子	岸・前田	竹腰・渥美		10
		A級女子	秋元・岡本	宮澤・井上	長・菊地	12
		B級女子	矢代・佐藤	高橋・土田		10
第40回	平28年	ベテラン男子	伊藤・菊地			4
		A級男子	大石・佐藤	森田・廣澤	伊藤・菊地	16
		B級男子	鎌田・伊藤	能谷・佐藤	川森・山田	14
		A級女子	宮澤・井上	長谷川・菊地		6
		B級女子	三上・森田	銀田・川辺		8

11-9 コン杯から北網圏室内テニス選手権へ

協会が設立されたころ市内には4軒のスポーツ店があった。一社は札幌の支店でありスポンサーになってもらえなかった。そのほかの茂藤スポーツ、クマザキスポーツ、コンスポーツの3社には協会設立当初からスポンサーとして支援してもらった。

(株)コンスポーツは、2丁目商店街にあるサンブラザの2階にお店があり、球技用品を中心に経営されていた。その後、イトーヨーカドーの前に移転し大きくなった。テニスにも理解があり、参加者は少ないのだが、室内大会を支援してくれることになった。当初の種目は一般男女ダブルスであったが、第4回からシングルスが加わり、翌年からシングルスのみとなった。このシングルス戦から管内対象の大会となっている。しかし、移転後間もないころにテニス部門を縮小することになり、共催の大会は平成2年で終わっている。

室内唯一の大会であり継続することになり、平成3年からは協会単独主催の北網地区室内選手権として現在に至っている。道立体育館を使った大会で3面しか使えず出場枠が少ないが、レベルの高い大会となっている。



コン杯のパンフレット

コン杯室内選手権戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	昭54年	一般男子D	岡・千葉	三浦・宮中	鶴原・小畑・佐々木・青柳	48
		一般女子D	伊藤・田中	新井・平野	小林・石川・渡辺・戸梶	32
第2回	昭55年	一般男子D	岡・大島	三浦・宮中	佐々木・柄目・元村・吉野	40
		一般女子D	石川・小山田	松永・戸梶	伊藤・定久・大隅・桜岡	24
第3回	昭56年	一般男子D	岡・常本	小西・宮中	吉野・池端・阿部・鈴木	26
		一般女子D	石川・小山田	大隈・戸梶	平野・小林・佐藤・柴田	14
第4回	昭57年	一般男子D	岡・常本	大野・奥屋		22
		一般女子D	伊藤・高木	小山田・石川	小沢・定久・村山・工藤	16
		一般男子S	岡 宏	大野 進	奥屋 滋	24
		一般女子S	伊藤 信子	小山田 博子	石川 優美子	11
第5回	昭58年	一般男子S	岡 宏	小西 和保	常本 秀幸・宮中 義昭	26
		一般女子S	伊藤 信子	石川 優美子	戸梶 琢子・信太 寿子	12
第6回	昭59年	一般男子S	岡 宏	荒 徹	長谷川智仁・宮中 義昭	25
		一般女子S	伊藤 信子	石川 優美子	森 幸子・信太 寿子	13

第7回	昭60年	一般男子S	皆川 正広	宮中 義昭	長谷川 智仁、荒 徹	16
		一般女子S	森 幸子	皆川 縁	柴崎 紀美子、信太寿子	8
第8回	昭61年	一般男子S	岡 宏	長谷川 智仁	湯浅 健司、皆川 正広	21
		一般女子S	皆川 縁	金一 きみ子	信太 寿子、柴崎紀美子	12
第9回	昭62年	一般男子S	皆川 正広	長谷川 智仁	岡 宏、工藤 哲也	20
		一般女子S	皆川 縁	渡辺 ケイ子	柴崎紀美子、中川 朝子	14
第10回	昭63年	一般男子S	皆川 正広	岡 宏	湯浅 健司、菊池 一浩	17
		一般女子S	樋口 恵子	皆川 縁	五十田順子、柴崎紀美子	15
第11回	平元年	一般男子S	皆川 正広	湯浅 健司	菊池 一浩、土田 雅人	23
		一般女子S	皆川 縁	長谷川 香織	真藤 恵子、樋口ケイ子	15
第12回	平2年	一般男子S	皆川 正広	土田 雅人	湯浅 健司、宮中 義昭	13
		一般女子S	下田 幸江	皆川 縁	柴崎紀美子、岡本 敏子	12

北網圏室内テニス選手権戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	平3年	一般男子	皆川 正広	山田 哲也	大塚 治樹	19
		一般女子	姫田 典子	山野 郁恵	岩原 裕美	14
第2回	平4年	一般男子	山田 哲也	坂本 富貴彦	土田 雅人、高谷 俊光	17
		一般女子	山野 郁恵	三原 一美	下田 幸江、皆川 縁	14
第3回	平5年	一般男子	皆川 正広	土田 雅人	長谷川 智仁	16
		一般女子	三原 一美	皆川 縁	山野 郁恵	7
第4回	平6年	一般男子	坂本 一	皆川 正広	長谷川 智仁	20
		一般女子	山野 郁恵	三原 一美	長 由美子	7
第5回	平7年	一般男子	坂本 一	皆川 正広	山本 哲史	17
		一般女子	三原 一美	山野 郁恵	皆川 縁	8
第6回	平8年	一般男子	皆川 正広	長谷川 智仁	古賀 孝	13
		一般女子	三原 一美	岩原 裕美	芳形 可奈	6
第7回	平9年	一般男子	古賀 孝	長谷川 智仁	村岡 直哉	16
		一般女子	三原 一美	姫田 典子	谷口 フユ子	13
第8回	平10年	一般男子	長谷川 智仁	山田	浅野	20
		一般女子	芳形 可奈	西野	和田 喜代子	7
第9回	平11年	一般男子	長谷川 智仁	江間 修	湯浅 健司	17
		一般女子	三原 一美	岩原 裕美	鶴田 直子	6
第10回	平12年	一般男子	江間 修	長谷川 智仁	永嶋 秀樹	11
		一般女子	岩原 裕美	三原 一美	遊佐 真理子	6
第11回	平13年	一般男子	長谷川 智仁	皆川 正広	百々 典男	16
		一般女子	三原 一美	荒井 雅代	岩原 裕美	9
第12回	平14年	一般男子	長谷川 智仁	百々 典男	大滝 武彦	16
		一般女子	三原 一美	永嶋 美保	野口 由美子	5
第13回	平15年	一般男子	長谷川 智仁	脇 伸一	山下 貴宏	6
		一般女子	長谷川 一美	和田 喜代子	池田 とし子	5
第14回	平16年	一般男子	長谷川 智仁	永山 誠	宮城 雅章	16
		一般女子	長谷川 一美	和田 喜代子		2
第15回	平17年	一般男子	長谷川 智仁	脇 伸一	菊地 亮、永山 誠	12
		一般女子	長谷川 一美	荒井 雅代	五味 直美、永山 恭子	6
第16回	平18年	一般男子	皆川 正広	藤井 満	横田 寛樹、永山 誠	11
		一般女子	山口 未奈登	澤田 美幸	長谷川一美、朝倉千鶴子	6
第17回	平19年	一般男子	村上 慎一	原 健太	佐藤振一郎、山原 光広	17
		一般女子	長谷川 一美	名知 麻美	鈴木 結華、渡辺ななみ	7
第18回	平20年	一般男子	村上 慎一	杉本 嘉久	藤井 満	8
		一般女子	下司 知世	朝倉 千鶴子	渡辺 総	5
第19回	平21年	一般男子	藤井 満	浅野 晃一	山原 光広	13
第20回	平22年	一般男子	村上 慎一	永山 誠	川村 真士	9
		一般女子	太見 汐里	遠藤 香織	小川 詩絵里	6
第21回	平23年	一般男子	山田 雄嗣	岩間 悠	関澤 佑介	15
		一般女子	太見 汐里	小川 詩絵里	中島 和代	20
第22回	平24年	一般男子	玉井 啓博	鹿内 俊一郎	関澤 佑介	13
		一般女子	秋元 知世	中島 和代	佐藤 聖七	7
第23回	平25年	一般男子	杉本 嘉久	関澤 佑介	日下部 隆	16

第24回	平26年	A級男子	松村 駿	川浪 諒	武田 陸		19
第25回	平27年	A級男子	佐々木龍之慎	関澤 佑介	竹中 聡		21
		A級女子	岡本 真理子	小川 椎菜	久原 美那		7
第26回	平28年	A級男子	関澤 佑介	吉田 剛	杉本 嘉久	大石 将巳	16

11-10 教育長杯を含めた混合ダブルス戦

混合ダブルスは世界の4大会でも開催されており、当協会でも設立当初より春は教育長杯、秋の市民大会で実施していた。教育長杯では、混合ダブルスあるいはペアの合計年齢が100歳を超えていても出場できる大会で、どちらかというとき睦を兼ねていた。なお、教育長杯は昭和61年、市民大会の混合ダブルスは昭和63年で一旦中止している。その後、親睦大会としてお楽しみ大会で復活し、平成7年～15年まで開催されており、A、B、Cのクラス分けで実施したり、優勝者を決めない交流試合のときもあった。また、平成16年～18年にはスポンサー付きのブリヂストンミックスダブルス大会が開催されたが長続きしなかった。混合ダブルスが開催されないのはさびしいとの声もあり、平成22年に市民大会で復活したが、公式な大会でない方が良いのではないかとの意見もあり、平成28年からお楽しみ大会として実施している。このように混合ダブルスは、中止と復活を繰り返しているが、皆さんに楽しんでもらえる親睦大会になることを期待したい。

教育長杯混合ダブルス戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数	
第1回	昭52年	混合&100歳	岡・伊藤	浅沼・斉木	小林夫妻 森谷夫妻	24	
第2回	昭53年	混合	伊東夫妻	金上・大島	内藤夫妻 浦田・佐々木	34	
第3回	昭54年	混合&100歳	鎌田・伊藤	寺前・平山	伊東・鶴原 伊藤・千葉	44	
第4回	昭55年	混合	伊藤・前川	寺前・平山	新井・西口	44	
第5回	昭56年	混合	石川・前川	寺前・平山		24	
第6回	昭57年	混合	雨天中止				
第7回	昭58年	混合	伊藤・伊藤	定久・常本	伊東夫妻	52	
第8回	昭59年	混合	石川・藤池	菅野・藤池	古賀・池端	52	
第9回	昭60年	混合	信太・長谷川	森・小畑	金一・町田	48	
第10回	昭61年	混合	高橋・高谷	古賀・土田	柏原・湯浅	30	

市民大会混合ダブルス戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数	
第1回	昭52年	混合	常本・蒲田	山崎・佐々木	西尾・小畑	28	
第2回	昭53年	混合	伊藤・小畑	新井・佐藤	宮沢・岡	48	
第3回	昭54年	混合	新井・大島	伊東・伊東	伊藤・千葉	84	
第4回	昭55年	混合	伊藤・奥屋	石川・藤池	寺前・平山	64	
第5回	昭56年		記録なし				
第6回	昭57年	混合	定久・常本	伊東夫妻	伊藤・厚谷	32	
第7回	昭58年	混合	定久・常本	小林・池端	金一・関村	56	
第8回	昭59年	混合	森・小畑	信太・岩橋	水野・長谷川	48	
第9回	昭60年	混合	皆川夫妻	金一・伊藤(直)	古賀・荒	14	
第10回	昭61年	混合	皆川夫妻	及川・平田	古賀・岩橋	30	
第11回	昭62年	混合	三原・土田	東・小俣	荒木・湯浅	20	
第12回	昭63年	混合	平田・小池	因・花上	大矢根・吉田	8	

お楽しみ大会混合ダブルス戦績表

年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
平7年春	混合	有光・大島	伊東・山田	河合・梅木	22
平7年秋	混合	山田・迎	荒井・横尾	横尾・芳方	24
平8年	混合	加藤・赤井	伊藤・尾藤	小林・堀尾	22
平9年春	混合	荒井・信太	長・橋本	伊東・佐野	18
平9年秋	混合	早坂・高谷	亀岡・時任	三宅・信太	20
平10年	混合	出村・高谷	鶴田・高橋	月岡・長谷川	不明
平11年	混合	幡鎌・山田	河合・高谷	菊地・竹江	12

平 12 年	混合A	三原・長谷川	荒井・林	山野・伊藤	28
	混合B	増田・小野	加藤・高谷	稲垣・澤野	18
	混合C	林・江本	佐々木・藤巻	宮部・塚田	10
平 13 年	混合	順位のない親睦大会			
平 14 年	混合	順位のない親睦大会			

ブリヂストンミックスダブルス大会戦績表

回数	年度	種 目	優 勝	準優勝	3 位	参加者数
第 1 回	平 16 年	ミックスD	永山夫妻	妹尾夫妻	北野・荒井	24
第 2 回	平 17 年	ミックスD	郷久・和田	永山夫妻	伊藤・荒井	28
第 3 回	平 18 年	ミックスD	荒井・皆川	高橋・高橋	松井・松井	36

市民大会混合ダブルス戦績表（回数は市民大会に合わせた）

回数	年度	種 目	優 勝	準優勝	3 位	参加者数
第 34 回	平 22 年	ミックスD	井上夫妻	熊谷・三浦	清水・渡辺	8
第 35 回	平 23 年	ミックスD	野嶋・宮澤	内田・伊東	熊谷・三浦	8
第 36 回	平 24 年	ミックスD	脇・長谷川	菊地夫妻	平野・平野	14
第 37 回	平 25 年	ミックスD	平野・宮澤	玉井・秋元	杉本・安達	16
第 38 回	平 26 年	ミックスD	竹中・安達	川浪・小川	平野・岡本	20

11-11 ジュニア関連の大会

1) 一般の大会のジュニア部門

本協会でのジュニア大会は、昭和 57 年の市民大会シングルスが最初で、高校生と中学生が対象であった。翌年、クマザキ杯（その後ヨネックス杯）でも開催している。ジュニア男女と表示した大会であるが、主として高校生が対象となっていた。しかし、小中学生への指導が始まってからは年齢制限の大会に移行している場合もある。当初は参加者も少なかったが、高校にテニス部ができ、部活のある高校数も増えた。また、小中学生の実力も高まり参加者の多い大会となっている。

市民大会、ヨネックス杯共にシングルの大会で、ダブルス大会のない時期があった。ダンロップトーナメント（後に DUNLOP SRIXON トーナメントになる）は地区の代表を決める大会であるため、ジュニアは参加できないのだが、ダンロップにお願いし、代表戦とは別に C 級ダブルスの種目を設けてもらい、平成 15 年からジュニア男女のダブルス戦が可能になった。同時期に、ジュニア育成にも努力されていた 2 代目会長の岡氏の意志を引継ぎ、シングルス戦ではあるが、岡メモリアルトーナメントにジュニアの種目を設けている。



SRIXON ジュニア大会の参加者（平成 28 年）

クマザキ杯（ジュニア）戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3 位	参加者数
第 7 回	昭 58 年	ジュニア男子	風見 孝洋	伊藤 真一	晴山 恭	10
		ジュニア女子	信太 寿子	小橋 澄恵	菅野 敦子	9
第 8 回	昭 59 年	ジュニア男子	晴山 恭	伊藤 真一	西田 史明	7

		ジュニア女子	菅野 敦子	小幡 澄恵	荒木 麻里	7
第10回	昭61年	ジュニア男子	工藤 和広	荒木 雅裕	小林 義和	
第11回	昭62年	ジュニア男子	斉藤 正宏	永山 誠	小林 義和	7
		ジュニア女子	宮浦 由紀子	穴吹 美紀	清水 雅恵	5
第12回	昭63年	ジュニア男子	小林 義和	永山 誠	西村 英和	8
		ジュニア女子	穴吹 美紀	佐渡 ゆかり	久保 登美枝	8
第13回	平元年	ジュニア男子	永山 誠	上野 俊	小林 研	17
		ジュニア女子	本間 尚代	村井 裕子	後藤田 利香	13
第15回	平3年	ジュニア男子	西村 勉	西成 心一	木村 修一	10
		ジュニア女子	長田 ユウキ	安岡 美穂	増田 みどり	32
第16回	平4年	U18男子	木村 修一	佐久間 大樹	沼田 強	19
		U18女子	増田 みどり	陶山 麻恵	直井 みつき	14
		U16男子	古米 圭亮	小野 泰宏	丸子 茂	13
		U16女子	山本 愛	中嶋 亜希子	広瀬 季恵	19
		U14男子	石川 幸司	志村 亮	横尾 慶紀	4
		U14女子	東 奈樹沙	落合 佳那子	出町 有季	7
第17回	平5年	U18男子	古米 圭亮	近藤 康之	坂本 勤	16
		U18女子	中嶋 亜希子	越前谷 志保	増田 みどり	13
		U16男子	田巻 裕康	田中	和田	27
第18回	平6年	U16女子	高橋 美香	溝手 真由美	山田	21
		U17男子	田巻 裕康	丸子 茂	門伝 幸人	23
		U17女子	高橋 美香	山田 祥恵	山本 智子	22
		U16男子	常本 邦幸	柴浪 健一	妻沼 大介	6
		U16女子	山本 愛	花田 幸枝	坂下 綾	20

(第9回、
14回は記
録なし、雨
天で中止の
可能性あ
り)

ヨネックス杯テニストーナメント (ジュニア) 戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	平7年	U18男子	植田 英之	小野 泰宏	飯田 貴敏	15
		U18女子	山本 愛	石田 絵里子	大槻 奈美	22
		U16男子	佐藤 龍平	前北 優作	石川 幸司	11
		U16女子	木村 早苗	川岸 愛子	渡邊 友香	21
		U14男子	横尾 徳彦	横尾 嘉宣	高木 敬佑	5
		U14女子	及川 菜穂子	新海 由梨	陣内 ひとみ	7
第2回	平8年	U18男子	松田 大	乙部 真哉	常本 邦幸	18
		U18女子	川岸 愛子	湊 美和	木村 早苗	25
		U16男子	工山 卓也	横尾 慶紀	横尾 徳彦	8
		U16女子	坂下 あゆ	佐藤 ちひろ	鈴木 千香子	18
		U14男子	横尾 嘉宣	高木 憲佑	小川 大授	4
第3回	平9年	U18男子	佐藤 龍平	増井 誠一	庄田 昌史	
		U18女子	小田 しま	巡 愛子	林 美智子	
		U16男子	牧村 匠太郎	森下 正規	河田 達郎	
第4回	平10年	U16女子	藤田 樹里	東 奈樹沙	安岡 あゆみ	
		U18男子	牧野 匠太郎	奥津 康治	高橋 直之	
		U18女子	佐藤 明香	東 奈樹沙	安岡 あゆみ	
		U16男子	滝本 悟志	佐々木 寛行	横尾 徳彦	
		U16女子	土井 亜裕美	福澤 幸代	古澤 智佳子	
第5回	平11年	U14女子	東 麻梨奈	続木 聖恵	上野 由美子	
		U18男子	松井 英介	佐々木 寛幸	林田 雅紀	
		U18女子	土井 亜裕美	福澤 幸代	吉澤 智佳子	
		U16男子	浦澤 佳弘	菊田 昌	大木 肇	
		U16女子	大屋根	工藤 秀子	新海 由梨	
第6回	平12年	U14女子	続木 聖恵	小林 梓	国分 京	
		U18男子	菊田 晶	大木 肇	内田 雅人	男子 43
		U18女子	工藤 秀子	笠井 雅理子	竹村 和	女子 52
		U16男子	高瀬 智史	畑山 直斗	相澤 純也	
		U16女子	松田 亜美	奥田 早耶歌	小野 裕子	
第7回	平13年	U14女子	丸茂 加奈子	寒河江 詩乃	河本 香織	
		U18男子	斉藤 誠太郎	高瀬 智	谷口 寛人	26

		U18 女子	松田 亜美	小野 裕子	早坂 郁美		15
		U16 男子	江頭 俊和	荒井 翔太	高橋 竜也		31
		U16 女子	山崎 友香	林 寿恵	梅津 真弓		17
		U14 女子	寒河江 詩乃	寒河江 美紀	吉岡 遥		6
第 8 回	平 14 年	U18 男子	高橋 竜也	江頭 俊和	佐々木 拓		33
		U18 女子	石川 智子	東坂 桃江	田辺 樹里		20
		U16 男子	石崎 雄太	山田 雄一郎	林 良太		25
		U16 女子	原田 好恵	東 麻梨奈	岩佐 舞子		27
		U14 女子	寒河江 美紀	松重 友香	寒河江 詩乃		6
		U18 男子	吉村 拓朗	林 良太	山田 雄一郎		21
第 9 回	平 15 年	U18 女子	原田 好恵	岩佐 舞子	山中 沙織		25
		U16 男子	渡辺 研二	伊藤 涼	橋本 和弥		33
		U16 女子	浦澤 季衣	藤池 美友	影川 美姫		34
		U14 男子	高廣 大知	伊藤 秀太郎	曾根 奨志		5
		U18 男子	渡辺 研二	荻谷 亮祐	蛭名 亮平		33
第 10 回	平 16 年	U18 女子	浦澤 季衣	藤池 美友	杵渕 なつき		27
		U16 男子	渡辺 尚大	寺西 政人	吉川 圭太		47
		U16 女子	米村 杏菜	西野 智紗斗	松本 真奈美		25
		U18 男子	寺西 政人	高屋敷 愛智	渡辺 尚大		42
第 11 回	平 17 年	U18 女子	大野 彩奈	谷田 幸穂	田邊 沙理		22
		U16 男子	高間 裕樹	竹中 聡	原田 壮志		16
		U16 女子	桃園 翔子	蓮井 美緒	安尾 ほたる		27
		U18 男子	竹中 聡	高間 裕樹	後藤 嘉之		23
第 12 回	平 18 年	U18 女子	菅原 唯	斎藤 光咲	濱田 真代		23
		U16 男子	本間 匠	宮澤 雄太	高橋 紘康		42
		U16 女子	水元 映	谷藤 杏奈	滝口 詩歩		22
		U18 男子	宮澤 雄太	本間 匠	小林 裕毅		38
第 13 回	平 19 年	U18 女子	谷藤 杏奈	黒田 菜緒	名知 麻美		18
		U16 男子	菊池 瑛	鳴島 佳佑	氏家 竣		42
		U16 女子	佐川 美里	大沢 和	池 侑梨子		20
		U14 男子	長谷川 佑樹	上田 慎弥	藤原 拓哉		3
		U12 男子	奥山 凌	中塚 優作	佐々木 諒太		6
		U12 女子	山川 ひな子	馬場 あかね	小山 京香		5
		U18 男子	菊池 瑛	平 大輔	氏家 竣		40
第 14 回	平 20 年	U18 女子	太見 祥子	池 侑梨子	吉本 珠望		14
		U16 男子	高間 賢治	大野 直人	早坂 秀平		43
		U16 女子	篠木 有紗	小暮 菜夢	吉田 知代		26
		U14 男子	藤原 拓哉	長谷川 潤平			2
		U14 女子	佐藤 聖七	杉田 幸子	板野 杏子		4
		U12 男子	奥山 凌	藤原 隼斗	上野 祐督		6
		U18 男子	山口 大輝	高間 賢治	羽賀 浩人		42
第 15 回	平 21 年	U18 女子	太見 祥子	篠木 有紗	森谷 佳那子		20
		U16 男子	宮澤 航太	鏡 稜平	高橋 柁人		30
		U16 女子	船橋 真利美	新田 しおり	平山 綾音		12
		U14 男子	澤田 貴祐	長谷川 潤平	佐々木 諒太		6
		U14 女子	佐藤 聖七	安原 千尋	鏡 風紗		6
		U12 男子	武田 陸	佐藤 大雅	白石 侑央		7
		U18 男子	高橋 柁人	森下 史也	宮澤 航太		30
第 16 回	平 22 年	U18 女子	船橋 真利美	新田 しおり	太見 汐里		19
		U16 男子	松澤 淳	小松 悟志	大森 倫平		35
		U16 女子	星野 麻耶	佐藤 聖七	中川 美鈴		12
		U14 女子	鏡 風紗	安原 千尋	青田 桜子		6
		U12 男子	武田 陸	武田 悠	川谷 知寛		6
		U18 男子	松澤 淳	小松 悟志	佐々木 大志		31
第 17 回	平 23 年	U18 女子	太見 汐里	小川 詩絵里	奥山 結衣		13
		U16 男子	佐藤 稜	菊池 陵	服部 優大		29
		U16 女子	小山 京子	佐藤 聖七	坂東 千歳		19
		U12	武田 悠	神林 凜	上野 洋督		4

第18回	平24年	U18男子	佐藤 稜	及川 翔太	竹口 尚孝		24
		U18女子	木村 優子	佐藤 聖七	服部 佳奈		20
		U16男子	丸山 幸輝	佐々木 諒太	安藤 諒人		44
		U16女子	福士 陽子	安原 千尋	鏡 風紗		26
		U12	神林 凜	長谷川 のあ			3
第19回	平25年	U18男子	佐々木 諒太	武田 陸	丸山 幸輝		36
		U18女子	石山 萌子	木村 優子	福士 陽子		24
		U16男子	橋本 隆一	山田 浩喜	高橋 皓也		28
		U16女子	野村 つかさ	安原 千尋	小川 椎菜		25
		U12男子	古屋 圭梧	安田 成	真所 秀伍		10
		U12女子	松本 萌佳	飛澤 夢果	佐藤 美鈴		5
第20回	平26年	U18男子	武田 陸	石澤 尊	山下 祿大		26
		U18女子	野村 つかさ	片山 菜摘	石井 夢乃		25
		U16男子	吉田 誠也	熊田 幹太	坂東 大漱		36
		U16女子	小川 椎菜	長谷川 のあ	山下 絢		31
		U14男子	倉田 秀彦	上林 拓斗			7
		U14女子	飛澤 夢果	小林 はなか			4
第21回	平27年	U18男子	武田 陸	坂東 大漱	畠 一凱		29
		U18女子	安原 千尋	魚橋 穂乃佳	榊井 七海		22
		U16男子	岡谷 樹	柳瀬 友二郎	安田 成		45
		U16女子	長谷川 のあ	飛澤 夢果	高橋 永理奈		24
		U14男子	北本 真也	上林 拓斗	馬場 研慎	三浦 魁星	13
		U14女子	小林 はなか	田尾 美涼	高橋 唯乃	中崎 亜優香	8
第22回	平28年	U18男子	岡谷 樹	鈴木 大地	安田 成		42
		U18女子	安原 千尋	鏡 風紗	内藤 さくら		26
		U16男子	北本 真也	倉田 秀彦	上林 拓斗		23
		U16女子	松井 小雪	小林 はなか	泉谷 雪衣		30
		U14男子	熊田 和也				4
		U12男子	山 将聖	森 駿輝	富山 稜太	渡辺 里恭	12
		U12女子	田尾 かりん				4

ダンロップテニストーナメント&DUNLOP SRIXON テニストーナメント (ジュニア) 戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第26回	平15年	C級男子	池下・伊藤	森・渡辺	宮澤・成田	16
		C級女子	藤池・浦澤	松田・奥田	影川・横関	12
第27回	平16年	C級男子	渡辺・伊藤	宮澤・森	森・橋本	50
		C級女子	佐々木・大野	熊谷・森本	藤池・浦澤	30
第28回	平17年	C級男子	福家・寺西	渡辺・瀬越	後藤・吉田	38
		C級女子	松重・野々村	大野・岩本	小林・細川	22
第29回	平18年	C級男子	竹中・後藤	西谷内・福本	米沢・高間	28
		C級女子	木下・霧山	本田・長屋	和田・段城	12
第30回	平19年	C級男子	宮澤・本間	小林・加藤	菊池・鳴島	42
		C級女子	青木・林	名知・渡辺	横山・佐藤	20
第31回	平20年	C級男子	平・橋本	蝦名・長谷川	菊池・氏家	46
		C級女子	池・太見	大沢・橋本	佐川・篠木	20
第32回	平21年	C級男子	宮澤・井上	石黒・田村	高間・池田	46
		C級女子	古谷・太見	篠木・吉田	米村・小暮	28
第33回	平22年	C級男子	堀内・高橋	宮澤・林	中村・井上	56
		C級女子	新田・飯田	佐々木・太見	竹山・大西	30
第34回	平23年	C級男子	松澤・小松	佐々木・藤崎	谷・大森	58
		C級女子	太見・小川	星野・碓井	山田・奥山	34
第35回	平24年	C級男子	竹口・為国	佐藤・原田	筈井・服部	56
		C級女子	服部・木村	馬場・末松	佐藤・白崎	42
第36回	平25年	C級男子	丸山・平山	上野・前田	佐々木・吉田	64
		C級女子	福士・今野	木村・長谷川	舟山・中村	50
第37回	平26年	C級男子	武田・畠	石澤・土井	小林・坂東	34
		C級女子	野村・梅津	元氏・小川	佐藤・石井	44
第38回	平27年	C級男子	武田・坂東	下川原・横関	熊田・佐藤	56

第39回	平28年	C級女子	小川・山下	安原・榎井	魚橋・吉永	50
		C級男子	小林・武田	北村・帰山	茂木・小坂	48
		C級女子	安原・角田	長谷川・飛澤	鏡・齋藤	56

岡メモリアルトーナメント（ジュニア）戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位		参加者数
第12回	平15年	ジュニア男子	林 良太	石崎 雄太	渡辺 研二	森 文哉	25
第13回	平16年	ジュニア男子	宮澤 翔太	荻谷 亮祐	寺西 政人	小笠原 圭祐	55
		ジュニア女子	大野 彩奈	石川 愛美	井林 摩耶	白山 愛奈	13
第14回	平17年	ジュニア男子	福家 匠	渡辺 尚大	寺西 政人	瀬越 智亮	47
		ジュニア女子	大野 彩奈	齋藤 光咲	和田 眸	寺西 真希	26
第15回	平18年	ジュニア男子	竹中 聡	高間 裕樹	後藤 嘉之	宮澤 雄太	53
		ジュニア女子	小林 千里	菅原 唯	齋藤 光咲	蓮井 美緒	27
第16回	平19年	ジュニア男子	本間 匠	宮澤 雄太	菊池 瑛	樋渡 満	53
		ジュニア女子	谷藤 杏奈	池 侑梨子	名知 麻美	黒田 采緒	27
第17回	平20年	ジュニア男子	鳴島 佳佑	菊池 瑛	大込 凌	氏家 竣	71
		ジュニア女子	太見 祥子	佐藤 桃香	小暮 菜夢	篠木 有紗	30
第18回	平21年	ジュニア男子	宮澤 航太	大野 直人	高間 賢治	外崎 孝明	63
		ジュニア女子	太見 祥子	篠木 有紗	古谷 遥香	和田 共代	28
第19回	平22年	ジュニア男子	高橋 柊人	宮澤 航太	堀内 暢	井上 涼太	63
		ジュニア女子	木村 七海	太見 汐里	船橋 真利美	新田 しおみ	30
第20回	平23年	ジュニア男子	松澤 淳	谷 洋輔	佐々木 大志	藤崎 峻	56
		ジュニア女子	木村 七海	太見 汐里	小川 詩絵里	奥山 結衣	41
第21回	平24年	ジュニア男子	佐藤 綾	原田 拓実	井関 蒼	阿部 達也	57
		ジュニア女子	小山 京香	木村 優子	佐藤 聖七	川口 璃美	42
第22回	平25年	ジュニア男子	佐々木 諒太	丸山 幸輝	安藤 諒人	澤田 貴祐	62
		ジュニア女子	野村 つかさ	神林 凜	木村 優子	石山 萌子	47
		U14男子	松本 薫	松田 空	鈴木 大和	中村 瞭仁	12
		U14女子	長谷川 のあ	佐藤 美玲			5
第23回	平26年	ジュニア男子	武田 陸	石澤 尊	山下 禄大		58
		ジュニア女子	小川 椎菜	樋口 真緒	野村 つかさ		46
		U14男子	上林 拓斗	尾崎 大治郎			4
		U14女子	飛澤 夢果	小林 はなか			4
第24回	平27年	ジュニア男子	武田 陸	坂東 大漱	小口 侑真		79
		ジュニア女子	安原 千尋	小川 椎菜	鏡 凧紗		46
		U14男子	馬場 研慎	安田 壮	玉井 祐太郎	原紺 翔	7
		U14女子	小林 はなか	森 向日葵	高木 芽依	高橋 唯乃	6
第25回	平28年	ジュニア男子	岡谷 樹	鈴木 大地	柳瀬 友二郎		69
		ジュニア女子	安原 千尋	鏡 凧紗	内藤 さくら		52
		U14男子	山 将聖	森 駿輝	安田 壮	鳶澤 遼真	14
		U14女子	田尾 かりん	森田 奈央			5

市民大会（ジュニア）戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位		参加者数
第6回	昭57年	高・中生	長谷川 智仁	伊藤 真一	晴山 恭		13
第7回	昭58年	ジュニア男子	長谷川 智仁	晴山 恭	木下 雅司	西田 史明	19
第8回	昭59年	ジュニア男子	木下 雅司	西田 史明	志賀 理英		7
		ジュニア女子	菅野 敦子	謙田 景子	柏葉 由紀子		13
第9回	昭60年	ジュニア男子	前谷 研朗	藤代 英樹	石川 信弥		5
第10回	昭61年	ジュニア男子	岸 宣宏	小林 義和	米谷 研郎		7
		ジュニア女子	藤本 栄桃	穴吹 美紀	中村 恵子		10
第11回	昭62年	ジュニア男子	小林 義和	岸 宣宏	永山 誠		9
		ジュニア女子	清水 雅恵	坂口 友美	久保 登美枝		6
第12回	昭63年	ジュニア男子	永山 誠	菅原 浩昭	上野 俊		4
		ジュニア女子	村井 裕子	佐渡 ゆかり	久保 登美子		9
第13回	平元年		記録なし				
第14回	平2年	ジュニア男子	西成 心一	佐々木 英人	細川 直行		10
		ジュニア女子	佐藤 友恵	長田 ユウキ	小林 幸恵		14
第15回	平3年	ジュニア男子	小林 研	西村 勉	細川 直行		50

		ジュニア女子	長田 ユウキ	直井 みつき	高田 美穂		36
第16回	平4年	ジュニア男子	近藤 康之	十山 徹行	窪田 勤		30
		ジュニア女子	山本 愛	中岡 弥生	増田 みどり		22
		U14男子	石川 幸司	庄田 昌史	志村 亮		
		U14女子	落合 佳那子	出町 有希	佐藤 園江		
第17回	平5年	U18男子	古米 丰亮	菅原	丸子		14
		U18女子	平林 かん奈	中嶋 亜希子	越前谷 志保		12
		U16男子	田巻 裕康	飯田	小林		15
		U16女子	結城 瞳	志鷹 綾子	橋爪 陽子		10
第18回	平6年	U15男子	庄田 昌史	横尾 慶紀	横尾 徳彦		3
		U15女子	東 奈樹沙	及川 菜穂子	陣内 ひとみ		3
この間のデータ不明							
第23回	平11年	U18男子	松井 英介	佐々木 寛幸	能谷 隆之		
		U18女子	大屋根	吉澤 智佳子	川村 夏未		
		U14女子	山崎 友香	緑木 聖恵	小林 梓		
第24回	平12年	U18男子	菊田 晶	能谷 隆之	浦澤 佳弘		37
		U18女子	黒川 智美	工藤 秀子	佐藤 睦		36
第25回	平13年	U18男子	高瀬 智	高橋 竜也	斉藤 誠太郎		56
		U18女子	小野 裕子	奥田 早耶歌	高橋 由衣		18
		U14女子	吉岡 遥	島澤 知花	松重 友香		5
第26回	平14年	U18男子	高橋 竜也	佐々木 拓	菅野 裕衣		40
		U18女子	山崎 友香	石川 智子	中尾 絵里香		28
		U14女子	島澤 知花	吉岡 遥	仲西 希朝		6
第27回	平15年	U18男子	山田 雄一郎	林 良太	吉村 拓朗		23
		U18女子	原田 好恵	岩佐 舞子	佐々木 希望		25
		U16男子	大澤 歩	宮澤 翔太	田中 昭義		30
		U16女子	藤池 美友	浦澤 季衣	影川 美姫		27
第28回	平16年	U18男子	荻谷 亮祐	宮澤 翔太	住田 哲夫		30
		U18女子	藤池 美友	景川 美姫	橋本 詩織		24
		U16男子	瀬越 智亮	福家 匠	長谷川 寛幸		40
		U16女子	大野 彩奈	松本 真奈美	高橋 麻里		24
		U14男子	曾根 将志	三浦 昇悟	安宍 太郎		4
第29回	平17年	U18男子	寺西 政人	渡辺 尚太	福家 匠		41
		U18女子	大野 彩奈	田邊 沙理	近藤 麻衣子		21
		U16男子	後藤 嘉之	越智 俊太郎	小野寺 大樹		18
		U16女子	斎藤 光咲	桃園 翔子	菅原 唯		27
第30回	平18年	雨天中止					
第31回	平19年	U18男子	宮澤 雄太	本間 匠	山田 光理		23
		U18女子	名知 麻美	池 侑梨子	黒田 菜緒		19
		U16男子	菊池 瑛	鳴島 佳佑	富田 健護		23
		U16女子	佐藤 桃香	小山 舞香	篠田 藍		15
		U14男子	井上 航	藤原 拓哉	長谷川 祐樹		3
		U12男子	中塚 優作	藤原 隼斗	長井 祐人	長谷川 潤平	6
		U12女子	小山 京香	藤原 梓咲	加藤 夢梨		3
第32回	平20年	U18男子	菊池 瑛	大込 凌	鳴島 佳佑	高橋 潤也	32
		U18女子	太見 祥子	佐藤 桃香	篠木 有紗	佐川 美里	10
		U16男子	本間 達也	大野 直人	高間 賢治	宮澤 航太	46
		U16女子	小暮 菜夢	吉田 知代	米村 里紗	成田 菜摘	22
		U14男子	河原 亘佑	藤原 拓哉	徳道 鮎太	長谷川 潤平	11
		U14女子	金子 すなお	藤原 梓			3
第33回	平21年	U18男子	高間 賢治	外嶋 孝明	大野 直人	池田 駿斗	39
		U18女子	高橋 柊人	宮澤 航太	鏡 稜平	堀内 暢	29
		U16男子	太見 祥子	篠木 有紗	古谷 遥香	小暮 菜夢	22
		U16女子	船橋 真利美	新田 しおり	平山 綾音	大西 舞夢	12
		U14男子	澤田 貴祐	佐々木 諒太	長谷川 潤平		4
		U12男子	武田 陸	白石 侑央	島 一凱		10
		U12女子	鏡 風紗	安原 千尋	北本 真央		3
第34回	平22年	U18男子	高橋 柊人	森下 史也	宮澤 航太	松澤 淳	39
		U18女子	船橋 真利美	新田 しおり	太見 汐里	只野 奈々	22
		U16男子	谷 洋輔	小松 悟志	佐々木 諒太	海鋒 大地	29
		U16女子	鏡 風紗	為広 愛美	碓井 裕美子		12
		U14男子	武田 陸	武田 悠	川谷 知寛	島 一凱	7

第35回	平23年	U18 男子	松澤・谷	小松・佐々木	大森・藤崎	28
		U18 女子	太見・小川	竹中・碓井	星野・元木	18
		U16 男子	佐藤・原田	佐々木・上野	服部・等井	28
		U16 女子	竹次・白崎	坂東・小山	馬場・山下	20
		U12	武田 悠	ブランドンクラロ	上野 洋督	6
第36回	平24年	U18 男子	竹口・為国	佐藤・原田	岡田・菊地	30
		U18 女子	小山・馬場	竹次・白崎	服部・木村	22
		U16 男子	古川・田井	池田・小林	木村・桜井	18
		U16 女子	中村・宍戸	後藤・舟山	赤澤・櫻井	18
		U12 男子	安田 成	古屋 圭梧	副島 玲人	6
		U12 女子	小山 葵	飛澤 夢果	松村 桜	8
第37回	平25年	U18 男子	佐々木・前田	真所・上野	川谷・武田	34
		U18 女子	今野・福士	櫻井・赤澤	舟山・中村	26
		U16 男子	大関・橋本	山田・千葉	峯田・川淵	26
		U16 女子	野村・梅津	石井・佐藤	等井・古山	22
		U12	古屋・木村	安田・中村	佐藤・松本	10
第38回	平26年	U18 男子	武田・坂東	鈴木・下川原	石澤・川谷	34
		U18 女子	野村・梅津	樋口・山崎	石井・佐藤	24
		U16 男子	吉田・佐々木	三沢・上林	小田・岸	30
		U16 女子	安原・鏡	榊井・竹次	山下・佐藤	28
第39回	平27年	U18 男子	武田・川谷	竹中・岡谷	熊田・市村	34
		U18 女子	小川・山下	安原・榊井	魚橋・吉永	24
		U16 男子	安田・古屋	大門・福地	伊井・小林	38
		U16 女子	鏡・井上	長谷川・飛澤	七山・菊地	24
		U14 男子	尾崎・三浦			6
		U14 女子	高橋・高木			4
第40回	平28年	U18 男子	武田・帰山	岡谷・茂木	鈴木・渡辺	44
		U18 女子	安原・神田	長谷川・飛澤	鏡・齋藤	30
		U16 男子	上林・北本	竹下・清野	上野・菊地	18
		U16 女子	田尾・小林	遠藤・水戸	西山・武永	28
		U14 男子	山・安田	森・渡辺	玉井・飯島	10
		U12 女子	森田・三沢			6

2) 室内ジュニア選手権大会

ジュニアの活動は冬期間も続いており、その成果を競う場として室内大会の要望があった。平成4年から道立体育館を使ってシングルスとダブルスで室内選手権を実施している。戦績のない年度は、大会運営が協会から高体連に移行した時期かと思われる。同様に、平成28年度からは高体連主催となるために戦績一覧への記載は途絶えることになる。

北見ジュニア選抜室内テニス選手権（シングルス）戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	平4年	U18 男子	古米 圭亮	小野 貴士	近藤 康之 坂本 勤	25
		U18 女子	山本 愛	中嶋 亜希子	平林 かん奈 増田 みどり	26
		U14 男子	石川 幸司	庄田 昌史	横尾 慶紀	4
		U14 女子	佐藤 園江	姫田 絵美	出町 有希	7
第2回	平5年	U18 男子	古米 圭亮	菅原 篤	丸子 茂	11
		U18 女子	中嶋 亜希子	越前谷 志保	平林 かん奈	9
		U16 男子	飯田 祐士	田巻 裕康	植田	8
		U16 女子	三上	橋爪 陽子	高橋 美香	11
第3回	平8年	ジュニア男子	佐藤 龍平	石川 幸司	松田 大	17
		ジュニア女子	渡辺 友香	水元 芽衣	木村 香織	25
第4回	平9年	ジュニア男子	高橋 幸司	増井 誠一	玉木 誠一	15
		ジュニア女子	小田 しま	寺町 可奈子	西田 紘子	22
第5回	平10年	ジュニア男子	牧村 匠太郎	高橋 直之	奥津 康治	22
		ジュニア女子	東 奈樹沙	永田 薫	安岡 あゆみ	20
第6回	平11年	U18 男子	松井 英介	横尾 嘉宜	内田 雅人	18
		U18 女子	福澤 幸代	土井 亜裕美	工藤 秀子	19
		U14 女子	続木 聖恵	小林 梓	東真 梨奈	4

第7回	平12年	U18男子	内田 雅人	菊田 晶	熊谷 隆之		13
		U18女子	工藤 秀子	黒川 智美	加藤 千晴		14
第8回	平13年	U18男子	谷口 寛人	玉木 郁教	高瀬 智		16
		U18女子	小野 裕子	松田 亜美	阿部 未由季		16
第9回	平14年	U18男子	高橋 竜也	佐々木 拓	江頭 俊和		12
		U18女子	山崎 友香	小椋 みどり	金谷 美咲		8
第10回	平20年	ジュニア男子	大込 凌	鳴島 佳佑	菊池 瑛	高橋 潤也	16
		ジュニア女子	太見 祥子	篠木 有紗	佐川 美里	吉田 知世	16
第11回	平21年	ジュニア男子	大野 直人	宮澤 航太	高間 賢治	土屋 和貴	16
		ジュニア女子	太見 祥子	羽田野 聡子	古谷 遥香	篠木 有紗	16
第12回	平22年	ジュニア男子	高橋 柀人	堀内 暢	中村 和広	宮澤 航太	16
		ジュニア女子	太見 汐里	新田 しおり	船橋 真利美	奥山 結衣	16
第13回	平23年	ジュニア男子	小松 悟志	谷 洋輔	藤崎 峻		16
		ジュニア女子	小川 詩絵里	奥山 結衣	太見 汐里		16
第14回	平24年	ジュニア男子	佐藤 綾	菊地 陵	服部 優大		16
		ジュニア女子	末松 ゆり	馬場 あかね	山下 奈穂子		16
第15回	平25年	ジュニア男子	武田 陸	丸山 幸輝	佐々木 諒太		16
		ジュニア女子	中村 祥子	木村 優子	野村 つかさ		16
第16回	平26年	ジュニア男子	武田 陸	石澤 尊	鈴木 皓平		16
		ジュニア女子	小川 椎菜	片山 菜摘	野村 つかさ		16
第17回	平27年	ジュニア男子	武田 陸	梶 一凱	川谷 知寛	坂東 大漱	16
		ジュニア女子	小川 椎菜	安原 千尋	鏡 凧紗	榎井 七海	16
	平28年	高体連主催大会となる					

北見ジュニア選抜室内テニス選手権（ダブルス）戦績

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位		参加者数
第1回	平4年	ジュニア男子	窪田・松本	小野・小西	古米・菅原		26
		ジュニア女子	増田・中嶋	広瀬・山本	和田・鈴木		26
第2回	平7年	ジュニア男子	小野・志村	妻沼・小川	常本・斉藤		48
		ジュニア女子	渡辺・湊	大槻・土山	石田・坂下		48
第3回	平9年	ジュニア男子	西木・高橋	増井・新井山	岩本・牧村		16
		ジュニア女子	小田・寺町	直井・宮脇	林・佐藤		28
第4回	平10年	ジュニア男子	高橋・牧村	奥津・千葉	星・新井山		24
		ジュニア女子	小田・伊藤	安岡・永田	佐藤・松田		18
第5回	平11年	ジュニア男子	杉本・松井	浦澤・大木	桜井・鹿野内		48
		ジュニア女子	福澤・黒川	竹村・大屋根	三上・吉田		40
第6回	平12年	ジュニア男子	中塚・横尾	熊谷・谷内	内田・村形		44
		ジュニア女子	黒川・竹村	工藤・寺町	原田・石川		48
第7回	平13年	U18男子	高瀬・斉藤	玉木・江頭	谷口・佐々木		26
		U18女子	松田・高橋	小野・奥田	阿部・櫻井		22
第8回	平14年	U18男子	江頭・荒井	佐々木・吉村	夏井・三浦	高橋・江頭	26
		U18女子	石川・原田	東坂・中尾	田邊・岩佐	大木・加藤	28
	平20年	吹雪で中止					
第9回	平21年	ジュニア男子	宮澤・池田	高間・外崎	羽賀・大野	井上・近藤	32
		ジュニア女子	太見・古谷	篠木・森谷	小暮・米村	和田・成田	30
第10回	平22年	ジュニア男子	宮澤・中村	高橋・堀内	林・井上	森下・高桑	32
		ジュニア女子	太見・新田	船橋・星野	飯田・佐々木	只野・中川	26
第11回	平23年	ジュニア男子	小松・谷	松澤・藤崎	佐々木・大森		30
		ジュニア女子	太見・小川	山田・奥山	野口・上野		30
第12回	平24年	ジュニア男子	岡田・菊地	及川・小林	竹口・為国		32
		ジュニア女子	馬場・小山	竹次・白崎	末松・山下		32
第13回	平25年	ジュニア男子	安藤・小南	木村・桜井	武田・川谷		32
		ジュニア女子	野村・梅津	木村・安原	中村・舟山		32
第14回	平26年	ジュニア男子	武田・石澤	土井・坂東	沼倉・熊田		32
		ジュニア女子	野村・梅津	元氏・小川	石井・佐藤		32
第15回	平27年	ジュニア男子	武田・川谷	坂東・梶	小口・赤澤	下川原・横関	32
		ジュニア女子	安原・榎井	小川・山下	佐藤・小坂	吉永・角田	32
	平28年	高体連主催大会となる					

3) 中学校テニス団体戦&個人戦

日本テニス協会では、テニスを中学校体育連盟の正式種目に認めてもらう活動を全国で展開しており、その一環として、北海道テニス協会も平成25年度から全道中学校テニス団体戦を開催している。道協会の要請を受け、北見地区予選を実施することとなり、北見市教育委員会やオホーツク中体連、北見ブロック中体連のご理解を得、平成26年度から地区大会を開催し、全道大会にも選手が派遣できるようになった。同時に個人戦も行っており、その結果は以下の通りである。なお、平成29年度の全道大会には男女各2校が参加できることになり、男子は東陵中学校と北中学校、女子は東陵中学校と南中学校が参加した。また、この大会では、東陵中学校3年安田成君と高木芽依さんが名誉ある選手宣誓に選ばれた。



中学校テニス大会の新聞報道
(伝書鳩 平成26年8月11日)

全道大会で宣誓した安田君と高木さん

北見地区中学校テニス団体戦戦績

年度		優勝	準優勝	3位
平26年	男子	東陵中 (エントリー1校のみ)		
平27年	男子	東陵中 (エントリー1校のみ)		
平28年	男子	北中・東陵中合同	東陵中 A	斜里中
	女子	南中	東陵中	
平29年	男子	東陵中 A	北中	斜里中
	女子	東相内中・高栄中 合同	南中	東陵中

中学生シングルス大会戦績

年度		優勝	準優勝
平26年	男子	三沢有生	上林優斗
	女子	安原千尋	鏡 風紗
平27年	男子	安田 成	三沢有生
	女子	長谷川のあ	飛澤夢果
平28年	男子	安田 成	古屋圭悟
	女子	飛澤夢果	小林はなか
平29年	男子	古屋圭悟	北本真也
	女子	飛澤夢果	小林はなか

12. 女子連北海道北見地区の活動

協会発足時から女性テニス愛好者を増やすため、女性担当あるいは女子部が設けられていた。平成5年に女子部役員が中心となって、日本女子テニス連盟北海道支部（以後、女子連北海道とする）に北見地区として加盟することになった。皆さんの賛同を得、初代地区長石川優美子さんの下、活動を開始している。加盟から25年近くを経過し、北見地区会員も70人近くになっている。会員には北見市内ばかりでなく、オホーツク圏のテニス愛好者にも参加してもらっており、これらの方々と以下に示すような事業を行っている。

上部組織は日本女子テニス連盟（JLTF、以降、日本女子連とする）であり、北見地区はその傘下の女子連北海道に所属し、全道8地区の一つとして登録されている。日本女子連は50年の歴史を有しており、女性へのテニスの普及ばかりでなく、ジュニアの育成や支部あるいは地区の活動を支援しており、その活動は高い評価を得ている。女子連北海道であるが、昭和55年に設立され、間もなく40周年になる。女子連北海道の役員は北海道テニス協会の主要な役員として参画しており、女子連は道テニス協会運営に欠かせない存在になっている。北見地区でも状況は同様であり、北見テニス協会もこれまでの歴代地区長（石川優美子、山野郁恵、高橋真由美、宮田雅代、宮澤つぼみ）始め、役員皆さんの協力で運営されており、感謝申し上げたい。

なお、女子連北見地区と北見テニス協会とは強い連携関係にあるが別組織であり、両者の関係をどのようにするか議論されたことがあった。結論として、女子部時代と同様に相互協力で両組織を運営することになったと聞いている。たとえば、議案書には女子連・女子部と表示し、行事予定表や戦績結果は両組織で併記する。ただし、組織が異なることから、収支決算は別個に行うことにしている。いずれにしても、北見テニス協会は運営面でも競技力の面でも常に女子連にお世話になっており、今後もこのような連携プレーを続け両組織の発展を願うものである。

女子連北海道北見地区歴代役員一覧

年 度	地区長	副地区長		会 計	監 事	指導顧問
平6年	石川優美子			長 由美子		
平7年	山野 郁恵			長 由美子		
平9年	山野 郁恵			高橋真由美		
平10年	高橋真由美	宮田 雅代		出村 澄子		
平12年	宮田 雅代	伊藤 慧子		中村 典子		
平16年	宮田 雅代	長部こずえ	菅野成津子	森本可恵子		
平17年	宮田 雅代	長部こずえ	菅野成津子	武田美智子		
平18年	宮澤つぼみ	長部こずえ	菅野成津子	武田美智子		
平21年	宮澤つぼみ	長部こずえ	井上まゆみ	武田美智子		
平22年	宮澤つぼみ	長部こずえ	井上まゆみ	久光美代子	仲西 厚子	
平23年	宮澤つぼみ	長部こずえ	井上まゆみ	久光美代子		中塚ひとみ
平25年	宮澤つぼみ	長部こずえ	井上まゆみ	三上めぐみ		
平29年	宮澤つぼみ	長部こずえ	井上まゆみ			

12-1 各種大会

女子連の大会は大きく分けると三つに分類できる。一つは、北海道8地区親睦テニス大会北見地区予選やWE LOVE DUNLOP レディース大会、今はなくなったが東急レディース大会のように全道大会あるいは全国大会の代表権をかけた大会。二つ目は、伊藤慧子メモリアルテニス大会やそれに続くAUTUMN レディーステニス大会のように競技力向上を目指した北見地区独自の大会。もう一つは、底辺の拡大と会員定着、あるいは懇親を重視した桑名杯及・支部長杯B級レディーステニス北見大会、チャレンジテニス大会、あるいはエンジョイテニス大会、今はなくなったが、女子部時代に開催された TUESDAY レディーステニス大会な

どである。なお、女子連主催の大会への参加は女子連会員が原則となっているが、エンジョイテニス大会のように、北見テニス協会会員なら参加でき、しかも男性も認められている大会もある。

1) 北海道8地区親睦テニス大会北見地区予選

現在道内には日本女子連北海道支部に登録されている地区が8地区あり、地区予選会での勝者による全道親睦大会が道内各地区持ち回りで開催されている。北見地区予選大会は平成6年から始まったが、全道大会の回数に合わせたため大会回数を第5回としている。この年から勝者を中心にチームを作り全道大会に参加したようだが、地区大会の記録が残っていない。最初の帯広大会では7地区と対戦し、8チーム中5位であった。(開催地区は2チーム参加できるため8チームでの対戦になる。)

平成10年までは7地区であったが、翌年より函館が加わり8地区で予選大会が開催されている。大会名称は、女子連8地区対抗予選大会とか女子連春のテニス大会などと言われた時期もあったが、平成21年からはJLTF北海道8地区対抗戦北見地区予選大会と長い名前になり、平成26年に現在のJLTF北海道8地区親睦テニス大会北見地区予選大会となった。競技種目もその時代時代に応じて、年齢制であったり、A、B、Cのクラス分けとかオープン表示だったりしているが、現在は地区のトップ選手が代表権を争う大会になっている。



平成21年8地区大会で昼夜総合優勝

全道大会は一般ダブルス2ペアとシニア1ペアで戦うが、なんと、平成21年の大会では優勝の栄冠を得ている。また、この時の夜の交流会の余興でも優勝したそうだ。(夜の部の写真等は第13章の宮澤さんの思い出に載っている)

JLTF北海道8地区親睦大会北見地区予選大会戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数	道大会開催地	順位
第5回	平6年	記録なし					帯広	5位
第6回	平7年	30歳女子	長谷川・松原	朝倉・滝川	高橋・小野		札幌	6位
		40歳女子	山野・渡辺	山口・早坂	西部・桜井			
		50歳女子	加藤・本田	福浦・亀岡	石津・吉田			
第7回	平8年	30歳女子	長谷川・三原	岩原・古田	佐々木・荒井	20	北見	A:6位 B:7位
		40歳女子	小野・高橋	山口・早坂	渡部・桜井	24		
		50歳女子	前田・保前	福浦・亀岡	相原・本田	8		
第8回	平9年	30歳女子	三原・佐藤	両角・村瀬	高橋・小野	22	千歳	2位
		40歳女子	渡辺・大谷	赤井・月岡	笠井・三沢	14		
		50歳女子	福浦・亀岡	本田・桜岡		4		
第9回	平10年	30歳女子	荒井・高桑	岩原・大桜	両角・村瀬	36	旭川	7位
		40歳女子	佐藤・渡辺	高橋・幡鎌	渡部・桜井	26		
		50歳女子	山野・大谷	田代・嘉義		10		
第10回	平11年	一般女子	渡辺・山野	両角・村瀬	高橋・小野	32	札幌	6位
		シニア女子	加藤・出村	本田・佐々木	岸・桜岡	6		
第11回	平12年	30歳女子	荒井・高橋	清信・佐藤	佐藤・松田	20	小樽	7位
		40歳女子	鶴田・小野	古田・岩原	中村・月岡	18		
		シニア女子	増田・相原	矢代・幡鎌	渡部・桜井	10		
第12回	平13年	A級女子	吉田・岩原	荒井・小坂	西川・福田	20	室蘭	6位
		B級女子	佐藤・清信	森谷・元氏	荻原・三浦	30		
		C級女子	松永・佐々木	上口・星	国分・松重	12		
		シニア女子	増田・石山	福浦・岸	本田・伊藤	6		
第13回	平14年	オープン	荒井・松浦	高橋・岩原	菊谷・小野	54	函館	6位
		シニア女子	出村・幡鎌	桜岡・前田	桜井・増田	8		
第14回	平15年	オープン	小野・和田	西川・福田	宮澤・福井	36	札幌	9位

		シニア女子	桜井・小林	捧・河合	岡本・増田	10		
第15回	平16年	オープン	山野・岩原	高橋・小野	佐藤・古館	30	帯広	9位
		シニア女子	増田・桜井	小坂・森谷	河合・捧	6		
第16回	平17年	オープン	高橋・佐藤	荒井・和田	菊地・山岸	42	旭川	8位
		シニア女子	小野・河合	湯浅・小林	桜井・小坂	6		
第17回	平18年	オープン	荒井・和田	北野・中川	横山・鹿野	24	千歳	5位
		シニア女子	高橋・小野	矢代・渡部	河合・捧	8		
第18回	平19年	オープン	長谷川・渡辺	荒井・植松	和田・山野	38	札幌	6位
		シニア女子	河合・捧	桜井・与坂		4		
第19回	平20年	オープン	宮澤・和田	佐藤・工藤	岩原・鹿野	32	北見	A:7位
		シニア女子	菊谷・荒井	高橋・小野	捧・松重	8		B:9位
第20回	平21年	オープン	中塚・和田	高橋み・長谷川	酒井・尾河	24	札幌	優勝
		シニア女子	高橋・小野	荒井・藤井	菊谷・捧	6		
第21回	平22年	オープン	長谷川・和田	井上・宮澤	鹿野・横山	24	室蘭	7位
		シニア女子	野嶋・長部			2		
第22回	平23年	オープン	荒井・和田	高橋・長谷川	野嶋・捧	18	旭川	6位
		シニア女子	井上・宮澤	瀧川・狩野	高橋・小野	6		
第23回	平24年	オープン	井上・宮澤	長谷川・和田	鈴木・高島	18	札幌	6位
		シニア女子	高橋・佐々木	野嶋・長部				
第24回	平25年	オープン	菊地・和田	大野・高岸	捧・長部	16	帯広	6位
		シニア女子	井上・宮澤	高橋・小野		4		
第25回	平26年	オープン	菊地・長谷川	和田・井上	鈴木・高島	20	千歳	6位
		シニア女子	宮澤・長	高橋・小野		4		
第26回	平27年	オープン	和田・宮澤	鈴木・高島	樋口・菊地	24	函館	2位
		シニア女子	長・井上			2		
第27回	平28年	オープン	和田・長谷川	樋口・井上	小嶋・小久保	16	札幌	3位
		シニア女子	宮澤・長	瀧川・狩野		4		

2) WE LOVE DUNLOP レディース & WE LOVE SRIXON レディース

平成13年から女子連北海道北見地区とダンロップスポーツ(株)の共催で、WE LOVE SRIXON レディースを開催している。この大会の勝者はニセコで開催の全道大会(平成22～24年は未開催)に招待される。女子テニスのレベルアップと底辺の拡大を目的とした大会であり、30～40人の参加であるが、毎年、地区代表を目指して熱戦が繰り広げられている。参加条件にダンロップ系のラケット、シューズ、ウェアのいずれかを利用していることとなっており、これもスポンサーへの礼儀かと思う。

全道大会は団体戦となることから、チームワークが重要であり、チームワークの良い北見地区はいつも上位に位置している。平成25年は、女子連北海道北見地区結成20周年になり、地区大会を20周年記念大会として実施している。この記念大会の地区代表チームは、20周年を祝うように見事全道大会で優勝している。ハウス内にその時の写真が掲げられていたが、皆さんでこの快挙をお祝いしたようだ。さらに、この大会の呼び物である、レセプションでの余興でも北見チームは優勝しており、ここでもチームワークの成果を発揮している。



平成25年の北見地区参加者の面々



平成25年の全道優勝メンバー

WE LOVE SRIXON レディーステニス大会戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数	道大会順位
第1回	平13年	A・B級女子	岩原・高橋	中川・荒井	西川・福田	40	7位
		C・D級女子	甲賀・畑澤	船木・土田	河野・中村	14	
		シニア女子	前田・桜岡	矢代・大滝	相原・増田	10	
第2回	平14年	A級女子	西川・福田	荒井・永嶋	福井・宮澤	18	5位
		B・C級女子	河合・湯浅	佐藤・峰	武田・菅野	28	
		C級女子	松本・仲野	松重・小林	越田・野口	10	
		シニア女子	増田・桜井	出村・岸	桜岡・矢代	8	
第3回	平15年	A級女子	松浦・宮澤	和田・小野	岩原・高橋	14	6位
		B級女子	湯浅・大瀧	木谷・松田	橋川・尾河	24	
		C・D級女子	藤田・越田	杉本・赤塚	山本・中本	14	
		シニア女子	矢代・信太	桜井・小林	前田・桜岡	6	
第4回	平16年	A級女子	荒井・和田	西川・福田	高橋・岩原	14	5位
		B級女子	嘉野・兒玉	佐藤・酒井	大滝・橋川	14	
		C・D級女子	武田と・中本	古館・上口	佐々木・大野	14	
		シニア女子	小坂・森谷	河合・捧	桜井・小林	8	
第5回	平17年	A級女子	和田・宮澤	高橋・佐藤	岩原・長谷川	10	4位
		B級女子	永山・北野	武田み・井上	山岸・菊地	16	
		C・D級女子	小林・中西	菅野・高橋	大野・中本	26	
		シニア女子	捧・矢代	湯浅・大滝	桜井・小林	6	
第6回	平18年	A級女子	長谷川・渡辺	北野・中川	植松・宮澤	8	4位
		B級女子	武田み・井上	武田と・捧	酒井・尾河	8	
		C・D級女子	長部・野々村	斉藤・高岡	大野・林	24	
		シニア女子	高橋・小野	湯浅・河合		4	
第7回	平19年	A級女子	長谷川・村上	渡辺・北野	荒井・和田	12	4位
		B級女子	長部・小野	尾河・峰	佐藤・酒井	8	
		C・D級女子	鈴木・中原	中西・小林	東坂・中尾	18	
		シニア女子	高橋・捧	矢代・河合	桜井・与坂	6	
第8回	平20年	A級女子	工藤・山地	宮澤・和田	長谷川・渡辺	8	2位
		B級女子	朝倉・狩野	尾河・峰	佐藤・酒井	8	
		C・D級女子	三國谷・瀬川	藤井・高岡	小林・松本	10	
		シニア女子	山口・荒井	小野・高橋	捧・河合	8	
第9回	平21年	A級女子	荒井・和田	宮澤・井上	工藤・長谷川	12	4位
		B級女子	捧・森木	林・大野	桐山・中尾	14	
		C・D級女子	松田・中西	松本・藤原	三上・玉井	12	
		シニア女子	小野・高橋	菊谷・藤井		4	
第10回	平22年	A級女子	長谷川・和田	宮澤・井上	田嶋・滝川	18	未開催
		B級女子	三國谷・香林	松田・中西	松本・大野	10	
		C・D級女子	目黒・高島	下平・佐藤		14	
第11回	平23年	A級女子	和田・井上	長谷川・宮澤	鹿野・横山	10	未開催
		B級女子	松本・大野	目黒・高島	野嶋・山本	10	
		C・D級女子	下平・佐藤	佐藤・山川	藤原・久光	20	
第12回	平24年	A級女子	長谷川・和田	宮澤・井上	松本・大野	6	未開催
		B級女子	鈴木・高島	佐々木・高岡	捧・野嶋	6	
		C・D級女子	玉井・三上	高橋・篠根		20	
第13回	平25年	A・B級女子	和田・秋元	菊地・長谷川	鈴木・高島	16	優勝
		C・D級女子	藤原・高岸	小関・青木	篠根・山川	18	
		シニア女子	小野・高橋	狩野・桐山	矢代・野嶋	6	
第14回	平26年	A・B級女子	和田・宮澤	鈴木・高島	中西・河口	14	5位
		C・D級女子	小嶋・梅岡	小久保・小野	細川・馬場	16	
		シニア女子	長・井上	長谷川・野嶋	狩野・桐山	6	
第15回	平27年	A・B級女子	長谷川・和田	宮澤・井上	小嶋・梅岡	10	5位
		C・D級女子	角・森田	矢代・小関	高橋・大宮	16	
		シニア女子	小野・高橋	山川・篠根		4	
第16回	平28年	A・B級女子	和田・宮澤	鈴木・高島	長谷川・菊地	10	4位
		C・D級女子	小野・小久保	斉藤・川崎	篠根・山川	20	
		シニア女子	長・井上	矢代・捧		4	

3) 桑名杯レディース北見大会及び支部長杯B級レディース大会

桑名杯は、日本女子テニス連盟初代会長であった桑名寿枝子さんが、昭和60年に女子テニス界の発展を願って各支部にカップを贈ってスタートした大会だそう。桑名さんは90歳になっても女子連会長を務められ、テニスも週に2、3度されるスーパーウーマンだったようだ。女子連北海道においても、昭和60年から桑名杯が実施されているが、初心者でも参加できる大会とのことで、種目はB級、C級、D級となっている。各地区で全道大会の予選会が行われており、当協会の会報を見ると、北見地区の大会は平成6年が第1回目で、この時の大会名は三菱自動車桑名杯フレッシュレディース北見地区大会となっている。初回の大会には日本女子連理事長の飯田藍さんや、女子連北海道支部の宮野英子さんもお祝いに来北されている。当日は、日本女子連の副理事長である伊波昭子さんの講習会も行われたと記載されている。

当初はC級とD級で、まさにフレッシュレディーが対象だったが、平成9年から支部長杯を併設してB級種目の試合も可能になった。

全道大会での戦績であるが、平成14年に高橋・松浦組がB級で優勝している。また、平成20年に井上・植松組がC級で優勝し、東北・北海道ブロック大会に出場している。なお、現在はこのブロック大会はなくなり、桑名杯レディース大会 by DUNLOP となって、支部大会だけとなった。

桑名杯レディース北見大会及び支部長杯B級レディース大会戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数	
第1回	平6年	記録なし					
第2回	平7年	C級女子	高橋・小野	加藤・松原	早坂・山口		
		D級女子	福浦・亀岡	桜井・三浦	有光・吉田		
第3回	平8年	C級女子	中島・大桜	桜岡・庄田	山口・小野寺	34	
		D級女子	矢野・吉村	北野・湯浅	松原・矢吹	50	
第4回	平9年	B級女子	荒井・高桑	中村・嘉義	高橋・小野	20	
		C級女子	前田・保前	福浦・亀岡	高橋・湯浅	32	
		D級女子	狩野・石井	荒井・小原	筈井・三沢	42	
第5回	平10年	B級女子	小野・出村	高橋・幡鎌	古田・岩原	16	
		C級女子	北野・小林	中村・河合	渡部・桜井	30	
		D級女子	高野・松永	滝上・能谷	橋川・佐藤	38	
第6回	平11年	B級女子	岩原・渡辺	宮田・幡鎌	加藤・出村	14	
		C級女子	渡辺・桜井	相原・森谷	湯浅・木谷	30	
		D級女子	坂間・松田	橋川・佐藤	仲西・上村	40	
第7回	平12年	B級女子	高橋・幡鎌	八木・小坂	荒井・中川	20	
		C級女子	増田・遊佐	石山・庄田	石井・狩野	42	
		D級女子	清信・小澤	萩原・筈井	滝上・松田	32	
第8回	平13年	B級女子	佐藤・清信	荒井・中川	出村・小野	30	
		C級女子	福井・宮澤	石井・狩野	角田・小澤	30	
		D級女子	甲賀・梶澤	武田・野口	滝上・松田	14	
第9回	平14年	B級女子	松浦・高橋	福田・西川	岩原・出村	22	
		C級女子	武田み・福井	橋川・佐藤	宮澤・菅野	30	
		D級女子	山本・武田と	松本・仲野	小林・松重	12	
第10回	平15年	B級女子	和田・脇	高橋・小野	宮澤・福井	20	
		C級女子	峰・酒井	橋川・佐藤	木谷・湯浅	28	
		D級女子	星・古館	杉本・大野	山原・狩野	8	
第11回	平16年	B級女子	小野・和田	森谷・佐藤	宮澤・福井	18	
		C級女子	木谷・松田	河合・捧	高岡・坪井	26	
		D級女子	佐々木・大野	伊藤・赤塚	多賀・石井	12	
第12回	平17年	B級女子	宮澤・北野	木谷・松田	小林・桜井	10	
		C級女子	河合・矢代	酒井・佐藤	武田み・井上	26	
		D級女子	向井・鈴木	岩野・横山	林・赤塚	32	
第13回	平18年	B級女子	鹿野・横山	宮澤・武田み	中川・北野	16	
		C級女子	高島・鈴木	植松・井上	渡邊・山本	24	
		D級女子	松実・能谷	高貝・横田	後藤・久光	16	
第14回	平19年	B級女子	宮澤・村上	高橋・北野	庭田・泉	16	
		C級女子	中西・中原	尾河・佐藤	武田と・山本	18	
		D級女子	青山・竹上	小林・松本	味噌・田中	10	
第15回	平20年	B級女子	小野・和田	井上・植松	工藤・山地	20	
		C・D級女子	大野・青木	藤井・長部	松実・藤田	24	

第16回	平21年	B級女子	工藤・岡本	酒井・峰	宮澤・井上	18
		C級女子	佐藤め・中川	瀬川・高岡	森木・長部	10
		D級女子	山川・米谷	藤原・松本	三上・玉井	16
第17回	平22年	B級女子	長谷川・宮澤	小野・和田	狩野・東坂	18
		C級女子	香林・三國谷	捧・相馬	藤田・山川	6
		D級女子	高岸・久光	藤原・松本	岡・山口	12
第18回	平23年	B級女子	井上・宮澤	小野・和田	岡・中西	10
		C級女子	高岸・久光	松実・山川		4
		D級女子	藤原・松本	三上・玉井	小林・太田	8
第19回	平24年	B級女子	長谷川・井上	小野・宮澤	鈴木・高島	10
		C級女子	野嶋・長部	高岸・山川	藤原・松本	6
		D級女子	佐藤・秋元	篠根・三上	安達・細川	18
第20回	平25年	B級女子	菊地・長谷川	和田・秋元	井上・宮澤	16
		C級女子	藤原・松本	山川・篠根		4
		D級女子	森川・佐藤み	細川・斉藤	小関・青木	16
第21回	平26年	B級女子	和田・矢代	宮澤・小野	中西・河口	12
		C級女子	高岸・松本	藤原・山川	森川・佐藤み	6
		D級女子	小久保・梅岡	小嶋・小野	細川・三上	16
第22回	平27年	B級女子	和田・中西	小野・井上	長・宮澤	6
		C級女子	佐藤・三上	小久保・梅岡	山川・篠根	6
		D級女子	小嶋・小野	佐藤・斉藤	菅原・角	18
第23回	平28年	B級女子	井上・宮澤	小野・長	鈴木・高島	6
		C級女子	小嶋・山岸	三上・森田	小久保・梅岡	12
		D級女子	七田・鹿内	安藤・大宮	川辺・平田	8

4) チャレンジテニス

この大会では、テニスを始めたばかりでカウントの取り方も怪しいような人でも参加できるよう、初心者クラスが設けられている。ダブルスなので相手を気遣いながらにはなるが、試合の楽しさを通してテニスを継続してもらおうのが狙いである。ただ、初心者クラスで参加者が少なくペアを組めないような場合でも、試合を体験してもらうために組合せに配慮して試合を進め、順位をつけないこともあった。

チャレンジテニス戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数	
第1回	平14年	C・D級	駒田・阿部	武田と・野口	越田・藤田	14	
第2回	平15年	C・D級	越田・山川	我妻・瀬古	赤塚・大野	8	
第3回	平16年	初心者	福田・林	半田・中本	山川・菅原	8	
第4回	平17年	C級女子	井上・高畑	皆川・稲葉	古舘・吉田	12	
		D級女子	横山・岩野	久光・高貝	林・赤塚	12	
		初心者	個人ポイント制				6
第5回	平18年	C級女子	藤田・青木	松重・林	中川・吉田	8	
		D級女子	杉本・久光	高貝・横田	後藤・鶴巻	10	
		初心者	個人ポイント制				4
第6回	平19年	C級女子	松重・藤井	竹山・青木	杉本・林	6	
		D級女子	須藤・鶴巻	松本・小林	藤原・米谷	8	
第7回	平20年	C・D級	中尾・桐山	松本・小林	林・須藤	8	
		初心者	玉井・三上	小関・加納	青木・鶴橋	14	
第8回	平21年	C・D級	松本・藤原	藤元・田中	坂井・八木	8	
		初心者	青木・鶴橋	小関・加納	馬場・上野	12	
第9回	平22年	C級女子	藤原・松本	久光・山川	青木・鶴橋	6	
		D級女子	射水・上野	小関・藤原	岡田・斉藤	6	
		初心者	上林・神田	大宮・越智	太田・北上	6	
第10回	平23年	C級女子	森木・久光	高岸・上野		4	
		D級女子	三上・玉井	篠根・斉藤	加納・小関	10	
		初心者	小林・安達	副島・太田	加藤・真坂	10	
第11回	平24年	C級女子	篠根・高橋	高岸・山川	玉井・三上	6	
		D級女子	斉藤・畑	安達・細川	森川・佐藤	10	
第12回	平25年	D級女子	馬場・細川	加納・鶴橋	小関・青木	12	
第13回	平26年	AUTUMN大会と合同開催					

		D級女子	鹿内・中野	大宮・平田	河原・真坂	8
第14回	平27年	D級女子	川崎・斉藤	安藤・土田	木戸・大宮	12
		初心者	個人ポイント制			11
第15回	平28年	D級女子	角・大宮	銀田・川辺	土田・平田	8

5) 伊藤慧子メモリアルテニス大会から AUTUMN レディーステニスへ

＜伊藤慧子メモリアルテニス大会＞ 伊藤慧子さんがテニスを始めたのは協会ができて間もないころだったと記憶している。アナウンサーを辞められ独立し、キャップという司会紹介やイベント企画の会社を立ち上げ、忙しい日々を送られていたが、ストレス解消に時々コートに来られた。女性会員や女子連にとって頼もしい存在で、女子連の監査や副地区長として皆さんの相談相手になっていた。

平成13年だったろうか、皆さんに押されて、北見市議会議員選挙に立候補することになった。立候補に向け準備していた時期に体調が思わしくなく、検査を受けたところ悪性の癌が見つかってしまった。トップ当選間違いなしと言われていたが立候補を断念し、札幌で治療に専念された。しかし、平成15年に帰らぬ人となった。ご遺族の高崎様から女子連北見地区にご寄付があり、お世話になったお礼と慧子さんを偲ぶために記念大会を開催することとなった。3回忌までということで2回開催している。



伊藤慧子メモリアルトーナメントに寄せられたお花と大会受賞者

余談であるが、ご遺族の高崎明子さんは慧子さんの双子のお姉さんにあたる方で、北海道テニス協会常務理事でもある。また、ジュニア大会委員長もされており、女子連北見地区、北見テニス協会にいつも気を使ってもらっている。よく似た姉妹で、高崎さんに会うことがあるが、今でも慧子さんと声をかけたくなる。慧子さんがお元気であれば、協会の40周年記念の行事を助けてもらえたと思うが、改めてご冥福をお祈りしたい。

伊藤慧子メモリアルテニス大会戦績表

年度	種目	優勝	準優勝	3位		参加数
平16年	一般女子	和田・武田	嘉野・兒玉	松浦・永山	大滝・橋川	56
平17年	一般女子	和田・宮澤	松浦・菅野	中川・北野	嘉野・兒玉	54

＜AUTUMN レディーステニス大会＞ 伊藤慧子メモリアルテニス大会は2回で終えたが、このような競技力を高める大会が必要であり、AUTUMN レディーステニス大会と名称を変えて継続することになった。女子連北海道北見地区の大会は、全体としてビギナーの育成に力を入れており、クラス分けの大会が多い。競技力を高める過程で欠かせないのは、力の差を実感できる対戦を何度も経験することであると言われていた。そのためには、本大会のようにクラスにかかわりなく対戦できる大会も必要となる。このような大会にBクラス、Cクラスの人にも積極的に参加するようになると北見地区の競技力が高まるのではないだろうか。

AUTUMN レディーステニス戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位		参加者数
第1回	平18年	オープン	長谷川・渡辺	宮澤・植松	野々村・松重	捧・河合	56
第2回	平19年	オープン	長谷川・村上	朝倉・岩原	野々村・福土	湯浅・松下	48

第3回	平20年	オープン	宮澤・和田	山口・荒井	工藤・山地		48
第4回	平21年	オープン	井上・和田	鹿野・横山	森木・久志		34
第5回	平22年	オープン	長谷川・井上	高橋・小野	岡・中西		34
第6回	平23年	オープン	大野・和田	中塚・高岸	井上・青木ふ		32
第7回	平24年	オープン	鈴木・高島	小野・和田	中塚・宮澤		24
第8回	平25年	オープン	宮澤・和田	長谷川・井上	高橋・小野		18
第9回	平26年	オープン	長・井上	長谷川・宮澤	川上・和田		26
第10回	平27年	オープン	宮澤・井上	長・和田	中西・高島		24
第11回	平28年	オープン	長谷川・宮澤	長・井上	和田・藤原か		16

6) 東急レディスモナリザカップ及び東急レディーステニス

昭和57年に北見市に東急デパートができ駅前が明るくなり、近代都市の仲間入りをしたような気になったのを記憶している。デパートのスポーツ部門はテニスにも力を入れており、女性が楽しめる大会を開催してほしいとの申し出があった。大会名は東急レディースモナリザカップと命名されたが、モナリザという粋な名前が付いたダブルスの大会となった。豪華賞品と昼食付ということで参加希望が多く、参加人数に制限を設けたこともあった。しかし、デパート側の都合によって第5回で中止になっている。

東急デパートとの共催の大会は無理かと思っていたが、東急イン及びデパートの創立10周年記念の平成4年に、日本女子連、女子連北海道及び北見東急会の協力で札幌、旭川について道内3都市目となる東急レディーステニス北海道北見大会が開催された。第1回目の時点では女子連はまだ結成されていなかったが、女子役員が中心となって大会運営を担当し、64ペアで2日間にわたる大会をスムーズに運営しており、この大会が女子連結成のきっかけになったのではないかと。女子だけの試合で64ペアを集めるのは極めて難しく、道東地区全体に呼びかけたところ、定員を上回り、抽選で涙を飲んだ方もいたようだ。優勝者は全国大会に行けることもあり、北見在住者の優勝への期待が大きかったが、第5回大会で帯広ペアが優勝した時には役員の方々が悔しい思いをしたようだ。

第1回大会では、豪華景品の他、全員が夜のレセプションに招待され、この大会に合わせて来北されていた東急所属の岡川恵美子プロと日本女子ジュニア監督の松原慶子さんとの記念撮影などで盛り上がりがあった。なお、お二人には翌日、模範試合と講習会も開催してもらった。岡川さんはその後も野村勉プロと共に、この大会に合わせて北見に来られ講習会を開催してくれており、北見地区のテニス普及・向上に貢献いただいた一人である。

残念ながら、国内景気の後退、あるいはイオン、ダイエーなどの大型店の出店によってデパートの収益が改善できず、大会支援も厳しくなって平成14年の第11回大会で中止となった。また、デパート部門は平成19年に閉店し、東急インは平成22年にクローズしている。

// 第1回 東急レディーステニス大会 //

この大会は東急グループが全国の各都市で開催しているもので、道内では札幌、旭川に次いで3都市目になります。北見市で開催できるようになったのは、日本女子テニス連盟の北海道支部、および北見東急会のご協力とご理解によるものであります。前日まで天候がぐずつておりましたが、9月7・8日の2日間だけは晴天に恵まれ14面を使った初めての大会を無事終了することができました。道東地区で64ペアが楽しめるだろうか、雨にならたらどうしよう14面のコート運営は上手く行くだろうか、等々不安な事はありましたが、石川さんを中心とした女性理事の働きで楽しい大会を開催でき感謝しております。第1回と言う事で東急専属の岡川恵美子プロと全日本女子ジュニア監督の松原慶子さんも大会スケジュールの合間を縫って来北され、模範試合からクリニック等2時間位講習会を実施してくれました。夜には東急イン・東急デパート10周年記念のレセプションに参加者全員が招待され超豪華なもてなしや、岡川プロとの記念撮影に、次の日の試合も忘れぬ楽しい時間を過ごしておりました。なお優勝の「下田・袴川」ペアは12月1日に東京の大会に招待されており、忘年会等での結果が聞けると幸いです。

来年もまた多数の方の参加をお待ちしております。



// 忘年会のお知らせ //

・例年12月の第1土曜日に行っております忘年会は、都合により12月12日に延期いたしました。場所は以下の通りです。
日 時 12月12日(土) 午後6時30分
場 所 きんやの「食飲場」 エイトビル1階(23-4252)
会 費 3500円 (ご夫妻の参加6000円)
参加希望者は12月7日までに事務局の高橋さんまで。(電話:25-2772)

東急レディースが載った会報No. 37



東急レディースモナリザカップテニス大会戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	昭60年	一般女子	金一・姫田	小沢・信太	皆川・小野寺	48
第2回	昭61年	一般女子	金一・信太	柴崎・古賀	渡辺・菅野	32
第3回	昭62年	一般女子	伊藤・石川	皆川・金一	山野・五十田	60
第4回	昭63年	一般女子	皆川・高橋	柴崎・五十田	水元・山野	52
第5回	平元年	一般女子	山野・樋口	長谷川・石野	三原・藤田	64

東急レディーステニス北海道北見大会戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	平4年	一般女子	下田・皆川	柴崎・渡辺	河合・富樫	128
第2回	平5年	一般女子	富樫・中村	渡辺・三原	加藤・出村	128
第3回	平6年	一般女子	渡辺・三原	川井・両角	加藤・出村	126
第4回	平7年	一般女子	山野・加藤	信太・芳形	皆川・長	126
第5回	平8年	一般女子	小田・三浦	矢萩・加納	田嶋・瀧川	128
第6回	平9年	一般女子	村上・沢田	皆川・長	岩原・高橋	128
第7回	平10年	一般女子	古田・大桜	大谷・渡辺	前田・保前	128
第8回	平11年	一般女子	三浦・石川	小坂・保前	芳形・渡辺	128
第9回	平12年	一般女子	小坂・岩原	菊谷・小野寺	西川・福田	128
第10回	平13年	一般女子	桑原・飯塚	菊谷・山野	川路・杉江	128
第11回	平14年	一般女子	菊谷・北川	西川・福田	中川・杉原	102

7) その他の大会

＜女子連北海道北見地区創立10周年記念大会＞

平成15年で女子連北見地区は10周年になり、この記念事業の一つとしてダブルスの大会が行われた。60人が参加し10周年にふさわしい大会となった。優勝者等は以下のとおりである。

優勝 佐藤・岩原 準優勝 松浦・宮田 3位 脇・和田

12-2 主として親睦を目的とした大会

＜TUESDAY レディーステニス大会＞ なぜ火曜日の名称がついた大会が開催されたかが、15周年記念誌に書かれている。土日は仕事で大会などに参加できない商店街の方が中心になって、火曜会を作っていたそうだ。その方たちが、商品を持ち寄って開催したのが始まりで、当初は親睦会だったためか戦績記録が残っていない。運営も商店街の方が行っていたが、女子部が支援して実施したようだ。



第1回 TUESDAY 大会の参加者など

第1回目は、大会運営者を含め80人くらい参加したようで、その時の写真が残っていた。第5回からはクラス分けして実施しており、テニスを始めて間もない人が豪華賞品をもらってニコニコ顔で帰路に着いたそうだ。協賛いただいた商店等は以下のとおりであり、テニスの普及に貢献いただいたことに感謝したい。

協賛商店等：子供服の白樺、ICカプセル、竹江薬局、ジュークボックス、2条商店街振興組合 東亜興信所

TUESDAY レディーステニス大会戦績表

回数	年度	種目	優勝	準優勝	3位	参加者数
第1回	平3年	女子D		大会日程にはあるが、戦績記録なし		
第2回	平4年	一般女子D		大会日程にはあるが、戦績記録なし		
第3回	平5年	一般女子D		大会日程にはあるが、戦績記録なし		
第4回	平6年	一般女子D		大会日程にはあるが、戦績記録なし		
第5回	平7年	B級女子	宮田・本田	西部・上銘		
		C級女子	原・笠井	捧・山下		
		D級女子	国分・中村	梶谷・小林	上岡・亀田	
第6回	平8年	C級女子	青山・伊藤	有光・丸田	中村・国分	24
		D級女子	川染・吉岡	白淵・河内谷	長部・松原	24
第7回	平9年	C級女子	下込・月岡	土田・桜井	小林・赤井	18
		D級女子	玉坂・森本	国分・廣野	須藤・堀田	24

＜エンジョイテニス大会＞ 女子連のお楽しみ大会は平成7年ころから行われており、当時はクラス分けしたダブルス戦になっていた。この大会は平成13年に女子連秋のテニス大会となり団体戦が行われている。エンジョイテニス大会はそれに代わる大会として数年前から始まった。

大変ユニークな大会で、個人で申し込むが、女子連会員でなくても参加でき、しかも男性の協会員も認めてもらえる親睦大会である。チーム編成は競技責任者が決め、チーム内のペア編成はリーダーが行い、団体戦が行われる。時間制限のある大会で、時間になった時点で勝ちゲーム数で勝敗が決まる。この方式だと時間管理ができるのと、時間が近づくにつれ仲間の応援が一段と高まり、まさにエンジョイテニス大会となっている。



エンジョイテニスの案内

12-3 講習会の開催

女子連が行っている講習会は、前期（5～7月）、後期（8～10月）と長期にわたり、週2回クラス分けして開催している。このような講習会の企画は平成16年からで、松浦恵子さんの提案によるものだろう。指導経験豊富な中塚ひとみさんに講師をお願いし、女子連役員が補助スタッフとなってスタートし、現在に至っている。新規会員がテニスを継続するうえで良いサポートとなり、また、仲間を作る機会にもなっているようだ。冬期間（11～3月）にも講習会は継続されており、運動不足の解消にも一役買っている。協会ができて間もないころ女子練習会というのがあり、初心者から初中級者を対象に週1回で7回実施する講習会があった。現在も類似の講習会がゴールデンウィーク明けに実施されているが、女子連のように長期にわたって行っていない。

女子連が主体となった外部講師による講習会も開催されている。特に、東急レディーステニス大会の時には岡川恵美子プロが3度来北され（平成4、7、8年）、野村勉プロと共に指導されていたのが記憶に残っている。また、平成15年の女子連北見地区の創立10周年記念では、日本テニス協会国内大会委員長の姫井義也氏においでいただき、ルール講習会を開催した。間違いやすいルールの解説や審判の実技指導を関西弁交じりで指導してもらった。ルール講習会と言えば、平成12年にも開催しており、女子連北海道支部長宮野さん、細田さん、松村さんにお世話になっている。



女子連初心者講習会の風景

1 3. 理事長経験者、記念行事実行委員からの一言

1 3 - 1 理事長経験者

北見テニス協会 40 年の思い出

伊藤陽司（第 5 代目理事長）

運動音痴の私は、学生時代にしばしばあった休講時間を有意義に過ごすために同期と羽球（当時はバドミントンとは言わず羽球と言っていました）をやり始め、練習？時間の多さから学内の正規クラブの選手達にも簡単には負けない状況にもなりました。でも、4 年間の学業を終えると皆それぞれの勤務地へと散っていき、汗をかく仲間が激減してしまいました。結果として、学内のクレークコートで楽しく汗を流しておられる先生方の姿をみて、1980（昭和 55）年の秋頃から種類の異なるラケットを握るようになり、1981（昭和 56）年に協会に入会しました。以来、他の人よりも時間はかかりましたが運動音痴の私もそれなりのプレーができるようになったかなと思っていますし、協会の運営についても与えられた役割は概ね果たしてきたかなとも思っています。

2008 年のシーズンを迎えて本職の残りも 10 年となり、最終ステージで取り組もうと予定していた“ジオパーク”の調査研究の準備のために週末には雌阿寒岳、雄阿寒岳、カムイヌプリ（摩周岳）や藻琴岳になど繰り返し登り、これらの山麓を歩くことが多くなり、テニスコートとは少し縁遠くなっていきました。そのような中、2009 年 8 月に全く想定していなかった状態に陥り、皆様に大変なご心配をお掛けし、役員名簿の“会友”にリストアップされる直前までに至りました。何とか生還したものの胴回りの半周を開腹した手術の影響が大きく、以来、年に 1～2 回、コートに出かける一市民プレーヤーになってしまいました。

1981（昭和 56）年 4 月に事務局担当幹事を命じられて以来、ほとんどの場で運営に関わる機会を与えられ、そして全道都市対抗大会をはじめ、さまざまな大会へも派遣出場させていただいた中で、厳選に厳選を重ねて次の 3 つを思い出として記します。

1) クレーコートの造成

東陵運動公園のテニスコートは 1998（平成 10）年に砂入り人工芝コートへ全面改修されましたが、それまではクレークコート、有名な赤土のコートではなく茶灰色の火山灰質土のコートでした。このコートは毎年雪解けを待ってコート内の小石拾い、ラインテープ剥がし、整地、ロードローラーによる転圧、コートの測量、ラインテープ張り、砂撒き、塩カル撒きといった作業を行った後にやっとプレーを楽しむことができるものです。小石拾い、ラインテープ剥がしや整地には会員の皆さんに汗をかいていただきましたが、ロードローラーによる転圧はレンタルした建設重機を無免許の工大教員が勤務時間中に 2 時間交代で運転して 1～2 日間かけてコートを縦横に繰り返し行っていました。その後、ラインテープを張る際の目印の点を設ける測量となりますが、コート面全体が必ずしも平坦ではないこともあり、正規の測量機器を使って目印点を設けても、ラインテープを張るといたる所でずれが目立ち、テープの張り直しが必要でした。それで、正規の測量機器を使わずに 2 本のメジャーを使った交会法という簡易測量に切り替えました。アバウトな地面にはアバウトな方法がマッチしたようで、出来上がりも意外に良かったことを覚えています。アバウトと言いながらも微妙な修正を繰り返しながらの作業では年齢も立場も関係なく容赦のない指示で皆さんには走り回っていただきました。最後のラインテープ張り、砂撒きや塩カル撒きにも早朝から 100 人以上の方に集結していただき、「コートオープンには散布した塩カルが溶けきってからね」と言いながらも、待てずに白い塩カルが見える中でのプレー開始でした。

このような春一番の協働が全道屈指の、否、全道一の組織力・結集力を有すると言っても過言ではない当協会の骨格を形作り、今日のコート使用についての市との取り決めなどにも大きく影響していると思っています。

2) 砂入り人工芝コートへの改修

近隣の他都市でも維持管理の大変なクレーコートが緑色のサーフェイスと白色のラインと、見た目にも美しい砂入り人工芝コートへと面数増とともに改修され始め、全道レベルの大会もそのようなコートでの開催が多くなりました。「北見でもなんとかそのようなコート環境にしたいね」ということで1993(平成5)年頃から市の関係機関への要望活動が始まりました。関係部署へ要望する中で、最初から最小の面数ではインパクトを与えられないし必ず減面されるので、事務局長であった私は現在の野球場への通路を半面分南へ移動させ、その通路の両側に8面ずつの計16面を設けた上に、野球場側の緑地と公園内通路のスペースに8面を加えた計24面のコートとし、さらに野球場への通路を跨ぐように二階建てのコートハウスを設けるイメージ図を描き、大島副会長、常本副会長や高谷理事長とともに折衝に臨みました。24面の砂入り人工芝コートは当時もちょっとやり過ぎかなとは思っており、結果として要求の70%程度ということで面数としては16面でまずまずの出来かなと思っています。ただし、コート周りには砂の飛び散りや泥水流入の防止のためのコンクリート壁を回らし、その上にフェンスを設置することと通路を跨ぐように二階建てのコートハウスを設置する企みは拒否され、これらの影響が昨年度までのサーフェイスの張りかえや今年度のコートハウスの建てかえといったことに現れているように思います。

あの時、もっと押していればなあ、と思うこの頃です。

3) 第51回北海道都市対抗テニス大会の開催

2000(平成12)年5月26～28日に開催した第51回北海道都市対抗テニス大会は、協会始まって以来の大規模な大会でした。数年おきに開催していましたが道東都市対抗テニス大会も準備には結構時間を割き、多くの皆さんにもお手伝いいただいて実施していましたが、北海道都市対抗テニス大会は準備段階から様相を異にしていました。北海道都市対抗テニス大会へ選手として派遣していただき対戦だけでなく、代表者会議、開会式、懇親会や閉会式なども幾度となく経験していたものの、実際の運営は準備も含めて非常に神経を使いました。前年の札幌市での大会へ視察重視で出場して以降の一年間は本職をわきに置き、総務担当ということでさまざまなことを皆さんにお願いしつつもほとんどの事柄について自分でも手掛け、直前の一ヶ月間は準備のみに集中し、無事にすべてを終えた5月28日の夕方からしばらくはボーとしていたことを覚えています。

28日の順位決定戦には湯浅さんのパートナーとして出場させていただきましたが、あの頃はなぜかファーストサーブは2本打てば1本は絶対入るという確信があり、楽しく試合をして勝ちを得たことも秘かな思い出となっています。

型は絶版となっていますが、今でもラケットはきちんと手入れしており、ほとんど新品状態です!! いずれコートに現れますので・・・。



2006(平成18)年 第57回北海道都市対抗テニス大会での対戦を終えて、3部優勝!

テニスの思い出

湯浅健司（第7代目理事長）

北見テニス協会が発足して5～6年後、たまたま友人に誘われたのがきっかけで私のテニス人生（それほど大げさなものでは・・・）が始まる。学生の頃少し柔道をやっていた私には軟弱なスポーツというイメージが強かったテニスであるが、縁あって今は亡き元伊東会長宅のコートで始めてラケットを握って以来すっかりテニスから離れられなくなり、雨の日以外は毎日のように東陵コートに通うようになってしまった。あれから35年ほど過ぎ、諸事情であまりテニスができなかった時期もあったのだが、良い思い出や残念な思い出など振り返ればいろいろあったと思う。

今までにしくじったと思う一番の思い出は、テニスの試合が雨で準決勝から順延になってしまい、娘の初めての幼稚園運動会を午前中欠席することになってしまったことであろう。準決勝と決勝又は3、4位戦だけなのですぐに終わるかなと甘い考えであった。結局テニスの方は2試合とも接戦で長い試合となったあげく負けてしまい、申し訳ない気持ちで午後から参加した運動会のリレーのアンカーでは、なんと1週近く遅れてバトンが渡されたため一人孤独なゴールを切ることになった。きっと天罰が下ったのであろう。家族や娘には今でも申し訳なく思っている。

多分残念な思い出よりも楽しかった思い出の方が断然多いのではと思っているのだが、テニスの試合ということではなんとといっても第42回の全道都市対抗が印象に残っている。この年、残念ながら岡先生は確か病気のため参加しておられなかったが、僕と同じころからテニスを始めていた皆川正広氏の勢が一番あったところで、たまたま転勤で来ていたN T Tの山下幸志氏が強力な助手として加わり一部残留は何とかなりそうだと考えられていた。私はこの頃土田雅人氏とペアを組んでおりあまり強そうにもうまそうにも見えないけどなんだか勝っちゃうペアと言われていた。この日1部リーグ初戦の対旭川戦にNo.2で出た私達は斉藤（日本製紙）・武市（法政のキャプテンだった？）組に6-4（誰も期待していなかったのか応援も少なかった）で勝ったもののチームは惜しくも3-4で負けてしまった。2戦目の室蘭にもNo.2で出た私達は志田・五十嵐組に6-0で圧勝しチームも4-3と勝利した。この時点で1部残留は決定的であったが続く帯広戦、同じくNo.2で出た私達は最後まで競った試合になりタイブレーク8-6で強敵の杉山・尾崎ペアに勝ったことで翌日の3・4位戦に挑むことになったのである。3・4位戦は千歳との対戦であったが2部転落の心配がないリラックスしたチームの雰囲気（だいぶ酒臭かったかも）はNo.2で出た湯浅・土田ペアが3-0と日原・渡辺ペアをリードしたところで4-2と勝利が決まり北見チームとしては初の3位を手にしたのである。全道都市対抗で一度も負けずに気分は最高で、打ち上げでも大いに話題に上がり嬉しかったものである。

テニスと通じて多くの楽しい思い出ができたが、自分の仕事と関係ない多くの知人、友人ができたこともとても良かったと思っている。常本先生をはじめ今は亡き岡先生や工大職員の皆さん、町田氏をはじめ工大テニス部の皆さん、テニスを始めたころからの付き合いで竹江氏、山崎氏、土田氏、高谷氏、皆川氏、伊藤氏、そして東陵コートでテニスができるきっかけを作ってくれた妻やテニスに出会ったからこそ知り合った多くの人達にも感謝したい。

そしてこれからもまだまだよろしくと。



私と硬式テニス

阿部正孝（副会長）

私がテニスを始めたのは、北見市役所に就職して3年目の昭和53年からです。私が最初に配属された職場が都市計画課公園係だったことから昭和52年に東陵公園のバレーボールコートがテニスコートとして整備され、それまでテニスといえば中学校や高校の部活動で行っている軟式庭球が一般的で硬式テニスは馴染みの薄い存在でしたがコートが整備されたことにより身近なスポーツに感じられたものです。

市役所には、福利厚生の一環として様々なスポーツの同好会があり、全道市役所大会等が毎年各都市持ち回りで開催されています。当初、硬式庭球部はありませんでしたが、東陵公園にテニスコートが整備されると同時に同期に入所したメンバーを中心にクラブが結成されました。メンバーは15、6人だとは思いますが全員テニス未経験者で見よう見まねでラケットを振り回し、なかなか上達せずテニスの難しさを痛感したものでした。

それでも暫くすると何とかラリーが続くようになり、曲りなりにもサーブもできるようになると試合もできるようになりテニスの楽しさが少しずつ分かってきました。楽しさが分かってくるにつれ練習にも打ち込むようになり、出勤前の時間を利用して毎朝6時から1時間ほど早朝練習に励み、お盆休みなどを利用して夏合宿をしたこともありました。

全道の市役所大会では、札幌、函館、旭川、帯広など全道各地のコートでプレイする機会を得ることができ、同じ仕事をする仲間たちとの交流もいい思い出になっています。北見市でも過去3回ほど大会を開催しており北見テニス協会には大変お世話になりました。

私とテニス協会との関わりは、職場が市役所だったことから施設部の役員としてお手伝いをさせていただき、クレーコート時代は、耕耘からローラー転圧、ラインテープ張りなどコートの整備と管理に大変苦勞したことが懐かしく感じられます。現在は、オムニコートとなって維持管理の苦勞も軽減され、今年長年要望してきたコートハウスが改築されることとなり40年前とは隔世の感があります。

一時テニスを離れた時期もありましたが約40年、懲りずにテニスを続けてきました。なぜここまで続けてこられたか考えてみると、まず、テニスが私にとって面白くて楽しいスポーツだったということ。次に、東陵公園などいつでもテニスができる環境が整っていたこと。また、市役所のクラブやテニス協会といったテニスを楽しむ仲間が近くに居てくれたことなどがここまで続けて来られた理由ではないかと思えます。これからも体力に合わせ「テニス」という素晴らしいスポーツを楽しみたいと思っています。

テニス談義

宮澤 つぼみ（副会長）

社会人一年目に何かスポーツをしたいと思っていた時、北大のバトミントンサークルに誘われ、インドネシア出身の小太りの男性（ごめんなさい）と練習試合をしました。楽勝とたかをくくっていましたが、こてんぱんにやられました。肩で息をするほどしんどかったのに、彼は平然としていたのです。元々バレー部で、体力に自信があったのですが、この一件でバトミントンは諦めました。

その後、大学の部活で硬式テニスをしていて夫と知り合い、自分もテニスを始めました。札幌テニス協会のサークルに所属し、中島体育館や外のコートを利用して練習していました。更に上手になりたく、宮の森テニススクールに一年半ほど通いました。その後妊娠出産をし、二男を身ごもった年に、北見に引っ越してきました。長男が幼稚園、次男が一歳になりテニスを再開したいと思った時、たまたま伝書鳩に湯浅さん、岸さんの奥様が所属していたホワイトリリーさんがサークルの募集をしていたので入れていただくようになりました。

とにかく沢山のサークルがあり毎日にぎやかでした。またコートに入って驚いたのはまだ土だったことです。北見でテニスを始め半年ほどで、義父の病気や三男を身ごもりテニスから離れました。後に15周年記念誌を見せていただき、義父が初代テニス協会の会長であったことや、その年に義父が亡くなったということも知りました。一緒にテニスをするのができず残念な気持ちになりました。その後三男を出産し半年後にコートに戻りました。その時はすでにきれいなオムニコートに改装されていました。三男が小学校に入学してから、平日の昼間に練習に行けるようになりましたがサークル数が多く、コートの場所とりが大変でした。お姉さま方がくるといつの間にかコートはなく、双葉町やNTTのコートで練習しました。

北見はスクールがなく、協会の講習会で唯一指導をうける事ができました。それだけではダメだということで、女子連はクラスを初心者から上級者の4クラスに分け、年間を通して講習会を実施することにしました。

講師の松浦さん、中塚さんには大変ご苦労をかけました。そのおかげでいつも全道大会では最下位争いをしてきた北見が優勝という快挙を成し遂げることができました。その大会は、日本女子テニス連盟北海道地区30周年記念の年に行われた8地区対抗全道大会です。平成21年7月に平岸高台コートで開催され、前日のリーグ戦では一位となり、翌日は千歳との決勝戦でした。この日は雨となり、11ポイントタイブレークでの戦となりましたが、和田・中塚さんペア、井上・宮澤ペア、高橋・小野さんペアが勝利し、3-0で優勝しました。前日の夜の親睦会余興の部でも、高谷会長特訓の社交ダンスを披露し、見事優勝しております。現在も女子連の全道大会では、毎年輝かしい成績を残しております。

私の場合、子供3人も硬式テニスをしています。捧さんにはジュニア育成にむけて、講習会を立ち上げていただき大変感謝しております。いまでは沢山の子どもたちが硬式テニスを楽しんでいる姿を頼もしく感じております。

「より多くの方がテニスを楽しみ、テニスを通じて人の和が広がる」と協会の理念にありますが、私自身も本当に沢山の皆様と知り会え、これからも協会が末永く存続できますよう協力していきたいと思っております。



平成21年7月札幌にて

駆け足で過ぎてゆく時間

和田 喜代子（強化普及部責任者）

テニスを始めるきっかけは、結婚してから時間に余裕ができ、何かスポーツを始めようと思い、当時住んでいた旭川でのスクールへの入門だった。しかし、あっという間に妊娠・転勤でほとんど通うことができず、北見へ向かうことになった。

長男を出産して、慣れない土地での生活から自分の時間がほしくて、ナイターテニス教室に参加したことを覚えている。それから長女・次男の出産があり当然であるが、テニス続けることはできなかった。次男が保育所に入る頃だろうか！？ 数年が経過しているというのに、私のことを覚えていてくださったナイターテニス教室に参加していたMさんからお電話をいただいた。

「そろそろテニスできませんか！？」と・・・うれしかった！

自由な時間ができたとき、コートへ行ってもどう仲間に入れてもらえば良いか！？ わからずベンチに腰掛けコートを眺めるだけで何度も帰ってきたことがあり、テニスはできないとあきらめていたのだ。

平日の日中～主婦層の時間帯に、さあ！ テニス本格的デビュー！！ あれよあれよとテニスにはまり、土日以外の週5回、テニスコートへ足を運ぶ日々が始まった。3年もすると、それなりの結果も出始め40歳前後で若手！？ と呼ばれ、複雑な心境であったがMさんをはじめ、AさんやOさんなど多くのお姉さまに育てていただいたおかげで今の私はあると感謝している。いろんな方への感謝の気持ちは、協会へ貢献することでお返ししたいと考えている。

女子連から始まり、強化普及部を取りまとめるようになり、10年以上小中学生のテニス教室に携わり続けることができたのも、協会のご理解とともに、ジュニアをはじめテニスの普及に力を貸してくださる協会の皆さんのお陰である。年数を重ねるごとに参加数も増え、いまなお状況の変化に対応しながら少しずつ様変わりし続けている。また、中学生時期の空洞化（部活動への移行）はどの地域でも問題があるようだが、中学生層の練習回数を増したり、中体連加盟活動にも奮闘しているところである。

また、キッズ部門（低学年）においては、日本テニス協会の会長・畔柳さん、常務理事の平木さん、そして道の普及関係者との会合を通し、全道・全国の情報を共有している。まだまだ手探りであるが、微力ながら子供から大人まで、テニスの普及に努めたいと思う。

選手として、振り返ってみるとテニスを始めて4年くらい過ぎた頃だっただろうか！？ 持病の股関節が悲鳴を上げ始め、シングルスは断念、ダブルスのみの活動にシフトした。途中、利き手の手首の手術、そして、いよいよ走ることができなくなり、今年の春は人工股関節の手術に踏み切った。やっとりハビリがてらテニスを開始し始めたばかりだが、衰えた筋力の回復を望むのはもう少し時間がかかりそうだ。技術面での課題が大きく2つほどあり（秘密・・・）強化したいとの欲も薄れていないようで、年齢の許す限り可能な向上心をもう少し維持したいものだ。

あっという間に15年が経過している。手薄になる家事に文句も言わない我が子達、ジュニアの普及に理解を示してくれる夫。家族の協力がなければなかなか活動を続けることはできなかったであろう。高3の次男もいよいよ巣立ちの年を迎えている。人生の折り返し地点は疾うに過ぎていく。一日が30時間あったらといつも思うくらい時間がほしい。ポーっと1週間くらいゴロゴロしたい・・・が、そのあとの事務仕事を考えると恐ろしく止まることができない。今は走り続けるしかない！ やるっきゃない！！



平成28年女子連大会、夜の仮装で北見チーム優勝

有朋自遠方来、不亦樂乎

伊藤 直人（前事務局長）

その夜ふたりは街外れの小さな居酒屋で、焼酎片手に遅くまで夢を語り合っていた。数ヶ月前に北見で行われた予選に勝ち、全道大会前日の札幌の夜だった。酔うにつれ二人の作戦は大胆かつ巧妙に、七輪から立ち昇る煙の中に描く目標は、煙とともに果てしなく高くなっていった。翌日、私はいわゆる zone にでも入り込んだかのように絶好調。我々は昨夜語った夢の続きを次々と実現していった。大会1日目終了後、明日の準決勝に向けた知り合いのA級相手との練習でも面白いようにコースが決まり、意気揚々とホテルに帰り疲れた体を温泉で癒やした。（その時、羊蹄山をバックに撮った思い出の写真↓）

ところが、旅先での朝からの疲労と慣れぬ大会での緊張とオーバーワークにより足の痙攣が収まらず、その代償は翌日まで残り、結果、ベスト4止まりだった。

がしかし、懐かしい友との再会もあった。昔、全国大会に北海道代表として一緒に東京に行った人達、北海道で開催されたはまなす国体にレフェリーとして一緒に参加した仲間達、そして以前北見で一緒にプレーした旧友と久しぶりに交流し、再会を楽しんだ。レセプションのあとは北見代表メンバーたちと深夜までお酒を酌み交わし、大いに記憶に残る大会となった。



2001/9/1(土)

ダンロップ北海道決勝大会初日
対帯広戦に快勝し 意気揚々と
ホテルに引きあげてホッと一息
後ろは羊蹄山 ニセコプリンスホテルにて

その後、相棒の彼は転勤になり、何年ものあいだ一緒にプレーすることはなかった。時とともに記憶は薄れ、12年の歳月が流れた。そんなある日、再び転勤で北見に移ることを知った。その時ふと蘇ったのが、あの時の写真である。

「もう一度、あの大会で、あの場所で、あの時と同じポーズの写真を取りたい・・・」

時が経ち、すでにベテランの歳になっていた二人は再会のあと、雪解け間もないコートの上で昔を懐かしむようにテニスを楽しんだ。しかし練習不足か歳のせいかわ、出場した春の大会では思うような結果は得られず、夏に行われる地区予選での活躍は危ぶまれた。

そして迎えた2ヶ月後の大会本番、思いを内に秘めた二人はついに念願の全道出場を決め、12年の時を経て再び、あの大会の、あの場所で写真を撮ることが出来た。今回は彼の奥さんペアも代表になり2人から4人へ。（写真⇒）楽しさ倍返し「この年の流行語大賞」の大会となった。12年振りに全道各地から集まった懐かしい顔ぶれにも会うことができ、楽しいひと時を過ごすことが出来た。

時としてテニスは気の合った仲間との別れの寂しさを味わわされるものの、遠き友との出会いを恵与し、人生に深みを与えてくれるものである。まさに「朋あり遠方より来たる、また楽しからずや」なのである。



2001

2013

2013/8/31(土)

テニスとともに

井上 まゆみ（総務担当理事）

2001年に主人の転勤とともに北見でのテニス生活が始まりました。2,3年はなかなかグループ活動ができずにいましたが、今ではコートに出勤する毎日です。ただそんな人が一人や二人ではありません。管理人は宮澤さんに譲りますが、多い日は9-15番コートが埋まり、一番混みあっている時間帯は待つこともあります。あの手この手、口攻撃を交えて毎日が大会のようです。

その中で、女子連の大会の名物に今年で17回目の『WE LOVE スリクソン大会』があります。これは北見地区大会を経て全道大会に繋がります。ニセコヒルトンホテルに泊まって行われますが、北見地区で優勝し代表になった3組のペアは直後から大きな悩みを抱えてしまうのです。夜の懇親会で各地区趣向を凝らした(知恵を絞った)宴会芸を披露しなければなりません。今まで、北見地区代表者はマジック、ピン芸人ヒロシ、アカペラなど練習を重ねてテニス大会より先に優勝していました。しかし、キューピーマヨネーズのCMの「タラコ」のイメージの踊りは「何をやっているかわからない」と酷評されました。その評価をもとに反省し、3年の休止期間を経て再開された最近では各地区から「今年の北見さんは何をやってくれるの?」と言われるほど成長しました。

平成26年ピンクレディ「サウスポー」を踊りましたが、練習の段階から膝がカクカクとなってしまいました。運動神経が多少あると自負する面々ですが、ダンスになるとロボット的になってしまうようです。そういえば女子連北海道支部30周年で社交ダンスを披露する為の練習で高谷さんに才能が無いと言われた記憶があります。

平成27年「2人羽織」では、津軽じょんがら節にのせて、起きてから歯を磨き化粧をするまでを二人羽織でしました。順位は2位でしたが、長さんが躊躇なく私にドウランで素晴らしい化粧を施してくれたおかげで、個人賞もいただきました。みなさんは大爆笑でしたが、私の背後で「ごめんね、ごめんね」と言っていた長さんでした。平成28年「キャッツ」は遠軽の鈴木、高島さんのアイデアから決まりました。以前仮装行列に使用したものを借りて、家にある毛皮とキャッツを模した化粧パックを貼って、しっとり歌う和田さんのメモリーから始まり、ミュージカルのキャッツと見せかけてからの黒猫のタンゴのダンスです。新旧共演のアイデアで、なんと優勝でした！

ここまで書くとテニス以外の活動ばかり目立ってしまいますが、楽しい仲間と、コートの中の熱戦はもちろん、コート外での熱戦も繰り広げられる事に感謝の毎日です。



北見テニス協会 40 周年万歳

長 由美子（会計担当理事）

このたびはテニス協会創立 40 周年おめでとうございます。

私の協会員歴は 32 年ほどになります。コートに通い詰めた時期もありますが、後に子供の病気、仕事、韓流スターの追っかけ等に忙しくなり、会費だけを納める幽霊会員の時期も長くありました。

協会の仕事に関わることも少なく、お客様のように細々とテニスをしていました。そんな私でしたが子供が自立し、勤め先が潰れ、韓流スターに貢ぐことにも疲れ、本格的にコートに復帰したのが 5 年程前です。新しく常本会長が就任され、協会の仕事をお手伝いすることになりました。15 周年、30 周年記念行事があった事も後に知りました。長い間お世話になりながら協会に寄与する術もなくおりましたが、今回 40 周年記念誌の編集委員として微力ながらお手伝いの機会を与えてくださった会長に感謝申し上げます。

さて、私の最近のテニスですが、特に用がなく晴れていたらまずはコートに足を運びます。コートにはいつもの仲間がいて練習はそこそこにゲームを楽しんでいます。ゲームも楽しいのですが、たわいのないお喋りやおやつタイムが更に魅力です。いつものメンバーが連絡もなく休んでいたら早速安否確認のラインです。まあ家族のようなものですね。出会いと別れを繰り返した 32 年ですが生涯の友と断言できる方にも恵まれました。

大会にも参加しています。日々の練習の成果を試す目的ではありません。出場選手が少ないためペアが揃わず女子連のボスに脅されるんです（きゃ～ 怖い）。女子連が主催する大会、また協会が運営する大会にも出場しています。女子連の大会は全道大会につながるものもあり、ペアを組んでくださる方の力を借りてあちこち遠征させていただき刺激的な非日常を楽しんでいます。実はボス様さまなのです。

女子連の全道大会が 6 月 6、7 日に小樽入船コートであり北見は鈴木・高島ペア、宮澤・井上ペア、山岸・長ペアの団体戦で 4 位になりました。小樽が寒く、そのせいか北見に戻り山岸さんと私は発熱でダウンしてしまいました。昨年はニセコの大会の帰り道車酔いしてしまうし、やはり年には勝てないをつくづく感じるこの頃です。そろそろ刺激的な非日常から卒業でしょうか？

小樽入船はクレイコートでの戦いでした。昔北見でもラインテープに釘を打っていたことを懐かしく思い出しました。

50 周年、100 周年に向け新たなスタートを切った北見テニス協会が、益々繁栄されることを祈念いたします。



ふるさと北見でのテニス

野嶋 寿之（広報担当理事）

私は、北見で生まれ育ちましたが、高校卒業後 40 年以上北見を離れ、神奈川や埼玉で暮らしていました。テニスは 30 歳頃から夫婦で始め、近くのテニスクラブに所属して、休日はほぼ毎日朝から晩までテニスコートにいる夫婦でした。

平成 21 年に、一人暮らしをしていた母が少し気弱になったので、一緒に暮らすために、定年少し前に中途退職し、北見に帰ってきました。

ずいぶん前に帰省した時に一度、東陵公園のテニスコートでテニスをしたことがあったのですが、北見のテニス事情は全く分からなかったので「たまに二人でコートを借りて打てれば良いよね」という程度に考えていました。「どうせそんなに一生懸命やらないんだから」とゼビオで安い靴を買い、平成 21 年 6 月 25 日に最初にテニスコートに行きました。ところが、記録を見ると、その後、毎日のようにテニスをしているではありませんか。平日の皆さんのおかげで、以前と同じ、むしろそれ以上の頻度でテニスができるのです。

その頃、私は、もうそろそろ年だからと「デカ厚ラケ」（写真右）を使っていました。大人しいテニスをしようと心に決めていたのです（本当か?）。

しかしながら、そんな私の気持ちにお構いなくバンバン打ってくる女性がいるのです（誰とは言いませんが）。ついつい年を忘れて、闘争心に火がついてしまいました。対抗するためには、強力な武器が必要と考えて、やむを得ず、ラケットを少しハードスペックなものに買い替えることにしました。新しいのが出ると思わず追加（左の 2 本）もちろん、ラケットを替えただけで勝てる相手ではありませんのでいつもやられています・・・。

いつもお世話になっている女子連の方達に恩返



しというほどのこともないのですが、何度か全道大会の応援に出かけたこともありました。そうする内、応援のみならず、ちゃっかり大会の懇親会にまで出席させてもらいました。皆さん暖かく迎え入れてくれて、楽しい時を過ごさせて頂き良い思い出になりました。（左の写真は、平成 24 年の八地区懇親会で妻と）

平日のテニスコートは、私達が帰ってきた当時とは少し様子が変わってきています。男性が少しずつ増えつつあります。また、夏場は、本州からの旅人で、テニスに来る男性も何人かいて結構な割合で、男子ダブルスができるようになっていま

す。どうしてもコート内平均年齢が高くなるのは仕方ないことですが。

この 8 年の間に、企画部のお楽しみテニスやジュニアの球出し、競技部での大会運営のお手伝いなどをさせて頂きました。色々な経験から、協会運営の大変さを実感しています。私もできる範囲でお手伝いをしますが、これからも協会の為に裏方として尽力されている方達に感謝しながら、テニスを続けていきたいと思えます。皆さん、よろしくお願いしますね。

たかがテニス、されどテニス

福田 哲也（事務局長）

北見テニス協会創立 40 周年、誠におめでとうございます。

今でこそ北見テニス協会副理事長なる要職に就く身分ですが、そもそも私がテニスを始めたのが今から約 30 年前のことです。

就職浪人で暇を持て余していた 22 歳の若者は児童館で子どもと接しながら教育委員会からの報酬の他、意外!?なことに家庭教師などで生活費を稼いでおり、その頃、児童館に勤務する職員の方のお誘いでテニスを始めたのでした。

当時の主な活動は河川敷コートで、夕方暗くなってきた時に車のヘッドライトを照らしながらプレーしたのも今となってはいい思い出であり、メンバーの女性 1 人が現在、我が家に女帝として君臨しているのもテニスがあつてのことなのかもしれません。

その後、怖いもの知らずの男女 6 人は河川敷では飽き足らず、何を思ったかテニス協会加入と東陵コート進出を目論むのでした。

しかし、加入方法やコート使用など全く判らず、ネット、ケータイもない時代でしたので、当時事務局でありました北見工大の先生にしつこく聞いて廻り、めでたく協会団体登録が完了、遂に東陵コートナイターデビューする訳ですが、なんせ初心者連中が 1 箱ほどのボールをあっちこっちへひっちらかしている有様で、当然協会幹部の皆様からチェックが入り、すごすごとボールを拾う始末でした。

当時のコートはクレーと言う名の土コートで毎年測量後、ローラー掛け・ラインテープ張り（※釘と金槌使用）締め塩カリ撒き!?を経てやっとコートが使える状況であり、コートにより支柱が高い、ちょっと小さい!!なども割りと普通だった記憶があります。

今となってはこの作業を経験した者は会員の中でも極く少数であり、コート開きもほぼ一日掛かっておりましたが、その後現在の砂入り人工芝コートとなり、その作業もなくなり、コート設営も楽になり、楽しくテニスができる環境になりました。

そんな中、継続してテニスが続けている訳ですが、なぜか講習会の講師をお願いされ、初心者に毛の生えたレベルの私が教えると言うへんてこな状況でもありました。

当時を振り返ると先輩講師に言われるがままで、こんな私が携わっていたのに生徒の皆さんから講習料を取っていた事が驚きであり、申し訳ない思いでいっぱいです。

現在、比較的年齢の若いサークルが多数!?有り、初心者講習なども大変盛況です。

私も時々、若いサークルに混じってプレーさせて貰っていますが、30 年前の私たちと重なり、なんとも応援したい気持ちになります。

結びになりますが、テニスはいくつになってもできるスポーツだと思っています。

一番大切なのは楽しくプレーすることであり、私自身もいつまでも楽しくプレーできたらそれでいいと思っています。

たかがテニス、されどテニス。この記事を目にした皆さんもテニス初めてみませんか。

14. 北見テニス協会会則及び申し合わせ

14-1 会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は北見テニス協会（KITAMI LAWN TENNIS ASSOCIATION/KLTA）と称する。
- 第2条 本会は明朗なスポーツ精神のもとに健康の増進ならびに会員相互の親睦を図り北見におけるテニスの普及発展に資することを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 北海道テニス協会および北見市体育協会に、北見市のテニス統括団体として加盟する。
 2. 各種大会、講習会を開催する。
 3. 施設の整備、管理を行う。
 4. その他、会の運営に必要な諸事業を行う。
- 第4条 本会は事務所を北見におく。

第2章 会 員

- 第5条 本会は次の個人会員及び団体会員をもって組織する。
1. 個人会員は正会員、学生（小・中・高生）及び18歳以上の学生とする。
 2. 団体会員は6名以上からなる職域団体、クラブ団体とする。
- 第6条 本会に入会するには所定の様式により申し込みを行う。
- 第7条 本会の会員は、総会の定めた会費を毎年5月末日までに納入しなければならない。ただし、新入会員は入会金および当該年度会費を入会の際に納入するものとする。すでに払い込んだ会費、入会金は払い戻しをしない。
- 第8条 本会の会員が会則に違反し、または会の名誉を傷つける行為があると認められた場合には、理事会の決定により除名することが出来る。

第3章 役 員

- 第9条 本会に次の役員をおく事ができる。
1. 会長1名
 2. 副会長若干名
 3. 理事長1名
 4. 副理事長1名
 5. 理事 各部長・副部長とする。
 6. 監事2名
- 第10条 本会の役員は次の任務を行うものとする。
1. 会長は本会を統括し、会の代表者とする。
 2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行する。
 3. 理事長は会長の指示を受け、会務の処理を代表して行う。
 4. 副理事長は理事長を補佐し、また事務局長を務める。
 5. 理事は理事長の指示を受けて、本会の常務を分担する。
 6. 幹事は本会の専門部局の任務を分担協議する。
 7. 監事は本会の会務・会計について監査する。

- 第11条 本会の役員は総会において選出するものとする。ただし補充を要する時は理事会において指名することが出来る。
- 第12条 役員任期は2年とする。但し再任を妨げない。補充による役員任期は残任期間とする。役員は任期満了後も後任者が決定するまでその任務を執行するものとする。
- 第13条 本会に特別に功績のあるものは、総会において名誉会員として推薦することができる。名誉会員は次の通りとする。
1. 名誉会長
 2. 顧問

第4章 総 会

- 第14条 本会の定期総会は毎年4月に開催する。また必要に応じて臨時総会を開催するものとする。
- 第15条 総会の招集は会長または理事会の議決を持って行う。なお議長は会長がこれにあたる。
- 第16条 次の事項は総会で決めなければならない。
1. 予算および決算
 2. 事業報告および事業計画
 3. 会則の改廃
 4. その他必要な事項
- 第17条 総会の議決は出席者の過半数を以って決し、可否同数の場合は議長がこれを決する。

第5章 理 事 会

- 第18条 理事会は会長、副会長、理事長、副理事長、理事および監事を以って構成し、総会の決定事項を協議執行する。なお必要に応じて幹事、名誉会員も出席することが出来る。
- 第19条 理事会は必要に応じて会長または理事長がこれを召集する。
- 第20条 理事会は本会の運営に必要な機関として次の専門部局をおく事が出来る。
1. 事務局（総務、会計）
 2. 競技部
 3. 普及・強化部
 4. 施設部
 5. その他必要な部局 状況にあわせ統廃合をする事がある。

第6章 会 計

- 第21条 本会の運営に必要な経費は会費、入会金及びその他収入を以てこれに当てる。
- 第22条 本会の会計年度は総会の日から翌年の総会の前日までとする。

第7章 付 則

- 第23条 本会の運営に関して必要な細則は理事会において別に定める。
- 第24条 本会の会員にあって本会に要望・意見のある場合は、文書を以て会長、または理事長へ申し出ることが出来る。
- 第25条 本会則は昭和52年1月30日より施行する。

本会則中、専門部局の改正を昭和55年4月10日より施行する。
 本会則中、会計年度の改正を昭和56年4月20日より施行する。
 本会則中、臨時会員を追加し昭和63年4月13日より施行する。
 本会則中、賛助会員の項目を削除し、平成17年4月10日より施行する。
 本会則中、退会時の届け出を削除し、平成17年4月10日より施行する。
 本会則中、臨時会員の項目を削除し、平成21年4月12日より施行する。
 本会則中、名誉会員から会友の項目を削除し、平成26年4月6日より施行する。

会 費 等 細 則

1. 本会の会費を年額次のように定める。

個人会員

正会員	5,000 円
小・中・高生会員	1,500 円
18歳以上学生	2,000 円
団体会員（6名以上） 職域・クラブ団体	5,000 円

但し9月1日以降入会する場合 年会費は半額とする。

2. 入会金は1,000円とする。但し、小・中・高生は不要とする。
 3. 納入期日は毎年5月末日とする。但し新入会員については入会時とする。
 4. 大会参加料、講習会受講料等についてはその都度徴収するが会員には特典が与えられる。
 5. 寄付金については随時役員がこれを受け所定の領収書を発行する。
 6. 本細則は昭和52年1月30日から施行する。

14-2 各部局主業務

会 長	会の代表者
副会長	会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行
理事長	会務全般の統括 道協会評議委員会・市体協評議委員会等への出席 北見市担当部局との渉外 ソフトテニス連盟との渉外 理事会・総会開催業務
事務局	
事務局長	事務全般の統括 道協会・市体協・ソフトテニス連盟・他市町協会との連絡・調整 各部局との連絡・調整
副事務局長	事務局長の補佐 総会・理事会議案書の作成 会議開催文書の作成・発送
会計	協会会計全般の管理 会計帳簿の作成・管理 領収証等の保管
会員受付	受付業務 受付名簿の作成 会員数の把握 受付書類作成 受付業務の指導
広報担当	事務局業務全般の補佐 ホームページ資料・会報の作成 会報の発送

競技部	
競技部担当	協会主管大会（女子連の大会を除く）の企画・運営・大会案内・受付 ドロー作成 ボール・賞状・トロフィー等の準備 室内大会会場の予約 大会進行 成績整理 ポイントランキング表の作成 ジュニア大会の企画・運営
強化普及部	
	講習会の企画・運営 講習会の案内 コーチの手配 ボールの準備 講習会受付 受講者の指導 テニスルール マナー指導 会員の拡充 テニスフェスティバルの分担 都市対抗大会に関わる業務 道協会主管大会に関わる業務 派遣選手の選考 選手派遣の依頼 派遣スケジュールの作成・手配 強化練習のコート確保 練習ボールの準備 強化練習のスケジュール メニューの作成 道協会主管大会の案内 小・中学生の指導 講習会開催
女子部	
女子連・部担当	女子連大会の企画・運営 女性テニス大会・講習会の企画・運営 女性会員の拡充 受付業務分担 コート開き・コート納め分担
企画部	
企画部担当	お楽しみ大会の企画・運営 クラブ対抗戦の企画・運営 テニスフェスティバル・忘年会の企画・運営
施設部	
施設部担当	コート・コートハウス・コート備品の維持・管理 コート開き準備実施 コート納め準備実施 備品チェック 利用状況の整理 コートマナーの指導 会員外利用者のチェック 冬期間室内コートの利用申請

14-3 北見テニス協会申し合わせ

I 北見テニス協会の慶弔に関する申合せ

北見テニス協会役員及び関係者の慶弔に関する対応は、以下のように定める。

弔事について

- ① 理事以上の役員（監事を含む）及び会長経験者が死亡された場合には、供花と弔電を送る。
- ② 理事以上の役員（監事を含む）の配偶者、子及び同居のご両親が死亡された場合は供花を送る。
- ③ 幹事が死亡された場合は、供花を送る。
- ④ 幹事の配偶者、子及び同居していない役員のご両親が死亡された場合は弔電を送る。
- ⑤ 会長経験者以外の顧問が死亡された場合は、供花を送る。
- ⑥ 上記を原則とするが、事情によって変更する場合は理事長が判断する。

慶事について

- ① 役員が結婚した場合は、祝電を送る。

その他、慶弔に関する申し合わせには、理事会で定める。
本申し合わせは、平成27年3月15日から施行する。

II 事務的活動費について（北見テニス協会 理事会申し合せ）

- ① 謝金の対象者
基本的には理事を対象とするが、理事相当の活動をしている幹事についても配慮する。
- ② 謝金の金額
金額は、3000円、5000円、1万円とし、理事の標準は5000円とする。なお、理事で業務頻度が少ない場合は3000円とする。また、対象となる幹事がある場合は3000円とする。1万円はホームページの維持管理、総会資料作成などを対象とする。
- ② 対象者の推薦と決定
部門責任者から理事長に以下の推薦書を出してもらう。これを基に理事長が会長と相談して決定する。
なお、部門責任者については理事長が会長に推薦する。
- ③ 配慮事項
 - ・ 2部門で活動している理事の場合、若干の加算を行う場合がある。
 - ・ 強化・普及部で講習会を担当して活動している場合、講師謝金が出ているので本活動費の対象としない。
 - ・ 女子部の理事については、女子連との区分が難しいが、協会活動と判断できる場合は対象とする。

（附則） 本申し合わせは平成26年3月16日に制定、平成26年3月16日から適用する。

III テニス教室に参加している小中学生に関する申し合わせ

北見テニス協会が主催するテニス教室に参加している小中学生は、北見テニス協会内のジュニア団体と位置づけ、名称を「北見BGジュニア」とし、これまでと同様、大会出場やコート利用などについて以下のように取り扱う。

- 1) 会員資格：「北見BGジュニア」に所属する小中学生は、会員に準ずるものとし、北見テニス協会所属として大会に出場することができる。
- 2) コートの利用：「北見BGジュニア」のテニス教室の時間と高校の部活動の時間帯が重なることから、高校の部活動に配慮し、主として一般貸出コート进行借りてテニス教室を実施する。また、ジュニア指導部が認める一部の小中学生には、単独でコートを借りることを認めるが、コートの混雑状況を判断して利用するよう指導する。
- 3) 大会の支援など：北見テニス協会は、「北見BGジュニア」のメンバーが参加する管内中学校テニス団体戦、中学校個人戦の大会を支援するとともに、北海道あるいは道東ブロックで開催されるジュニア大会への参加の支援も行う。
- 4) 費用について：テニス教室に参加する生徒からは参加料を徴収し、その中から講師謝礼、備品代、コート借料費などを支払い、残高が出た場合は協会に還元する。

本申し合わせは平成28年3月20日の理事会で制定

IV 競技部が主催する各種大会に関する申し合わせ

1. 競技運営について

競技部が主催する大会は、年齢別、クラス別、会員資格別など年間10数試合行われるが、それらの大会を運営するための基本的な方針を以下のようにまとめた。

- 1) 北見テニス協会はオホーツク圏の中核協会であり、大会開催に当たっては、地域のテニス競技力の向上並びに普及活動にも配慮する。
- 2) 競技に当っては、日本テニス協会の競技規則に則って大会を運営することを基本とするが、ローカルルールを適用する場合には、大会要項等に記載するなどして周知する。
- 3) 競技部は大会要項の作成から大会運営、戦績集計などの責任部局であり、大会要項等の重要な変更がある場合は、競技部内で協議し決定する。ただし、事案によっては理事会に付議して決定する。
- 4) 大会要項、ドローの作成においては、公平性、公正性に十分配慮して作成する。
- 5) 競技部主催の大会が多いことから、当面、中学校テニス大会は強化普及部のジュニア担当が中心となり、女子連の支援を得て実施する。その他のジュニア大会については、競技部ジュニア部門の理事が中心となって、高校のテニス部顧問の先生などの協力を得て実施する。

2. A級該当要件について

大会グレードやエントリー数によって優勝者等の獲得ポイントを定めるが、以下のようなポイント条件、あるいは過去の実績をもとにA級該当者を毎年度決定し、シード選手の判断やクラス別大会の活性化に活用する。

- 1) 年間の獲得ポイントが、男子10ポイント、女子8ポイント以上でかつ、得点率（総獲得ポイント/出場回数）が男子3.0、女子2.0以上の者をA級該当者とする。なお、この要件を変更する場合は、競技部で検討して理事会に提案する。
- 2) 上記ポイント要件を満たしていたA級該当者が、その年度にポイント要件を満たせなかった場合でも、理事会推薦でその翌年度のA級該当者としてすることができる。（以下理事会推薦者と呼ぶ）
- 3) 転入者及び他協会からの出場者については、過去の実績等から競技部がA級相当と判断した者
- 4) 日本テニス協会のポイントを有していて、競技部がA級相当と判断した者。
- 5) 高校生以下については、競技部が高体連等と協議し、A級相当と判断した者。

* A級該当者数は男女とも30名前後と想定しているが、40名を越えるような場合には、1)の

要件を変更する場合がある。

特例：A級該当者は、B級の試合に出場できないことを原則とするが、60歳を超えている場合(試合時点で60歳以上)には、B級への出場を認める。

*本申し合わせは、平成26年3月16日の理事会で制定

*本申し合わせ中、2)項の理事会推薦者の定義、及びA級該当者のB級出場特例について、平成27年3月15日の理事会で改正

3. シードについて

- 1) シード数は競技規則に則り決定するが、一般大会では協会ポイント、ジュニア大会では協会のジュニアポイントに基づき配置する。
- 2) 各大会のシード順位は、当該大会前1年間の獲得ポイントを基に定めるが、その他の公式ポイントを持った者あるいはそれに準ずる者の登録があった場合には、競技部で判断する。そのため、募集要項に保有ポイントあるいは他協会でのランキングなどを自己申告するよう求める。

4. 戦績ポイントについて

大会のグレード、エントリー数によって以下のように戦績ポイントを定め、年間獲得ポイントを算出する。

- 1) 協会外でも参加可能なA級のオープン大会は別表1のように定める。
- 2) 会員のみを対象としたA級大会はA級オープン大会の0.8倍とし、別表2のように定める。
- 3) B級大会、ベテランの大会はA級オープン大会の1/2とし、別表3のように定める。
- 4) ジュニア大会のポイントは高体連と同様であり、別表4のように定める。なお、ドロー数や年齢によるポイント制については、J P I N制度が決まった段階で導入を検討する。
- 5) ポイントを得るには、本戦で最低1勝しなければならない。

別表1 A級オープン大会

ドロー数	64	48	32	24	16	8	4	
優勝	80	54	41	27	16	7	4	1.00
2	56	38	29	19	11	5	3	0.70
3	40	27	21	14	8	4		0.50
4	24	16	12	8	5	2		0.30
8	16	11	8	5	3			0.20
16	8	5	4	3				0.10
32	4	3						0.05

別表2 A級会員限定大会

ドロー数	64	48	32	24	16	8	4	
優勝	64	43	33	22	13	6	3	
2	45	30	23	15	9	4	2	
3	32	22	16	11	6	3		
4	19	13	10	6	4	2		
8	13	9	7	4	3			
16	6	4	3	2				
32	3	2						

別表3 B級及びベテラン大会

ドロー数	128	64	48	32	24	16	8	4	比率
優勝	54	40	27	21	14	8	4	2	1.00
2	38	28	19	14	9	6	3	1	0.70
3	27	20	14	10	7	4	2		0.50
4	16	12	8	6	4	2	1		0.30
8	11	8	5	4	3	1			0.20
16	5	4	3	2	1				0.10
32	3	2	1						0.05

別表4 ジュニア大会

年齢	18歳以下	比率
優勝	8	1.00
準優勝	6	0.75
ベスト4	4	0.50
ベスト8	2	0.25

5. ジュニアの一般の大会への参加について

- 1) ジュニアのレベルアップに伴い、一般大会への参加希望も増えているが、冠大会や市民大会のようにジュニア部門と一般部門が分かれている大会については、ジュニア会員は一般部門にエントリーできない。なお、一般の大会でジュニアが参加可能な大会は以下の表の*印大会とする。
- 2) ジュニアがエントリーできる一般の大会でのジュニアの受付は、競技部のジュニア担当が行う。なお、A級部門への出場枠は4枠以内、B級部門については大会ごとに決められた枠内とし、ジュニアポイントを基に選考する。ただし、A級に該当するジュニアが一般と組んだ場合には一般枠として扱うが、A級でないジュニアと組んだ場合にはA級のジュニア枠と判断する。

* ジュニアがエントリーできる試合

種目	一般の大会		ジュニアの大会	
	シングルス	ダブルス	シングルス	ダブルス
5月	*春季選手権	*スポーツピア杯		
6月	ヨネックス杯		(中学生シングル)	
7月		ダンロップ	ヨネックス杯	ダンロップC
8月		*会長杯	岡メモリアル	
9月	岡メモリアル	*秋季北見選手権		
10月		市民テニス大会		市民テニス大会
翌3月	*北網地区		アカデミー杯	
大会数	4	5	4	3

6. 大会の中止あるいは延期について

- 1) 荒天あるいは大きな事故があった場合は、競技部の判断で大会は中止できる。また、大会開始後に荒天などで中断した場合、1時間程度様子を見、再開できないと判断した場合は中止とする。
- 2) 中止となった大会で、地区代表を選考する大会は予備日に再度実施するが、予備日のない大会については、基本的には中止とする。なお、大会開始後に中止となった大会の場合、進捗状況によっては日程を調整し再開することがある。
- 3) 中止が決定した場合、ハウスに掲示するとともにホームページでも周知する。

7. その他

- 1) コンソレーションが行われる大会では、初戦で敗者となった選手にのみ出場権が与えられる。ただし、シード選手は、初戦で敗者になっても出場権がない。(試行：4シード以下は対象外)
- 2) 大会参加者が少なく、4ドローにならない場合、その種目は原則不成立とする。ただし、ベテラン大会とジュニア大会の低年齢部門は特例として実施することがある。また、ジュニアの出場が確かな一般大会の場合、一般からのエントリーが2枠であれば実施するが、1枠の場合には不成立とする。
- 3) 同一地域からの出場者が2～3人と少なく、ドロー数が多い大会においては、初戦で対戦しないように配慮することがある。

本申し合わせは平成28年3月20日の理事会で制定

V ジュニアとその家族等でのコート利用についての申し合わせ

ジュニア（小中高生）が会員の保護者などとテニスをすることがあるが、その場合のコート利用について統一した方針がなかった。今回理事会において協議し、以下のような申し合わせに基づき運用することとしたのでご理解とご協力をお願いしたい。

- 1) 会員の保護者が高校生（会員）とコートを利用する場合、
 - ①高校生の利用時間で、コートが空いている場合は利用を認めるが、クラブ活動に支障をきたさないようにすること。
 - ②高校生の利用時間外で、コートが2面以上空いている場合は認めるが、全コートが埋まった場合には速やかに利用を中止すること。
- 2) 会員となっている小学生、中学生などのジュニアについても上記1)と同じ扱いとする。
- 3) 一般会員が高校生（会員）を指導することを目的にコートを利用する場合、
 - ①高校生の利用時間で、コートが空いている場合は利用を認めるが、クラブ活動に支障をきたさないようにすること。
 - ②高校生の利用時間外で使用する場合、事前に協会事務局に利用申請を提出し、許可を得ること。この場合でも原則1)の②の条件の下で利用すること。
但し、いずれの場合も所属する高校テニス部の顧問の了解のもとで行うこと。
- 4) 非会員のジュニア（小中高生）が公園事務所で使用手続きをした上で、会員の保護者等とコートを利用する場合は一般市民利用と同様の扱いとするが、コートが込み合っている場合、保護者等は会員としてのマナーにも配慮すること。
- 5) 会員の高校生同士あるいは高校生と保護者等が東陵運動公園コートの利用手続きをしてコートを利用する方法があるが、このような使い方は一般会員の利用に支障をきたす恐れがあり、協会としては認めないのが基本方針である。市民としての権利はあるが、日頃より協会員として恩典を受けていることもあり、会員はコートにおいては本協会のルールに従ってもらい、会員皆さんが楽しくテニスができるように配慮すること。
- 6) ジュニア講習会など協会の年間スケジュールに記載されている強化普及活動に関する事業については、強化普及部がコート利用について調整する。

平成25年6月1日制定

編集後記 記念誌のまとめにあたって

編集長 常本秀幸

昨年後期高齢者になった。まさかこの年になってもラケットを振り回していると思わなかった。30歳の手習いで始めたテニス、40年以上も継続でき、自分の肉体と精神の健康の基になったと思っている。できることなら80歳までとの思いがあるが、果たして可能かどうか、「神のみぞ知る」である。

年齢的には断捨離を進めなければならないが、昨年ラケットがまた増えた。生涯ラケット数は20数本だと思う。現在手元に残っているのは数本だが、40周年を記念して古いものは捨てることにした。ラケットにも投資したが、シューズにも相当額の出費があった。もちろん底がすり減ってから買い替えるが、デザインに誘われ新しくしたこともある。テニスに夢中になっていたころは年に2足程度消耗したが、今は2年使っても傷んでいない。古いシューズを残しているわけではないが、5年前の靴が、下駄箱の奥に置かれていた。かなりよれよれでゴミ箱直行品である。

昨年から絵を習い始めた。自分の歩んだ足跡を絵に残したいとの思いがあり、3足の靴を描くことにした。一足目は独身時代を象徴する靴、登山靴である。冒険心もあって一人でよく山に出かけた。冬のクック山を無謀にも単独で目指したが、途中までしか行けなかった。人生で登りたい山はキリマンジャロ、まだ行きたいとの気持ちはあるが、体力的に難しいと思っている。でも、登山靴は手入れしており、その靴を、若かりし頃を思い出しながら描いた。

次の一足はやはりテニスシューズになる。30代で初めたテニス、夢中になり、休日になると大会や講習会に出かけていて、我が家は母子家庭になってしまったようだ。子供達には、テニスは父親を奪う敵だったのだろう。今でも当時のことを子供たちから非難されるが、北見にテニスを普及させた功労者だと自負している。もし、テニスとの出会いがなければ、平凡な人生だったかもしれない。感激もし、感動もし、涙もあったが、沢山の仲間に出会え、人生に潤いを与えてもらった。家族には申し訳なかったが、そのような仲間もあって、元気な父親でいられたと思ってもらいたい。これらの反省と想いを込め、記念誌出版に間に合うようにテニスシューズを描いた。



思い出のテニスシューズ

最後の一足は家計と仕事を支えてくれた革靴を描く予定である。テニスばかりして仕事をしなかったのでは、と思う人もいたようだが、テニスでリフレッシュができた。お蔭で効率良く仕事ができ、研究成果もまずまずだったと思っている。仕事人生の最後は、大学の経営までやらせてもらった。そのような大学人時代の喜怒哀楽を吸い込んだ革靴が三足目になる。年内には仕上げたいものだ。



編集作業中の編集長

最後に一言、この記念誌に出てくる多くの方が、私と同様にテニスが人生の1ページになっているのではないかと考えている。私の場合は1ページどころでなく数ページになり、最後は会長まで仰せつかり、自らを40周年記念誌の編集長に任命してしまった。わがままな編集長の下、多くの方にご迷惑もおかけしたが、次世代への引継ぎに値する記念誌ができたと思っている。また、予算の関係で印刷は白黒しかできないと思っていたが、サンケイプリント社のご厚意で、カラーで印刷していただけることになった。ご厚意に心より感謝申し上げたい。そのほか、編集にご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げ、創立40周年記念誌を締めることにする。

新コートハウス設計図

